

御所野遺跡Ⅰ

縄文時代中期の大集落跡

1993.2

一戸町教育委員会

一戸町文化財調査報告書第32集

御所野遺跡Ⅰ

—— 縄文時代中期の大集落跡 ——

1993.2

岩手県二戸郡一戸町

一戸町教育委員会

配石遺構群全景（北東側より）



配石遺構群全景（南東側より）



配石遺構群全景（南側より）



FD 52 配石 (北東側より)



FG 60 配石 (東側より)



FG 60 配石 (南側より)



FD 54 配石 (東側より)



EJ 48 配石 (南側より)



FB 46 配石 (東側より)



GH 68-01 竪穴住居跡（西側より）



HB 120 竪穴住居跡（西側より）





出土土器



人体付土器



出土石器 (赤色顔料塗彩石器)



序

御所野遺跡の発掘調査は、平成元年度に一戸町の農工団地造成に伴う事前調査として実施しました。調査を開始してからまもなく、縄文時代中期後半の配石遺構群を検出し、さらにその周辺に竪穴住居跡が分布するきわめて重要な遺跡である事が明らかになりました。

調査の結果を発表し現地説明会を開催したところ、600名の参加者があり、同時に地元住民を中心に遺跡の保存運動が起こって来ました。

以上の経緯から教育委員会では、文化庁と岩手県教育委員会の指導を戴き、平成2年度から保存を前提とした範囲確認調査を計画し実施してきました。

平成2年度には遺跡の西側、平成3年度には遺跡の東側を調査し、それぞれ遺構の分布を確認したところ、予想以上に遺跡の範囲が広く、台地のほぼ全域に縄文時代中期後半の遺構が分布している事が明らかになりました。平成4年度には中央部の配石遺構群の周辺を調査し、遺跡の構成についても具体的に確認しています。

以上の4年間の調査により、御所野遺跡は縄文時代中期の代表的な集落遺跡で、しかもきわめて保存状態の良い遺跡である事が明らかになりました。調査の結果が明らかになった平成3年度には、町として遺跡の保存を決定し、縄文時代の代表的なモデル公園として整備する方針を打ち出しています。

調査にあたっては、平成元年度の調査以来、文化庁、岩手県教育委員会をはじめ、岩手県立博物館、岩手県埋蔵文化財センター等の機関や多くの研究者から御指導いただいております。

以上の機関、並びに研究者にお礼を申し上げますとともに、今後とも御指導賜りますようお願いして序とします。

平成4年12月20日

岩手県二戸郡一戸町
一戸町教育委員会
教育長 猪久保章一郎

例 言

1. 本書は平成2年度から平成4年度にかけて実施した御所野遺跡の発掘調査報告書である。
御所野遺跡の調査成果については、各年度の現地説明会資料の他下記の概報を刊行している。なお平成元年度の古代の調査成果については別に報告を予定している。
一戸町文化財調査報告書第26集 御所野遺跡 平成2年度発掘調査概報
一戸町文化財調査報告書第29集 御所野遺跡 平成3年度発掘調査概報
2. 御所野遺跡の調査成果は、現在まで次のように発表している。
「御所野遺跡」いわて文化財第116号、岩手県文化財愛護協会 1990
「岩手県二戸郡一戸町御所野遺跡」日本考古学年報42、日本考古学協会 1991
「御所野遺跡」いわて文化財第128号、岩手県文化財愛護協会 1992
「岩手県一戸町御所野遺跡」季刊考古学第42号 雄山閣 1993
3. 遺跡名・遺跡略号・所在地・調査面積は次の通りである。
遺跡名・御所野遺跡、遺跡略号・G S N、所在地・岩手県二戸郡一戸町岩館字御所野
調査対象面積 58,000 m² 遺構確認面積 32,000 m²
4. 御所野遺跡の調査にあたって、平成3年度から御所野遺跡調査指導委員会を設置し、調査全般にわたってご指導を受けている。指導委員の先生方は次のとおりである。
文化庁、岩手県教育委員会、林謙作(北海道大学)、山本暉久(神奈川埋蔵文化財センター)、定岡明義(栃木県宇都宮市教育委員会)、高橋信雄(岩手県立博物館)
5. 本遺跡の野外調査、整理作業について次の方々、機関から御指導、御協力を賜った。
文化庁、岩手県教育委員会、岩手県埋蔵文化財センター、岩手県立博物館、二戸市教育委員会、浄法寺町教育委員会、滝沢村教育委員会、大迫町教育委員会
河原純之・岡村道雄・土肥孝(文化庁)、桜井清彦・菊池徹夫(早稲田大学)、水野正好(奈良大学)、村越潔(弘前大学)、小林達雄(国学院大学)、春成秀爾・西本豊弘(国立歴史民俗博物館) 工藤雅樹(福島大学)、高橋龍三郎(近畿大学)、辻秀人(東北学院大学)、山田昌久(筑波大学)、相原康二・小田野哲憲・熊谷常正・中村英俊(岩手県教育委員会)、昆野靖(岩手県教育センター)、大矢邦宣・佐々木勝・佐藤嘉広・赤沼英男(岩手県立博物館)、佐々木清文・高橋義介(岩手県埋蔵文化財センター)、小井川和夫(東北歴史資料館)、工藤竹久(八戸市教育委員会)、市川金丸・鈴木克彦・岡田康博・成田滋彦(青森県埋蔵文化財センター)、宇部則保・小林和彦・藤田俊雄(八戸市立博物館)、秋元信夫(鹿角市教育委員会)、富樫泰時・小林克・大野憲司(秋田県埋蔵文化財センター)、小杉康(明治大学)、高柳圭一・加納実(千葉県文化財センター)、仲田茂司(福島県三春町教育委員会)、押山

雄三（郡山市埋蔵文化財事業団）、石井寛（横浜市埋蔵文化財センター）、鈴木徳雄（埼玉県児玉町教育委員会）、八木光則（盛岡市教育委員会）、中村良幸（大迫町教育委員会）、高橋文明（北上市教育委員会）、佐藤正彦（陸前高田市教育委員会）、国生尚（盛岡工業高校）、関豊（二戸市教育委員会）、中村裕（浄法寺町教育委員会）、桐生正一・井上雅孝（滝沢村教育委員会）、高橋亜貴子（福島県文化振興事業団）

7. 調査主体者、一戸町教育委員会

8. 発掘調査の体制

総括、猪久保章一郎（教育長）、柴田忠孝（生涯学習課長）、大平一憲（同課長補佐）
調査担当者、高田和徳（文化財係長）、久保田滋子（発掘調査員）、松橋智佳子（同）
一戸町文化財調査専門委員は次の通りである。

顧問 稲葉洩吉、委員長 川守田浩、副委員長 駒木小次郎、委員 鎌倉敬助・柴田辰治・米沢栄一・小守一男・工藤紘一・大矢邦宣・坂本和彦

野外調査 谷地嘉次郎、中村喜代右衛門、山火堅太郎、市橋新太郎、中崎武志、久保政雄、野辺地智代子、泉田ヨシノ、冬部スエ、根反ミヤ、大釜輝子、川岸トワ、小野寺ヤス、駒木スミ、遠藤サミ、滝口アサ、遠藤ミサ、馬淵邑子、沼山三重、小寺美恵子、村井ミヨ、大畑良子、坂ノ上スエ、山田サダ、切岸光子、沢山イサ、田頭トキ、外岡レイ子、若子内ヨシミ、金田タマ、漆畑カヨ、後藤恵子、中村ヨシエ、岡田サダ、一戸町福祉共同作業所（土器洗浄）、渡辺清志・吉田功・三浦雅子（早稲田大学生）

室内整理 山田昌久・小宮山隆・中森敏晴（筑波大学）、松本恵利子・村井マツエ・遠藤敏子・苗代沢優子・高沢静江・関上キヨノ・根口チタエ・市橋光子・沢久保智恵子・柴田由紀子・小守久美子（一戸町）、佐藤敬枝・佐藤智子・藤原美知子・横田静華・吉田範子・小山眞智子（滝沢村）、石ヶ森久子（大迫町）

事務 中市日女子

6. 本遺跡から出土した遺物について次の方々および機関から鑑定していただいた。

骸骨 国立歴史民俗博物館 西本豊弘

石質 一戸町文化財調査専門委員 川守田浩

炭化種子 花粉分析・炭化植物種子分析・樹種鑑定 榎バリノサーヴェイ

残留脂肪酸分析 榎ズコーシャ

7. 本書は石器を山田昌久（筑波大学）、土製品・石製品・特殊土器を松橋智佳子が執筆、その他は全て高田和徳が執筆し編集した。

8. 本遺跡から出土した遺物は一戸町教育委員会文化財事務所に一括保存している。

目 次

I. 遺跡の位置と環境	1
1. 遺跡の位置	1
2. 地形・地質	1
3. 遺跡の基本層序	7
4. 周辺の遺跡	9
II. 調査と保存の経過	13
1. 調査の経過	13
2. 遺跡の保存に至る経過	15
III. 調査の結果	19
1. 中央部	19
(1) 配石遺構	19
(2) 掘立柱建物跡と土城	47
(3) 竪穴住居跡	57
(4) 中央部東側の遺構群	81
(5) 炉跡と埋設土器	92
(6) 盛土遺構	95
(7) 中央部北側の遺構群	109
2. 東側調査区	161
(1) I 調査区	162
(2) II 調査区	166
(3) III 調査区	172
(4) IV 調査区	176
(5) V 調査区	190
(6) VI 調査区	202
(7) VII 調査区	207
(8) VIII・IX 調査区	211
3. 西側調査区	216
(1) 竪穴住居跡	219
(2) 土城	220
(3) 埋設土器	220

(4) 西側調査区の出土遺物	221
4. 中期以外の縄文土器	229
IV. まとめ	233
1. 配石遺構	233
2. 墓塚と掘立柱建物跡	234
3. 中央部の集落	236
4. 東側の集落	239
5. 西側の集落	240
6. 土器	241
7. 石器	254
8. 土製品・特殊土器・石製品	263
9. 遺跡の構成	268
V. 鑑定及び分析	341
1. 花粉分析・炭化材同定・種子同定	341
2. 動物遺体について	356
3. 炭化食物の残留脂肪酸分析	362
VI. むすび	375

図 版

第1図 遺跡位置図	3	第14図 F I 58配石	29
第2図 遺跡周辺の地形図	4	第15図 E J 48配石	30
第3図 遺跡周辺の地形区分図	6	第16図 F A 48配石	31
第4図 遺跡の基本層序	8	第17図 F C 48配石	31
第5図 周辺の遺跡(縄文時代中期)	12	第18図 F B 46配石	32
第6図 年度毎の調査区位置図	14	第19図 F A 40配石	33
第7図 F D 52配石	20	第20図 E J 42配石	33
第8図 配石遺構全体図	21	第21図 E I 46配石	34
第9図 F D 54配石	23	第22図 F I 46配石	34
第10図 F G 52配石	24	第23図 F G 46配石	35
第11図 F H 60配石	25	第24図 F J 48配石	35
第12図 F G 60配石	26	第25図 G D 82配石	36
第13図 F E 58配石	28	第26図 G G 80配石	36

第27図	配石遺構群出土土器(1)……………43	第59図	盛土遺構出土土器(2)…………… 100
第28図	配石遺構群出土土器(2)……………44	第60図	盛土遺構出土土器(3)…………… 101
第29図	配石遺構群出土土器(3)……………45	第61図	盛土遺構出土土器(4)…………… 102
第30図	配石遺構群出土土器(4)……………46	第62図	盛土遺構出土土器(5)…………… 103
第31図	掘立柱建物跡と土壌……………48	第63図	盛土遺構出土土器(6)…………… 104
第32図	掘立柱建物跡……………52	第64図	盛土遺構出土土器(7)…………… 105
第33図	墓塚とフラスコ形土塚……………53	第65図	盛土遺構出土土器(8)…………… 106
第34図	G H 68-01 堅穴住居跡……………59	第66図	中央部北側の遺構群…………… 110
第35図	G H 68-01 堅穴住居跡出土土器(1) 62	第67図	中央部北側の出土土器(1)…………… 112
第36図	G H 68-01 堅穴住居跡出土土器(2) 63	第68図	中央部北側の出土土器(2)…………… 113
第37図	G H 68-01 堅穴住居跡出土土器(3) 64	第69図	中央部北側の出土土器(3)…………… 114
第38図	G H 68-01 堅穴住居跡出土土器(4) 65	第70図	中央部北側の出土土器(4)…………… 115
第39図	G H 68-01 堅穴住居跡出土土器(1) 66	第71図	中央部北側の出土土器(5)…………… 116
第40図	G H 68-01 堅穴住居跡出土土器(2) 67	第72図	中央部北側の出土土器(6)…………… 117
第41図	G H 68-01 堅穴住居跡出土土器(3) 68	第73図	盛土遺構南側の出土土器…………… 118
第42図	E F 34 堅穴住居跡……………70	第74図	中央部出土土器(1)…………… 119
第43図	E F 34 堅穴住居跡出土土器……………71	第75図	中央部出土土器(2)…………… 120
第44図	G B 44 堅穴住居跡……………73	第76図	中央部出土土器(3)…………… 121
第45図	G B 44 堅穴住居跡出土土器……………74	第77図	中央部出土土器(4)…………… 122
第46図	G A 82 堅穴住居跡……………77	第78図	中央部出土土器(5)…………… 123
第47図	G A 82 堅穴住居跡出土土器……………78	第79図	中央部出土土器(6)…………… 124
第48図	F H 48 堅穴住居跡……………79	第80図	中央部出土土器(7)…………… 125
第49図	中央部東側の遺構群……………83	第81図	中央部出土土器(8)…………… 126
第50図	G A 70 トレンチ平面図・断面図…85	第82図	中央部出土土器(9)…………… 127
第51図	G A 70 トレンチ出土土器(1)……………87	第83図	中央部出土土器10…………… 128
第52図	G A 70 トレンチ出土土器(2)……………88	第84図	中央部出土土器11…………… 129
第53図	G A 70 トレンチ出土土器(3)……………89	第85図	中央部出土土器12…………… 130
第54図	G A 70 トレンチ出土土器(4)……………90	第86図	中央部出土土器13…………… 131
第55図	G A 70 トレンチ出土土器(5)……………91	第87図	中央部出土土器14…………… 132
第56図	炉址と埋設土器……………93	第88図	中央部出土土器15…………… 133
第57図	盛土遺構南北トレンチ……………98	第89図	中央部出土土器16…………… 134
第58図	盛土遺構出土土器(1)……………99	第90図	中央部出土土器17…………… 135

第91図	中央部出土石器48	136	第123図	Ⅳ調査区遺構配置図	177
第92図	中央部出土石器49	137	第124図	ⅣA調査区出土石器(1)	180
第93図	中央部出土石器20	138	第125図	ⅣA調査区出土石器(2)	181
第94図	中央部出土石器21	139	第126図	ⅣB調査区出土石器	182
第95図	中央部出土石器22	140	第127図	ⅣA・ⅣB調査区出土石器	183
第96図	中央部出土石器23	141	第128図	H D114竪穴住居跡	186
第97図	中央部出土石器24	142	第129図	H D114竪穴住居跡出土石器	187
第98図	中央部出土石器25	143	第130図	V調査区遺構配置図	191
第99図	中央部出土石器26	144	第131図	V調査区出土石器	191
第100図	中央部出土石器27	145	第132図	H B120竪穴住居跡と出土石器	193
第101図	中央部出土石器28	146	第133図	H B120竪穴住居跡出土石器	196
第102図	中央部出土石器29	147	第134図	H B120竪穴住居跡出土石器(1)	197
第103図	出土土製品(1)	148	第135図	H B120竪穴住居跡出土石器(2)	198
第104図	出土土製品(2)	149	第136図	Ⅵ調査区遺構配置図	203
第105図	出土土製品(3)	150	第137図	Ⅵ調査区出土石器(1)	204
第106図	出土土製品(4)	151	第138図	Ⅵ調査区出土石器(2)	205
第107図	出土土製品(5)	152	第139図	Ⅶ調査区遺構配置図	207
第108図	出土土製品(6)	153	第140図	Ⅶ調査区出土石器	208
第109図	出土土製品(7)	154	第141図	Ⅷ・Ⅸ調査区遺構配置図	212
第110図	出土土製品(8)	155	第142図	Ⅷ・Ⅸ調査区出土石器	213
第111図	出土土製品(9)	156	第143図	東側調査区出土石器(1)	214
第112図	出土特殊土器(1)	157	第144図	東側調査区出土石器(2)	215
第113図	出土特殊土器(2)	158	第145図	中央部・西側調査区遺構配置図	217
第114図	出土石器製品	159	第146図	西側調査区の遺構群	223
第115図	出土石器製品・小型磨製石斧	160	第147図	西側調査区出土石器(1)	226
第116図	I調査区遺構配置図・出土土器	162	第148図	西側調査区出土石器(2)	227
第117図	東側調査区遺構配置図	163	第149図	西側調査区出土石器・石器	228
第118図	Ⅱ調査区遺構配置図	167	第150図	中期以外の縄文土器(1)	230
第119図	Ⅱ調査区出土土器(1)	168	第151図	中期以外の縄文土器(2)	231
第120図	Ⅱ調査区出土土器(2)	169	第152図	中期以外の縄文土器(3)	232
第121図	Ⅲ調査区遺構配置図	173	第153図	東側の配石遺構群と墓塚・掘立柱建 物跡	237
第122図	Ⅲ調査区出土土器	174			

第154図 出土土器分類図(1)……………	250	第157図 出土土器分類図(4)……………	253
第155図 出土土器分類図(2)……………	251	第158図 遺構の空間分布図……………	269
第156図 出土土器分類図(3)……………	252	第159図 遺跡の構成概念図……………	270

写真図版

巻頭カラー

P L 1 遺跡の空中写真(1)……………	4	P L 27 配石遺構群全景(中央から北側)…40
P L 2 遺跡の空中写真(2)……………	5	P L 28 掘立柱建物跡と土壇(空中写真)…54
P L 3 遺跡の空中写真(3)……………	5	P L 29 掘立柱建物跡と土壇(北側より)…54
P L 4 F D52配石……………	20	P L 30 掘立柱建物跡の柱穴群……………55
P L 5 F D54配石……………	23	P L 31 墓壇とフラスコ形土壇……………56
P L 6 F G52配石……………	24	P L 32 G H68-01竪穴住居跡……………69
P L 7 F H60配石……………	25	P L 33 E F34竪穴住居跡……………72
P L 8 F G60配石(東側より)……………27		P L 34 G B44竪穴住居跡……………75
P L 9 F G60配石(南側より)……………27		P L 35 G A82竪穴住居跡……………77
P L 10 F E58配石……………	28	P L 36 F H48竪穴住居跡……………80
P L 11 F I58配石……………	29	P L 37 中央部東側の遺構群(G A70トレン チ)……………83
P L 12 F J48配石……………	30	P L 38 炉跡と埋設土器……………94
P L 13 F A48配石……………	31	P L 39 盛土遺構(1)……………107
P L 14 F C48配石……………	31	P L 40 盛土遺構(2)……………108
P L 15 F B46配石……………	32	P L 41 中央部北側の遺構群……………110
P L 16 F G46配石……………	35	P L 42 I調査区……………165
P L 17 F J48配石……………	35	P L 43 II調査区(1)……………170
P L 18 G D82配石……………	36	P L 44 II調査区(2)……………171
P L 19 G G80配石……………	36	P L 45 III調査区……………175
P L 20 配石遺構の立石……………	37	P L 46 IV調査区……………184
P L 21 配石遺構群全景(東側)……………37		P L 47 H D114竪穴住居跡(1)……………188
P L 22 配石遺構群全景(中央から北西側)38		P L 48 H D114竪穴住居跡(2)……………189
P L 23 配石遺構群全景(中央から西側)…38		P L 49 H B120竪穴住居跡(1)……………199
P L 24 配石遺構群全景(北西側)……………39		P L 50 H B120竪穴住居跡(2)……………200
P L 25 配石遺構群全景(北東側)……………39		P L 51 H B120竪穴住居跡(3)……………201
P L 26 配石遺構群全景(中央から北側)…40		

P L 52	Ⅵ調査区	206	P L 71	出土石器(5)	295
P L 53	Ⅶ調査区	209	P L 72	出土石器(6)	296
P L 54	Ⅷ・Ⅸ調査区	212	P L 73	出土石器(7)	297
P L 55	西側調査区の検出遺構群	224	P L 74	出土石器(8)	298
P L 56	西側調査区の遺構と出土遺物	225	P L 75	出土石器(9)	299
P L 57	出土土器(1)	281	P L 76	出土石器(10)	300
P L 58	出土土器(2)	282	P L 77	出土石器(11)	301
P L 59	出土土器(3)	283	P L 78	出土石器(12)	302
P L 60	出土土器(4)	284	P L 79	出土石器(13)	303
P L 61	出土土器(5)	285	P L 80	出土石器(14)	304
P L 62	出土土器(6)	286	P L 81	出土石器(15)	305
P L 63	出土土器(7)	287	P L 82	出土石器(16)	306
P L 64	出土土器(8)	288	P L 83	出土石器(17)	307
P L 65	出土土器(9)	289	P L 84	出土土製品(1)	308
P L 66	出土土器(10)	290	P L 85	出土土製品(2)	309
P L 67	出土石器(1)	291	P L 86	出土土製品・特殊土器	310
P L 68	出土石器(2)	292	P L 87	特殊土器	311
P L 69	出土石器(3)	293	P L 88	出土石製品	312
P L 70	出土石器(4)	294			

表

1	御所野遺跡の調査と保存に至る経過	16
2	各調査区毎の各群土器一覧表	253
3	石器器種と石質集計表	260
4	調査区毎の出土石器集計表	260
5	石器組成の比較(1)	261
6	石器組成の比較(2)	262
7	土製品・特殊土器・石製品出土地点毎の集計表	267
8	出土石器観察表	313
9	出土土製品・小型磨製石斧観察表	334
10	出土特殊土器観察表	339
11	出土石製品観察表	340

I. 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置

遺跡は岩手県二戸郡一戸町岩館字御所野に位置している(第1図)。一戸町は岩手県の内陸北部に位置し、二戸市を間に北に直線距離15kmで青森県との県境に達する。総面積の80%以上を山林原野で占め町の中央を北流する馬淵川とその支流域に小規模な集落が分布する典型的な山間地である。

遺跡のある岩館地区は一戸町北部に位置し、町の中心地である旧一戸地区の南隣に位置するため市街地にもほど近い。JR一戸駅から南東2km、東北自動車道八戸線の一戸インターから南3kmに位置している。周辺は南は子守付近、北は小井田の北方でそれぞれせめばめられた南北5km、東西2kmの盆地になっており、遺跡はその南端に立地している。馬淵川により形成されたこの盆地は、川の兩岸に谷底平野(沖積段丘)、その背後に丘陵性の段丘(洪積段丘)が分布し、そのまま山地へ連続している。このうち谷底平野の一部は市街地となり、その周辺が水田地帯、洪積段丘が畑地となっている。

2. 地形・地質

遺跡は東西500m、南北120mの東西方向に長く突き出た標高190~200mの段丘面上に立地している。西側の500m下には馬淵川、南北の崖下には根反川、地切川があり、それぞれ小谷となっている。馬淵川の平常水位との比高差はおよそ50mで、根反川、地切川沿いは40mを越す断崖となっている。遺跡はほぼ全面が平坦で起伏もなく、東西両端でも10数mの高低差しかないが、西側の段丘先端部は東から西、東側では南から西への緩斜面となっている。遺跡の西側には谷底平野が開け、その前方、馬淵川を隔てた北西方向に周辺で最も高い標高382mの茂谷山を見渡す事ができる。

遺跡はほぼ全面が畑地で、人家も全くなく、周辺にはケヤキやブナの林がある他、東側の山地も雑木林になっており、豊かな自然に囲まれている(第2図)。

遺跡周辺の地形については松山力により、最低位の越田橋段丘から岩館段丘まで五区分されている。沖積世の段丘と考えられる越田橋段丘と沢田段丘は砂礫層を基盤としており、馬淵川の平常水位とは越田橋段丘で4~6m、沢田段丘で20~30mとなっており、特に遺跡にほど近い沢田から田中周辺で最も高くなっている。洪積段丘のうち福岡段丘と一戸段丘は馬淵川東岸に分布しており、特に一戸段丘は盆地最南端の子守周辺から北端の鳥越周辺まで300~500m幅で連続している。一戸段丘は比較的開析の進んだ段丘で、ところどころ東西方向に小谷が入り分断されいづれも東から西に緩やかな傾斜をもつ丘陵性の段丘であるが、遺跡の周辺は珍しく起伏も少なく平坦である。

一戸段丘の基盤層は十和田火山の大不動浮石流凝灰岩層で、八戸浮石流凝灰岩層を基盤とす

る福岡層とは区別されている。従来一戸段丘は福岡段丘を含めて考えられていたが、松山が一戸段丘の基盤層に角閃石を含まないことを根拠として福岡段丘より古い段丘として命名したものである。二戸市を中心に広く分布する福岡段丘は、一戸地区では遺跡西側の馬場平周辺に分布が限られているが、そこに御所野遺跡と同時期の馬場平遺跡が立地している。谷底平野と一戸段丘との標高差は、20～25 m であるが、遺跡周辺では谷底平野の 10 m 上に福岡段丘、さらにその 10 m 上に一戸段丘が分布している。

岩館段丘は馬淵川の東岸の岩館から北館周辺、西岸の大平に広く分布し、標高 210 m から 220 m 以上となっている。かなり傾斜のきつい段丘面で砂礫が基盤層となっている。一戸段丘との標高差は 10 m から 20 m で、そのまま標高 300～400 m の後方の山地に連続している。

二戸地方の黒色土層中には、十和田火山を給源とする火山灰土が数層含まれ時代決定の鍵層となっている。下層から南部浮石、^{中 礫}浮石、十和田 b、十和田 a、苫小牧(この火山灰だけ給源は朝鮮半島の白頭山)の各火山灰土が黒色土層中に層を形成したり、あるいは黒色土層中に部分的に含まれたりしている。

南部浮石は橙色、あるいは黄褐色の粒径 1～5 cm の浮石で、青森県三戸から目時周辺で 70～90 cm、二戸市周辺で 20～30 cm の厚さに堆積している。南限は一戸町の鳥越周辺で、それ以南では黒色土層中に若干含まれるだけである。降下年代は縄文時代早期後半と考えられている。地元では“ごろた”と呼ばれている。

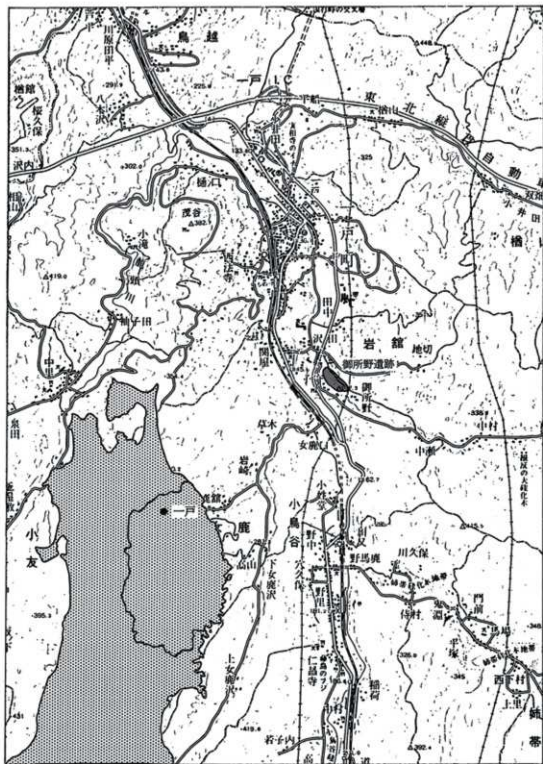
^{中 礫}浮石は黄褐色や淡黄褐色で粒径 1～5 m の浮石で、同じく三戸周辺から二戸市にかけて 20～30 cm の厚さに堆積している。降下年代は縄文時代前期中頃と考えられている。地元では“あわずな”と呼ばれている。

十和田 b 火山灰は下部の粗粒浮石と上部の青灰色火山灰から構成され、縄文末から弥生時代の降下年代が推定されている。二戸地方での確認例は少ないが、竪穴住居跡などの遺構中に薄い層を形成している場合もある。

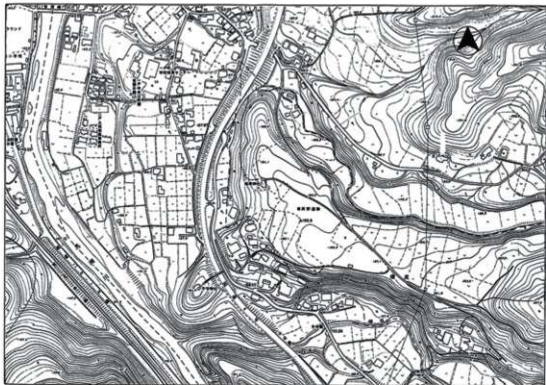
十和田 a 降下火山灰は、灰白色の粉状の火山灰で二戸地方では古代の竪穴住居跡中に 20～30 cm の厚さに堆積している。一戸町でも類別が多く、降下年代は平安時代の 9 世紀後半～10 世紀の前半頃と推定されている。

苫小牧火山灰は十和田火山灰より上層で確認されている。黄褐色の粉状の火山灰で 11 世紀から 12 世紀の降下年代が推定されている。

以上が二戸地方で確認されている降下火山灰である。以上の火山灰は各年代の遺構確認等の鍵層であるし、大まかな時代決定の基準資料となっている。



第1回 遺跡位置図



第2図 遺跡周辺の地形図

PL1 遺跡の空中写真(1)

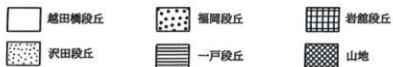
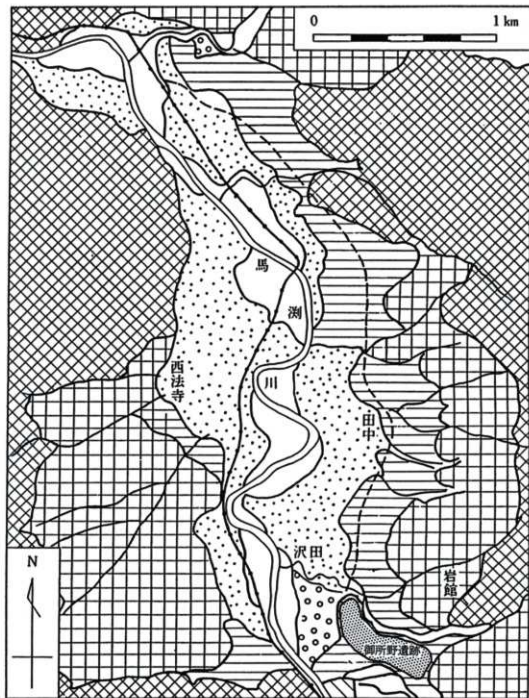


PL 2 遺跡の空中写真(2)



PL 3 遺跡の空中写真(3)





第3図 遺跡周辺の地形区分図

3. 遺跡の基本層序

遺跡の基本層序は次の通りである。

I a 層：黒褐色土、表土層のうち耕作土に相当する。比較的粒子が細かい。

I b 層：黒褐色土、粒子が更に細かく、白色の鉱物粒を含んでいる。

II a 層：黒褐色土、粒子が細かく、白色鉱物粒を多く含む。

II b 層：黒褐色土、層中に灰白色バミス（粉状）をブロック状に多く含む。

II c 層：黒色土、粒子が非常に細かく、白色鉱物粒を含む。

III 層：暗褐色土、1～5 mm 大の褐色バミスを多量に含んでいる。

IV a 層：黒褐色土、1～10 mm 大の赤褐色バミスを多量に含んでいる。

IV b 層：暗褐色土、赤褐色バミスを少量含んでいる。

V a 層：黄褐色土

V b 層：浅黄橙色粘土

II b 層に含まれる灰白色の粉状バミスは、十和田 a 降下火山灰である。同じ II b 層中には黄褐色火山灰土が含まれている。主に古墳の周溝中に含まれており、十和田 a 降下火山灰より上にある事から青森森などで確認されている苫小牧火山灰と考えられる。奈良から平安時代前半の遺構群は、この2つの火山灰の存在から II b 層上面で遺構の有無を確認できる。III層、IV層中の褐色バミス、赤褐色バミスも十和田起源の火山灰で、それぞれ中礫浮石、南部浮石に相当する。

縄文時代中期以降の各遺構はこのIII層上面が確認面となる。ただ暗褐色土中での確認のため識別が難しく、この面で遺構を見落とし更に掘り下げてIV層、あるいはV層で検出できる場合も多い。V層も十和田起源の八戸火山灰層に相当する。

以上の土層のうち I～IV層まで連続しているのは、中央部の東側と北側、東側調査区の北側斜面、西側調査区の東側斜面の下だけで、その他の場所はII層、あるいはIII層、IV層を欠き、I層を除去した後IV層やV層で遺構を確認する例も多い。III層上面を遺構確認面とする中央部の東側と北側では特に縄文時代中期の遺構検出は困難である。同時期の遺物が出土するにも抱わらず、遺構のプランを確定できなかった場合もある。したがって確認できた遺構より実際には数が多いものと思われる。

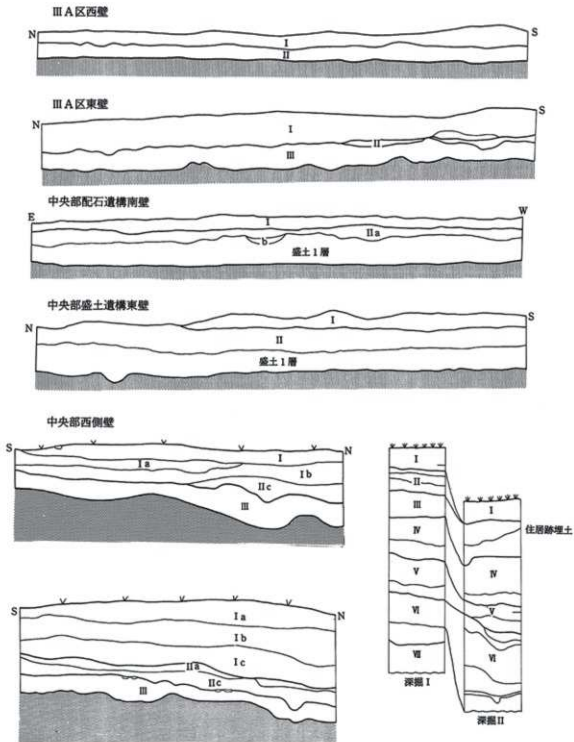
引用文献

松山力 遺跡群の位置及び周辺の地形・地質、「一戸バイパス関係調査報告書 I」1981

大池昭二 八戸浮石層の絶対年代—日本の第四紀の絶対年代— 地球科学 70、1964

大池昭二 十和田火山東麓における完新世テフラの編年、第四紀研究、第 11 巻、No. 4、1977

町田洋他 日本海を渡ってきたテフラ 科学 51—9



第4図 遺跡の基本層序

4. 周辺の遺跡

御所野遺跡の位置する馬淵川上流域には、段丘面を中心に縄文時代から中世までの各時期の遺跡が分布している。特に縄文時代の遺跡が多く、県内でも有数の遺跡密集地となっている。

なかでも一戸町の蒔前遺跡、二戸市の兩滝遺跡などは全国的に有名な晩期の遺跡として知られている。

ここでは御所野遺跡と関連ある縄文時代中期の遺跡について概観する。

馬淵川上流域の中期の遺跡としては、一戸町の馬場平遺跡、二戸市の荒谷遺跡の調査例がある。馬場平遺跡は御所野遺跡より一段低い福岡段丘面に位置し、昭和52～53年に国道4号一戸バイパス工事に伴う調査で、円筒上層c式から大木8b式の大木住居跡4棟を含む37棟の住居跡を検出している。字名が異なるため別な遺跡として登録されているが、本来は御所野遺跡と密接に関係ある遺跡と考えられる。馬場平遺跡の調査時には、既に御所野遺跡が同じ時期の大集落跡であるという事は確認していた。

二戸市の荒谷遺跡も同じく国道4号線の二戸バイパス工事前調査として昭和50年に岩手県教育委員会が調査している。19棟の住居跡を確認しているが、そのうちの1棟は長さ18mの大型住居跡で、大型住居を中心とした集落の一端が明らかになっている。その後平成3年に遺跡東側に大型店舗の開発が計画され、今年度二戸市教育委員会でも調査しており、大規模な配石遺構群と竪穴住居跡群を検出している。出土した土器は大木8a式から後期前半の十腰内Ⅱ式までであり、かなり時間幅のある遺跡と考えられている。確認した竪穴住居跡は100棟を越しているが、その大半が中期後半の遺構であるのに対し、配石遺構の下から中期の竪穴が検出されたり、周辺から後期の土器が出土しており、配石遺構群はやや時期が新しくなるようである。

馬淵川中流域では、青森県三戸郡三戸町の泉山遺跡の調査例がある。昭和53年に道路改良工事に伴い調査しているが、幅4～8mの狭い範囲にもかかわらず、縄文時代早期から晩期までの各時期の遺構・遺物が多く出土している。中期の遺構は、竪穴住居跡4棟と配石遺構を検出しているが、配石遺構には大木10式期の墓塚が伴っている。調査区が限られていたため、詳細については不明であるが、馬場平遺跡や荒谷遺跡と同じ大集落跡になるものと考えられる。最近平成3年度からも調査を開始している。以上が馬淵川流域の縄文時代中期の代表的な遺跡である。

馬淵川流域から離れた北部北上山地中に位置する瀬月内川流域では、昭和55年に東北自動車道八戸線関連調査で岩手県埋蔵文化財センターが九戸村の田代遺跡を調査している。田代遺跡は既に昭和33年に岩手大学でも調査しているが、中期初頭から末葉までの各時期の遺物が出土している。特に中期後半の遺構・遺物が主体となっている。平成2年度には県道の改良工事に

伴い調査しているが、その時にも同じ時期の遺構を確認しており、その中には一部配石遺構も含まれている。

一戸町内では御所野遺跡の周辺に中期の遺跡が集中している。特に昭和51年に始まった一戸バイパス関係の調査では、御所野遺跡に近い岩館地区で数遺跡を調査している。

最も南に位置する子守A遺跡では大木10式期の竪穴住居跡2棟を調査している。北側には田中遺跡群が連続しているが、田中1遺跡では大木9～10式期の竪穴住居跡2棟、田中2遺跡、田中4遺跡、田中5遺跡ではいずれも大木10式期の竪穴住居跡をそれぞれ3棟、2棟、6棟を調査している。その他田中1遺跡では丘陵頂部の狭い範囲にフラスコ土壌群が密集し、丘陵中腹の斜面で小規模な配石遺構と前述の竪穴住居跡を検出している。フラスコ土壌群は、晩期の土壌と重複しているが、中期の土壌はいずれも大きく、しかも深いものが多いため晩期の土壌とは区別でき合計20基を数えている。また同じ面で炉跡2基、斜面下では配石遺構を検出しているが下に土壌を伴っていない。

御所野遺跡の保存決定以後、田中地区の田中1遺跡、田中2遺跡周辺が工業団地の予定地となり、平成3年度に試掘調査、4年度から本調査を実施している。東側の丘陵頂部を中心に縄文時代の中期末から後期初頭と古代の遺構群を調査している。縄文時代の竪穴住居跡だけで30～50棟近くに達するであろう。

馬淵川対岸の大平遺跡では昭和61年に総合運動公園の造成に伴う調査を実施している。縄文時代の遺構は中期末から後期初頭の竪穴住居跡を7棟検出している。平成2年度には、遺跡西南部の試掘調査と本調査を実施しているが、同じく中期末から後期末までの遺構群を調査している。中期の土器はいずれも大木10式の土器群であり、5～6棟の住居跡を調査している。来年度、さらに再来年度まで調査を継続する予定であるが、中期の遺構は末葉のものに限られているようである。

平成2年度に一戸町教育委員会では御所野周辺の岩館、一戸、西法寺、鳥越地区の詳細分布調査事業を実施している。縄文時代中期の遺跡は、御所野遺跡周辺の岩館と西法寺地区の南側に集中している。前述の遺跡のほか御所野II遺跡、御所野III遺跡、大平II遺跡、関屋遺跡などが新規に発見されており、第5図のように御所野遺跡を中心として半径500mの範囲に遺跡が集中している。ただ田中遺跡群や大平遺跡群では御所野遺跡の後半の時期、すなわち中期末の大木9・10式期の遺跡が多いようである。

御所野遺跡は以上の遺跡群のほぼ中央に位置し、しかも遺跡の規模が桁違いに大きい事から周辺の遺跡群の拠点集落跡と考えることもできそうである。

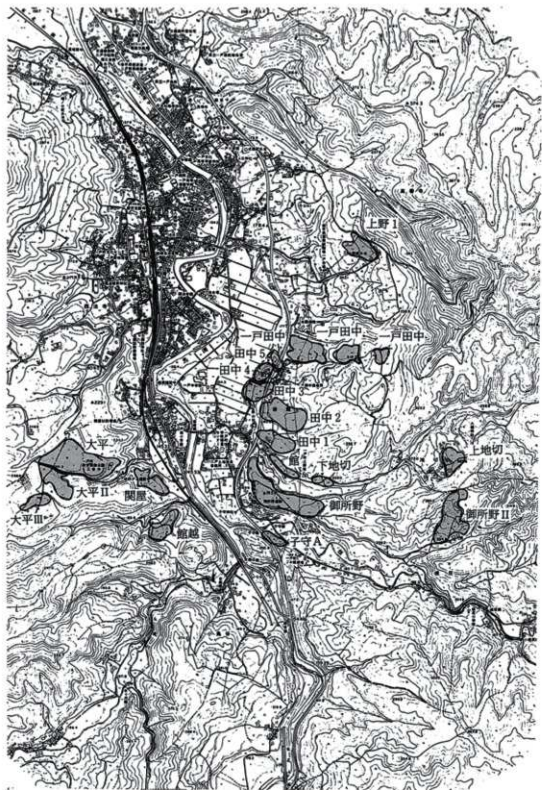
ところで前述の泉山、荒谷、御所野の各遺跡はそれぞれ10kmづつ離れているし、御所野と田代、荒谷と田代の各遺跡間もほぼそれに近いようである。これらの遺跡は従来の調査結果か

ら判断していずれも拠点集落と考えられるが、大規模な遺跡が一定の距離をおいて分布しており興味ぶかい。

荒谷遺跡の周辺でも中期末から後期初頭の上村遺跡・下村B遺跡、家の上遺跡などの小規模な遺跡が分布しており、御所野遺跡の周辺と似たような状況となっている。今後田代遺跡を中心とした瀬月内流域や泉山遺跡を中心とした馬瀬川下流域でも詳細な分布調査を実施すればよりはっきりしてくるであろう。

引用文献

- 「蒔前一岩手県蒔前遺跡出土資料の図録」一戸町教育委員会 1981
芹沢長介「石器時代の日本」築地書館
「一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書」一戸町教育委員会 1983
「荒谷 A 遺跡発掘調査報告書」岩手県埋蔵文化財センター 1983
「泉山遺跡発掘調査報告書」青森県教育委員会 1976
「田代遺跡発掘調査報告書」(鮎岩手県埋蔵文化財センター 1982
草間俊一「岩手県田代遺跡調査報告」岩手大学学芸学部研究紀要第 13 巻第 1 部 1958
「岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成 2 年度分)」(鮎岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1991
「一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書 I」一戸町教育委員会 1981
「一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書 IV」一戸町教育委員会 1983
「大平遺跡現地説明会資料」一戸町教育委員会 1986
「一戸町の遺跡 I」一戸町教育委員会 1991
「上村遺跡・下村 A 遺跡・下村 B 遺跡発掘調査報告書」(鮎岩手県埋蔵文化財センター 1983
「二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書」(鮎岩手県埋蔵文化財センター 1982



第5図 周辺の遺跡 (縄文時代中期)

II. 調査と保存の経過

1. 調査の経過

御所野遺跡の発掘調査は平成元年度にはじまった。平成元年6月、一戸町長から教育長に試掘調査の依頼があり7月から遺跡中央部の調査をしている。まもなく古墳群と縄文時代の配石遺構群を検出し、8月に試掘調査の結果を報告している。本調査は9月に開始したが古墳18基を調査した外保存状態の良い配石遺構群のほぼ全容が明らかになった。配石遺構群の周囲では100棟以上の竪穴住居跡が馬蹄形に分布している事を確認し非常に貴重な遺跡である事が判明した。教育委員会では早速文化庁と岩手県教育委員会の指導を受け、その後11月18日に調査の成果を発表し、翌日現地説明会を開催した。マスコミが大きく取り上げてくれたこともあり、600人が参加するという岩手県内では今だかつてない程の現地説明会となった。

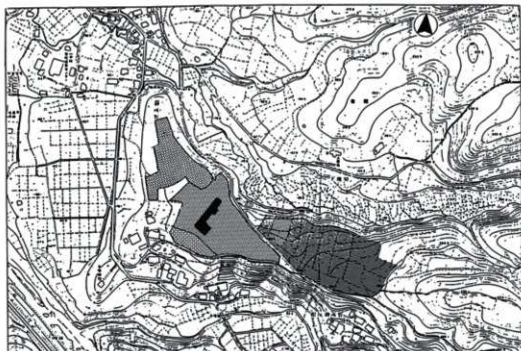
平成2年度からは国庫補助事業として、遺跡の保存を目的とした範囲確認調査を開始している。平成2年度は5月から遺跡西側の遺構の広がりや中央部の遺構の分布を確認した。西側でも縄文時代の竪穴住居跡を検出しており、西側のほぼ全域に縄文時代の遺構が分布する事が明らかになった。その数は40～50棟を数えている。同じく平安時代後半の竪穴住居跡9棟と西端では中世に伴う堀跡も検出した。平安時代の竪穴住居跡は中央部ではほとんど検出しなかったが西側に古代の集落が広く分布している事が明らかになった。

中央部では配石遺構群の東側を確認した。栗林のなかにトレンチを設定し調査したところ、径10～15mの大型住居跡が集中し重複していた。9月に現地説明会を開催しその調査成果を発表したが約300名の参加者があった。野外調査は11月で終了し、12月から室内整理をして、3月に平成2年度の調査概報を刊行している。

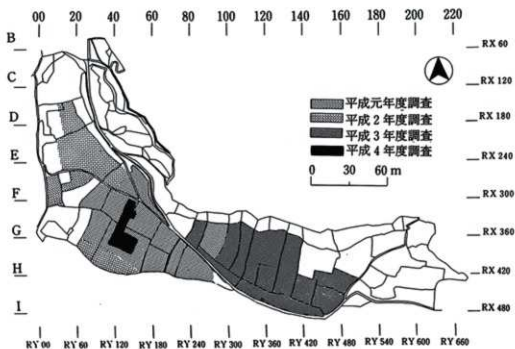
平成3年度は5月から遺跡東側を調査している。同じく縄文時代中期後半と平安時代後半の遺構群を検出した他新たに奈良時代の竪穴住居跡を確認している。縄文時代の遺構は竪穴住居跡を187棟、土壇は70基、古代の遺構は竪穴住居跡を29棟、土壇を30～35基検出している。

10月20日に現地説明会を開催し調査の成果について発表したところ、やはり参加者が多く約250名を数えている。平成3年度の調査結果についても、11月から整理作業を開始し3月までに概報を作成している。以上2ヶ年の範囲確認調査により御所野台地のほぼ全域に縄文時代の遺構が分布している事が明らかになった。

平成4年度には、遺跡中央部の内容確認調査を実施した。特に配石遺構の下と配石遺構の南側の包含層の性格を明らかにする事が目的である。調査の結果、配石遺構群のトレンチでは、基壇と考えられる土壇群と掘立柱建物跡に伴う柱穴群を検出し、配石遺構が基に伴う事と配石遺構南側の包含層が基城の形成に伴う盛土層である事が明らかになった。野外調査はほぼ8月で終了し、調査成果を9月に発表している。以上平成元年度にはじまった御所野遺跡の調査も



元年度調査
 2年度調査
 3年度調査
 4年度調査



第6図 年度毎の調査区位置図

2ケ年の範囲確認調査と1年の内容確認調査により遺跡の内容が少しづつ明らかになってきた。

2. 保存に至る経過

御所野遺跡が配石遺構を伴う大規模な縄文時代の集落遺跡である事が明らかになったのは平成元年の秋である。特に現地説明会前日の発表では、各紙とも1面、あるいは3面のトップ記事として扱ったし、全国版にも取り上げられたため、その反響はすさまじいものであった。前述のように翌日の現地説明会では、各地から600人も集まっている。その頃から遺跡の保存を求める意見が寄せられるようになり、次第にその数が増していった。

このような住民の声を受けて、同年11月25日に行われた定例の教育委員会議では、遺跡は保存し史跡公園として活用すべきだ、との意見が多く出されている。

既に試掘調査の報告書でも、遺跡中央部には重要な遺構が残されている可能性が強いと報告していたが、平成元年末に町長に提出した「平成元年度の調査報告書」では、教育委員会議の意見をもとにして、遺跡は史跡公園として活用できるよう保存してもらいたいと初めて保存を要望した。

12月になってからも遺跡の見学者はあとを断たず、12月18日には御所野遺跡の保存を求める請願2件が一戸町議会に提出され教育民生常任委員会に付託された。継続審査の扱いとなったが、予想以上に地域住民の動きは早かった。庁内でも12月1日には町当局の三役、各担当課長と担当者が入り協議したが結局結論はでなかった。そのうち岩手県議会議員一行が遺跡を訪れたりしたように、次々と遺跡の取扱をめぐる動きがあり、保存か開発か町としても判断できかねるような状態がしばらく続いた。

町としての結論をだせないまま年を越したが、年明け早々助役、教育長と担当者が県の担当者同行して戴きながら文化庁に出向いた。文化庁からは重要な遺跡であり、是非保存し、次年度から国庫補助事業として範囲確認調査を計画したらとの指導を戴いており、町としての結論が出ないまま平成2年度から範囲確認調査を実施する事になった。この範囲確認調査の計画により遺跡は保存に向けて一歩踏み込んだ事になる。

ところが平成3年3月には、一户町議会に御所野地区は当初の計画通り農工団地として開発するようにとの請願2件が提出され、同じく継続審査の扱いとなっている。

平成2年度には、地権者をはじめ、地域住民の御協力を得ながら、範囲確認調査を実施したが、当初から見学者が絶えず、岩手県副知事や二戸振興局長、岩手県教育委員会次長など県幹部の人々もわざわざ遺跡を訪ずれている。

平成2年の6月議会では一般質問に御所野遺跡が取り上げられ、町長が重要な遺跡のため現在範囲確認調査を実施していると答弁しているし、7月には改めて教育長名で範囲確認調査の

経過と保存した場合の全体計画を作成し町長に遺跡の保存を要望している。

御所野遺跡の保存について大きな動きがあったのは平成2年の11月5日であった。町長自ら御所野工業団地の地権者会に出席し、遺跡は保存し史跡公園として活用し工業団地は同じ岩館地区の田中に計画を変更したいと表明したのである。ここで御所野遺跡の保存が事実上確定したのである。

表1 御所野遺跡の調査と保存に至る経過

平成元年5月8日	御所野地区を一戸町農工団地として開発するため遺跡の取扱いについて 一戸町長から教育長に照会。
5月11日	一戸町教育委員会より御所野遺跡は、縄文時代の大集落跡の可能性が強い ため、発掘調査の期間・経費については試掘調査を実施してから報告 すると回答。
7月4日	試掘調査を開始、遺跡中央部の対象面積17,000㎡のうちその一部につ いて調査。
8月4日	試掘調査の結果について、平成元年度第2回文化財調査専門委員会議で 報告。
8月11日	試掘調査終了。
8月11日	試掘調査の結果について一戸町長に報告。縄文時代と古代の複合遺跡で 平成元年度に古代の古墳、平成2年度以降に縄文時代の遺構を調査した いと報告。
8月21日	本調査を開始。
11月7日	文化庁 岡村道雄文化財調査官、岩手県教育委員会文化課 高橋信雄主任 文化財主査より調査の方法と今後の取扱いについて指導を受ける。
11月9日	国立歴史民俗博物館 春成秀爾助教授から調査について指導を受ける。
11月17日	マスコミ発表。翌朝岩手日報1面トップ記事として掲載。
11月19日	現地説明会。600名近くが参加。保存についての要望が多く出される。北 海道大学 林謙作助教授に指導を受ける。
11月29日	一戸町長に平成元年度の調査結果について報告。
12月1日	一戸町長、助役、収入役、企画課長と教育委員会との協議。
12月10日	岩手県議会、御所野遺跡の現地と文化財事務所を視察。
12月13日	平成元年度の野外調査終了。
12月18日	一戸町議会に御所野遺跡の保存について請願2件提出され、教育民生常 任委員会に付託される。

- 12月20日 平成元年度第3回文化財調査専門委員会で調査結果について報告。
- 12月25日 一戸町文化財調査専門委員会から一戸町教育委員会委員長、一戸町長、一戸町議会に保存要望書が提出される。
- 12月25日 教育委員会の12月定例会で御所野遺跡について報告、教育委員会としては保存し史跡公園として活用することを確認。
- 平成2年1月11日 一戸町助役、教育長、文化財担当者と岩手県教育委員会文化課高橋主任文化財主査が、遺跡の取扱いについて文化庁から指導を受け、次年度以降範囲確認調査を実施する事にする。
- 3月5日 一戸町議会に御所野農工団地を当初計画通り開発するようにとの請願2件が提出される。
- 4月12日 岩手県佐々木副知事、大里二戸振興局長現地視察。
- 5月7日 平成2年度の野外調査を開始。遺跡西側の遺構確認が目的。
- 7月1日 御所野遺跡の発掘調査についての経過報告と将来の保存計画案について教育委員会から一戸町長に提出。
- 7月13日 北海道大学 林謙作助教授、発掘調査について現地指導。
- 7月23日 文化庁 河原純之主任文化財調査官、岩手県教育委員会文化課 高橋信雄主任文化財主査、佐々木勝文化財主査が現地指導。町長との協議。2ヶ年の範囲確認調査後1年間内容確認調査を実施する事になる。
- 8月8日 北海道大学 林謙作助教授から現地で指導を受ける。
- 8月16日 国学院大学 小林達雄教授から現地で指導を受ける。
- 9月1日 文化庁 岡村道雄文化財調査官、弘前大学 村越深教授現地で指導。
- 9月28日 平成2年度の調査結果についてマスコミに発表。
- 9月30日 平成2年度発掘調査現地説明会。約300名参加。
- 10月9日 奈良大学 水野正好教授から現地で指導を受ける。
- 11月5日 御所野農工団地地権者会で一戸町長が御所野遺跡については史跡公園として活用したいと発言。
- 11月17日
18日 縄文時代のストーンサークル展開催。500名参加。
- 12月4日 一戸町長、12月定例議会の一般質問に答えて御所野遺跡については史跡指定をめざし、保存計画を作成しながら将来史跡公園として整備すると答弁する。
- 3月6日 3月定例議会で教育委員長が教育施政方針の中で御所野遺跡について範

		田確認調査を継続し、将来史跡公園として整備すると発言。
平成3年3月31日		平成2年度の発掘調査概報を刊行。
	5月7日	平成3年度の調査開始。遺跡東側の遺構の確認が目的。
	6月21日	6月定例議会で、御所野遺跡の保存を求める請願2件を採択、農工団地としての開発を求める請願2件を不採択とし、正式に御所野遺跡の保存が決定する。
	10月8日	平成3年度の調査結果についてマスコミに発表。
	10月20日	平成3年度現地説明会。約250名参加。
	11月28日	岩手県教育委員会文化課 熊谷文化財主査と一戸町生涯学習課長、文化財係長が2ヶ年の範囲確認調査の結果報告と今後の計画等について指導を受けるため文化庁記念物課へ。
平成4年3月31日		平成3年度の調査概報刊行。
	1月27日 } 28日	第1回御所野遺跡調査指導委員会開催。
	5月7日	平成4年度の内容確認調査を開始。
	6月26日 } 27日	第2回御所野調査指導委員会を開催。配石遺構群の下と掘立柱建物跡について指導を受ける。
	9月4日	平成4年度の野外調査を終了。
	9月4日	平成4年度第2回文化財調査専門委員会議で平成4年度の調査結果について報告。
	10月2日	平成4年度の調査結果についてマスコミに発表。
	10月5日	平成2年度から平成4年度の調査結果について文化庁に報告。
	12月20日	御所野遺跡調査報告書I稿了。
平成5年1月22日		平成4年度第3回文化財調査専門委員会議で御所野遺跡の調査の経過と今後の予定について報告。
	2月25日	御所野遺跡調査報告書I刊行。

III. 縄文時代

1. 中央部

(1) 配石遺構

配石遺構は中央部北側の東西 80 m、南北 50 m の東西に長い平坦面に構築されている。周辺は東西の両端でも比高差が 1 m、南北でもほとんど高低差のない平坦面となっている。

盛土遺構の項で詳述しているように、この平坦面の大半は、大規模な造成に伴う削平地で、人為的に構築されたものである。検出した石の中には、基本層序Ⅱ層中に含まれるものもあるが、大半はⅣb層、あるいはⅤ層上の汚れ部分に配置されている。特に組石となっているものは、全てこの層の上に構築されている。以上から配石遺構群の周辺では、基本層序のⅢ層とⅣa層を欠いている事になる。

第 8 図は配石遺構の全体図である。全体図には浮いた石も全て記入しているためやや散漫であるが、東側の中心部や中央、さらに北西側の中央では比較的石が薄くなっている。各石のレベルを確認して整理すれば、本来の分布状況がよりはっきりするものと思われる。

検出した石の中には組み合わせると一つの単位とした遺構があり、それを抽出し次のような個々の配石を確認した。この組石を小単位の「配石遺構」とする。小単位の配石遺構は、FD 50 (RX 318・RY 150) 周辺から東側と西側に密集している。東側では、FD 52・FD 54・FE 58・FG 60・FH 60・FI 58・FG 52・FE 52、西側では EJ 48・FA 48・FB 46・FC 48・EJ 42・EI 46 などがあり、しかもそれぞれ東側と西側に大きなブロックがある事がわかる。

配石遺構群は後述する掘立柱建物跡や土壌の分布から考えても、それぞれ東西に大きく 2 分される可能性が高い。ただ整然とした配置ではなく、東側は東西に長く西側は円形に近い形態となりまとまっている。この小単位の配石遺構のまとまりを大単位の配石遺構とする。以上から御所野遺跡の配石遺構は、小単位の配石遺構があつまり、全体として 2 つの大単位から構成されているものと思われる。

個々の配石遺構は、立石をもつ FD 52 配石のように円形、あるいは楕円形に石を敷き、その端に立石を持つが東側に多く、巨大な石が倒壊したと考えられる FG 60 配石などはその典型であろう。

西側の配石は表土層が薄い事もあり保存状態もあまり良くないし、小単位の配石遺構の形態もやや不明であるが、東側と異なりサークル状になっているものが多い。

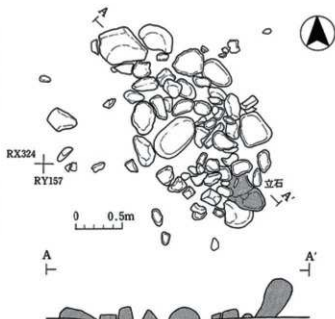
ところで以上の配石遺構のほかに FG 46、FI 46、FJ 48 のように外側に分布するものもいくつかあるし、さらに中央部の東端でも GD 82、GG 80 などの小単位の配石遺構を検出している。ただし中央部以外、東側や西側の調査区ではこのような配石遺構は全く認められなかった。以下個々の配石について説明する。

FD 52 配石

径2×1mの楕円形に石を組み合わせ、長軸の南西端に幅30cm、高さ40cm大の立石がそのままの状態に残っている。立石は安山岩で、同じ石質の石は北西端にも倒れている。この石も立石であろうか。

各石は緑石が長さ40～50cmと比較的大きく、内側には長さ20cm程のやや小さめの石をそれぞれ配置している。

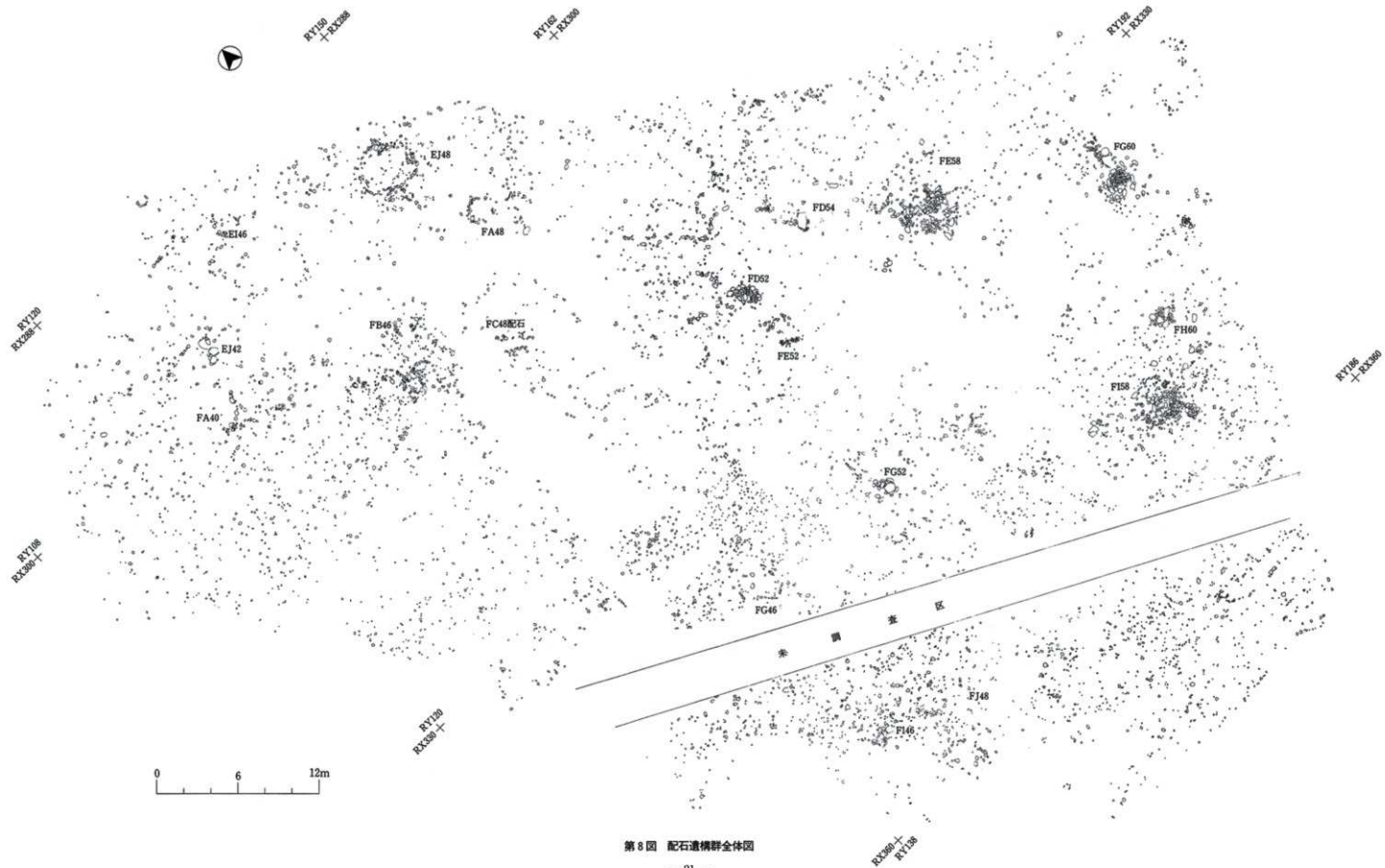
石質は安山岩が多く、チャート、花崗岩、砂岩も一部含まれている。



第7図 FD52配石

PL 4 FD52配石





第 8 図 配石遺構群全体図

FD 54 配石

配石地帯の北東に位置している。径1.30×0.70 m、厚さ5 cmの長方形の巨石が横たわっている。周囲には20～30 cm大の河原石も残っているが単位は明確でない。巨石の縁には敲打痕が残っており、自然石の一部を加工して形を整えている可能性が強い。南東隅には赤色塗料が付着している。石質は花崗岩で、御所野遺跡の周辺では馬淵川対岸の茂谷山周辺に分布している石である。

その他の石はいずれも川原石で石質は安山岩、チャート、砂岩などである。



第9図 FD54配石

PL 5 FD54配石

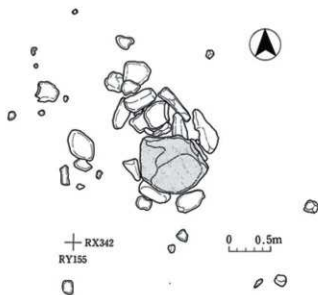


FG 52 配石

配石地帯の中央やや南よりに位置している。径0.8×0.7m、厚さ20cmの巨石(花崗岩)があり、その周囲に径1.90×1.10mの楕円形に30~50cm大の石を組んでいる。ただしかなり石が抜かれている可能性が強い。

巨石の周囲には長さ30~40cmの比較的細長い石が配置されている。

石質は巨石、周辺の石ともに花崗岩が多く、一部安山岩やチャートが含まれている。



第10図 FG52配石

PL 6 FG52配石

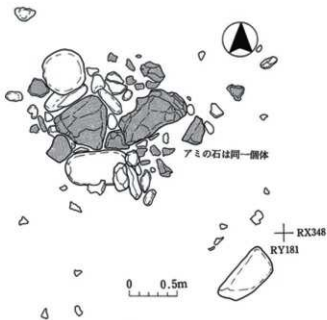


FH 60 配石

配石地帯の東端中央に位置している。

中央から割れて大きく2つになった巨石があり、西側は径60×30 cm、東側は径80×40 cmとなっている。

両側には径45 cm、66×34 cm大の川原石があるが全体の配置は不明である。北西側の石は石皿を転用している。石質は巨石は石灰岩、その他は花崗岩、安山岩である。



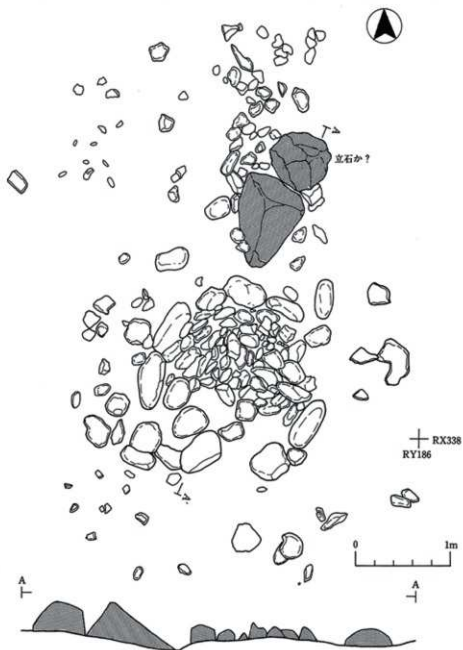
第11回 FH60配石

PL 7 FH60配石



FG 60 配石

径 2 m の円形に石を配置している。外側に径 40~60 cm 大の比較的大きい石を配し、その内側に 30 cm 以下のひとまわり小さい石を全面に敷きつめている。更に北側に長さ 150 cm、幅 70 cm の巨石が割れたまま倒れている。この巨石も立石であろう。巨石は花崗岩である。



第12図 FG60配石

PL 8 FG60配石 (東側より)

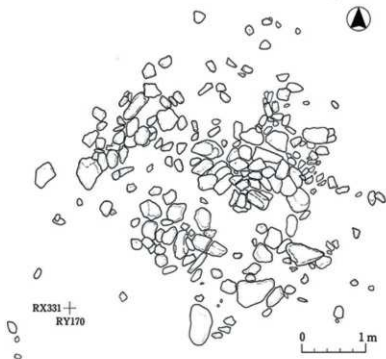


PL 9 FG60配石 (南側より)



FE58 配石

径2mの円形に石を配置している。外側に30~50cm大の石を配し、中にもほぼ同規模か、やや小さ目の石をつめている。両端に50~60cm、中央に34cmの石が倒れている。あるいは立石の可能性もある。外側に1m内外の石の集塊があり、それぞれに立石らしき石も倒れている。石質は安山岩、チャートが多い。



第13図 FE58配石

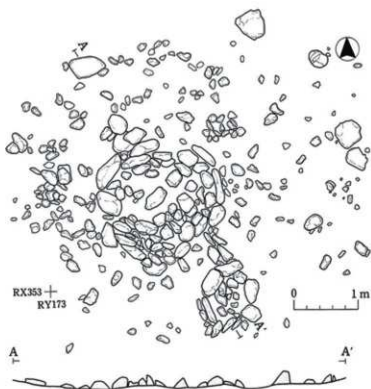
PL10 FE58配石



FI58 配石

径 2 m の円形に
40~60 cm の石を配し、
中に 10~40 cm の石を
つめている。

周囲には 0.5~1.00 m
の方形、あるいは楕円形
の石が配置され、南東隅
でそれが連結されている。
石質は安山岩が多い。
周辺は検出面がV層で、
遺構の検出も容易であ
る。



PL11 FI58配石

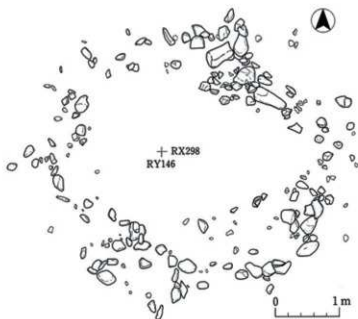
第14図 FI58配石



EJ 48 配石

西側の北端に位置し、奈良時代の12号古墳と重複している。径5.0×4.2mの楕円形の配石で、長軸の方向は北西から南東となっている

径20～30cm大の川原石を使用しているが、北側に40～50cm大の比較的大きい石を使用し、組石としている。同じような組石は東側、南側にもある。石質は安山岩、花崗岩、砂岩、チャート等である。



第15図 EJ48配石

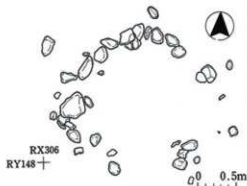
PL12 EJ48配石



FA 48 配石

中央やや北西よりに位置している。径 2 m 程のサークル状の配石であるが、南東側の一部で石を欠いている。長さ 20~30 cm、幅 10 cm 程の細長い石を環状にめぐらしている。石質は、安山岩が多く、一部花崗岩、砂岩、チャートを含んでいる。サークルの中央に土層観察用のベルトを設定し、一部掘り下げているが、配石で区画された中では土壌等の施設は認められなかった。

PL13 FA48配石

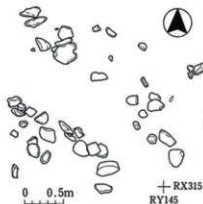


第16図 FA48配石

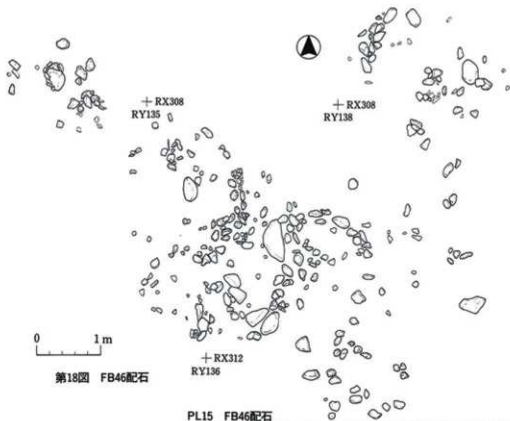
FC 48 配石

中央やや西よりに位置している。16号古墳と重複しており、その下で検出している。東西方向に2つの列石状の組石がある。南側は長さ 180 cm、幅 60 cm で、20~30 cm 大の川原石を使用している。北側はかなり石も抜かれているが、西側にはもう1単位残っているようにも見える。古墳と重複しており、その際抜かれたのであろう。石質は安山岩、チャートが多い。

PL14 FC48配石



第17図 FC48配石



FB 46 配石

西側中央に位置している。小さい配石が密集しているが一括している。

1.40～2.00 cm のサークル状に配置され、組石が中央に2ヶ所あり、周辺にもそれに近い形態の石の集積がある。

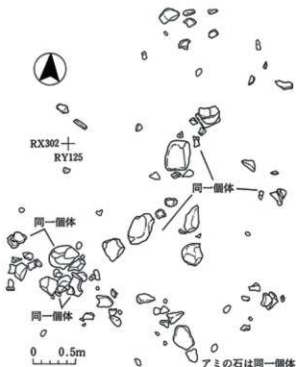
周辺は表土層も薄いためかなり抜かれている可能性が強い。石は一部40～60 cm の比較的大きい山石もあるが、大半は川原石で、しかも20 cm 以下のものである。石質は安山岩、チャート、砂岩が圧倒的に多い。



FA 40 配石

中央西端に位置している。残存状態があまり良くなく、全体の形態は不明である。図のように西端から緩やかな弧を描き、北東方向に石が連続している。しかも30~40 cmの大きめの石がとびとびに配置され、その間の石は10 cm大であり小さい。

同じように西端から逆方向に連続する石列もある。あるいはそれぞれがサークル状にめぐっていた可能性がある。アミ部分はそれぞれ3種類の石を割って使用している。割った後に縁を加工しているものもある。花崗岩、石灰岩、安山岩をそれぞれ打ち欠いている。その他の石は安山岩が多い。

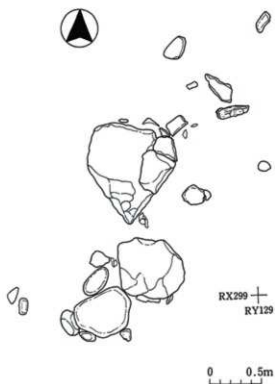


第19図 FA40配石

EJ 42 配石

FA 40 配石の北側に位置している。それぞれ北から径100×90 cm、60×60 cm、54×40 cmの3つの巨石が残っている。巨石の周辺には、20~30 cmの川原石も一部残っているが、全体の配置等は不明である。北側の石は石灰岩で、意識的に割ったのか不明であるが石は一部割れている。中央部の石も同じく石灰岩で、周辺を割り、その小片を下あるいは周辺に配置している。

南側の石は安山岩で周囲の石も同じ川原石の安山岩である。北側には図のように柱化木を使用している。

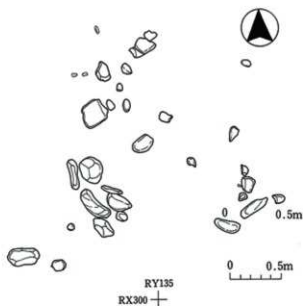


第20図 EJ42配石

EI 46 配石

中央の北西端に位置している。周辺は表土層が薄く石の保存状態もあまり良くない。全体の配置は不明であるが、サークル状の南西部分が残っていた可能性もある。石は30~40 cm大の川原石が多く、その周囲に10 cm大の小さめの石が残っている。

石はいずれも安山岩、チャート、砂岩で他の配石とほとんど大差ない。



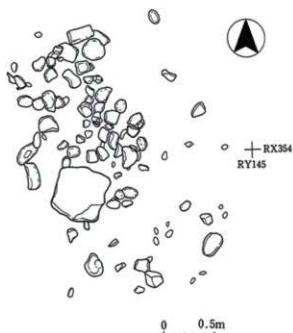
第21図 EI46配石

F1 46 配石

盛土の北側斜面上に位置している。盛土の北側は緩やかな斜面となっているが、その中腹にある事から盛土の上に構築されている可能性が高い。2.00×1.40 mの範囲に20 cm大の石が密集している。

東端に径50 cmの偏平な石があり、その他石棒、磨石などの石器や石製品を使用している。

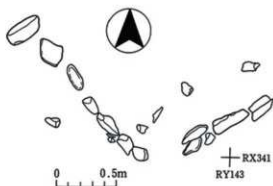
石質は花崗岩、安山岩、チャート、砂岩などで特に安山岩が多い。周辺あるいは配石の下からも土器が多量に出土している。



第22図 F146配石

FG 46 配石

中央部東側の大単位の配石遺構群の東南寄りに位置している。L字形の配石で北西から南東に直線状に1.16 m 続き、そこから直角に折れ南東に0.90 m 残っている。いずれも長さ20~30 cmの細長い石を使用している。石質は花崗岩質が多い。



第23図 FG46配石

PL16 FG46配石



FJ 48 配石

盛土層の北側斜面にあり、FI 46 配石の東隣に位置している。盛土周辺では石が多量に出土しており、意識的な組石かどうか不明な点もある。ほぼ2 mの範囲に弧状に石を配置している。比較的大きな石で30~40 cm、その他は10 cm内外のものが多く、石質は安山岩や砂岩が多いようである。



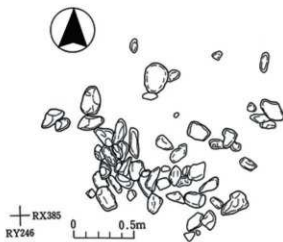
第24図 FJ48配石

PL17 FJ48配石



GD 82 配石

中央部の東端に位置している。北側はやや不明であるが、径 2.00 m の範囲に 20 m 大の石が残る集石状の配石遺構である。かなり石が抜かれているのであろうか、やや不規則な配置となっている。全体は北西から南東方向に長くなっている。



第25図 GD82配石

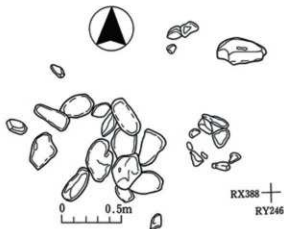
PL18 GD82配石



GG 80 配石

中央部北端に位置している。北西から南東に 1.20 m、北東から南西に 1.00 m の小規模な配石遺構で、径 30×20 cm に細長い川原石を組んでいる。両端の石は立石の可能性はある。

東側には径 0.5×0.4 m の楕円形の石組が伴う。いずれも 10~20 cm 大の小石を使用しており、いずれも石質はチャートである。



第26図 GG80配石

PL19 GG80配石



PL20 配石遺構の立石（抜かれて地境に立てられている）



PL21 配石遺構群全景（東側）



PL22 配石遺構群全景 (中央から北西側)



PL23 配石遺構群全景 (中央から西側)



PL24 配石遺構群全景（北西側）



PL25 配石遺構群全景（北東側）



PL26 配石遺構群全景（中央から北側）



PL27 配石遺構群全景（中央から北側）



出土遺物

縄文土器、石器、土製品、石製品、特殊土器など多種多様な遺物が出土している。

縄文土器（第27～30図）

縄文土器はいずれも第II～VI群土器が出土している。

第II群土器（89、90） 89は4つの突起をもつ深鉢の口縁部片で、口縁部に粘土紐を貼り付け、その上に連続山形文を沈線で施文している。体部には同じく沈線で縦に4つに区画し、その間を連結した胸骨文を施文している。円筒上層e式であろう。縄文はLR縄文である。90はキャリパー形土器の口縁部片である。隆線により文様を施文しており、大木8a式に相当する。原体はRL縄文である。

第III群土器（61～87） 隆沈線施文の土器群である。深鉢が大木で66だけ浅鉢である。隆沈線により渦巻文を施文する例が多く、より立体的な文様表現となっている。66、71、72は刺突文を施文している口縁部には62、64、67、71のように突起の付く例もある。いずれも器面調整が丁寧である。88は4個の突起を持つ深鉢で口縁部溝状文、体部に沈線で弧状文や「フ」字状の棘文を施文している。

88は椀林式土器、61～87は大木8b式土器であり、それぞれA群、B群に相当する。このIII群土器には61、66、69のようなRLRの複節縄文も含まれているがその他はいずれもLR縄文である。

第IV群土器（28～29、33～35、37～60） 沈線による区画文施文の土器群であるが、区画文が楕円形となりしかも縦方向に施文される。大半は沈線により区画されるが、34～35、41、47、50、51、54、58のように部分的に隆線を伴う例もある。60は沈線を縦方向に3条施文しておりその他の土器とはやや異質である。以上は大木9式土器である。縄文は一部RLやRLRの複節縄文もあるが、ほとんどはLRの単節縄文である。

第V群土器（1～25、29、32、36） いずれも沈線による曲線的な区画文施文の土器群で、技法的には沈線により区画しその間に縄文を施文する充填縄文と縄文施文後に沈線で区画しその間を磨り消す磨消縄文の両例がある。区画文の先端部や口縁部の周辺、あるいは口縁部内面に隆線を貼り付け、ヒレ状の突起とするものが含まれている。7の口縁部内面には、横方向に隆線を貼り付けているが、あるいは外面の文様構成からIV群土器の可能性もある。なかには1、10のように刺突文を連続させるものもある。縄文原体は一部RL縄文もあるが大半はLR縄文である。大木10式土器である。

第VI群土器（91） 粗製土器である。浅鉢と考えられ全面にLR縄文を施文している。

以上のように中央部の配石遺構群からは第II～VI群土器が出土している。全体的にIII～V群土器の出土量が多いようである。配石遺構の下はほとんど調査していない事もあり、完形土器

等は出土していない。

石器 (第 74～102 図)

出土した剥片石器の中では石鏃が 200 点と圧倒的に多い。その他、石槍、石匙、石錐、削器類が出土しているが、出土量はさほど多くない。特殊な石器としてブーメラン形石器が出土している。礫石器の中では圧倒的に磨石、凹石が多い。なかには配石遺構に転用しているものもある。その他敲石、石製円盤、磨製石斧、石皿等が出土している。

土製品 (第 103～111 図)

土製品は土偶、三角形土製品、三角錐形土製品、耳飾り、環状土製品、有孔土製品、棒状土製品、キノコ形土製品、斧状土製品、貝形土製品、その他不明な土製品が出土している。特殊土器も配石遺構周辺から最も多く出土している。

土偶 (1、2) は 2 点出土している。いずれも板状土偶で円形の刺突文を連続施文している。27、28 は三角錐形土製品で上部を欠いている。三角形土製品の 3 点 (7、9、17) はいずれも形態が異なっている。7 はつまみ状の突起がつき、9 は三角形の頂部に 3 方向から横に穿孔、17 は 1 ケ所だけ縦に穿孔している。耳飾りは 5 点 (19、20、22、23、25) あるが、19 は基本層序 I 層から出土しており、あるいは若干時期が新しい可能性もある。環状土製品 (30) は表裏面と側面に沈線施文を丁寧調整している。有孔土製品 (35) は 1 点出土している。35 は表裏面とも内側が凹んでおり、その中心に穿孔している。

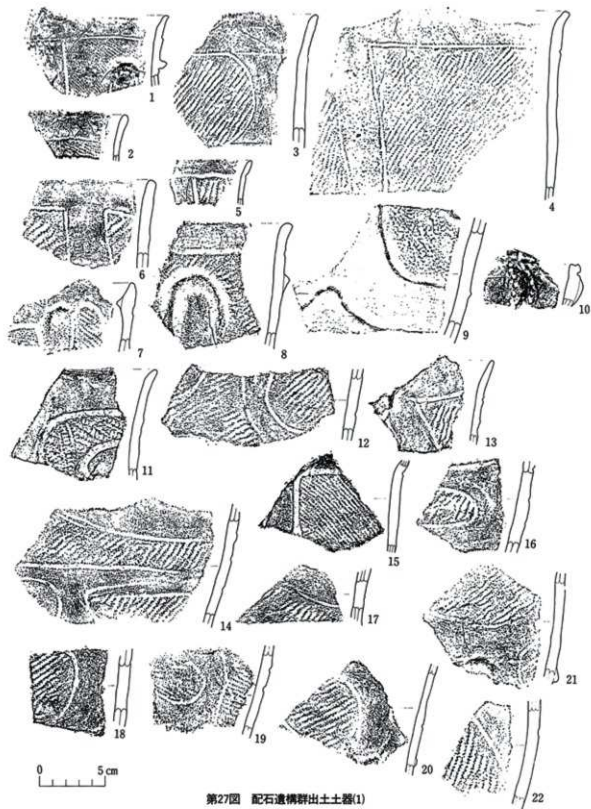
棒状土製品 (46、48、50、51) としたものうち 46、48、50 は欠損品で全体の形態も不明であるが、51 は両端が細くなっており、断面形は円形を呈している。キノコ形土製品の 1 点 (53) は基部を欠いている。斧状土製品は 2 点 (60、61) 出土しているが、61 は大形で先端部に削痕があり、胴部に RL 縄文を施文している。逆にやや小形の 60 は LR 縄文を施文している。いずれも厚手の斧状土製品である。73 は特殊な土製品で、その形態から貝形土製品としている。

特殊土器 (第 112、113 図)

19 点出土している。4、9、14 は脚付き土器、19、21、26、27、56 はいずれも完形品に近く、19、56 は壺形、21～27 は円筒形を呈している。26、27 は頸部にくびれを持っている。37、39、42、45～49、51、53、54 はいずれも底部の破片である。

石製品 (第 114 図)

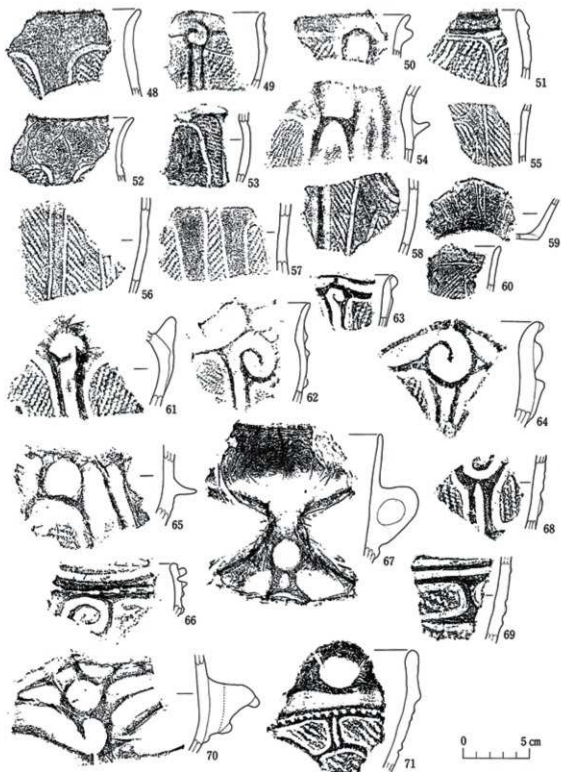
有孔の石製品が 5 点 (8、9、10、12、16) 出土している。8、9 は楕円形、10 は円形の石の両側から穿孔しており、あるいは玉類としたほうが良いのかもしれない。12 は扁平な石に途中まで穿孔しているが貫通していない。16 は全面を磨っており、両端に縦と横から穿孔している。



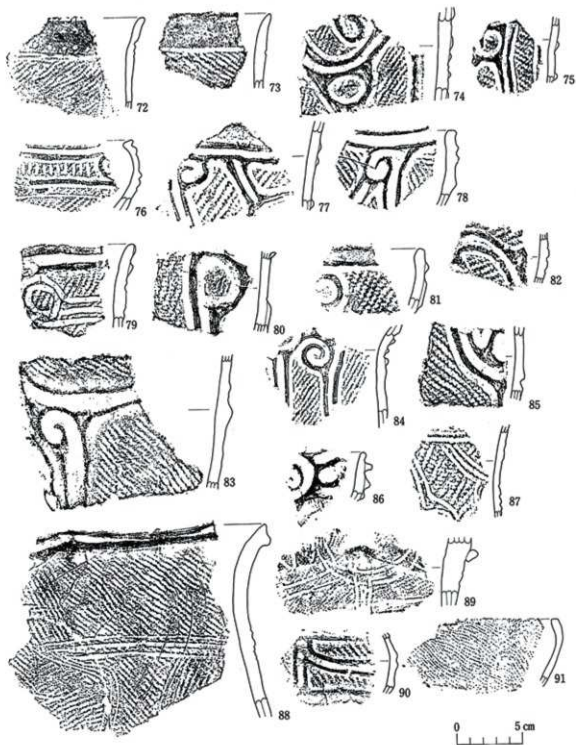
第27回 配石遺構群出土土器(1)



第28圖 配石遺構群出土土器(2)



第29圖 配石遺構群出土土器(3)



第30圖 配石遺構群出土土器(4)

(2) 掘立柱建物跡と土壌

掘立柱建物跡と土壌のほとんどは平成4年度の配石遺構群中央に設定したFE44トレンチ内で調査している。検出した土壌の中には、小判形を呈する浅い土壌と底面が極端に広いフラスコ形土壌とがある。前者はその形態や配石遺構の下とその周辺に分布が限られる事から墓墳と考えられるし、後者は貯蔵穴であろう。墓墳の外側には、掘立柱建物跡に伴う柱穴が密集している。いずれも径30～80cm、深さ40～120cmの柱穴で、掘り方の中で柱痕を確認できる。

掘立柱建物跡と墓墳は明らかに分布を異にしており、墓墳は各配石遺構の周辺、掘立柱建物跡はその外側に集中している。フラスコ形土壌は今回の調査では墓墳や掘立柱建物跡のように限られた空間に集中する事はなく、しかも墓墳、掘立柱建物跡の柱穴の両方も重複しているが、いずれも古い事を確認している。従って掘立柱建物跡土壌とフラスコ形土壌は時期を異にしている可能性が高い。

掘立柱建物跡 (第31、32図)

掘立柱建物跡は平成2年度に南側の盛土上でGA50掘立柱建物跡を検出しており、長方形柱穴列として報告している。その外4年度にはFEトレンチ内で3棟確認している。ただFEトレンチの墓墳外側で同じような柱穴を多く検出しており、まだ確認していない建物跡がかなりあるものと思われる。ただGA50掘立柱建物跡の周辺では、その外の柱穴はほとんど検出していない。柱穴状のピットは、配石遺構群の西端、EF34竪穴住居跡の周辺でも2～3基確認している。大半が調査区外に分布しているため詳細は不明であるが、配石遺構の西側にも掘立柱建物跡が分布しているものと予想される。

GA50 掘立柱建物跡

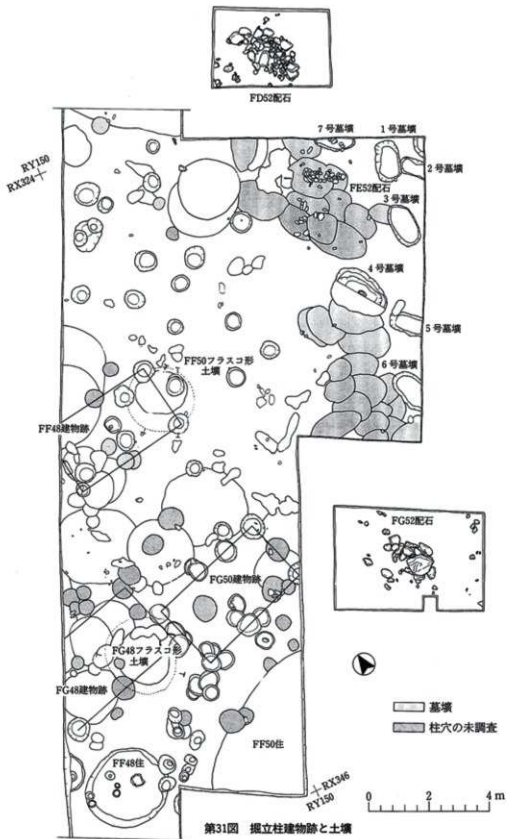
中央部南側の盛土上で確認している。南北4.90m、東西2.90mの南北に2間、東西に1間の建物跡である。周辺の盛土は暗褐色土層であり、その中で褐色土の掘り方を持つ柱穴を確認できた。柱底部分は暗褐色土で、掘り方径は60～70cm、柱底径は20～30cm、検出面からの深さは70～80cmである。確認調査のため柱穴は1個しか掘り下げておらず、詳細については不明である。

FG50 掘立柱建物跡

FA50配石の西側に位置している。南東端のP34は半分が調査区外に分布しているがそれを含めた6個の柱穴を検出している。東西に4.05mの2間、南北2.05mの1間の建物跡である。

柱穴は6個とも掘り下げている。いずれも規模が大きく深い。各柱穴はいずれも円形でP15、P18が径80cm、そのほかは径60～70cmの掘り方で柱痕は30～40cmである。

検出面からの深さはいずれも120～130cmであるが、P21はさらに深く、140cmを測る。P34の土層断面図で明らかのように、配石遺構の面から20～30cm程掘り下げてから柱穴を確



認しており、柱穴の実際の深さは140~160 cmに達するであろう。

以上の柱穴で囲まれた内側やその周辺には炉跡や貼床等の痕跡もなかった。各柱穴の堆積土は、柱痕部分がやや粒子の粗い暗褐色土、それ以外は褐色土と暗褐色土の混土である。特に柱痕部分は軟質で炭化物を含んでいる。

FG 48 掘立柱建物跡

FG 50 掘立柱建物跡の西隣りに位置している。確認した5個の柱穴のうちP 23、P 32を調査している。P 40は検出面から10 cm程下げて柱痕を確認しそれ以下は掘り下げていない。

各柱間はP 23~P 32間が4.30 mの2間、その間のP 23~P 40が1.85 m、P 40~P 32は2.45 mとなり、やや東側のP 32~P 40のほうが長くなっている。

検出したP 41、P 42は、いずれもフラスコ形土壇と重複しているが、柱穴とフラスコ形土壇との堆積土の識別が困難であったため、柱穴は確認した状態で止め掘り下げなかった。各柱間は、P 41~P 32は2.80 m、P 42~P 40は1.70 mとなっている。

以上の柱穴配置から東西2間、南北1間の建物跡と考えられる。柱穴のうちP 23、P 32の掘り方径が約80 cm、柱痕が35~40 cm、検出面からの深さが120~130 cmである。周辺も20 cm程掘り下げてから検出しており、実際の深さは140~150 cmとなるであろう。

FF 48 掘立柱建物跡

FE 44 トレンチのほぼ中央で検出している。FF 50 フラスコ形土壇と重複しており、第31図のようにフラスコ形土壇を切り込んで構築している。フラスコ土壇中にはその外にも3つの柱穴があり、いずれも柱穴のほうが新しい事を確認している。対応する柱穴は5個で、北西端の1つは調査していない。5つの柱穴のうちP 24、P 28、P 31を調査した。ただP 31は検出面から30 cmほど掘り下げたところ、柱穴の全面に扁平な石が入っていたためそれ以下は掘り下げなかった。

柱配置から建物は東西2間、南北1間と考えられ、各柱間はP 31~P 28は3.80 m、P 24~P 28は2.05 m、P 31~P 43は1.60 m、P 43~P 28は2.20 mであり、やや東側の柱間が広がっている。各柱穴は、P 24、P 28は掘り方径が70 cm、柱痕が30~40 cm、深さが120 cmである。P 31は底面まで掘り下げなかったが周辺は他の遺構群が重複しており、柱穴の堆積土の識別も困難であった。調査範囲内では掘り方径が40~50 cmとなっているが、あるいはもっと大きい可能性もある。

墓墳 (第31、33図)

墓墳は第31図のようにFD 52 配石とFG 52 配石の間に集中し、しかもFE 52 配石の下でも検出している。各墓墳は数ヶ所に集中しており、FE 52 配石周辺で16基、その南側に20基あり大半が重複している。各墓墳とも検出しただけであり、正確な数やその新旧も確実なものでは

ないが、墓墳群のおおよその傾向は把握できそうである。以上の墓墳群のうち7基を掘り下げて調査した。各墓墳はいずれも配石遺構下にあるV、VI層の汚れた部分を更に掘り下げてから確認しており、実際の深さよりは20 cm 程浅くなっている。

フラスコ形土墳は、配石遺構周辺やその外側の掘立柱建物跡の周辺でも検出している。今回底面まで掘り下げたものが2基、墓墳と重複しているため中途まで掘り下げたものが2基の4基しか確認していないが、第31図のようにまだ外にもいくつかありそうである。

1号墓墳

1.34×0.80 mの小判形を呈している。検出面からの深さは20 cmしかないが、配石遺構の底面からは40~50 cmの深さとなる。長軸方向はN-10°-Eであり、南北方向に近い。底面はほぼ平坦で、同じように掘り込まれているが、北側壁の傾斜がやや緩やかになっている。

堆積土は暗褐色で一致しており、明褐色土と褐色土がブロック状に混入している。

2号墓墳

1号土墳の東隣に位置している。東側は調査区外にまで伸びるため全体の規模は不明である。調査した範囲で北西から南東方向に80 cm、北東から南西方向に44 cmで、長軸方向はN-45°-Eである。検出面からの深さは8~10 cmと非常に浅いが、実際の深さは30~40 cmとなるであろう。堆積土はにおい褐色土で、明褐色土がブロック状に混入している。

3号墓墳

1.34×0.80 m、検出面からの深さは24 cmであり、実際の深さは40~50 cmと考えられる。長軸の方向はN-12°-Wであり、やや南北方向に近い。堆積土は黒褐色土で、比較的硬く締まっている。西側が外の墓墳と重複しており、それより新しい事を確認しているが、西側の墓墳のほうが深く掘られている。

4号墓墳

東西に1.90 m、南北は推定で1.30 m、深さは検出面から54 cmであり、今回調査した墓墳の中でもっとも深く、75~80 cmとなるであろう。長軸方向はN-36°-Wとなっており、やや東西方向に長くなっている。

堆積土は上から暗褐色土、褐色土のように堆積している。土墳の中は更に1.60×0.80 mの範囲が深くっており、全体が2段になっている。底面の中央では28×12 cmの小ピットを検出している。

5号墓墳

4号土墳の東隣に位置し、FF 52 フラスコ形土墳と重複しているがその上に構築されている。東側は未調査区に続いており全体の規模は不明であるが、調査した範囲で東西に1.60 m、南北に0.60 mの北西から南東方向に長いやや方形で、長軸方向はN-45°-Wとなっている。検出

面からの深さは20 cmであるが、配石遺構の底面からは40 cmの深さとなるであろう。堆積土は1層が褐色土、2層が暗褐色土と褐色土との混土であり、いずれも比較的硬くしまっている。

6号墓墳

FF 52 調査区の南側に位置している。東側は未調査のため全体の規模は不明である。調査範囲で北西から南東に1.12 m、北東から南西に0.90 mの小判形の墓墳と考えられる。検出面からの深さは20 cmであるが実際は40 cm程の深さとなるであろう。長軸の方向は、N-30'-Eである。堆積土は、1層がやや汚れた褐色土、2層がにおい黄褐色土と褐色土との混土でいずれも比較的硬くしまっている。

7号墓墳

FE 52 調査区の北端に位置している。北側の半分以上が未調査であり、全体の規模および形態についても不明である。調査範囲で北西から南東に1.10 m、北東から南西に0.40 mで、検出面からは25 cm、配石遺構の底面からの深さは45 cmとなるであろう。長軸方向はN-60'-Wとなっている。堆積土は暗褐色土で比較的硬くしまっている。

FG 48 フラスコ形土壇

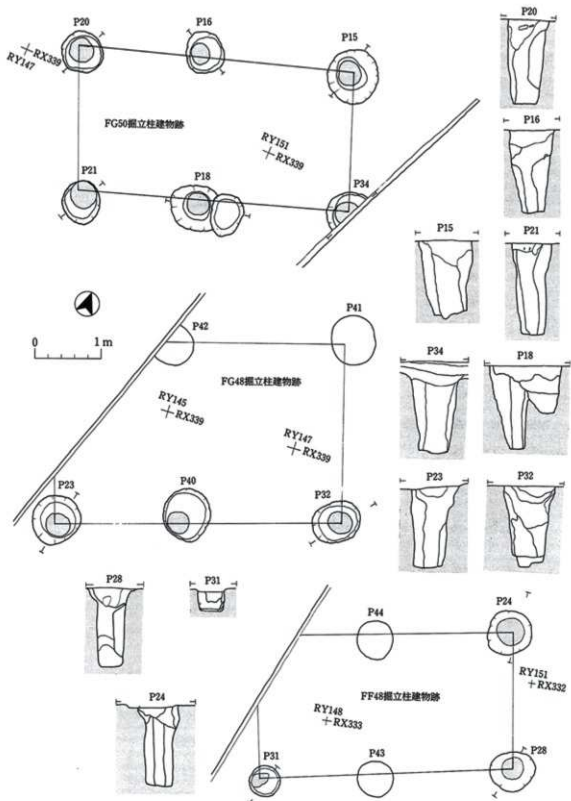
FE 44 トレンチの南側で検出している。FG 48 掘立柱建物跡のP 40と重複しているがP 40は掘り下げていないため切り合い関係は確認できなかった。ただし外の柱穴と重複しており、しかもいずれも柱穴により切られていることから掘立柱建物跡より古い遺構と考えられる。

開口部で1.30 m、底面で2.30 m、深さ1.50 mとなり、底面でかなり広がっている。

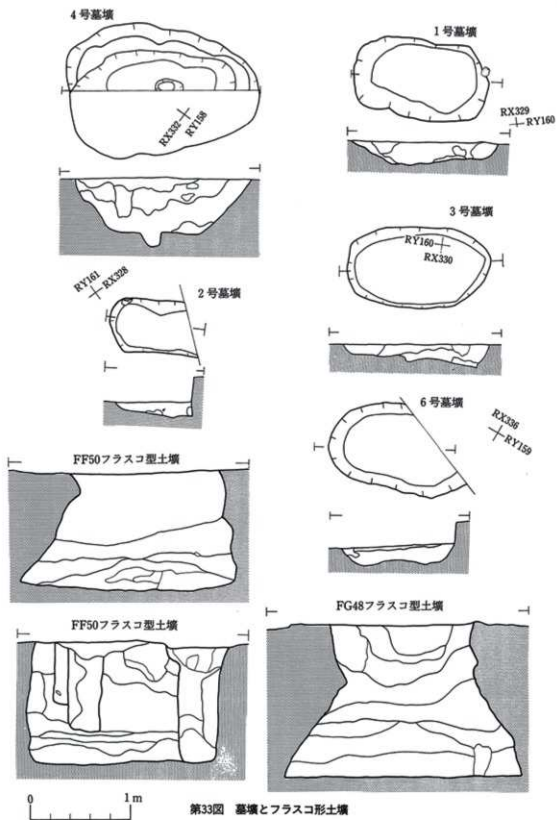
堆積土は1層・黒褐色土、2層・黒褐色土、3層・黒褐色土と暗褐色土との混土、4層・黒褐色土と褐色土との混土、5層・褐色土・黄褐色土・黒褐色土・淡黄褐色土との混土、6層・黒色土・黒褐色土・褐色土との混土、7層・黒褐色土と黒色土との混土、8層・黒色土で壁際に黄褐色土・褐色土・淡黄褐色土がブロック状に含まれている。以上のうち3、4、5層で1点づつ、8層で4点、その他褐色のブロックから1点試料を採集し花粉分析を実施した。

FF 50 フラスコ形土壇

FE 44 トレンチのほぼ中央で検出している。FF 48 掘立柱建物跡と重複しており、P 2の切り合いから土壇が古い事を確認している。開口部で1.50 m、底面で2.20 mとなり、堆積土は1層・暗褐色土と黒褐色土・黄褐色土・淡黄褐色土との混土、2層・黒褐色土・黄褐色土・淡黄褐色土・明黄褐色土の混土、3層・暗褐色土と黄褐色土との混土、4層・黒褐色土と黄褐色土との混土、5層・淡黄褐色土・明黄褐色土の混土のように堆積している。



第32圖 獨立柱建物跡



第33図 基壇とフラスコ形土壇

PL28 掘立柱建物跡と土壌（空中写真）



PL29 掘立柱建物跡と土壌（北側より）



PL30 掘立柱建物跡の柱穴群



No.20柱穴



No.16柱穴



No.18柱穴



No.15柱穴



No.28柱穴



No.23柱穴



No.32柱穴



No.24柱穴

PL31 墓壇とフラスコ形土壇



墓壇検出状態



墓壇検出状態



墓壇検出状態



No 1 墓壇



No 3 墓壇



No 6 墓壇



FF50フラスコ形土壇セクション



FG48フラスコ形土壇セクション

(3) 竪穴住居跡

中央部の縄文時代の遺構は、RY 230 周辺で極端に少なくなり、それより西側に分布が限られている。北側斜面の E 50 区にもほとんど遺構はなく、配石遺構の西側で密度が濃くなっている。以上の東西約 180 m、南北約 100 m の範囲を中央部とする。

そのうち竪穴住居跡は、主に配石遺構群と盛土の外側に多く、北側を除いた東から南、そして西側に分布しておりほぼ馬蹄形の配置となっている。

検出面で確認した竪穴住居跡は 70 棟程度であるが、この中央部周辺の遺構確認面はⅢ層の中層浮石相当層、つまりクロボク土層であり遺構の識別が非常に難しい。また土器の出土状態や未調査区の面積推定から考えても 100 棟を越す事は確実である。

特に配石遺構群の東側は、後述するように竪穴住居跡が密集しており、GA 70 トレンチの東西検出面では、約 60 m にわたって遺構が連続し自然面が全くないような状況であった。しかも長軸径が 10 m を越す大型住居跡が多い。

以上の馬蹄形の竪穴住居跡の分布以外でも、例えば盛土の下や配石遺構群の周辺でも竪穴住居跡を検出している。特に平成 4 年度の調査では、配石遺構群の中央北側でかなりの大型住居跡を検出しており、当初予想した以上に竪穴住居跡数が増えることは確実である。

各住居跡は直径が 10 m を越す大型のものから、5~6 m、その他 2~3 m の小規模なものまであり、形態も円形、楕円形、更に隅丸方形とバラエティーに富んでいる。

配石遺構群南側の盛土については、当初竪穴住居跡などの遺構が重複している可能性が強いものと考えていたが、平成 4 年度の内容確認調査により、配石遺構群周辺の造成に伴う盛土であることが判明している。ただし盛土の下にはそれより古い竪穴住居跡が分布している可能性が強い。

以上の竪穴住居跡群のうち、比較的重複が少なく、しかも大型、中型、小型の各住居跡を選択し次の 5 棟を調査した。

GH 68-01 住居跡は、南東端に位置する大型住居で長径が 12 m、短径が 7~8 m で、検出面からの深さが 1.00 m もあり、平成 2 年から 3 年の 2 ケ年に渡って調査した。EF 34 住居跡は配石遺構群の西側に位置する長径 5~6 m の住居跡である。GA 82 住居跡は、中央部北東側に位置する長径 2~3 m の小型の住居跡である。GB 44 住居跡も同じく小型の住居跡であるが、盛土の下で検出しており、盛土の形成時期を知る上で格好の資料となった。

FH 48 住居跡は配石遺構群の南側に位置している。竪穴内からは遺物はほとんど出土しておらず、周辺には掘立柱建物跡に伴う柱穴も多くあり、配石遺構と関係ある掘立柱建物跡との新旧を確認する事ができた。

GH 68-01 竪穴住居跡 (第 34 図)

中央部の南東に位置し、南側は 10 m 程で崖となっている。III層上面で遺構の有無は確認できるが、プランはIV a 層まで下げないと確定しない。東西 12 m、南北 7 m と東壁が西壁より 1 m 程短い台形を呈する大型の住居跡である。壁高は北壁 92 cm、南壁 100 cm、東壁 96 cm、西壁 100 cm とかなり深く掘り込まれている。

堆積土は次のようになる。

- 1層：黒色土、粘質なく軟らかい。パミス少量含む他微量の焼土粒を含む。
 - 2層：暗褐色土、軟質。パミスやや多く含む。炭化物少量と微量の焼土粒を含む。
 - 3層：黒褐色土、場所により硬軟ある。パミス多く含む。炭化物少量、微量の焼土粒を含む。
 - 4層：黒色土、軟質。パミス少量含む。やや多くの炭化物と少量の焼土粒を含む。
 - 5層：暗褐色土、粘質でやや固い。パミス多く含む。多量の炭化物と少量の焼土粒を含む。
- 3層上面から遺物が多く出土している他 4 個の礫で U 字形に組まれた径 24 cm 程の石囲炉

を検出している。これらは竪穴廃棄後の凹地の二次的再利用であろう。北側西寄りの床面上から多量の炭化材を検出しており、竪穴は焼矢したと考えられる。材の樹種は第 V 章に掲載している。竪穴内には中央からそれぞれ東西寄りに炉跡がある。東側に地床炉が 4 基、西側には土器埋設石囲炉が 1 基ある。土器は径 10 cm 程で、炉石は北及び西側に部分的に残存している。炉内は径 58×68 cm の範囲で焼けている。

柱は東西方向に 3 本づつ対に 6 本配置され、掘り込まれた柱穴も 1 m 程とかなり深い。

竪穴西側の南北でそれぞれ埋設土器を検出している。北西側の 1 基は径 20 cm で、北壁に平行する円形の小ピット 2 基の南側に位置している。西南側の埋設土器は、南壁に平行して並ぶ円形の小ピット 2 基の北側中央に径 20 cm のものが 1 基、南側中央西寄りに径 12 cm のものが 1 基それぞれ配置されている。埋設土器やピットの内部には、焼土及び炭化物が含まれているが、炉として使用されたかどうかは不明である。

壁溝は西壁北側から中央部で幅 18~30 cm、深さ 10 cm の浅い溝状の掘り込みを検出したほか北壁東側及び南壁西側の一部にも部分的に残っている。

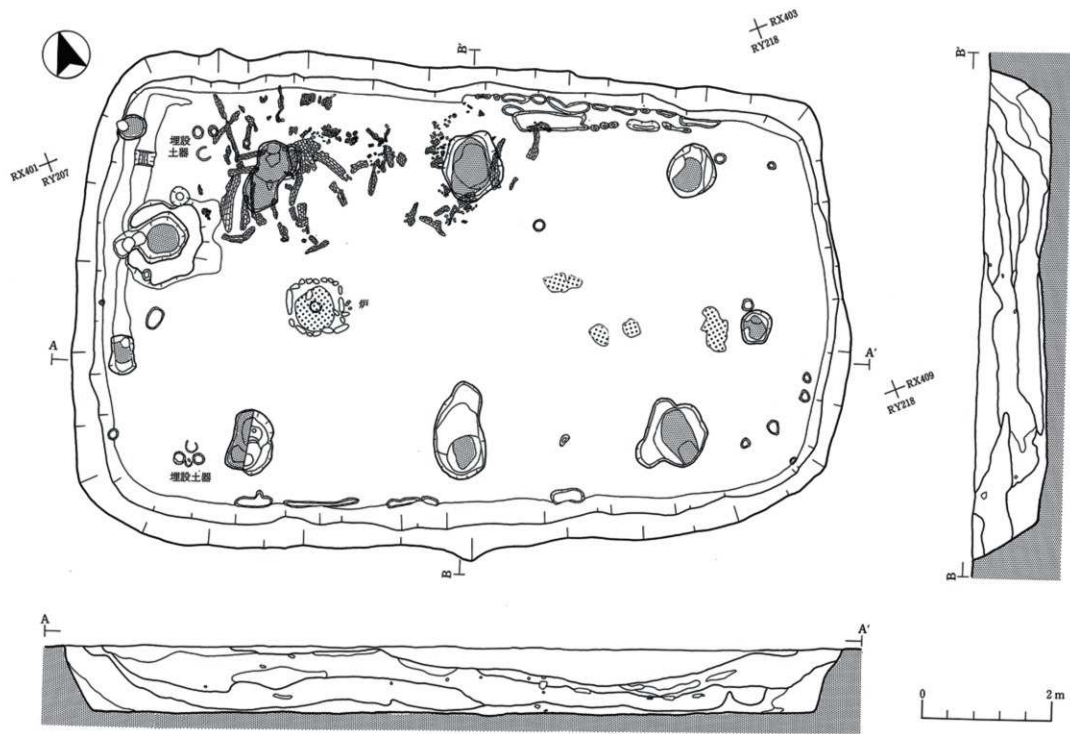
竪穴西壁際の中央やや北寄りに周囲より一段高く土を盛って径 140 cm の円形に床を固く叩き締めている箇所がある。内側は皿状に凹んでおり、その中央から径 50 cm、深さ 80 cm の円形ピットが検出されている。

出土遺物

縄文土器、石器、土製品、特殊土器、石製品が出土している。

縄文土器 (第 35~38 図)

第 II 群土器、第 III 群土器が出土している。



第34図 GH68-01竪穴住居跡

第II A 群土器 (13~18、20~29、31~33、33、40~42、45~54) いずれも深鉢で体部から口縁部まで直線的に立ち上がるものと口縁部がやや外反するものがある。口縁部には4つの突起があり、突起を中心に体部に胸骨文が施文されている。体部文様は沈線により施文されるものが多いが、陸線(42、46、50)、懸垂文だけ陸線(23、24、27、41)のものも含まれている。48、53は同じ形態の土器であるが体部には縄文だけが施文されている。6は4個の突起をもつ円筒形の深鉢で文様の一部に渦巻文が付されている。

第II B 群土器 (5、7、8、9) キャリバー形の深鉢、口縁部が外反する深鉢と浅鉢とがあり陸線による渦巻文、連続山形文、平行沈線文などが施文されている。

第III A 群土器 (1、2、3) 口縁部に溝状文、体部に沈線の弧状文が施文される。体部が膨らみ口縁部が外反する深鉢である。

第III B 群土器 (3、4) いずれも隆沈線による渦巻文、棘文施文の土器群である。

縄文原体はLR縄文、RL縄文が多いが、6のようにRLRの複節縄文も含まれている。各土器は第III群土器が堆積土2層より上の層に限られるのに対し、第II群土器は3層以下の堆積土や床上から出土している。

石器 (第39~41図)

石鏃(1~25)、石鏃未製品(26~29)、石匙(30)、磨石・凹石類(31~46、49、50)、石皿(47、52)、砥石(48)、磨製石斧(51)が出土している。図示しないものも含めると総点数は57点となる。堆積土1~2層から多く出土しているが一部3層以下からも出土している。

石鏃はA III類が圧倒的に多い。

土製品 (第103~111図)

環状土製品(37)、棒状土製品(49)、不明土製品(71、77)が出土している。37は半分以上を欠損しており、全体の形態等は不明である。49は片面に沈線を施文している。71は粘土板に77は船底形土器にそれぞれ把手が付いている。

特殊土器 (第112~113図)

16、35のミニチュア土器が2点出土している。

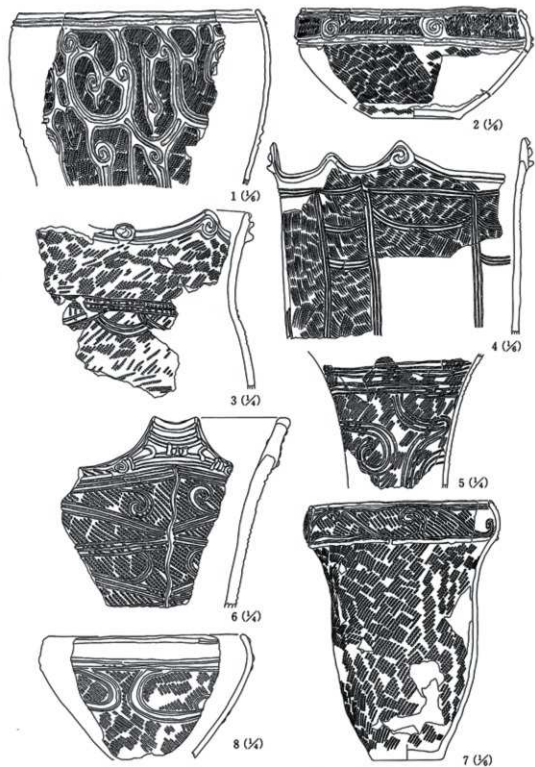
石製品 (第114、115図)

有孔石製品(1)、線刻礫(19)が1点づつ出土している。

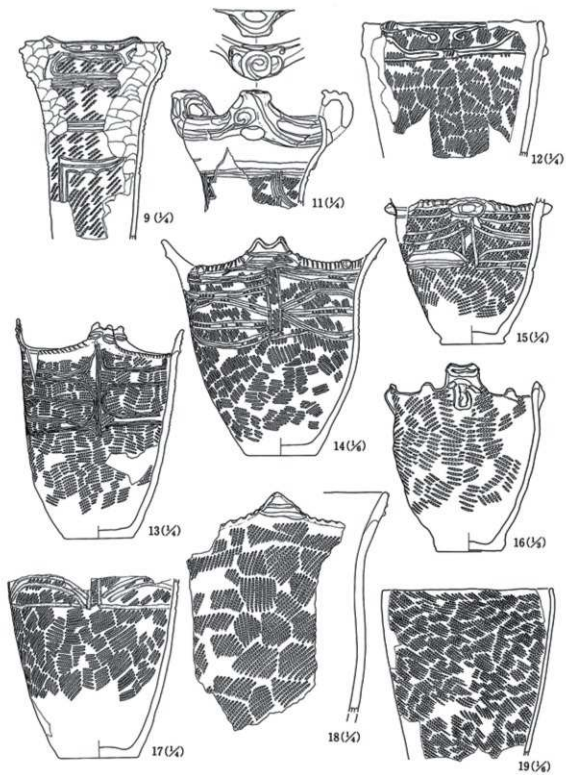
炭化植物種子

炭化植物種子はクルミ、クリが2層及び4層から出土している。

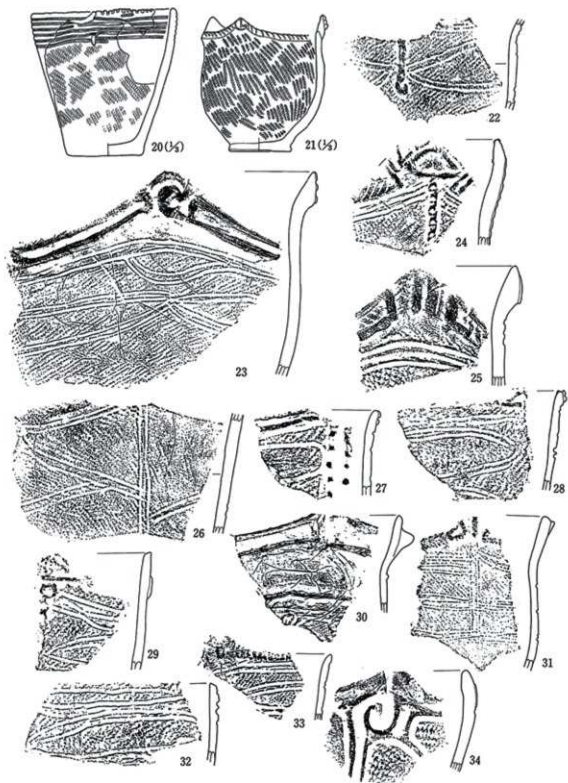
なお竪穴住居跡の床面から炭化材が出土しているが、樹種についてはV章の分析鑑定に掲載している。



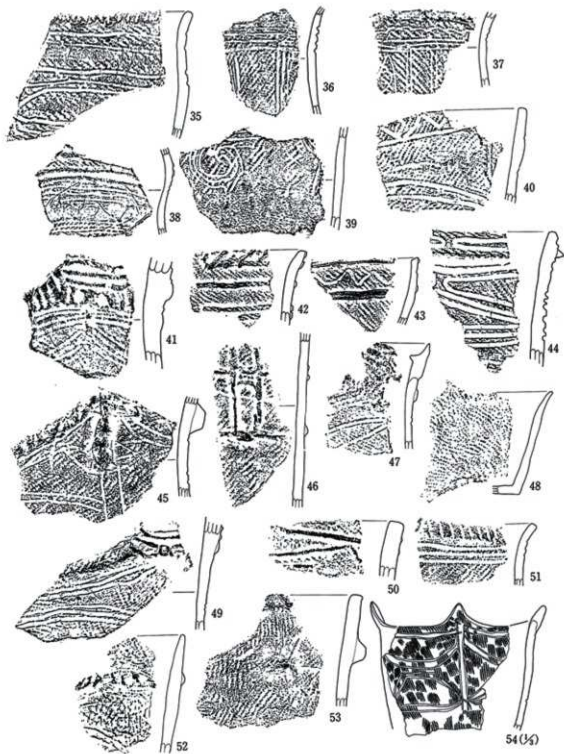
第35图 GH68-01整穴住居跡出土土器(1)



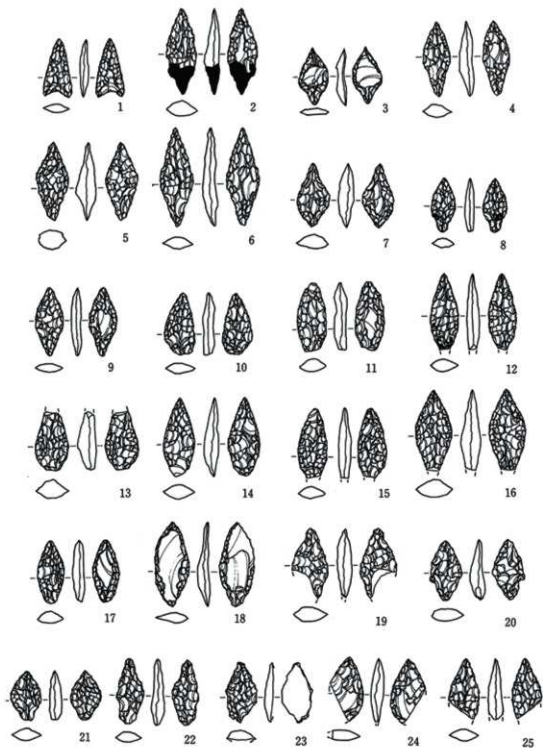
第36图 GH68-01 竖穴住居跡出土土器(2)



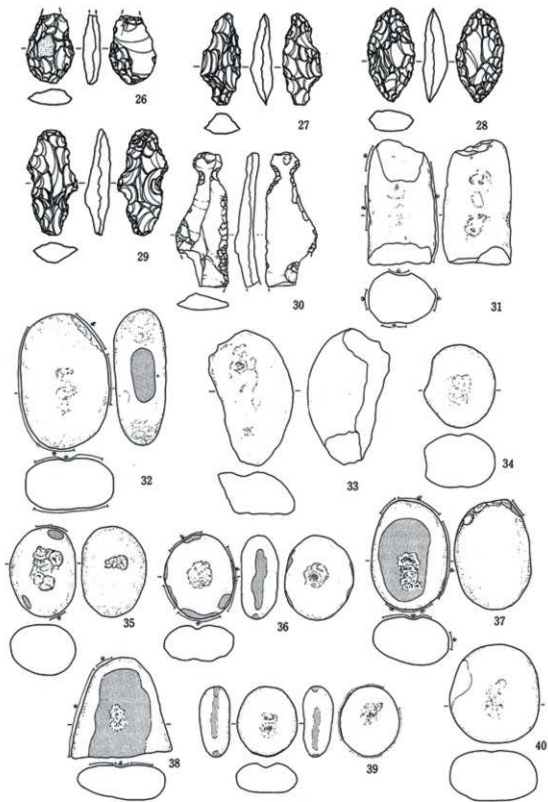
第37图 GH68-01 墅穴住居跡出土土器(3)



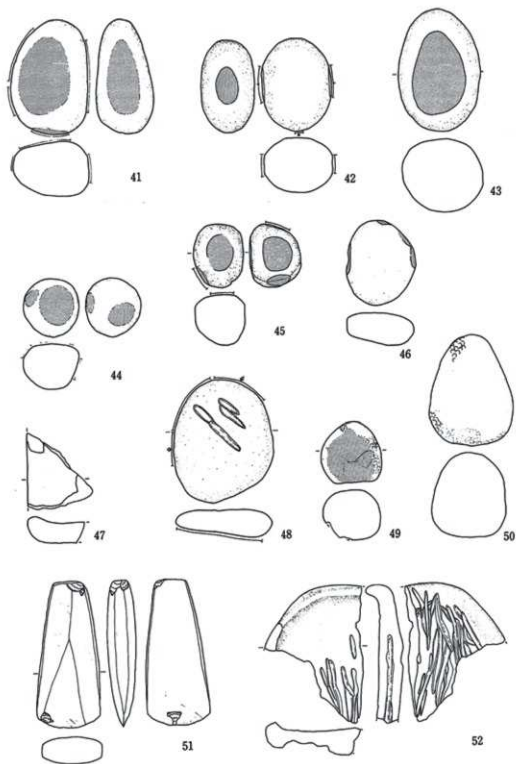
第38图 GH68-01 整穴住居跡出土土器(4)



第39图 GH68-01 整穴住居跡出土石器(1)



第40图 GH68-01 竖穴住居跡出土石器(2)



第41图 GH68-01整穴住居跡出土石器(3)

PL32 GH68-01竪穴住居跡



全景（西側より）



炭化材出土状態



石函・土器埋設跡



埋設土器（南側）



№1柱穴

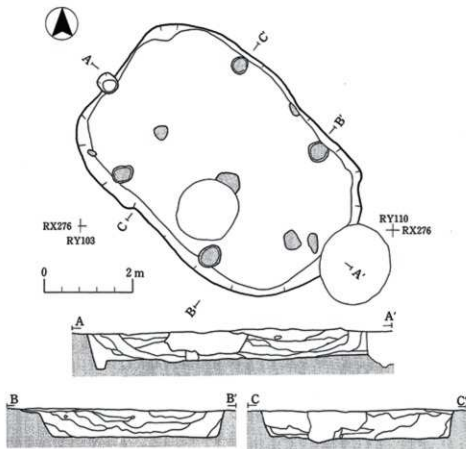
EF 34 竪穴住居跡 (第 42 図)

中央部の西端に位置している。竪穴の北側半分は、道路の下になっていたが、道跡を一部変更し全面を調査している。

東西 6.00 m、南北 4.00 m の東西方向に長い隅丸方形を呈し、検出面からの深さは、北壁が 60 cm、西壁が 50 cm、南壁が 60 cm、東壁が 50 cm となり、深く掘り込まれている。平安時代の土壌や縄文時代の土壌が重複しており、いずれも竪穴を切って土壌を構築している。ただし縄文時代の土壌は、いずれも堆積土中に作られており、図では表示していない。

堆積土は次の様になる。

- 1層：褐色土、自然層序V層の褐色ロームに相当する。炭化物を微量含む。
- 2層：暗褐色土、黄褐色パミスを多く含む。炭化物を微量含む。
- 3層：黒色土、黄褐色パミスを含む。暗褐色土混入含む。
- 4層：黒褐色土、少量の炭化物及び焼土粒子を含む。



第42図 EF34竪穴住居跡

5層：褐色土と暗褐色土との混土、炭化物、焼土粒含む。

6層：暗褐色土、褐色バミス含む。

特に堆積土1層と5層は確実に人為的に埋め戻された土である。

柱穴状のピットは、北壁の壁際に2個、南壁の壁際に2個、いずれも対に配置されている。その他堅穴中央に西から東に3個検出しているが、西壁のピットは前途の柱穴より浅く、その他のピットも貼床の下で検出している。以上から支柱穴は前述の4個と考えられる。

堅穴内で炉は検出していない。あるいは平安時代の土壌により破壊されたのであろうか。

出土遺物

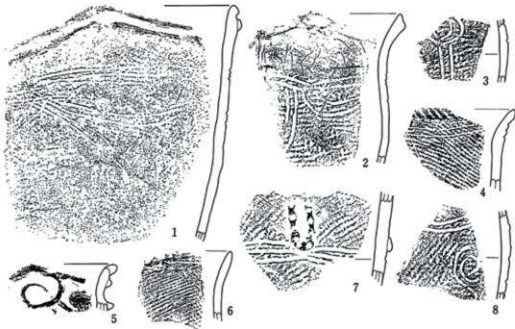
縄文土器（第43、67図）

第II群土器（4、7） 4は体部に沈線による胸骨文、口唇部に体部と同じ原体を押し付け、刻目を入れている。7は懸垂文に隆線を貼り付け、その上をへら状工具により刻み目を入れている。以上の第II群土器は堆積土の下、あるいは床上から出土している。

第III群土器（1、2、3、5、6、8） 1は口縁部に溝状文、体部に弧状文、2、3、8は平行沈線文による渦巻文、弧状文を施文している。5は隆状線による渦巻文を施文している。第67図3は口縁部に溝状文、体部に平行沈線文を施文している。以上の土器のはいずれも堆積土の上層から出土している。

石器

石器は小型の打製石斧が1点出土している。



第43図 EF34堅穴住居跡出土土器

PL33 EF34竪穴住居跡



GB 44 竪穴住居跡 (第 44 図)

中央部南側の盛土下で検出している。北東から南西方向に 3.04 m、北西から南東方向に 1.90 m で、西南壁が隅丸方形、北東壁がやや円形に近いやや不整形の竪穴住居跡である。竪穴内の西側の床面で、幅 10～15 cm の周溝を確認しており、竪穴は建て直された可能性が強い。

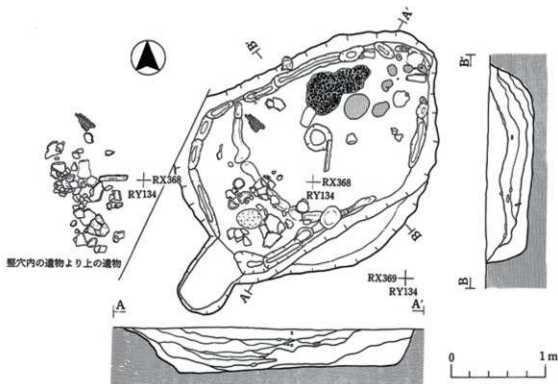
この周溝と北東壁のプランはいずれも円形でそれぞれ対応する可能性が強い。掘り下げた段階のプランが不整形になっているのは、あるいは建て替えにより、2つの竪穴が重複していたからとも考えられる。周溝は南側を除き全周しており、内側の竪穴の長径は 2.30 m となっている。小規模の竪穴にしては壁高が深く、検出面からの深さは 44 cm となっている。

竪穴内の堆積土は次のようになっている。

- 1層：黒褐色土、粗粒で軟質、炭化物を多く含む。
- 2層：黒褐色土と濃い褐色土との混土、遺物が多量に出土している。土器、石器の他炭化物や骨片も多量に含まれている。
- 3層：黒褐色土、ブロック状に褐色土を含んでいる。
- 4層：黒褐色土、粗粒で軟質。

竪穴内のほぼ中央に径 30 cm の円形の小ピットがあり、その底部が加熱を受け変色しており炉跡と考えられる。床面はほぼ平坦で、全面が硬く締まっている。

竪穴の南側コーナーには、0.80 m×0.50 m の張り出し部がある。堆積土はいずれも軟らかく、上から暗褐色土、黒褐色土、黄褐色土が混入した黒褐色土が堆積しており、竪穴に伴うものと考えられる。



第44図 GB44竪穴住居跡

出土遺物

縄文土器 (第45図)

縄文土器はいずれも第II群土器が出土している。

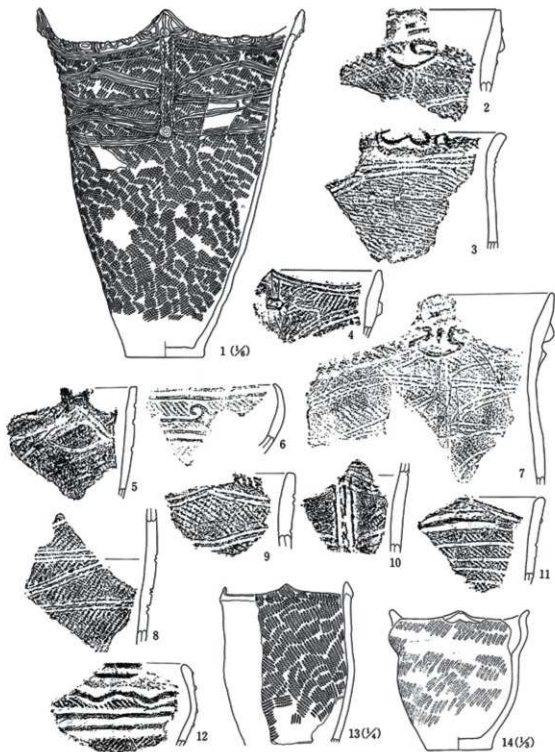
II A 群土器 (1~5、7~10、13) いずれも4個の突起をもち、突起を中心に同じ文様が反復されている。口縁部と突起下の懸垂文だけ隆線を貼り付けその間に沈線を施文するもの(110)、体部に沈線だけ施文するものは、口縁部に縄文圧痕の刻目を付すもの(2、3、4、7)とヘラ状工具の刻目を付すもの(5)とがある。縄文原体はRL縄文、LR縄文であるが、8はRLRの複節縄文である。3は口縁部に縄文圧痕の刻目を付し、その上にS字状の貼り付け文を施文している。体部にRL縄文施文後櫛目状の沈線、その上に平行沈線により弧状文を施文している。11は山形状の口縁部に隆線を貼り付け、その下に横位の沈線文を施文している。縄文原体はRL縄文であるが、II群土器ではあまり類例のない土器である。

II B 群土器 (6、12、14) いずれもキャリパー形の深鉢で、6、7は膨らんだ口縁部に山形文、渦巻文を施文している。14は地文だけの粗製土器であるが、口縁部に4つの小突起を付しているのは円筒土器の影響であろうか。6、12はRL縄文、14はLR縄文である。

以上の土器のうち6と12はにおい褐色、その他は暗褐色である。

動物遺体 (V章、動物遺体参照)

竪穴の2層から獣骨片が多量に出土している。



第45圖 GB44墜穴住居跡出土土器

PL34 GB44竪穴住居跡



全景（北側より）



土層セクション（東西）



土層セクション（南北）



遺物出土状態



遺物出土状態

GA 82 竪穴住居跡 (第 46 図)

中央部の東北端に位置している。周辺は緩斜面になっており、基本層序 I～IV 層まで連続している事から、竪穴は黒色土層中に構築されている。遺構は遺物の出土状態などから III 層でも確認できるが、確実なプランは IV a 層の上面まで下げないと判然としなかった。

東西に 2.50 m、南北に 2.40 m のほぼ円形の竪穴で、南西壁のほぼ中央に 40 cm×40 cm の張り出し部がついている。IV a 層上面からの深さは 10～20 cm であるが、III 層の厚さが 20 cm 程ある事から実際の壁高は 30～40 cm となるであろう。

竪穴内の堆積土は次のようになる。

- 1 層：黒色土、粘質が強く、軟らかい。黄色バミスをよく含む。
- 2 層：黒褐色土、暗褐色土をブロック状に含んでいる。非常に硬く締まっている。
- 3 層：黒色土、黄色バミスをよく含む。III・IV 層起源の堆積土である。
- 4 層：黒色土、3 層とほぼ同じ性状であるが、3 層より幾分黒くなっている。

以上の堆積土のうち竪穴の南側 2 層上で径 30 cm の焼土を確認している。周辺には炭化物が多く散布し、しかも硬く締まっていることから別な遺構があるのか、あるいは竪穴内の凹地を再利用した可能性がある。

竪穴内の中央南西寄りですと土器片を使った炉跡を検出している。径 40 cm の円形に近い炉で、中で薄い焼土層を確認している。川原石を西側に 1 個埋設し、その他は土器片で囲っている。竪穴内で小ピットをいくつか検出しているが、いずれも浅く、柱穴になりそうなものはない。なお床面は叩き締めて貼床としているため黒色土層中でも容易に確認できた。特に炉から張り出し部にかけての図示した部分が特に硬い床となっている。

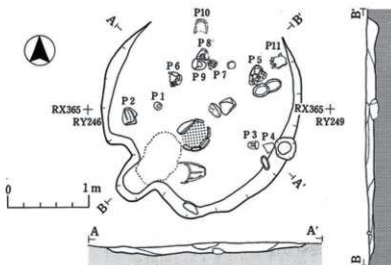
出土遺物

縄文土器 (第 47 図)

1、2、9 は文様を施文しているが他は地文だけの土器である。1、2、9 はいずれも縦方向の楕円区画文で、1、2 は沈線、9 は隆沈線を施文している。1 は LR 縄文、2 は RL 縄文、9 は RLR の複節縄文である。1、9 はにおい褐色、2 は暗褐色を呈している。

地文だけ施文の土器は、器形から体部が直線的に立ち上がり口縁部がやや内湾気味の 3、57 と口縁部がやや外反する 6 とがある。3、5、7 が LR 縄文、6 が RL 縄文である。

7、8 はいずれも体部上半で膨らみをもち口縁部が内湾している。7 は 3 つの突起をもつ波状口縁、8 は平縁となっている。原体はいずれも LR 縄文である。以上の土器群は、いずれも第 IV 群土器で、色調は暗褐色を呈し、内面を丁寧に調整する事で共通しており一括遺物と考えられる。



第46図 GA82竪穴住居跡

PL35 GA82竪穴住居跡



全景



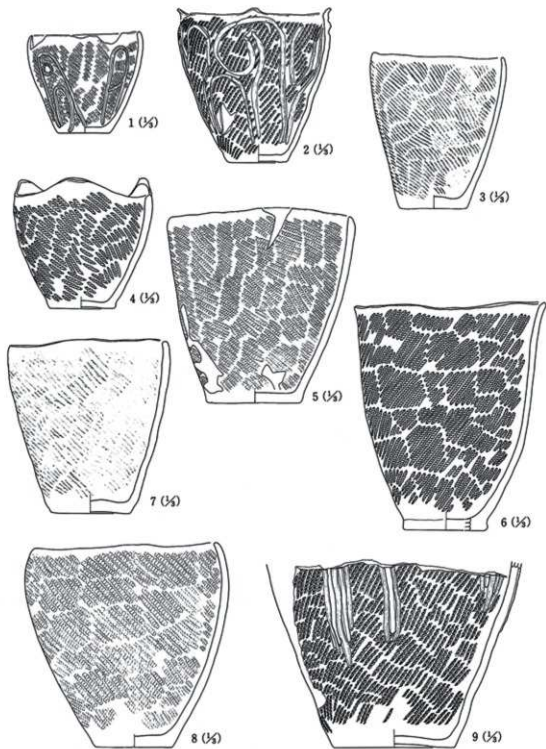
南側より



遺物出土状態 (東側より)



遺物出土状態



第47图 GA82型穴住居跡出土土器

FH 48 竪穴住居跡 (第 48 図)

配石遺構群の中央南端に位置している。竪穴の南側はそのまま盛土に連続しており、竪穴周辺には、磨石類などの石器や川原石が多数散布していた。盛土を 10~20 cm 程掘り下げた V 層上面で検出している。掘立柱建物跡に伴う柱穴と重複しているがいずれも柱穴のほうが新しいことを確認している。

竪穴は南北 2.60 m、東西 2.80 m のほぼ円形で、検出面から 40~50 cm の深さとなっている。堆積土は次のとおりである。

1 層：暗褐色土と褐色土の混土で、非常に硬くしまっている。炭化物を多く含んでいる。

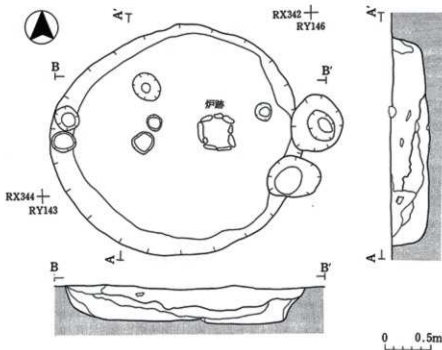
2 層：暗褐色土と褐色土の混土、比較的軟質である。

3 層：暗褐色土、壁際には黄褐色土がブロック状に含まれている。

各壁は南から西側にかけて緩やかに立ちあがり、東から北側にかけてやや急角度となっている。床面は第 VI 層の黄褐色土を含む明褐色土まで掘り込まれているが、全体に軟質で貼床したような痕跡はほとんどない。竪穴の中央から北東に寄った位置で石囲炉を検出しているが、炉のなかにはあまり焼土はない。竪穴内や外側でも、竪穴に伴うと考えられる柱穴は確認できなかった。

出土遺物

縄文土器の破片と炭化物が出土しているが、時代を特定できる資料はなかった。



第48図 FH48竪穴住居跡



全景



土層セクション (南壁)



土層セクション (東壁)



石囲炉



柱穴

(4) 中央部東側の遺構群 (第 49、50 図)

中央部の配石遺構群の東側は栗林であったため、全域を調査する事はできなかった。やむを得ず東西 60 m、南北 40 m にそれぞれ幅 4 m のトレンチ (GA 70 トレンチ) を設定し調査した。

当初は配石遺構群の東側の範囲を確認する事が目的であったが、予想以上に遺物が多量に出土し、しかも竪穴住居跡が重複している事が判明した。特に東西トレンチでは、長さ 60 m にわたって遺構が連続し、自然面が全く残っていないような状態であった。栗林内では、西から FI 62-01 住、FI 64-01 住、GB 68-01 住、GA 68-05 住、GA 70-01 住、GB 72-01 住の 6 棟のほか更に 2~3 棟の竪穴住居跡がありいずれも重複している。トレンチを更に東側に延長したところ、更に 4~5 棟の竪穴住居跡が重複していた。

以上の竪穴住居跡のうち GA 70-01 住、GB 66-01 住、FI 64-01 住の 3 棟はトレンチ内でそれぞれ長さ 13.10 m、深さ 102 cm、長さ 16.00 m、深さ 80 cm、長さ 12.60 m、深さ 98 cm となっており、いずれも大型の住居跡である。大型住居跡が同一場所で重複している事になる。

いずれも検出面から深く掘り込まれ、しかも遺物が多量に出土したため当初予定した幅での調査が時間的に不可能になったため、幅を 50 cm に狭めてようやく床面まで掘り下げている。

栗林の東端には GB 72-01 住があり、東西に 5.40 m で GA 70-01 住の大型住居跡により切られている。中央やや西よりで石囲炉を検出している。竪穴は周辺の平面プランから推定すると 7~8 m の規模で、検出面からの壁高は 35 cm と比較的浅い。

GA 70-01 住の西側では、その上に GA 70-02 住が構築されており、トレンチ内で東西に 3.90 m、深さは 70 cm となっている。西側は GA 68-01 住により切られているが、GB 68-01 住の方が浅いため、壁はそのまま残っている。その下には GB 68-05 住がある。東西に 5.32 m で、GB 68-01 住の床面から 16 cm の深さとなっている。

東西トレンチでは、調査範囲内で 10 m を越す大型の住居跡が比較的新しく、それより古い住居跡が総じて規模が小さくなるようである。各竪穴住居跡の堆積土中には、にぶい褐色土や褐色土のローム起源の土が堆積しており、しかも遺物が多量に含まれている。

南北トレンチでは 5 棟の住居跡を確認している。南端に位置する GC 66-01 住はトレンチ内だけで 7~8 m あり、更に南側にそのまま伸びている事から長さ 15 m 以上の大型の住居跡となる。

GC 66-01 住の北側には GB 66-01 住があり、その下には中途から GA 68-03 住が重複している。GB 66-01 住は調査区内で 6.30 m、深さは 56 cm となっている。

GB 68-03 住もトレンチ内では 7~8 m しかないが、深さが 1.00 m 近くもある事から、かなり大型の住居跡となる可能性が高い。GA 68-03 住からは、焼土粒や炭化物、土器、礫石器などが多量に出土している。

南北トレンチの北側ではFJ 68-01住を調査しているが、トレンチ内では壁は確認できなかった。トレンチ内での長さが6m、同じく大型住居跡となる可能性が高い。石囲炉を2個検出している。床面は暗褐色土を貼床しているがその下にも遺構がある。

南北トレンチ内で検出した以上の住居跡の堆積土はいずれも人為的に埋め戻された状態となっており、遺物を多量に含んでいる。しかもFJ 68-01住などの堆積土は上層が硬く締まっている。

以上のようにGA 70トレンチ周辺では大型住居跡だけで5~6棟以上が重複しており、竪穴住居跡の分布地域でも特異な場所となっている。トレンチ内の限られた調査のため各住居跡の所属時期は必ずしも明確ではないが、GA 70-01住の堆積土中から第三群土器、GB 68-01住の堆積土中から第四群土器が出土している。

出土遺物

遺物は各竪穴毎の整理が済んでいないため、一括して報告する。縄文土器、石器、土製品、石製品、特殊土器が出土している。

縄文土器 (第51~54図)

第I群~V群土器が出土している。なかでも第三、IV群土器の出土量が多い。

第I群土器 (15) 1点出土している縄文施文の隆線文とヘラ状工具の連続刺突文に特徴がある。色調は明褐色である。

第II群土器 (1, 17) 1は口縁部に燃糸圧痕の刻目をいれ、その上にS字状の隆線文、更に突起の内外にも隆線文を貼り付けている。体部には沈線で弧状文を表現している。17は縄文圧痕の隆線を体部に施文している。

第III B群土器 (2, 4, 16, 18~39) 隆沈線で渦巻文などを施文した土器群である。器形の判明しているのは少ないが、口縁部が内湾するもの (4, 21, 22, 25, 29, 31~33)、直線的に外傾するもの (27)、頸部でくびれ口縁部が外反するもの (34~39) とがある。

2は体部上半が膨らみ、口縁部が内湾する小型の鉢で、彩色してある。縄文原体は11が燃糸文、その他はLR縄文、RL縄文の両例ある。

第IV群土器 (6, 9, 47, 49~70, 75~76) 沈線による楕円区画文と磨消縄文が縦方向に施文される土器群である。40~46, 48は、一部隆線により施文されるが、第三群土器に比較して粘土紐が細く、しかも断面が三角形になっている。地文はRL縄文、RLRの複節縄文である。

縦方向の磨消縄文による楕円区画文には、やや幅の広いものが圧倒的に多いが、6, 9, 64, 66, 75, 76のように幅の狭いものも含まれている。地文は、RLRの複節縄文やLの燃糸文もあるがLR縄文が多い。

第V群土器 (7, 77, 78) 曲線的な磨消縄文が横方向に施文される土器群で、7は口縁部に



第49図 中央部東側の遺構群 (GA70トレンチ)

PL37 中央部東側の遺構群 (GA70トレンチ)



南北トレンチ (北側より)



東西トレンチ (西側より)



GB72-01竪穴住居跡内石囲炉



東西トレンチ (東側より)

4つの山形突起をもち、体部上半に充填縄文のC字文が施文される。77は隆線、78は沈線により区画した充填縄文で、78は先端部に「ヒレ状の突起」、内面にも横方向に隆線を貼り付けている。いずれも地文はLR縄文である。第68図7は、縦方向に把手の付いた朱塗りの壺形土器である。

その他71~74はいずれも小型であるが、体部上半に1~2条の刺突文を施文しており、第III群土器、71、73~74は第IV群土器であろうか。

第VI群土器(79~90) 79~90の第II~V群土器に伴う粗製土器で、79、90はその器形から第III群土器に伴うものと考えられる。

石器(第74~102図)

剥片石器は、石鎌、石槍、石匙、石錐、削器類が出土しているが、石鎌が圧倒的に多い。礫石器では圧倒的に磨石・凹石・敲石が多く、その他石皿、石棒、磨製石斧、石製円盤、砥石、台石が含まれている。第100図224の石皿は、GB72-01住の床面から出土している。4つの脚がつき、内外面を縁取りをした完形品であるが、中に擦痕が残っており、砥石としても使用されている。

石棒はFI62-01住の壇上施設内に立った状態で出土している。竪穴内の壇上施設が祭礼に使われた可能性が強い事を示す好資料である。

土製品(第103~111図)

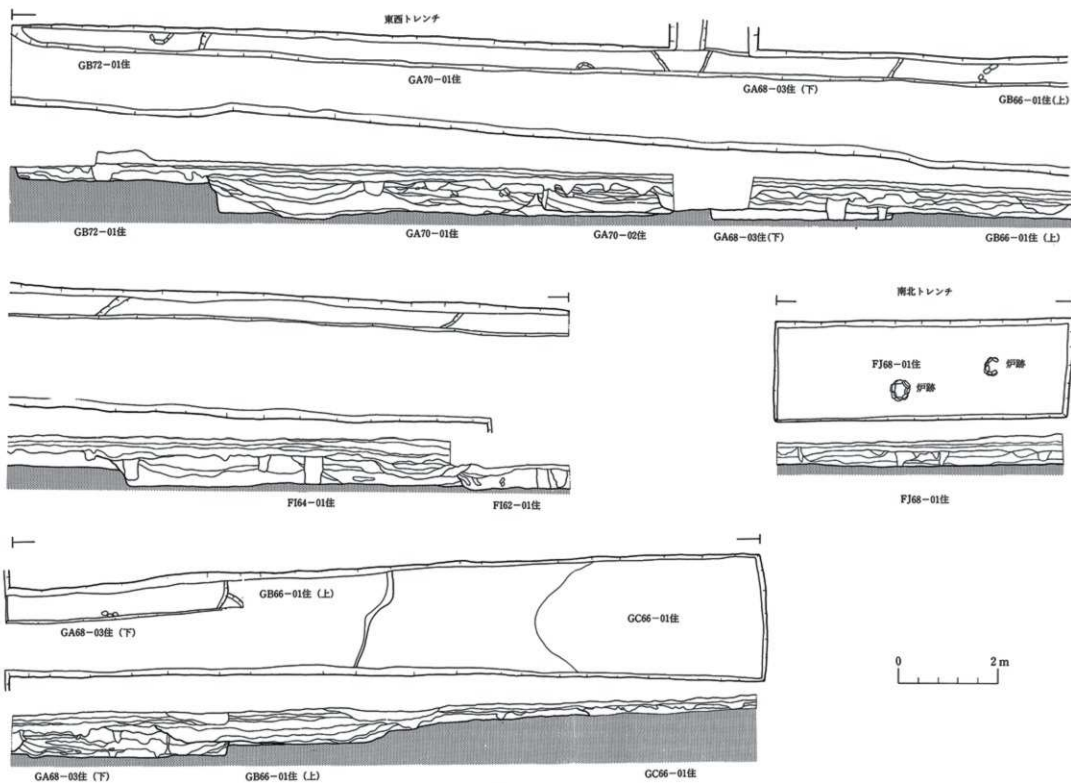
土偶、三角形土製品、キノコ形土製品、斧状土製品、その他不明な土製品が出土している。土偶(3)は1点出土している。板状の土偶で円形刺突文を列点状に施文している。三角形土製品はGA68-03住から1点(6)出土している。外面に粘土を貼り付け文様を表現しているが、全体のモチーフは「人面」にも見える。52はキノコ形土製品である。傘と茎のそれぞれ一部を欠いている。赤褐色がかかった色調である。斧状土製品は5点(59、64~67)出土している。66は先端部の破片であるが、斧状土製品では珍しく沈線で文様を表現している。70は土錘形の土製品で、粘土を棒状に丸めた後に紐で縛り3条の溝を入れている。

特殊土器(第112、113図)

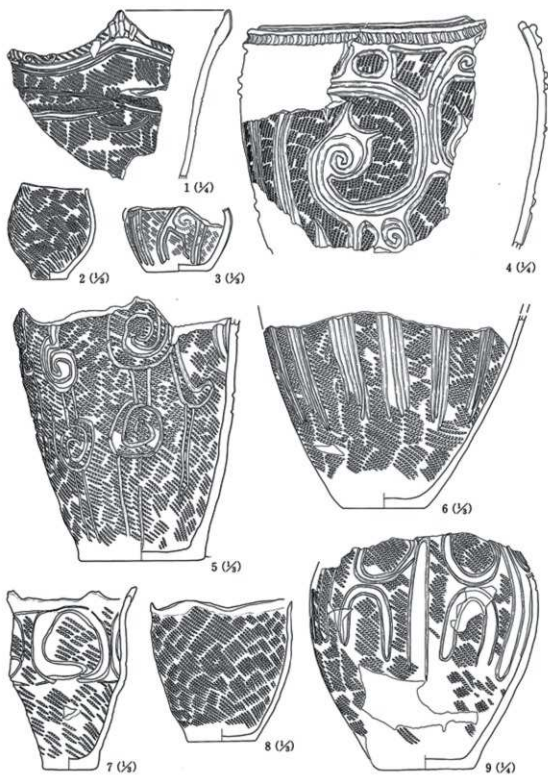
8点出土している。11、12は脚付き土器で、12は脚部に抉りを入れ三足土器となっている。内面に彩色しており、黒褐色がかっている。脚上に4条の平行沈線文、体部にも縦位に沈線文を施文している。18はFJ66-01住居跡から出土した完形品である。その他はいずれも欠損品である。

石製品(第115図)

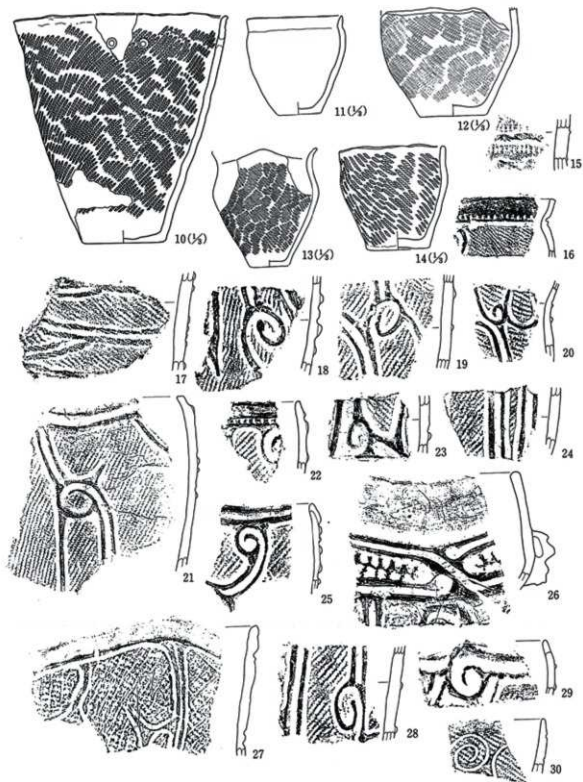
線刻礫が1点出土している(18)。小判形の扁平な石の片面に刻線を引いている。



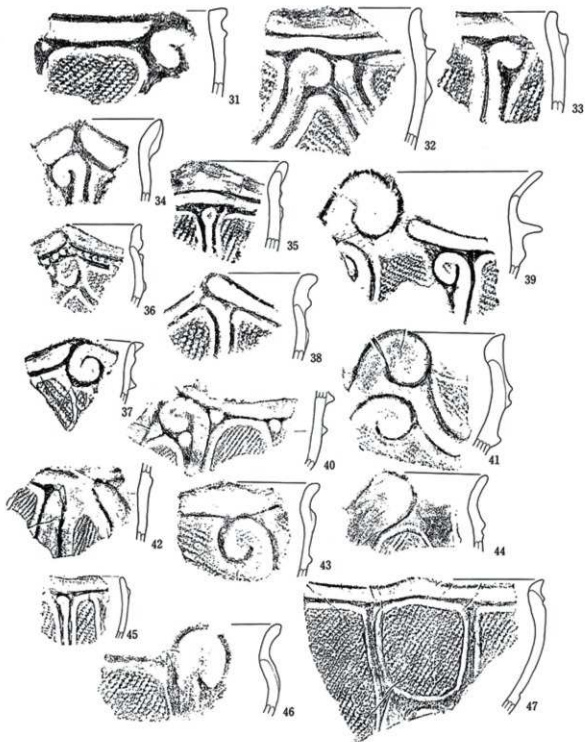
第50図 GA70トレンチ平面図・断面図



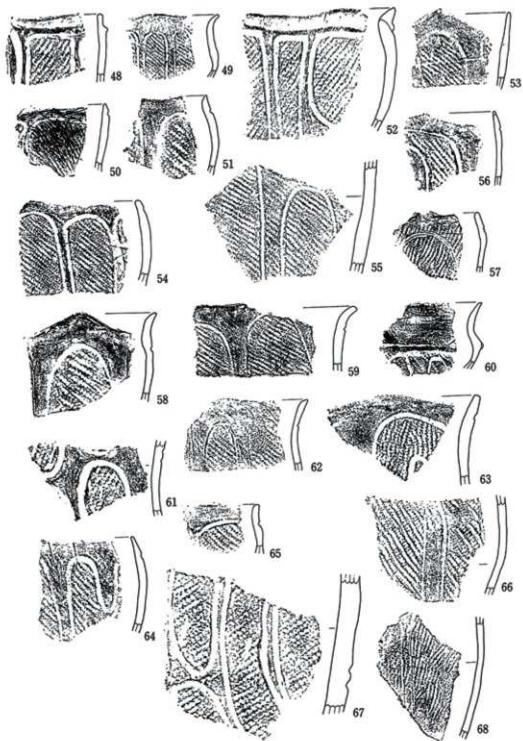
第51図 GA70トレンチ出土土器(1)



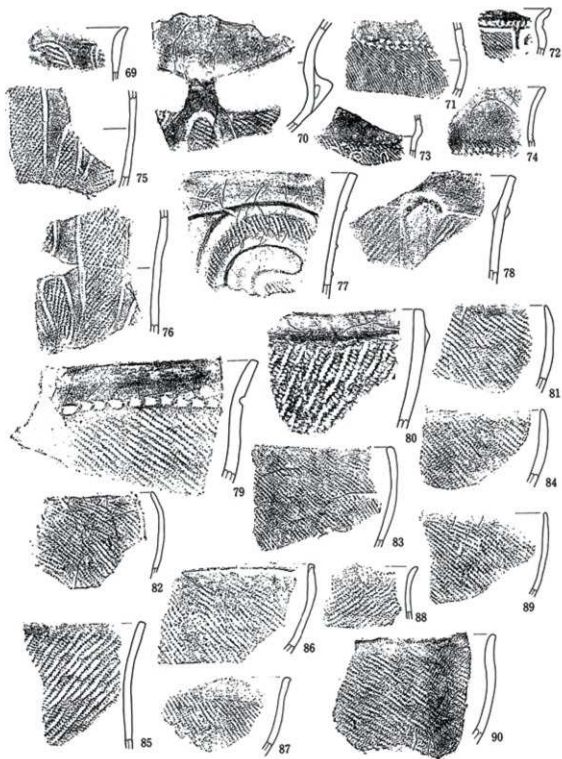
第52図 GA70トレンチ出土土器(2)



第53図 GA70トレンチ出土土器(3)



第54図 GA70トレンチ出土土器(4)



第55図 GA70トレンチ出土土器(5)

(5) 炉跡と埋設土器 (第 56 図)

竪穴住居跡以外で検出した炉と埋設土器について、一括して説明する。

GA 54 炉跡 盛土の北側斜面に位置している。平成 2 年度の概報では配石遺構と報告しているが、同じような石囲炉を盛土でも多く検出している事とその形態から炉跡と考えた。炉内には焼土面はさほど顕著ではない。

EG 48 炉跡 中央部北側で検出している。径 50×60 の方形の炉で、焼土面はあまり顕著ではない。III層起源の堆積土中で検出している。

EI 50-01 炉跡 中央部北側で検出している。EG 48 炉跡の西よりに位置している。径 66×60 のやや円形に近く、炉内には焼土はあまりない。

EI 50-02 炉跡 中央部北側で検出している。EI 50-01 炉跡の東隣に位置している。径 50×40~50 m で抜かれたのか東西方向には石は残っていない。炉内に焼土はほとんどない。

FH 46-01 炉跡 中央南側の盛土に設定した FH 46 トレンチの 2 層中で検出している。径 80×70 m のやや楕円形で、炉内には厚く焼土が堆積している。

FH 46-02 炉跡 中央南側の盛土に設定した FH 46 トレンチの 2 層中で検出しており FH 46-01 炉跡の東隣に位置している。径 60×70 m のやや円形に近く、炉の内側と外側にも焼土が厚く堆積している。

GA 48 炉跡 中央南側の盛土 1 層で検出している。南北に 44 cm を図るが、東西には不明である。炉内では焼土面は顕著ではない。

FI 40 炉跡 中央南側の盛土に設定した FH 46 トレンチの 1 層下で検出している。炉内の焼土は顕著ではない。

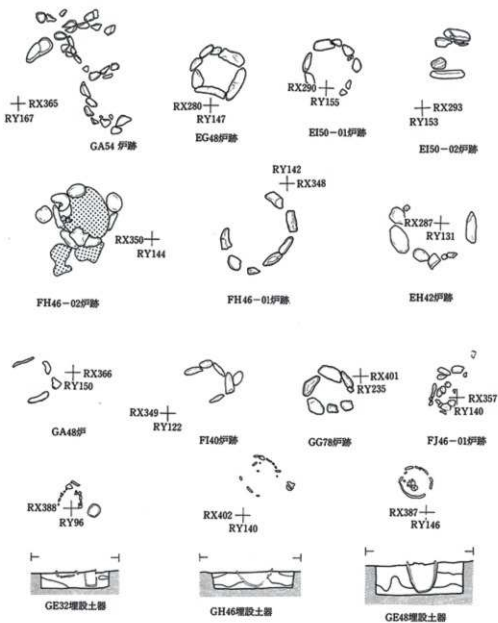
GG 78 炉跡 中央東端の GG 80 配石、GD 82 配石周辺で検出している。径 55×50 m のやや円形に近く、炉内に薄く焼土が堆積している。

FJ 46 炉-01 炉跡 中央南側の盛土に設定した FH 46 トレンチの 1 層下で検出している。トレンチの東壁際で検出しているが、炉内と周辺から炭化植物の種子が多量に出土している。炭化種子については、鑑定を依頼しその結果を V 章に掲載している。

GE 32 埋設土器 盛土南側の竪穴住居跡が分布する南側斜面で検出している。2 点を埋設しており、1 点は横位、もう 1 点は縦位である。後者は第 III 群土器である。

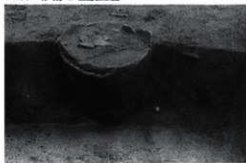
GE 46 埋設土器 盛土の南側で検出している。横位の埋設土器であるが、土器の保存状態が良くなく、所属時期も不明である。

GE 48 埋設土器 同じく盛土の南側で検出している。縦位の埋設土器であるが、粗製土器であり、所属時期は不明である。



第56図 伊跡と埋設土器

PL38 伊跡と埋設土器



GE48埋設土器



GE32埋設土器



FH46-02伊跡



GH46埋設土器



GA54伊跡



GA48伊跡



FH46-01伊跡



FJ46-01伊跡

(6) 盛土遺構 (第57図)

配石遺構の南側は1m 40cm程小高くなっている。平成元年度の調査以来、周辺から遺物が多量に出土し、しかもⅢ～V層の堆積土が不規則に分布していた。当初は竪穴住居跡などの遺構が重複しているかあるいは遺物包含層の可能性が強いと考え、平成2年度の概報でもそのように報告している。範囲は東西に80～90m、南北に30mの楕円形を呈し、配石遺構群に向かって弧状に分布している。

平成4年度にその中央南北にGA 44トレンチを設定し調査したところ、ほぼ全域が盛土である事が判明した。トレンチ内の堆積土は次のようになっている。

盛土1層：浅黄色土と黄褐色土の混土に黒色土、黒褐色土が混入している。それぞれV、IV b、IV a、Ⅲ層起源。土器、石器、剥片、骨片、炭化物を多量に含んでいる。特に骨片の多いのが目をひく。

盛土2層：黒色土と黒褐色土の混土でⅢ、IV a層起源。同じく土器、石器、剥片、骨、骨片炭化物を多量に含んでいる。

盛土3層：黒褐色土、Ⅲ層起源。土器、炭化物を含んでいる。

以上のように堆積している。各層は整然と堆積している訳でなく、例えば1層中で褐色土と黄褐色土が混じりあったり、あるいは部分的に黒褐色土が入り込んだりしている。このような状態から当初は遺構の重複と考えた。各層はトレンチ内で、1層が20～30cm、2層が10～20cm、3層が5～10cmの厚さで堆積しているが、1層は既にトレンチを設定する前に10～20cm程掘り下げており、盛土全体では40～60cmの厚さになるであろう。盛土はほぼ中央が最も高く、南北にそれぞれ傾斜し、西側も緩やかな斜面となっている。

特に北側の配石遺構群との間がかなりの急斜面となっている。

各層は1層は中央部に限られるのに対して、2層はその下から東、北、西側まで広く分布している。3層は確認している範囲では南側に限られるようである。各層は基本的には、Ⅲ～V層が逆転し堆積しているし、北側の配石遺構群の周辺ではⅢ、IV a層を全く欠き、IV b層、更にV層を欠いている個所もある。従ってこの盛土は配石遺構群周辺を削平して盛り上げたものである事が判明した。大規模な造成工事に伴う盛土と考えられる。

各層にはいずれも遺物を伴っており特に1層、2層からの出土が多い。また各層とも堆積がかなり不規則でしかも場所により様相を事している。以上から盛土の全てが一時期に構築されたのではなく、長い間遺物が捨てられ、最終的にこのような大規模なものになったものと考えられる。盛土2層、3層の下にはⅢ層があり、部分的ではあるがⅢ層下で中飯浮石のブロックも確認している。このIV層上面でGB 44 竪穴住居跡を検出している。なお盛土では石囲炉や地床炉を多く検出しているし、焼土ブロックが二次的に投げ込まれている。

出土遺物

今回調査した各地点の中ではこの盛土から最も多く遺物が出土している。縄文土器、石器、土製品、石製品、特殊土器、炭化植物種子、動物遺体などである。特に動物遺体の70%以上が盛土から出土しており注目される。

縄文土器 (第58～65図)

第Ⅰ～Ⅴ群の各時期の土器が出土している。多いのは第Ⅲ群土器である。

第Ⅰ群土器(136) 隆線文とヘラ状工具の連続刺突文に特徴がある。隆線にもLR縄文を施文している。

第ⅡA群土器(19、22、24、59～60、67～69、71) 口縁部に4つの小突起が付き、文様帯も突起と同じく4区画されている。文様は全て隆線文(1類)、口縁部と懸垂文のみ隆線文でその間の弧状文が沈線文(2類)、全て沈線文(3類)の3例ある。2類、3類が多いようである。

第ⅡB群土器(20、28、63、65、66、112、116、118、121～125) いずれもキャリバー形の深鉢土器である。主に口縁部を中心に渦巻文、S字文、連続山形文、方形区画文が施文され、体部には原体がLR、RLの縄文が施文されている。122は口縁部に小突起があり、突起部分に隆線による渦巻文、その他は沈線により弧状文、あるいは縦への波形文を施文している。以上の土器には口縁部のキャリバー部分の膨らみが強いものとあまり膨らみのないものがある。

第ⅢA群土器(23、61、115、117) 口縁部に溝状文があり、突起頂部に円形文、円形刺突文を施文し、体部には沈線で弧状文、平行文を施文している。縄文原体はLR、RL縄文の両例ある。

第ⅢB群土器(1～4、6、7、12～15、17～18、21、51～55、79～80、82～85、87～88、90～93、95～114) 隆線による渦巻文、楕円区画文、「フ」字状の棘文に特徴がある。器形もバラエティーに富み、壺や口縁部が内湾する大型の浅鉢と深鉢、口縁部が外反する深鉢などがある。

15はLR縄文に沈線による渦巻文、14も同じくLR縄文に隆線を施文しただけのやや異質な土器である。

第Ⅳ群土器(10、11、75、77～78、81、86～87、94) 楕円形の磨消縄文が縦方向に施文されている。いずれも縄文-沈線-磨り消しという磨消縄文により表現されている。原体はLR縄文、RLR複節縄文がある。

第Ⅴ群土器(9、72～74) 曲線的な充填縄文施文の土器群である。9の体部文様帯の先端部に「ヒレ」状の突起がついている。73は9と同一個体で後で接合している。

9の壺形土器は、頸部に横状把手が3個付き、口縁部は無文帯となっている。

第Ⅵ群土器(5、8) 口縁部は無文帯とし、体部にLR縄文を施文しただけの粗製土器である。5は頭部に沈線、8は隆帯を貼り付けその上を刺突している。

以上の土器のうち第Ⅴ群土器は平成元年度の調査時に多く出土しているし、第Ⅳ群土器は盛土1層まで、第Ⅲ群土器は盛土の2層以上、第Ⅱ群土器は盛土下のGB 44 堅穴住居跡から一括して出土しており、盛土の下からそれぞれ古い順に出土している事がわかる。ただ最も量が多いのは第Ⅲ群土器で特に盛土の1と2層から出土している。

石器 (第74~102図)

剥片石器は、石鏃、石槍、石匙、石錐、削器類が出土しているが、石鏃が圧倒的に多い。礫石器の中では磨石・凹石・敲石などの磨石が多く、その他石皿、石棒、磨製石斧、石製円盤、砥石、台石が含まれている。

土製品 (第103~111図)

土偶、三角形土製品、耳飾り、キノコ形土製品、斧状土製品、有孔土製品、環状土製品、その他不明な土製品などが多量に出土している。土偶は2点(4、5)出土している。いずれも刺突文施文の板状土偶である。三角形土製品は3点(10、13、14)出土している。13は3ヶ所に穿孔している。13、14は内側が膨らみ、10はほぼ平坦である。耳飾りは3点(21、24、25)、キノコ形土製品は1点(54)ある。いずれも堆積土のⅡ層から出土している。

斧状土製品は4点(56、58、62、63)出土している。いずれも縄文を施文し、56、58、59は頭部に穿孔している。有孔土製品(38)、環状土製品(31、32、33、36)はいずれも無文で、33は刺突をしている。不明土製品は3点(39、41、75)ある。

その他円盤状土製品が96点出土している。円盤状土製品のほぼ4割に相当する。

特殊土器 (第112、113図)

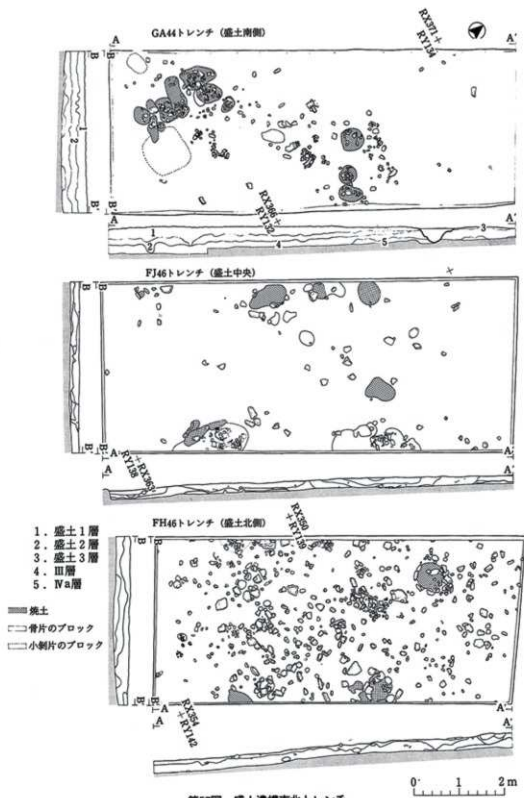
15点出土している。3、5~8、13、23は脚付き土器で、13は大型で内面に彩色しており黒褐色がかっている。底部の3ヶ所に抉りをいれ、三脚土器としている。17、33、34、40、41、43、44、50、55はミニチュア土器で、17は1ヶ所に突起が付いている。

石製品 (第114、115図)

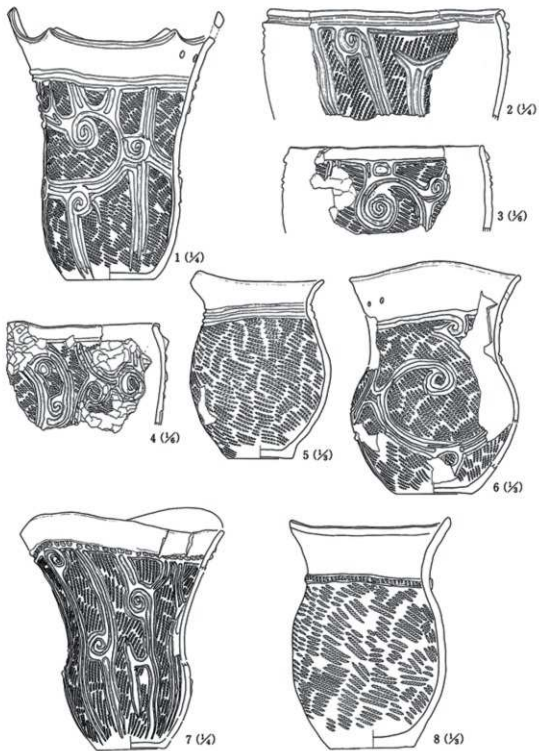
有孔石製品、石錐、線刻礫、その他不明の石製品が出土している。有孔石製品は6点出土している(2、3、4、5、31、32)。2、3と5は円形、楕円形に形を整えてから穿孔している。2は断面が三角形になっており、両側から穿孔しているが底面の方が広く開けられている。4は自然石の両端に穿孔している。

動物遺体 (Ⅴ草、分析及び鑑定参照)

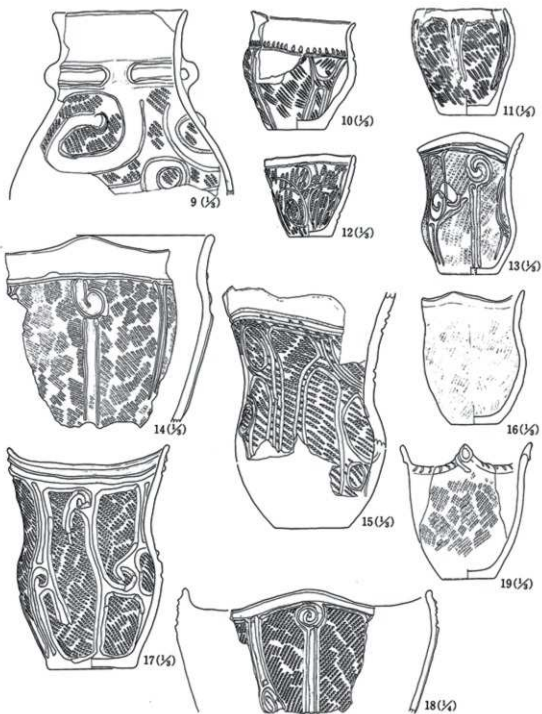
盛土からは多量の獣骨が出土している。シカ、イノシシが多く、いずれもかなり火を受け焼けている。



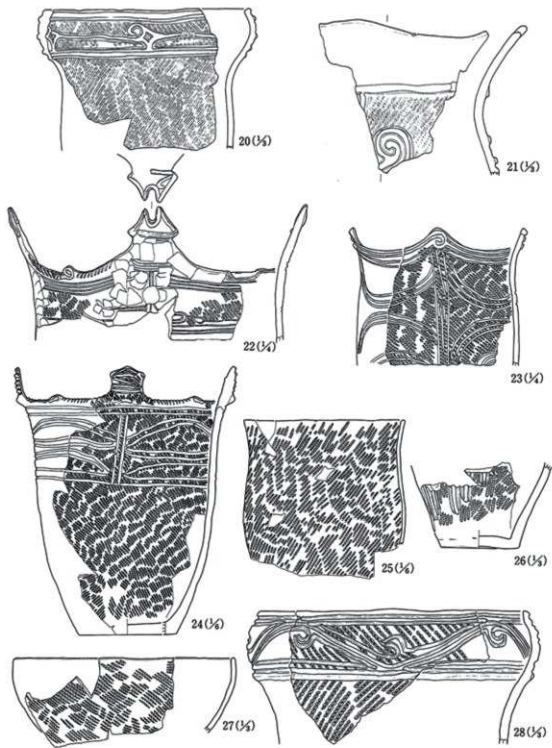
第57図 盛土遺構南北トレンチ



第58图 盛土遺構出土土器(1)



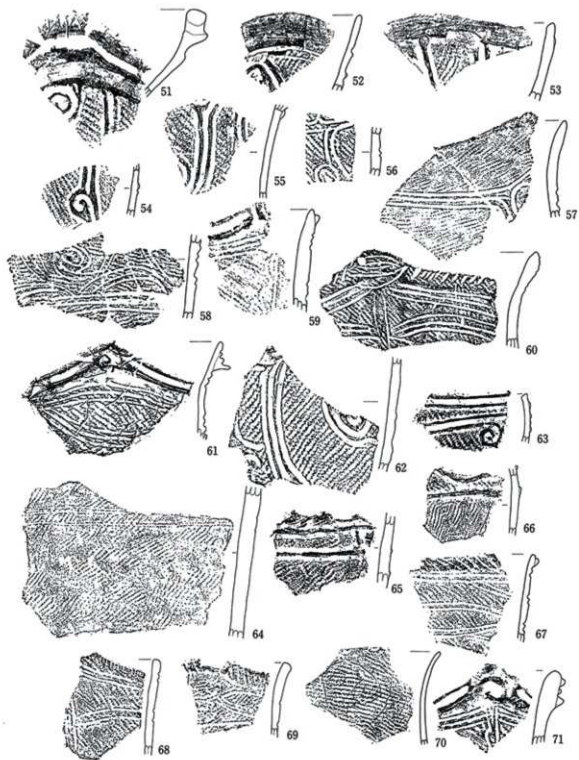
第59回 盛土遺構出土土器(2)



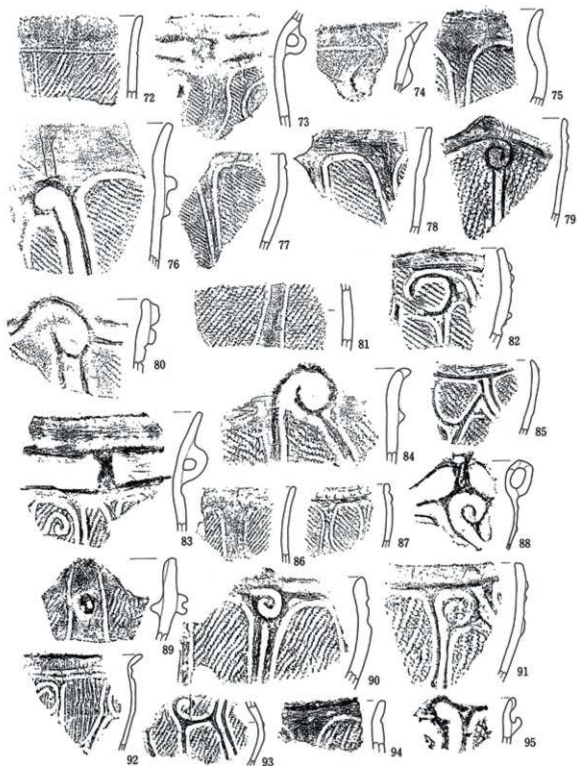
第60圖 盛土遺構出土土器(3)



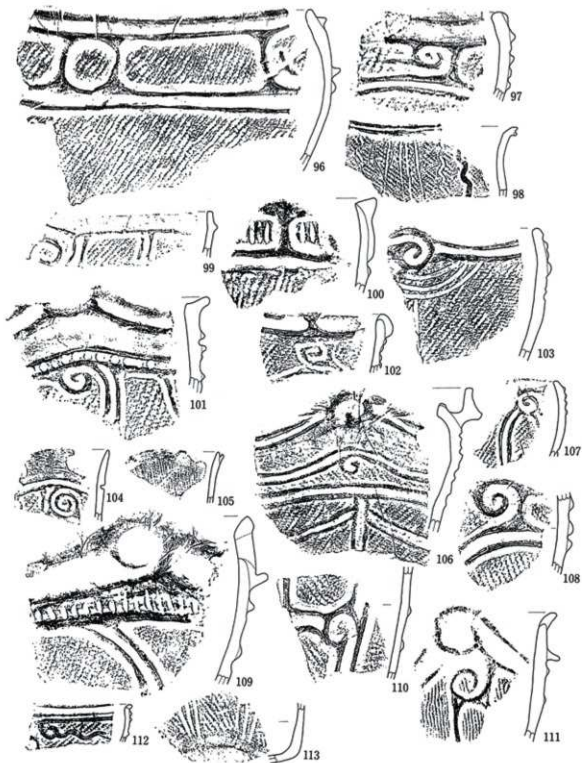
第61圖 盛土遺構出土土器(4)



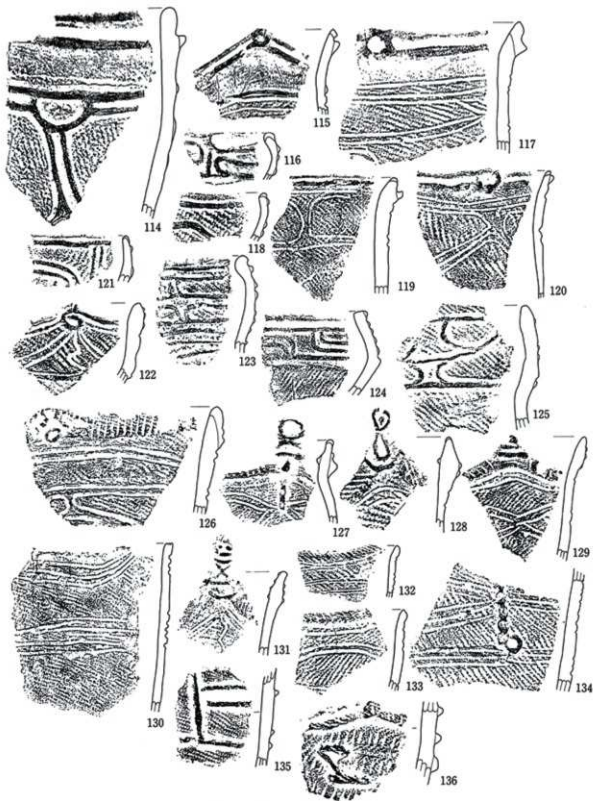
第62圖 盛土遺構出土土器(5)



第63圖 盛土遺構出土土器(6)



第64图 盛土遺構出土土器(7)



第65圖 盛土遺構出土土器(8)

PL39 盛土遺構 (1)



盛土遺構周辺 (空中写真)



盛土遺構調査区 (空中写真)

PL40 盛土遺構(2)



奥(南側)が盛土部分



南西側より



土層セクション(東西)



土層セクション(南北)



GA44トレンチ遺物分布状態



GA44トレンチ出土遺物



GA44トレンチ出土遺物



FJ46-018跡

(7) 中央部北側の遺構群 (第 66 図)

配石遺構群の北側からも遺物が多量に出土している。当初遺構の切り合いであろうと考えていたが、調査区端の南北と東西にそれぞれトレンチを入れて調査したところ、配石遺構群の南側と同じような層の堆積を確認できた。Ⅲ層の上には次のような土が堆積していた。

1 a 層：暗褐色土、粒子がやや粗いがかなり締まっている。土器が多量に出土。

b 層：黒褐色土、粒子がやや粗い。土器片、炭化物が多量に出土。

c 層：黒褐色土、粒子がやや粗い。軟質な個所と硬い個所とがある。

d 層：黒色土、細粒、かなり硬くなっている。

以上の堆積土は、いずれもⅢ層中心の堆積土と考えられ、北西側調査区のほぼ全域に分布している。場所によりやや厚さは異なるが、10～40 cm となっている。ただトレンチの幅は、50 cm であり、詳細については不明である。盛土 1 a 層の上では、南西よりの平坦面で石囲炉を 3 基検出している。

出土遺物

縄文土器、石器、土製品、石製品、特殊土器、獣骨が出土している。

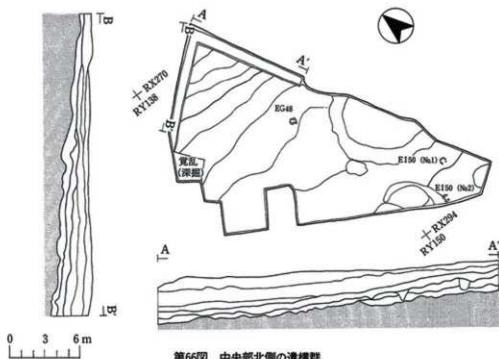
縄文土器 (第 67～73 図)

第Ⅱ A、Ⅲ B、Ⅳ、Ⅴ群土器が出土している。量的には第Ⅲ B 群土器が圧倒的に多い。

第Ⅱ A 群土器 (8、9～30) 8 は E 50 区の北側斜面から出土したと言われ、地権者の村上喜八氏から寄贈していただいた。4 つの突起に隆線、体部には沈線による胸骨文を施文しており、底部穿孔の痕跡がある。今回出土した土器には、10、17 のように体部文様まで隆線施文のもの (1 類)、11、18、19 のように懸垂文のみ隆線では沈線のもの (2 類)、全て沈線施文のもの (3 類) とがある。原体には LR 縄文、RL 縄文とがある。

第Ⅲ B 群土器 (34～65) いずれも隆沈線施文の土器群である。渦巻文を中心とした文様が施文される。器形は浅鉢と深鉢がある。浅鉢 (34) は体部が直線的に外傾し、口縁部が内弯する大型の土器で、口縁部に区画文、渦巻文が描かれている。深鉢は口縁部が膨らみ頸部ですぼまるキャリパー形 (35)、広口の壺形に近いもの (40、64、65)、体部が直線的に外傾し口縁部が内弯するもの (41)、口縁部が緩やかに外反するもの (37、57～59) とがある。外反する土器は比較的小振の土器が多い。いずれも器面調整が顕著で、原体は LR 縄文、RL 縄文、更に RLR 複節縄文が比較的多く含まれている。

第Ⅳ群土器 (66～91、92～100) 磨消縄文が縦方向に区画され、楕円形文となる土器群である。磨消縄文に一部隆線が伴うもの (66～68、70)、沈線で楕円区画文を施文するもの (72～92、96、100)、沈線だけ施文し、磨消縄文が伴わないもの (93、95) とがある。99 は磨消部分に縦方向に「蕨」状の沈線を伴っている。その他小破片のため定かでないが、円形刺突文 (竹管文)



第66図 中央部北側の遺構群

PL41 中央部北側の遺構群



全景 (西側より)



E150 No.1 石囲炉



EG48 石囲炉



E150 No.2 石囲炉

施文の土器群がある(69、71)。原体はLR縄文、RL縄文、RLR複節縄文とがある。

第V群土器(101~108) 曲線的な充填縄文施文の土器群である。102は無文部に「ヒレ」状の突起、94は口縁部の内面に隆線を縦方向に貼り付けている。101は壺形土器で、頸部に橋状把手をつけている。縄文はいずれもLR縄文である。

石器(第75~103図)

剥片石器は、石鎌、石槍、石匙、石錐、削器類が出土しているが、石鎌が圧倒的に多い。礫石器の中では磨石・凹石・敲石が多く、その他石皿、磨製石斧、石製円盤、砥石、台石が含まれている。

土製品(第103~111図)

土製品は、三角形土製品、有孔土製品、斧状土製品、スプーン形土製品、棒状土製品、その他不明な土製品が出土している。三角形土製品は古代の40号土壌から1点(8)出土している。

三角形の一端に突起が付き、その先端部に穿孔している。穿孔は側面にもつけられ、6ヶ所を数えている。有孔土製品・斧状土製品は、いずれも半分程欠失しているが、有孔土製品は円形の中央、斧状土製品は斧形の頭部にそれぞれ穿孔している。

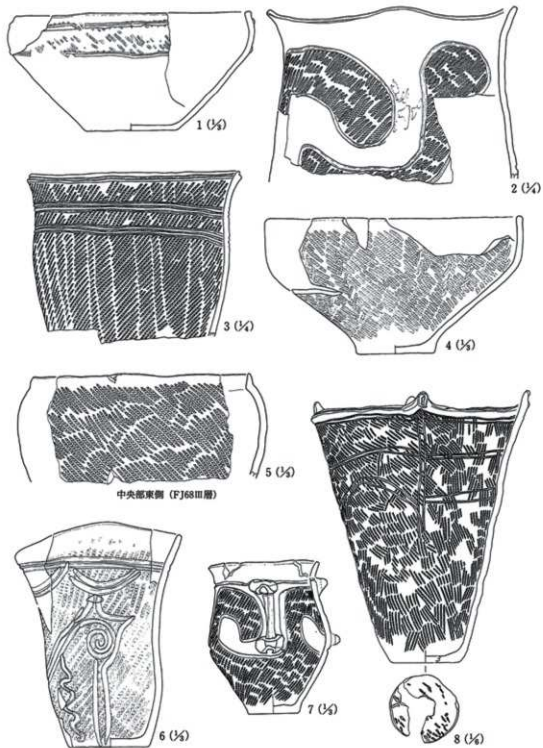
小型のスプーン形土製品が1点(45)ある。47号古墳の周溝から出土しているが、同じ形態のものが馬場平遺跡からも出土しており、縄文時代の遺物と考えられる。やや粗雑な作りであるが、内面は丁寧に調整されている。棒状土製品(47)は、中途から欠失しているが断面が円形の土製品である。その他土器片を打ち欠いた円盤状土製品が24点出土している。

特殊土器(第112、113図)

1点出土している。皿形の三足土器で半分を欠失している。脚はすり切れているが横長の脚である。胎土に多量の砂粒を含み、さらに金雲母を含んでおり第IV、V群土器の胎土に酷似している。内外ともに調整はあまり顕著ではなく、やや粗雑な土器である。

動物遺体(V章、動物遺体分析鑑定を参照)

5ヶ所から獣骨が出土している。中央部南側の盛土出土の動物遺体と同じく、かなりの火力で焼けた可能性が高い。



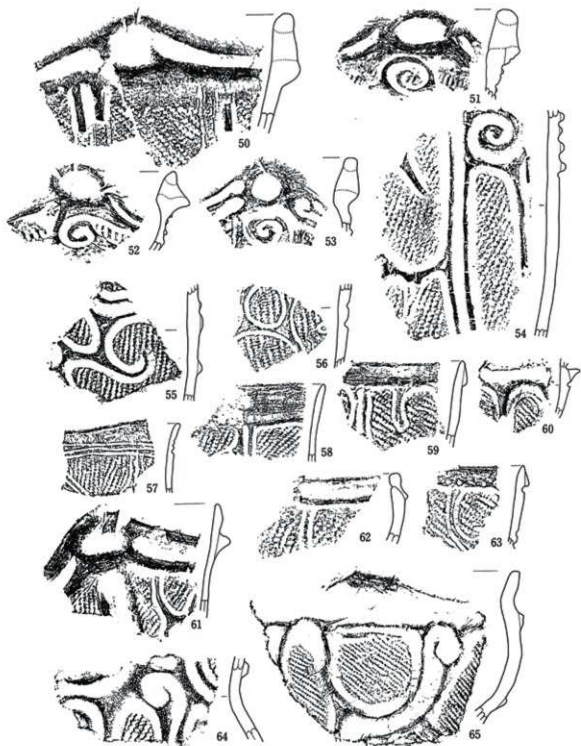
第67図 中央部北側の出土土器(1)



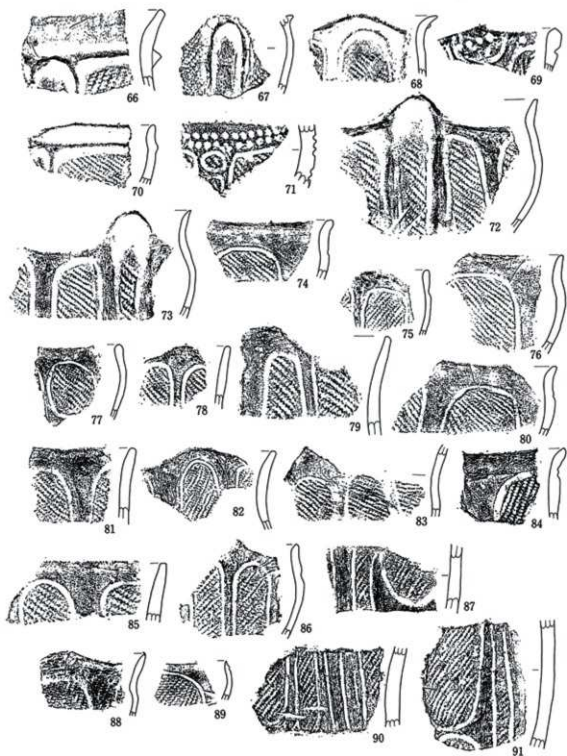
第68図 中央部北側の出土土器(2)



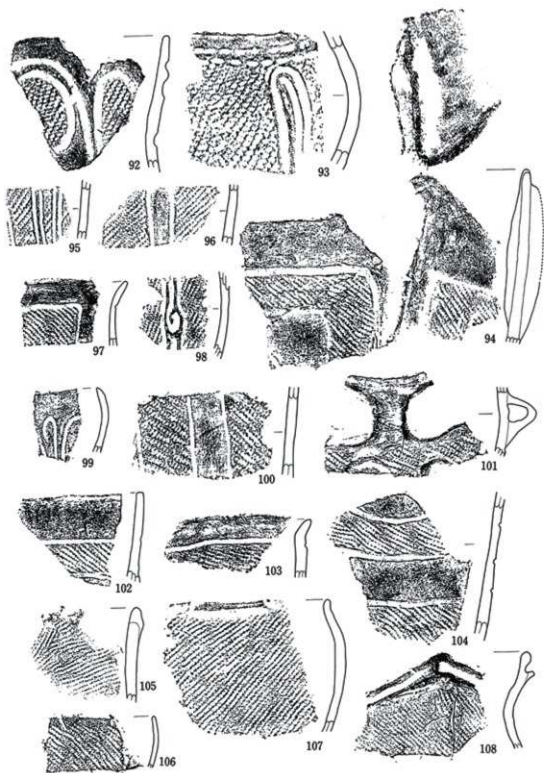
第69図 中央部北側の出土土器(3)



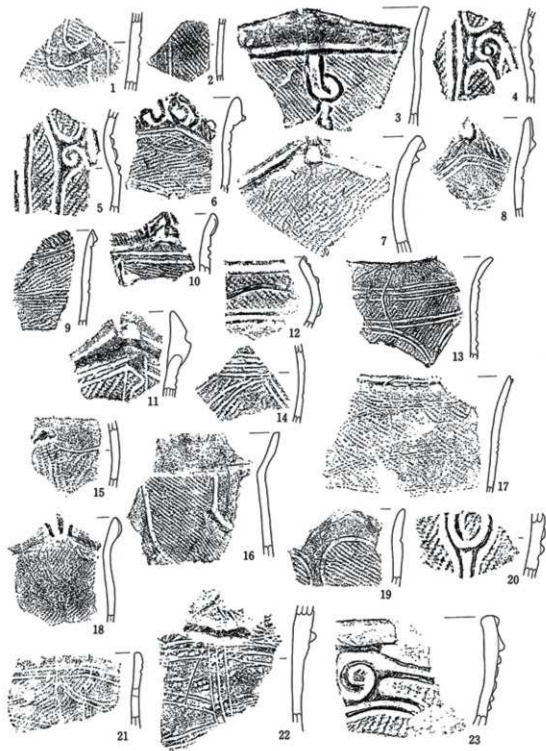
第70図 中央部北側の出土土器(4)



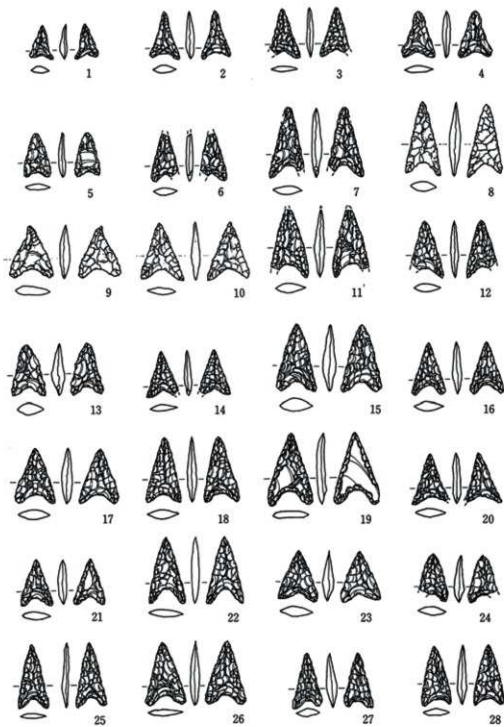
第71図 中央部北側の出土土器(5)



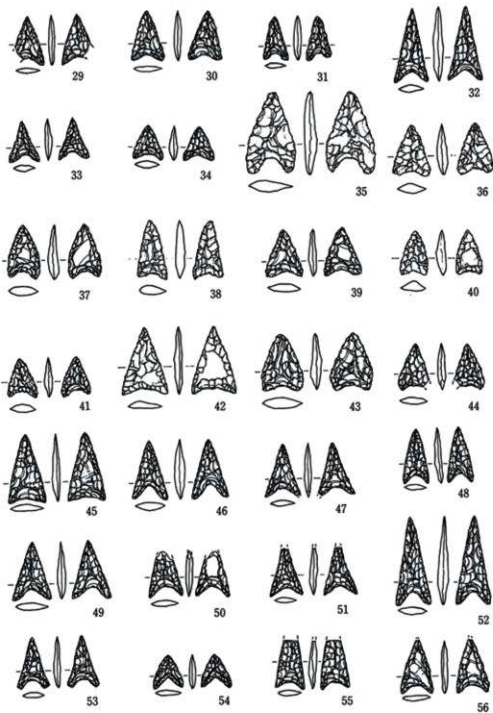
第72図 中央部北側の出土土器(6)



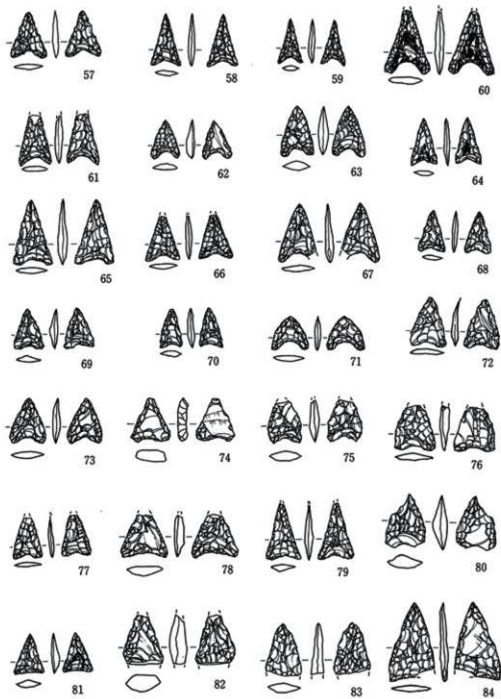
第73図 盛土遺構南側の出土土器



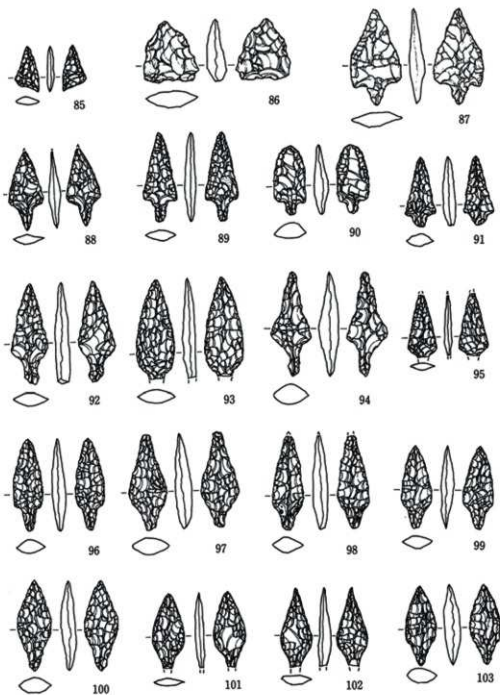
第74图 中央部出土石器(1)



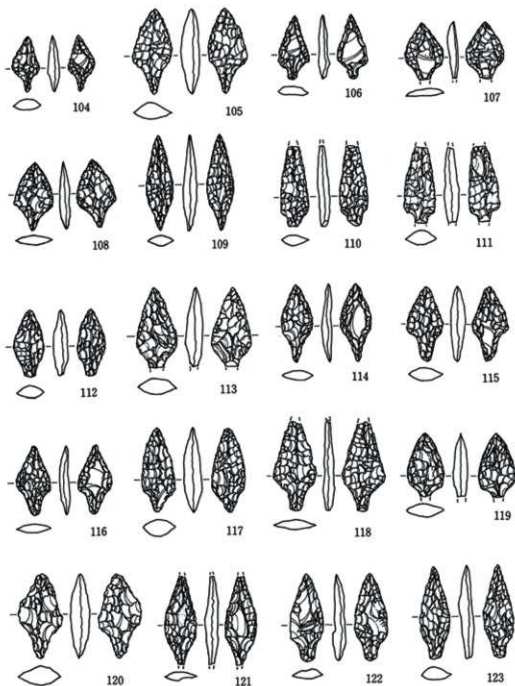
第75图 中央部出土石器(2)



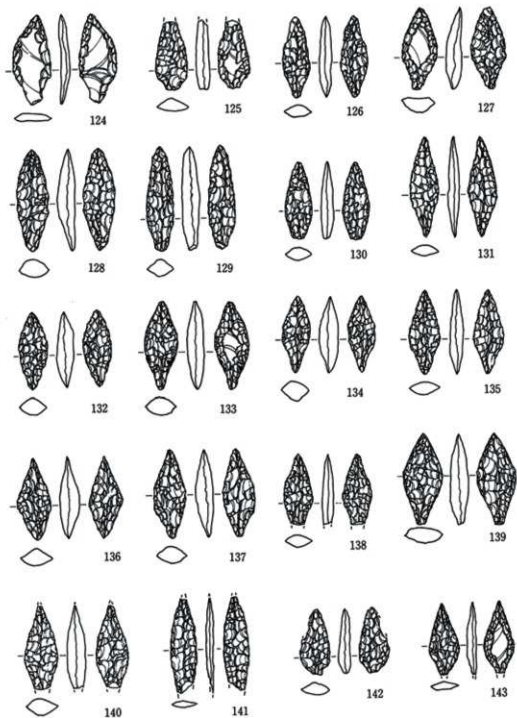
第76图 中央部出土石器(3)



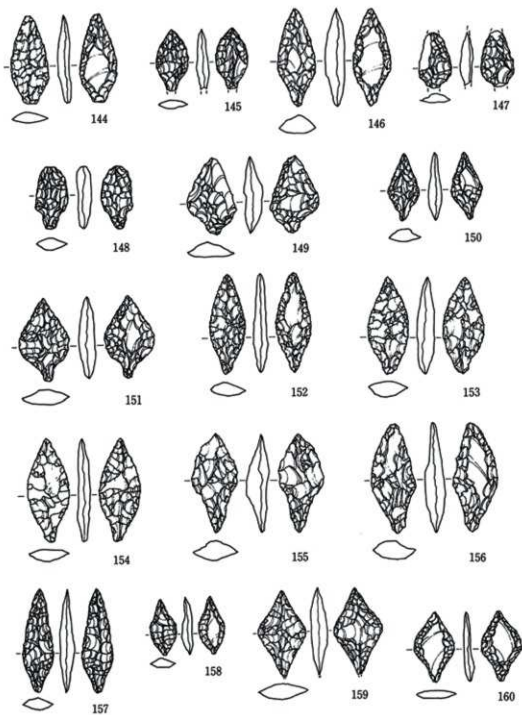
第77图 中央部出土石器(4)



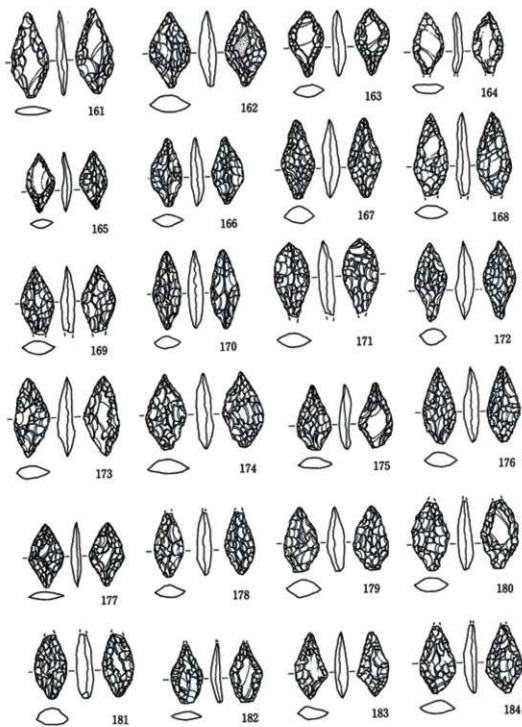
第78图 中央部出土石器(5)



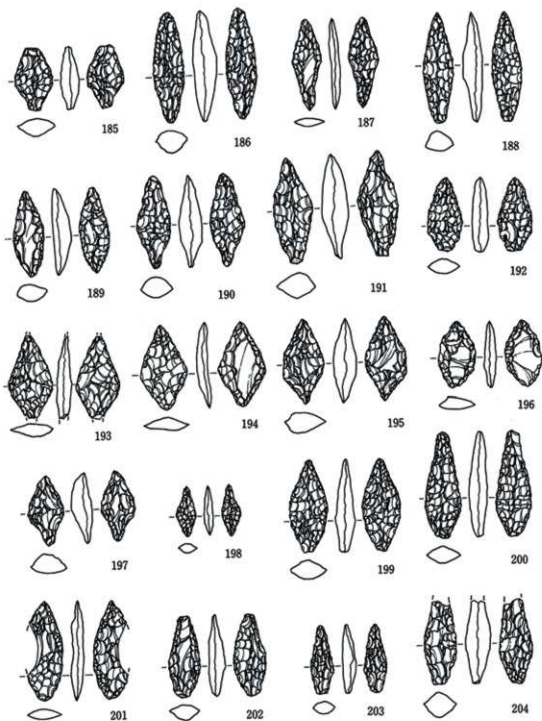
第79图 中央部出土石器(6)



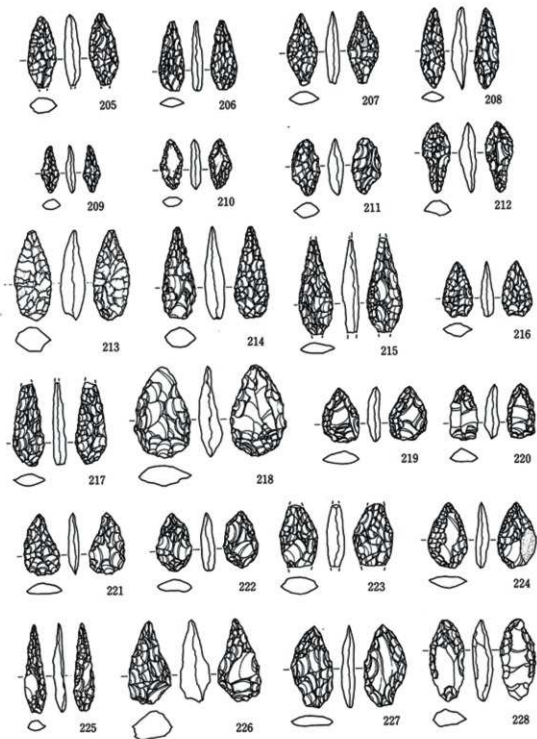
第80图 中央部出土石器(7)



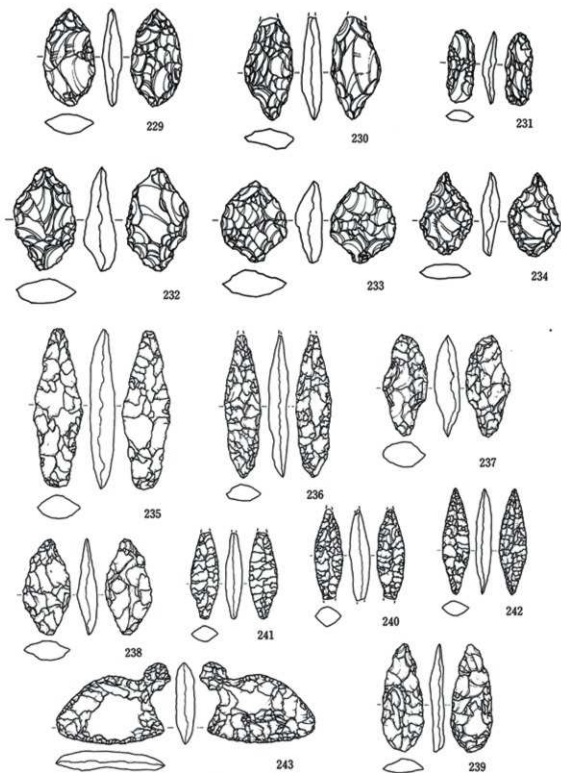
第81图 中央部出土石器(8)



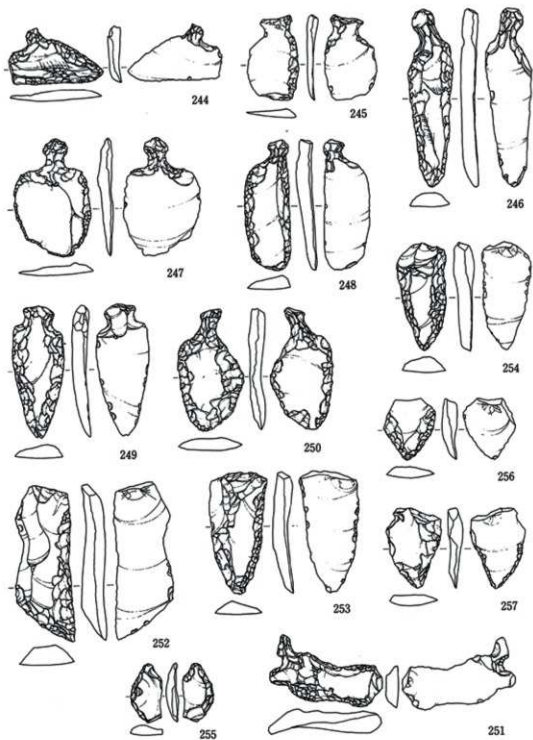
第82图 中央部出土石器(9)



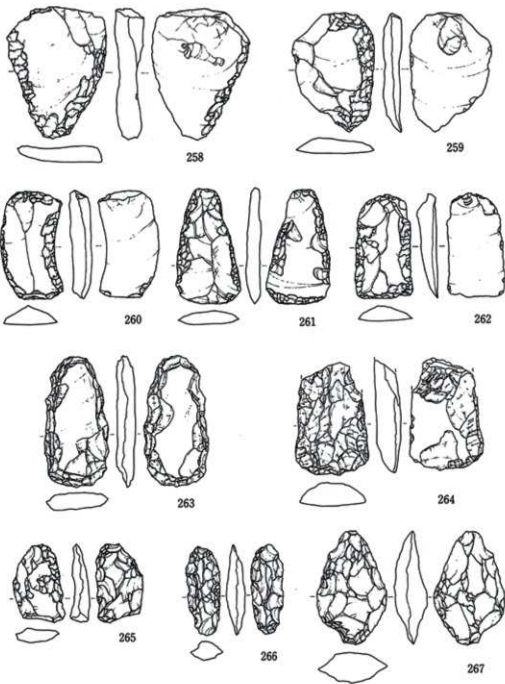
第83图 中央部出土石器00



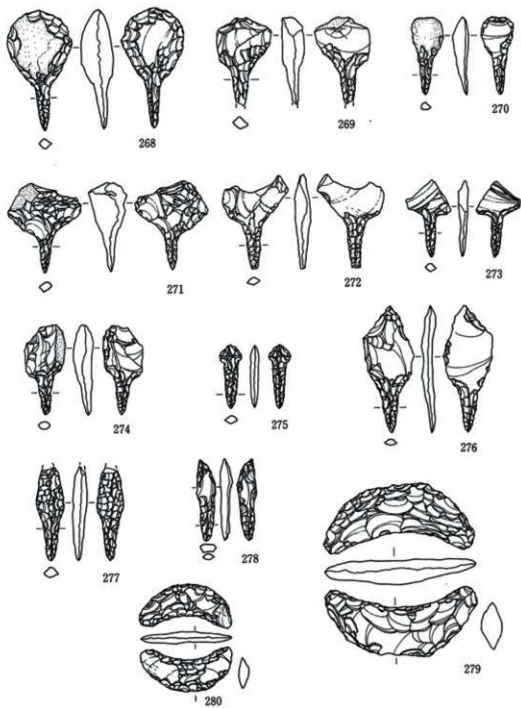
第84图 中央部出土石器(1)



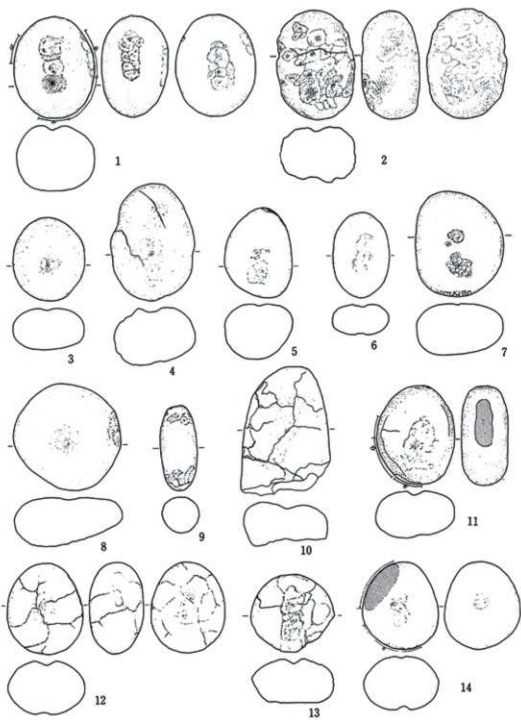
第85图 中央部出土石器02



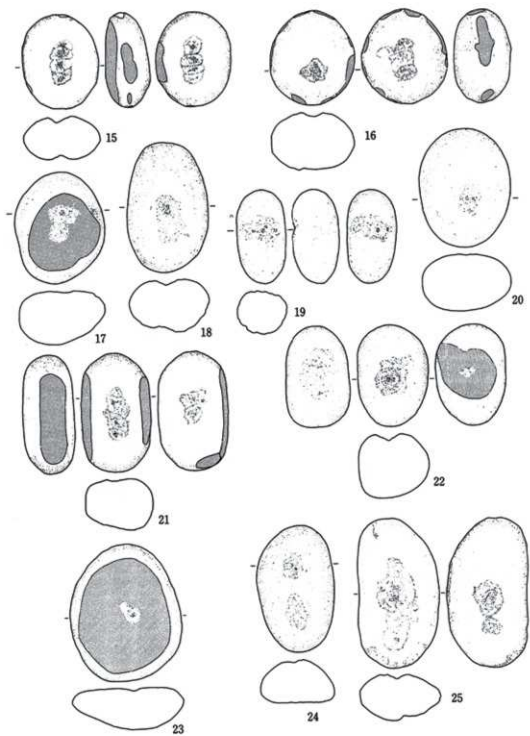
第86图 中央部出土石器⑬



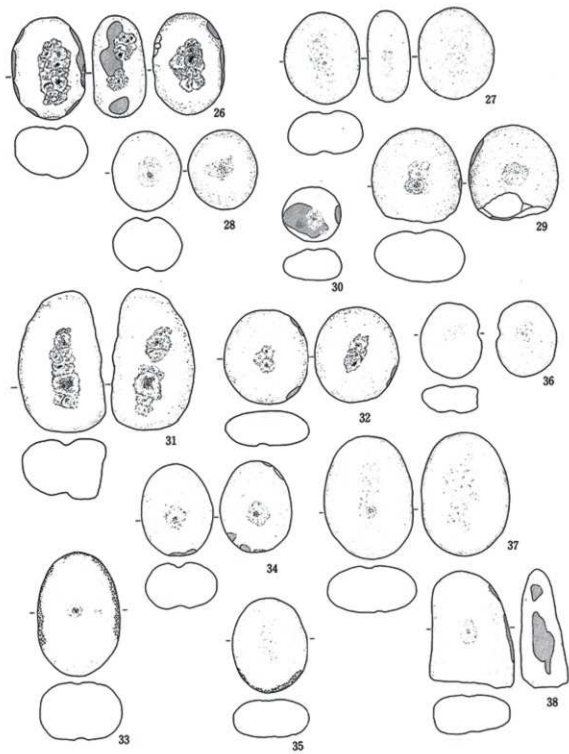
第87图 中央部出土石器04



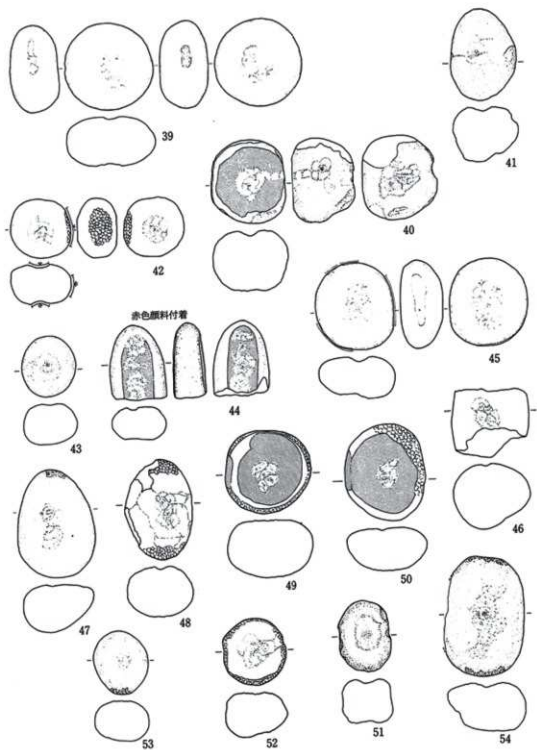
第88图 中央部出土石器09



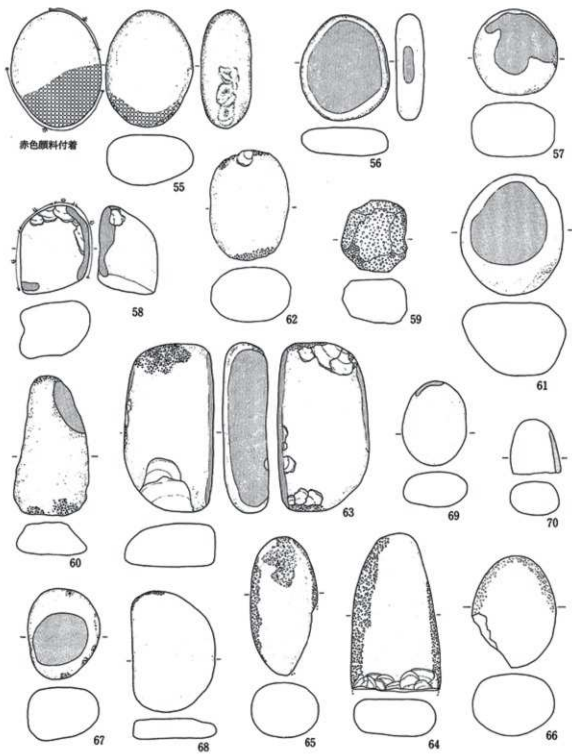
第89图 中央部出土石器09



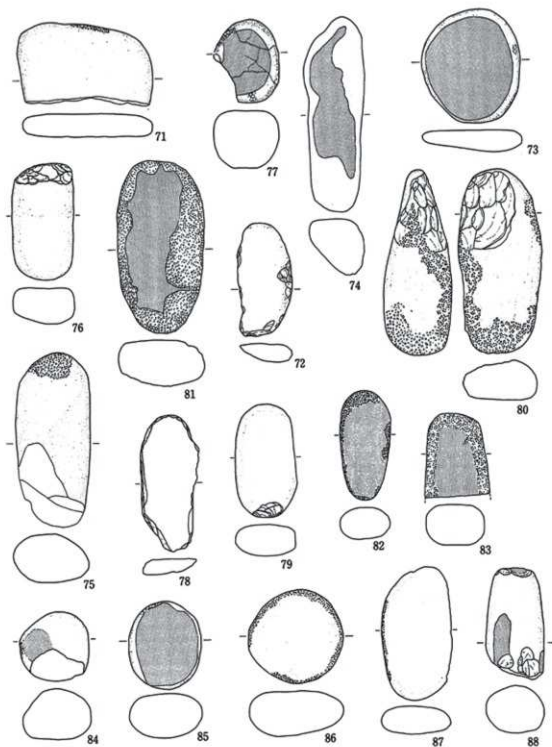
第90图 中央部出土石器切



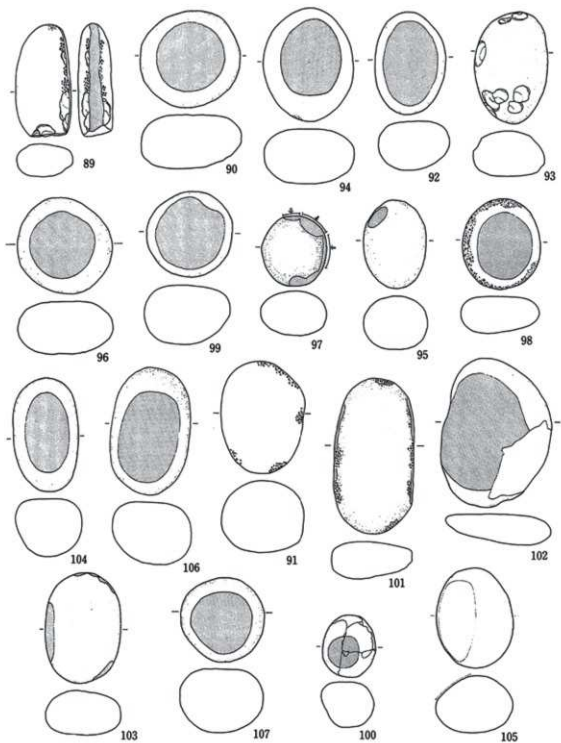
第91図 中央部出土石器09



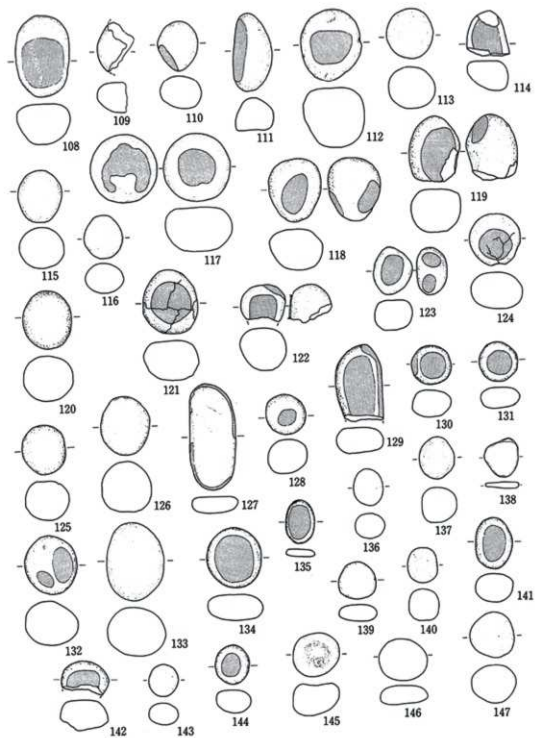
第92図 中央部出土石器09



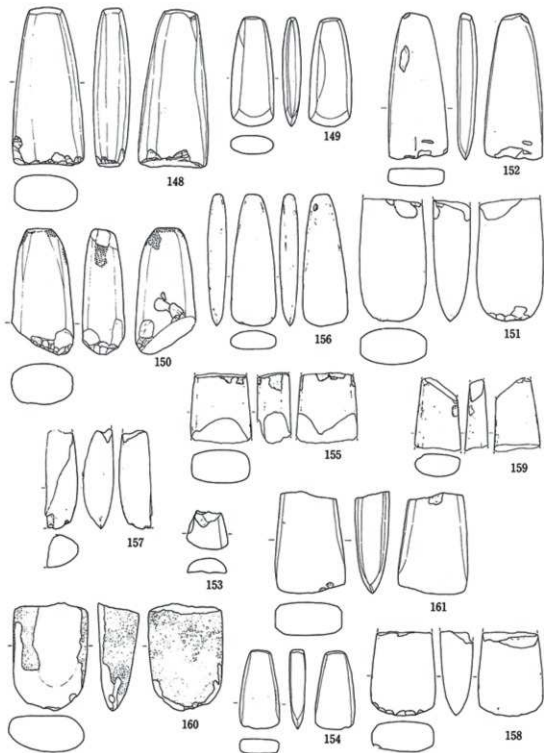
第93图 中央部出土石器20



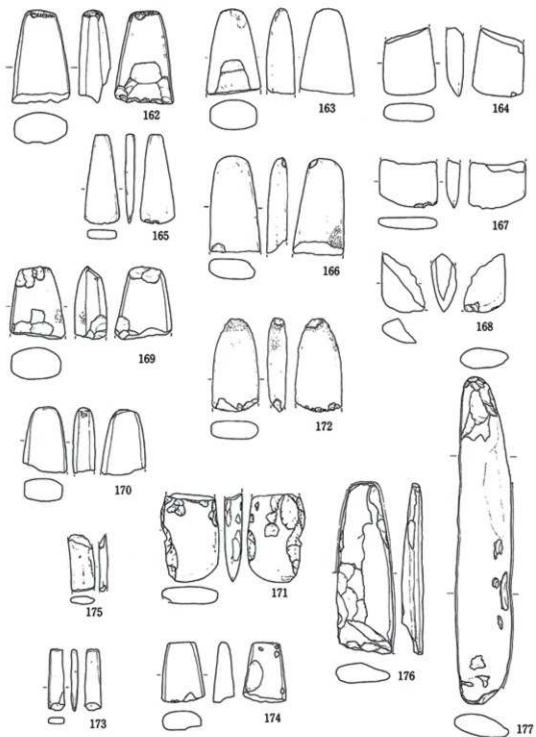
第94图 中央部出土石器(2)



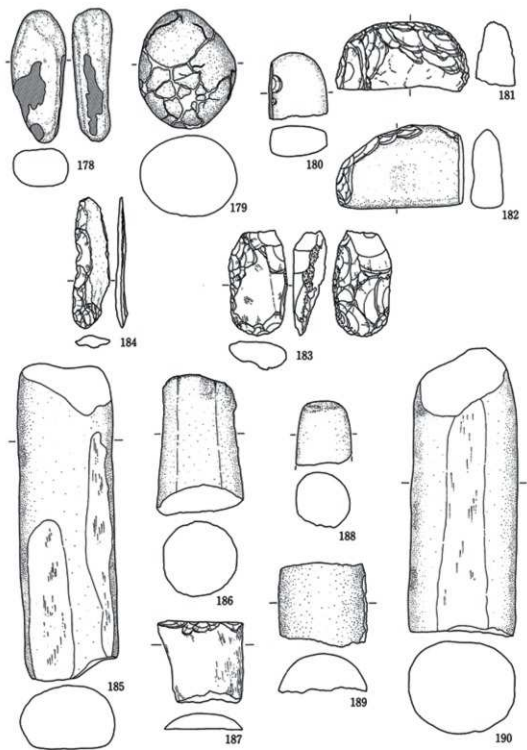
第95图 中央部出土石器刃



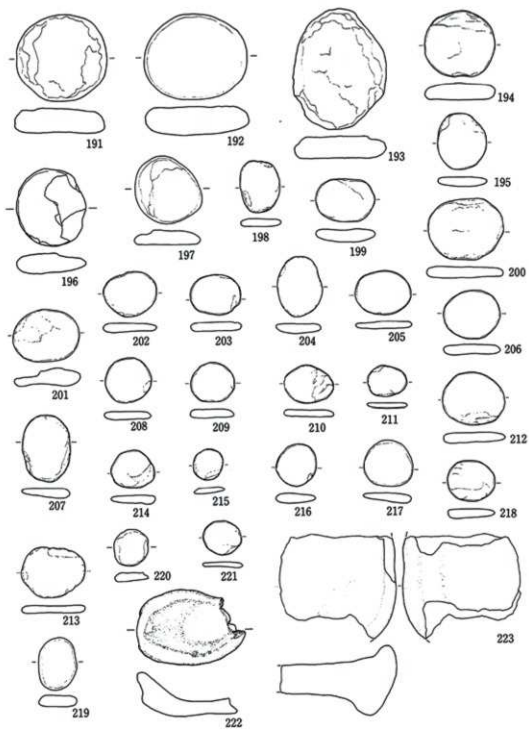
第96圖 中央部出土石器④



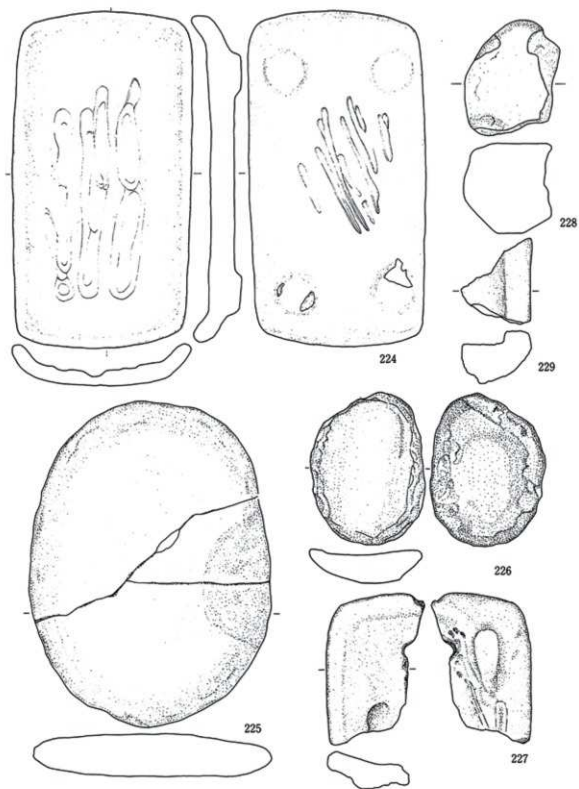
第97图 中央部出土石器20



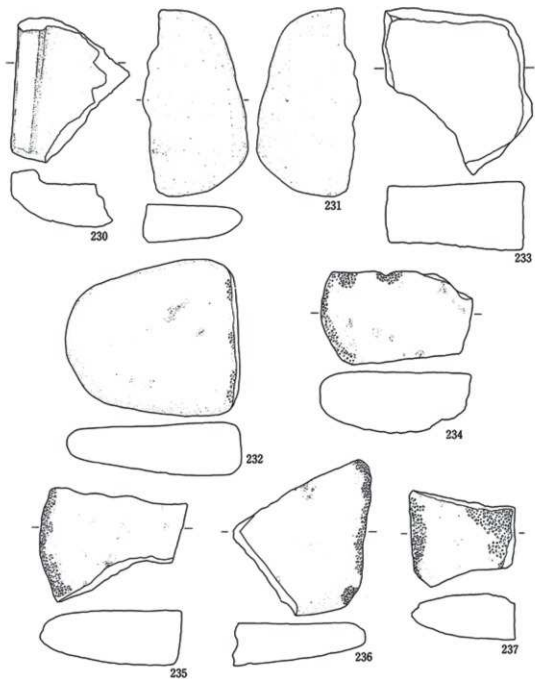
第98圖 中央部出土石器29



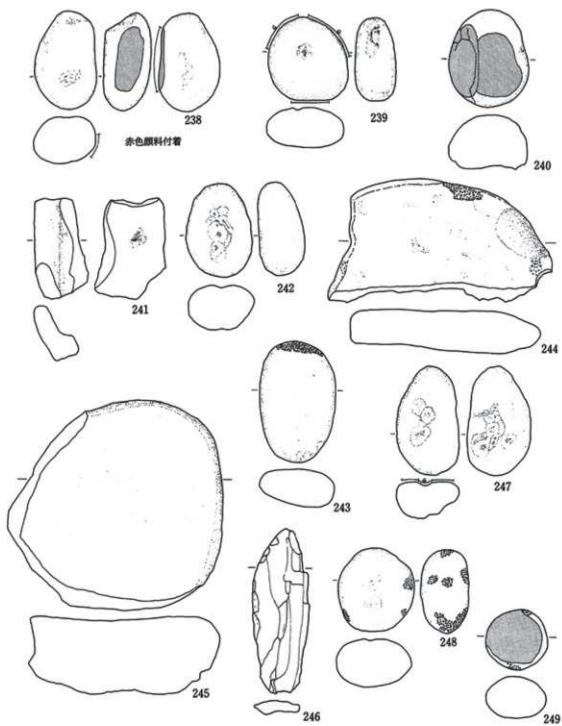
第99图 中央部出土石器29



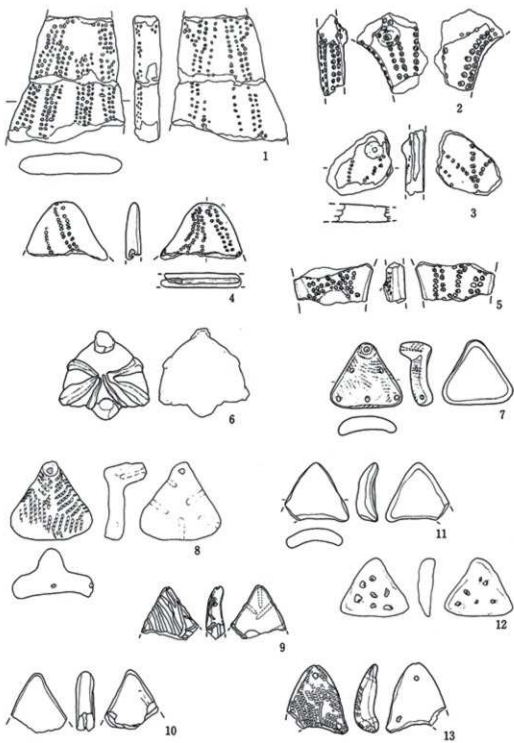
第100图 中央部出土石器(7)



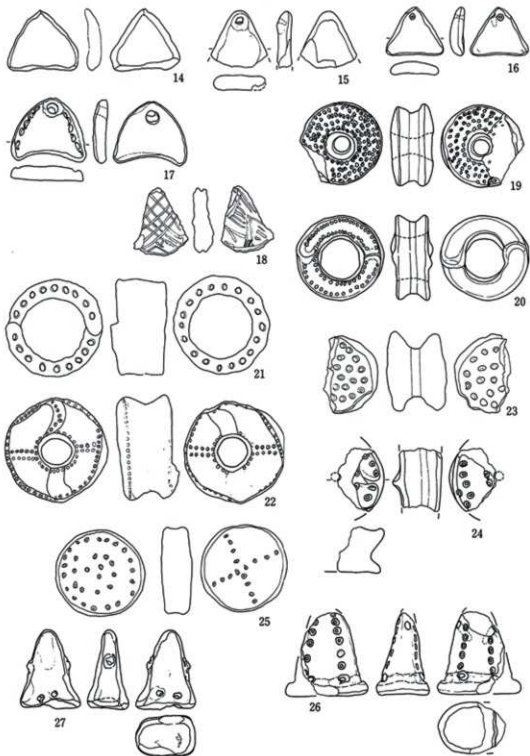
第101图 中央部出土石器②



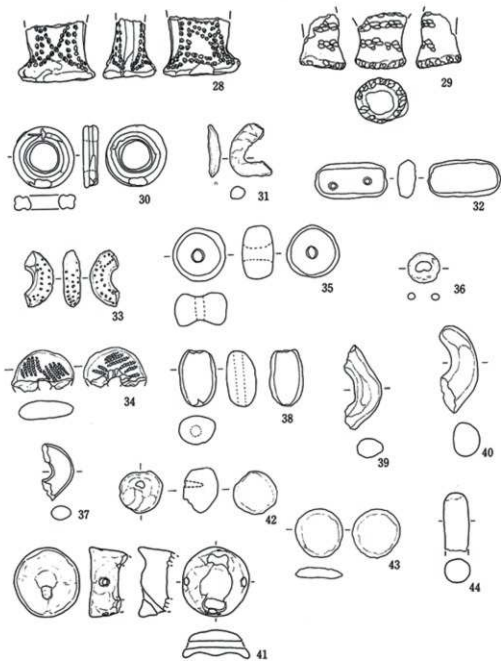
第102図 中央部出土石器29



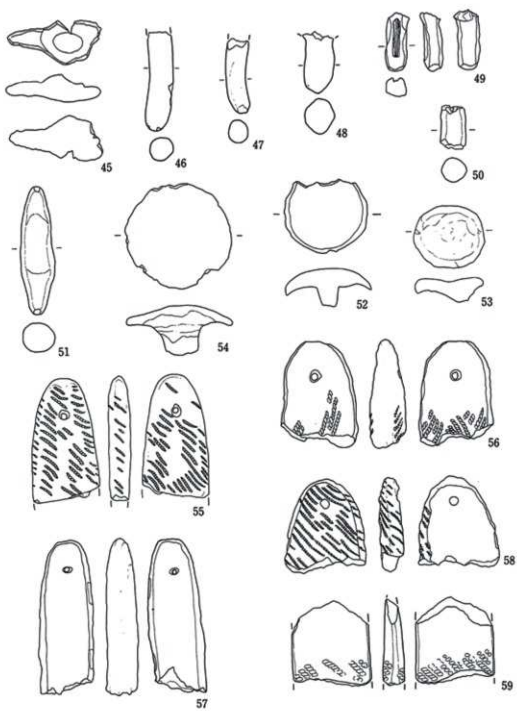
第103图 出土土製品(1)



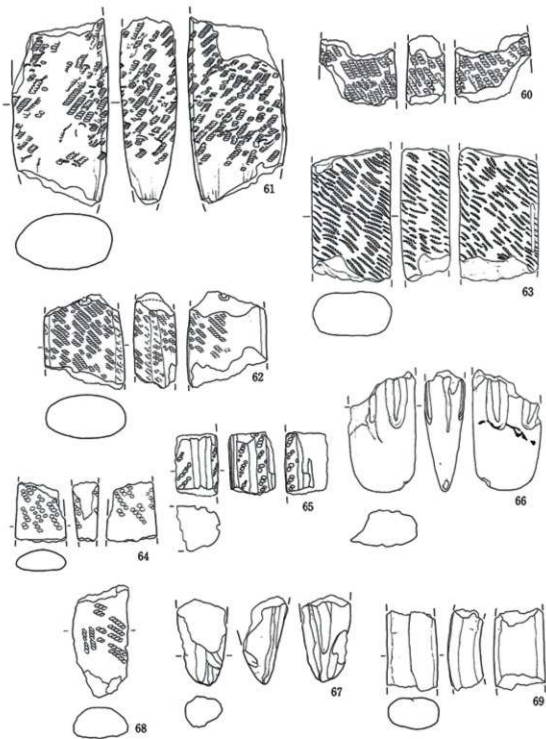
第104图 出土土製品(2)



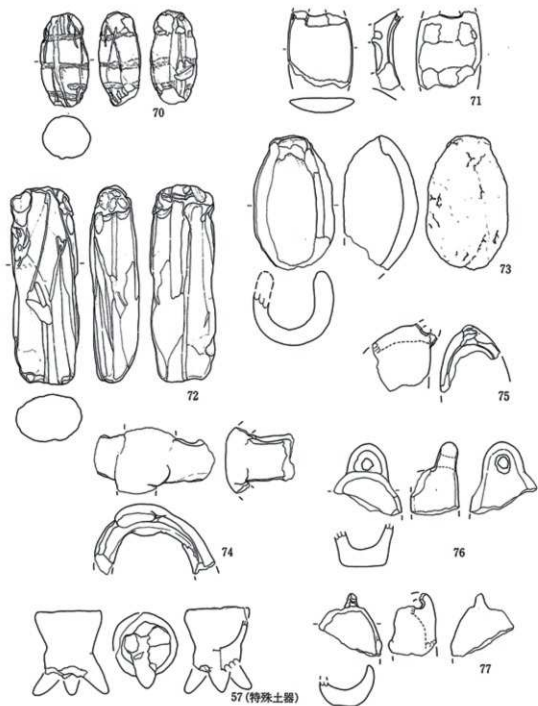
第105图 出土土製品(3)



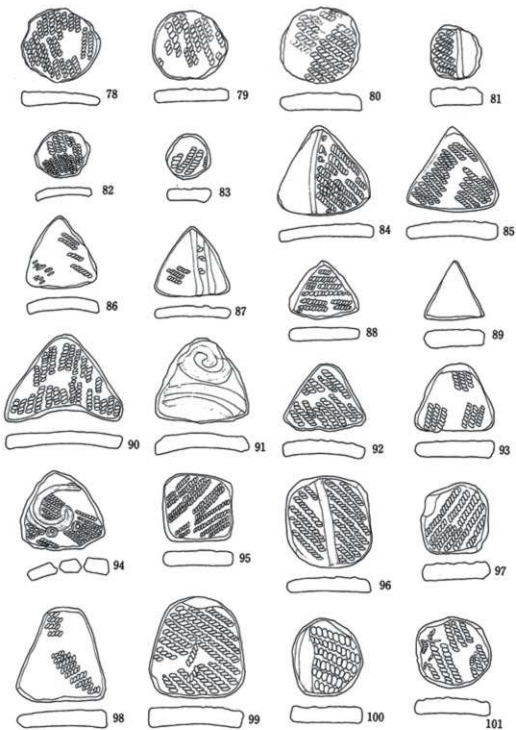
第106図 出土土製品(4)



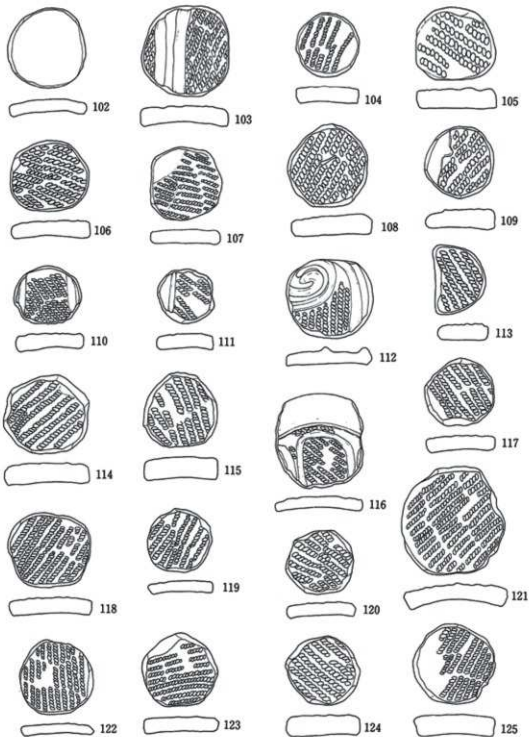
第107图 出土土製品(5)



第108图 出土土製品(6)



第109圖 出土土製品(7)



第110圖 出土土製品(8)



126



127



128



129



130



131



132



133



134



135



136



137



138



139



140



141



142



143



144



145



146



147

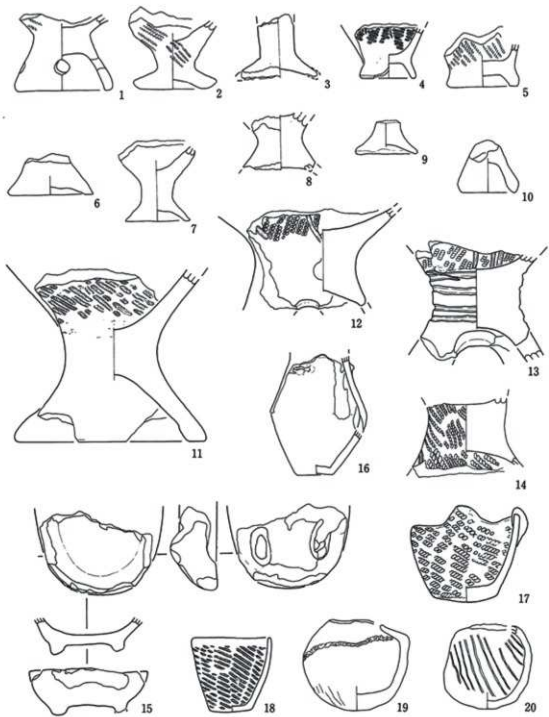


148

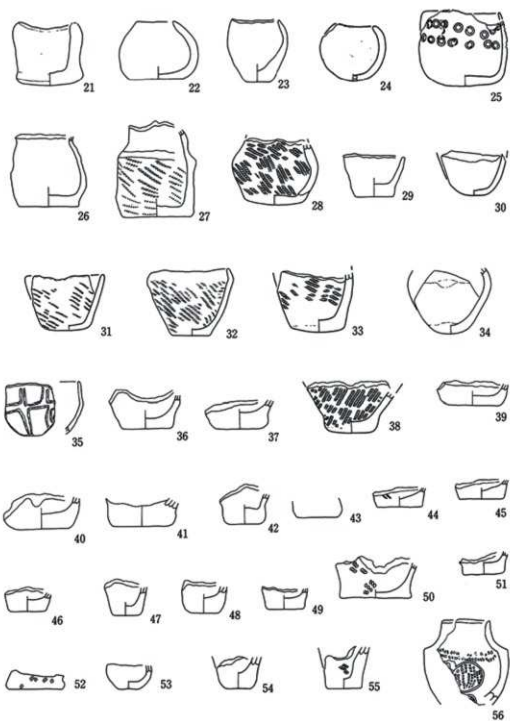


149

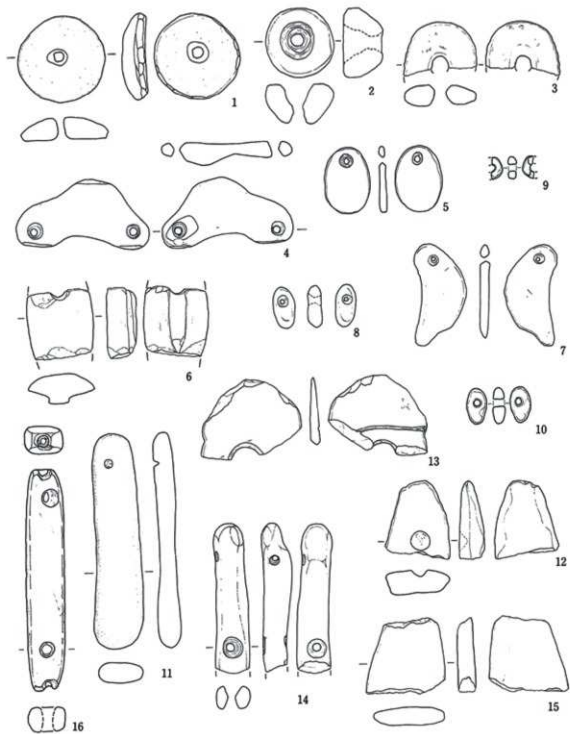
第111圖 出土土製品(9)



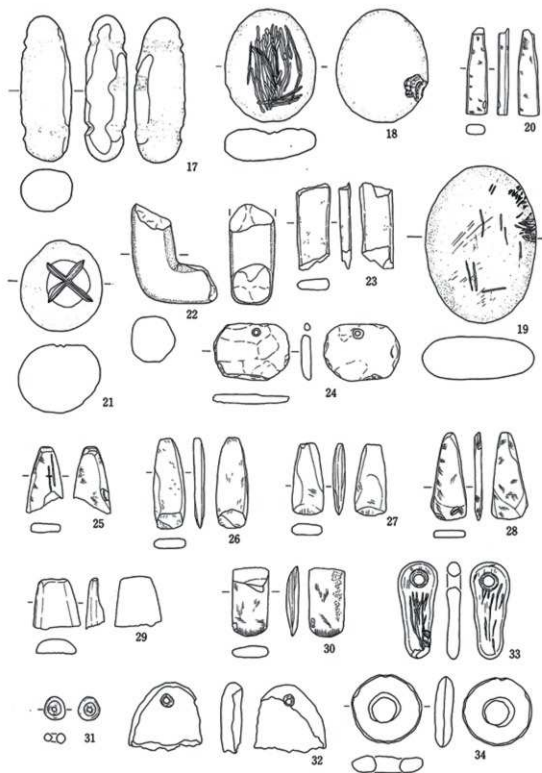
第112图 出土特殊土器(1)



第113图 出土特殊土器(2)



第114图 出土石製品



第115圖 出土石製品・小型磨製石斧

2. 東側調査区

東側調査区は各地区毎に地権者が異なっているため、I～IX区まで調査区を設定して調査した。全体の面積は、19,000㎡あるが、そのうち7,000㎡で遺構を確認している。

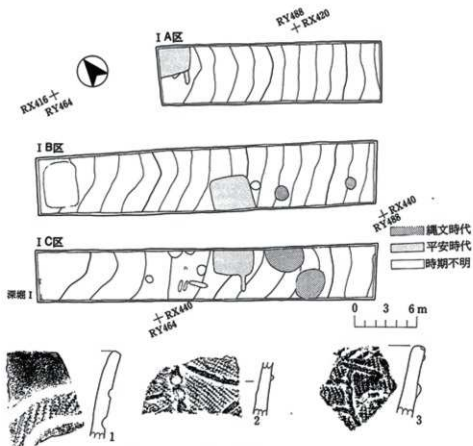
調査区内は、中央やや東南端がもっとも標高が高く、南北30m、東西60mの範囲がほぼ平坦になっているが、それから全体が東から西に緩やかに傾斜し、さらに南北にもそれぞれ傾斜している。各遺構は、平坦面ではⅢ、Ⅳa層を欠く例が多く、表土層やⅡ層を掘削した後Ⅳb層、更にⅤ層で遺構を確認しているが、特に北側の斜面では黒色土層が厚くⅣa層上面で検出している。西側斜面にも同じくⅢ、Ⅳa層が分布しており、このⅣa層上面での遺構検出は容易ではない。今回もⅤ区、Ⅵ区、Ⅶ区などは遺構の識別が難しく、何回もクリーニングを繰り返しようやく確認している。それに対してⅣA、ⅣB区はⅣb層からⅤ層で確認しており、比較的遺構検出は容易であった。

縄文時代と古代の遺構を検出しているが、縄文時代の土器はⅥC区で一部前期の土器が少量出土した他はいずれも中期後半の土器であり、中央部と西側調査区と同じ時期の遺構が東側にも広く分布している事が確認できた。遺構の大半は竪穴住居跡で、後述するように7,000㎡のなかだけで187棟に達している。竪穴住居跡以外では土壌を検出しているが、いずれも竪穴住居跡の周辺にあり、推定で70基程となる。以上の竪穴住居跡と土壌は、特にⅣ区の南側斜面に集中しており、同じ場所でかなり重複している。中央部の平坦面では、東寄りのⅢ区で比較的多いが、西側では徐々に密度が薄くなっている。

縄文時代の遺構は北側斜面から西側斜面にも分布しているが、南側斜面、中央平坦面に比較すると遺構数は少なくなっている。ところで東側調査区西側のⅧ・Ⅸ区では、縄文時代の遺構は極端に少なくなる。以上から中央部の集落と東側の集落は、区別して考える事ができそうである。竪穴住居跡のうち比較的重複がなく、しかも規模の大きいⅣA区のHD114住居跡とⅤ区のHB120住居跡の2棟を調査している。2棟はいずれも7～9mの竪穴であるが、東区にはそれより規模が大きく10mを越すものもある。一方径が2～3mの小規模な竪穴もあり、中央部や西側と同じような分布状況となっている。ただし中央部のように15m以上の特大な住居跡はほとんどないようである。

土壌は調査していないが、いずれも竪穴住居跡の周辺で検出している。フラスコ形土壌群やピーカー形土壌がほとんどであろうが、Ⅴ区のHB120住居跡の北側で掘立柱建物跡に伴う柱穴に類似した円形土壌3基を検出している。

土器はいずれも中期後半の大木8a式(円筒上層d・e式)から大木10式までで、他の調査区と同時代の土器が出土している。土器のほか石器、土製品、石製品や炭化した食物が4点、更にコハクなど特殊な遺物も出土している。



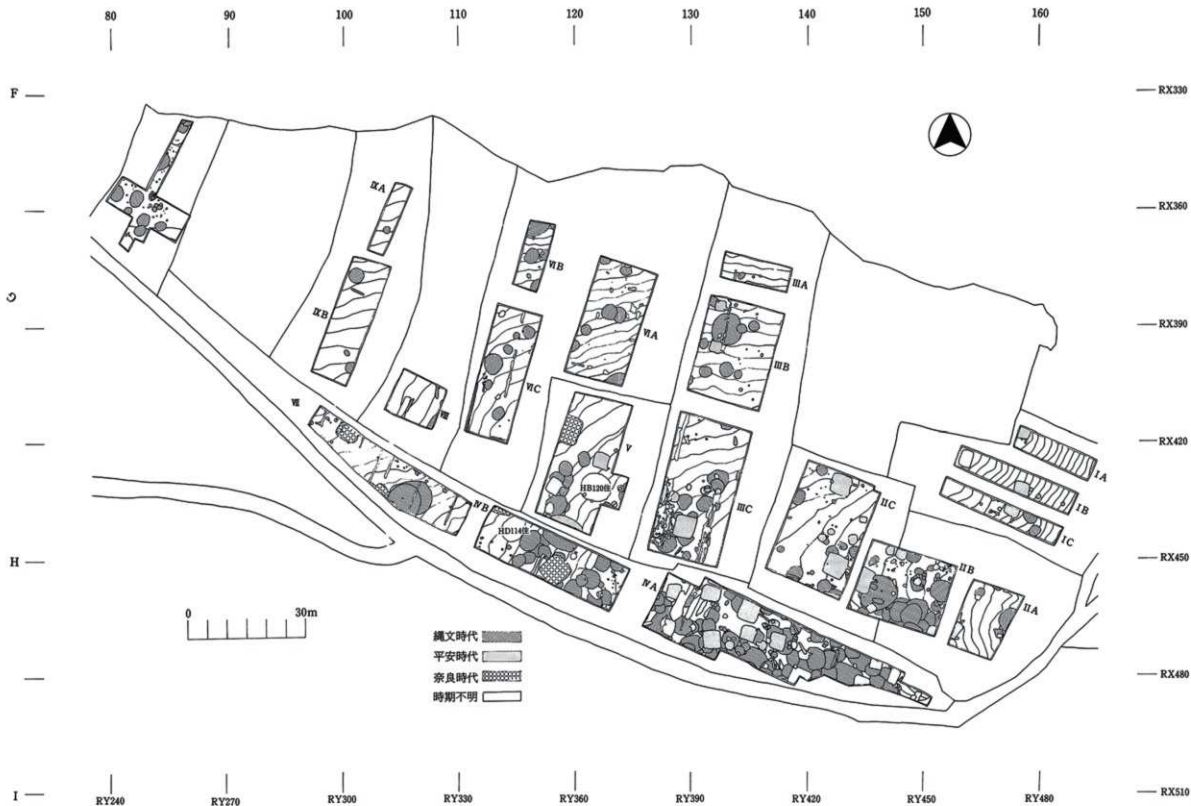
第116図 I調査区遺構配置図と出土土器

(1) I調査区 (第116図)

東側調査区の北東端に位置している。1,600 m²に3本のトレンチを設定した。調査した面積は500 m²であり、ほぼ3分の1で遺構を確認したことになる。調査区は東から西への緩斜面になっており、東側と西側では2~3 mの比高差となっている。したがって、検出面は西側で深くなり、西端での深さは70 cmである。調査区内の土層はI層からIV a層まで続いておりIV a層の中位で遺構を検出している。検出した遺構は、縄文時代の竪穴住居跡2棟、土壇2基、平安時代後半の竪穴住居跡3棟、その他時期不明の遺構がある。縄文時代の遺構は、基本層序IV a層で確認しているため識別が難しく、やや暗褐色がかかった埋土となっている。いずれも3~4 mの小型の住居跡である。土壇はB区で検出しているが、堆積土は竪穴住居跡とほとんど同じである。C区の西端に深堀を設定して調査したが、周辺は黒色土がもっとも深い場所であり、ローム層まで1 m 70 cmの深さとなっていた。

出土遺物 (第116図)

遺物は縄文土器が出土している。第II A群土器(2、3)、第V群土器(1)が出土している。2、3は隆線を貼り付け、胸骨文を施文している。原体はRL縄文である。1はLR縄文を沈線で区画し、その間を磨り消し曲線的な磨消縄文としている。



PL42 I 調査区



調査前の全景 (東側より)



全景 (東側より)



IC調査区 (東側より)



全景 (東側より)



IB調査区 (東側より)



IA調査区 (東側より)



深掘 (南北)



深掘 (東西)

(2) II 調査区 (第 118 図)

東側から A、B、C 区とした。II 区の総面積は 2,700 m²であるが、そのうち 1,200 m²を調査している。II 区はいずれも中央平坦面に相当するが、いずれも 1 層下に IV b・V 層の褐色土があり、検出面となっている。全体に北側が V 層、中央から南側が IV b 層が検出面となっているが、A 区は更に検出面が浅く、表土から 20 cm 程下で北側が IV b・V 層、南側には VI 層が露出している。

各調査区は A 区は東から西と中央から南にかけて幾分傾斜しているが、B・C 区は南端がやや低いほかはほぼ平坦である。なお A 区の 5~6 m 東側に山道があり、そのまま背後の丘陵に連続している。

縄文時代と古代の遺構を確認している。

古代の遺構は遺構内の火山灰土からいずれも平安時代後半以降のものと考えられる。A 区で竪穴住居跡 1 棟、土壇 1 基、B 区では竪穴住居跡 2 棟、竪穴遺構 2 基、土壇 15 基、C 区では竪穴住居跡 2 棟、土壇 5 基を調査している。

縄文時代の遺構は、A 区で竪穴住居跡 4 棟、土壇 2 基、B 区で竪穴住居跡 18 棟、土壇 19 基、C 区で竪穴住居跡 10 棟、土壇 11 基を検出している。各遺構は B 区から C 区にかけて密集しており、しかもその南側に多くなる。特に II 区の南側に位置する IV 区に縄文時代の遺構が多いことから B・C 区の南側に更に遺構が分布している可能性が高い。残念ながら間にビニールハウスがあり調査できなかった。

各竪穴住居跡の中には、B 区の HH 146-2 住、HG 146-2 住のように直径が 10 m 近いものも含まれているが、特に B 区の南側のように重複しているため規模が不明なものもある。ただ A・B 区の北側と C 区は、直径が 4~5 m やそれより小さいものも含まれており、他の調査区と同じく大型住居、中型住居、小型住居などが分布しているものと思われる。

土壇は円形と長楕円形のものがある。長楕円形の土壇は陥穴土壇と考えられるが、検出面での堆積土はいずれも II 層起源の黒色土でしかも IV 区で最も新しい竪穴住居跡を切っていることから時期が新しくなるであろう。

その他 C 区では 4 本の柱穴状のピットを検出している。あるいは掘立柱建物跡などの柱穴であろうか。

出土遺物

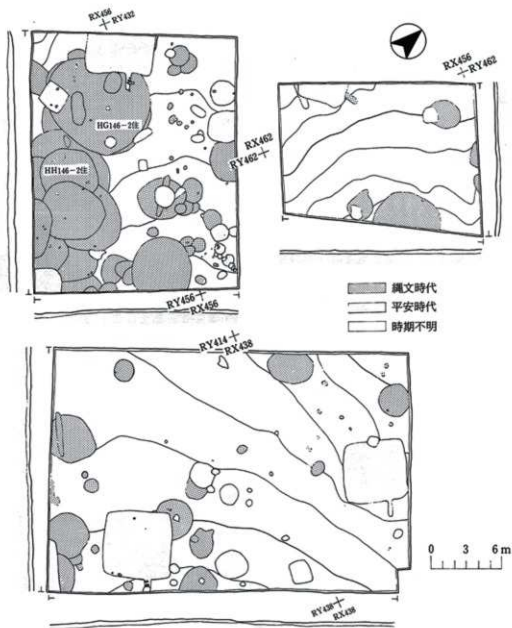
縄文土器、石器、土製品、石製品が出土している。

縄文土器 (第 119、120 図)

第 II A、IV、V 群土器が出土している。

第 II A 群土器 (40、41) いずれも LR 縄文で粗雑な粘土紐を貼り付けている。41 は突起部分に文様が施文されている。

第IV群土器(5、7~15、17) 縦方向に磨消縄文が施文される土器群であるが、5、7~8、14、15は小型の土器である。器形の判明しているのは少ないが、頸部でくびれ口縁部が外反するもの(7)、体部から口縁部まで直線的に外傾するもの(5)とがある。12、13は磨消部分に浅い刺突がある。



第118図 II区調査区遺構配置図

第V群土器 (1~3、16~27)

曲線的な磨消縄文施文の土器群で、地文の上を沈線で区画し、その間を磨り消す磨消縄文手法と区画した中に縄文を施文する充填縄文の両例ある。19は磨消部分の先端に「ヒレ」状の突起が付き、28は磨消部分に隆線を伴っている。器形は口縁部が外反するもの(21、22)とやや直線的に立ち上がるもの(16、27)とがある。地文はRL縄文が多いようである。

石器 (第145、146図)

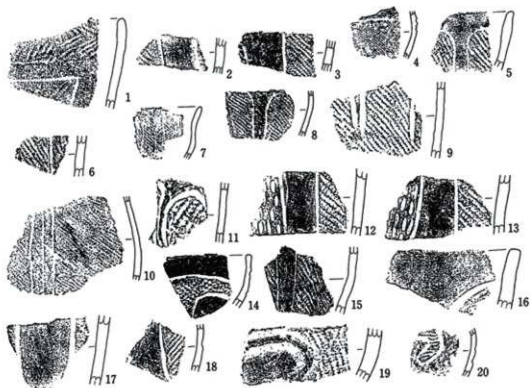
剥片石器は石鏃が1点、削器が1点づつ出土している。礫石器は磨石類、磨製石斧、石製円盤が出土している。

土製品 (第110図)

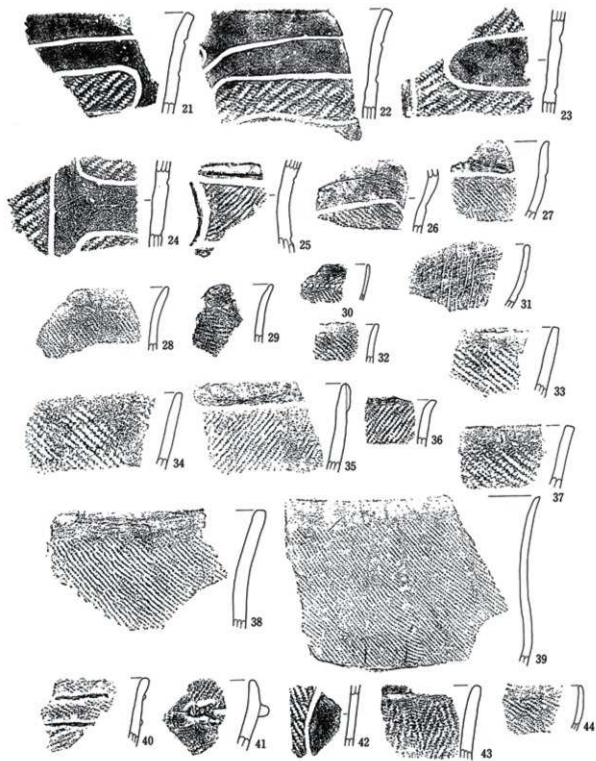
円盤状土製品が1点(104)出土している。HH 148の遺構検出面から出土しており、LR縄文の土器片を打ち欠いている。

石製品 (第114図)

翡翠製の大珠(6)が出土している。



第119図 II調査区出土土器(1)



第120图 II 調査区出土土器(2)

PL43 II調査区(1)



調査前の全景（東側より）



全景（東側より）



IIA調査区（北側より）



IIA調査区（北側より）



IIB調査区（東側より）



IIB調査区（西側より）



IIB調査区（東側より）



IIB調査区（北側より）

PL44 II調査区(2)



II調査区 (東側より)



II調査区 (東側より)



II調査区 (東側より)



II調査区 (北側より)



II調査区



現地説明会



現地説明会

(3) III調査区 (第121図)

III調査区は中央の平坦面から北側の斜面に位置している。北からA、B、C区とした。C区の南端とA区の北端では5mほどの比高差がある。検出面はC区の中央から南側でV層、北側がIV層、B区からA区にかけてIII・IV層となっている。従って検出面は北側で徐々に深くなっていく。総面積2,900㎡のうち3本のトレンチ合計で1,100㎡を調査した。

A区にはほとんど遺構はない。縄文時代の土壌を1基検出しているだけである。東側調査区の北側斜面では遺構数が減少してくるようである。

B・C区では、縄文時代と古代の遺構を検出している。

古代の遺構は、いずれも平安時代後半の可能性が強い。B区で竪穴住居跡2棟、土壌1基、C区で竪穴住居跡3棟、竪穴状遺構1基、土壌5基を確認している。

縄文時代の遺構は、B区で竪穴住居跡10棟、土壌2基、焼土遺構1基を確認している。

竪穴住居跡10棟のうち、GF132住居跡が8×7mの比較的大型の住居跡、その他は2~4mの小型の住居跡である。土壌2基はいずれも径80cmの円形土壌である。焼土遺構は、東南の壁際、III層で検出している。径40cmの焼土遺構である。なおGF132住居跡の南隣のGG134のIII層からクッキー状の炭化物が出土している。C区では竪穴住居跡14棟、土壌3基、焼土遺構1基を検出している。竪穴住居跡のうちHE126住居跡は6×5mと比較的大きいがその他はいずれも2~4mと小型である。土壌3基のうち2基は陥穴土壌と考えられる。焼土遺構は遺構検出面のV層上面にあり、20×30cmの焼土が残っていた。以上の縄文時代の遺構中に含まれる堆積土は、大半が褐色バミスを含む暗褐色土と黒褐色土であるが、V層以下の褐色ロームが逆転し混入している場合もある。

出土遺物

縄文土器、石器、土製品、クッキー状炭化物が出土している。

縄文土器 (第122図)

第II、III、IV、V群土器が出土している。

第II群土器 (1、2) いずれも胸骨文施文の土器群で、1は隆線と沈線、2は隆線を施文している。縄文原体はLR縄文である。

第III群土器 (3、5、33) 3は隆沈線による渦巻文、5は口縁部と体部の境に横位に連続刺突文を施文している。いずれも縄文原体はLR縄文である。33は体部上半を欠失しているが、隆沈線により渦巻文を施文している。原体はRLR複節縄文である。

第IV群土器 (6~22) 縦方向の磨消縄文施文の土器群である。区画は沈線で施文されるが、11は無文部に細い隆線を伴っている。磨消部分がやや広いもの (19、22、17) は少なく、やや幅の狭いものが多い。21は竹管状の刺突文を施文している。縄文原体はLR縄文とRL縄文の両

方ある。

第V群土器(23、24、25) 充填縄文施文の土器群である。縄文原体は23、24はLR縄文、25はLの擦糸文である。

石器(143図)

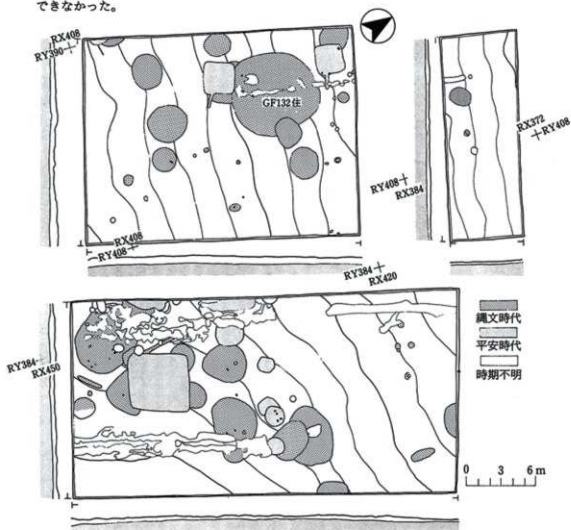
石鉄が2点(1、4)出土している。

土製品

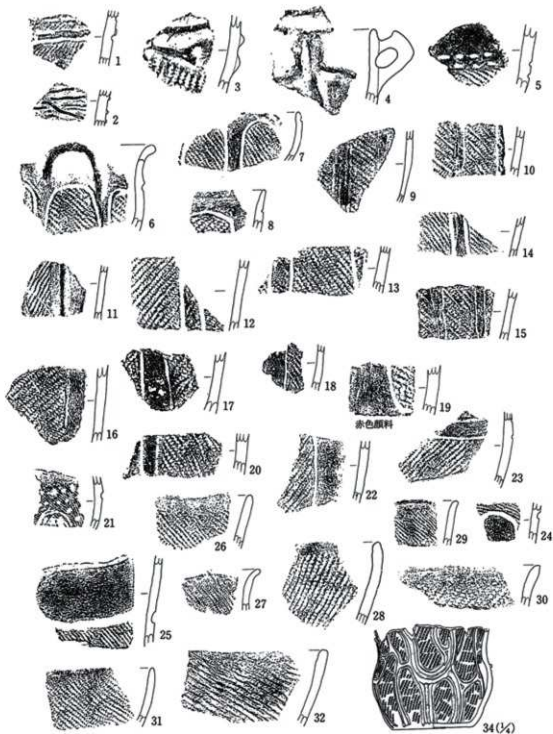
円盤状土製品がHC130の検出面から1点出土している。

クッキー状炭化物(V章、分析鑑定参照)

B区のほぼ中央付近から出土している。遺構に伴うものかあるいはIII層に含まれるのか確認できなかった。



第121図 III調査区遺構配置図



第122图 III調査区出土土器

PL45 Ⅲ調査区



調査前の全景（南側より）



調査前の全景（南東側より）



Ⅲ調査区（南側より）



ⅢB調査区（南側より）



ⅢA調査区（南側より）



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態

(4) IV調査区 (第123図)

今年度調査した東側調査区で最も遺構が密集している。東側をA区、西側をB区としている。A区は緩やかな南側斜面、B区は東から西への緩斜面に位置している。いずれも表土から検出面まで20~30cmと浅く、A区ではV層、B区ではIVb~V層が検出面となっている。

検出した遺構は縄文時代、奈良時代、平安時代後半、中世の4時期にわたっている。縄文時代の遺構はA区では竪穴住居跡、土壌を確認しており、もっとも遺構が密集していた。確認した竪穴住居跡は65棟を数え重複しているものが多い。竪穴住居跡の中には径が10m近い大型住居跡も数棟含まれている。大型住居跡の堆積土は中央にII層起源の黒色土が堆積する例が多い事からかなり深いものと推測される。大半の竪穴住居跡は3~6mが多いようである。土壌は23基検出しているが、長楕円形の陥穴が9基、円形土壌が23基となっている。

B区でも竪穴住居跡と土壌を検出している。縄文時代の竪穴住居跡は22棟まで確認した。HD118住とHD114住が大型で、HD118住は東西9m60cm、南北6m、HD114住が南北7m80cm、東西5m86cmとなり、いずれも堆積土の中央にII層起源の黒色土が堆積している。

HD114住を掘り下げて調査したが、特に東側の壁が深く70cm程となっている。同じようにHD118竪穴住居跡も黒色土が全面に分布しておりかなりの深さとなるであろう。その他の竪穴住居跡は径3~6mの円形、あるいは楕円形である。縄文時代の土壌は4基確認しているが、いずれも直径1m程の円形土壌である。

出土遺物

縄文土器、石器、石製品が出土している。

A区

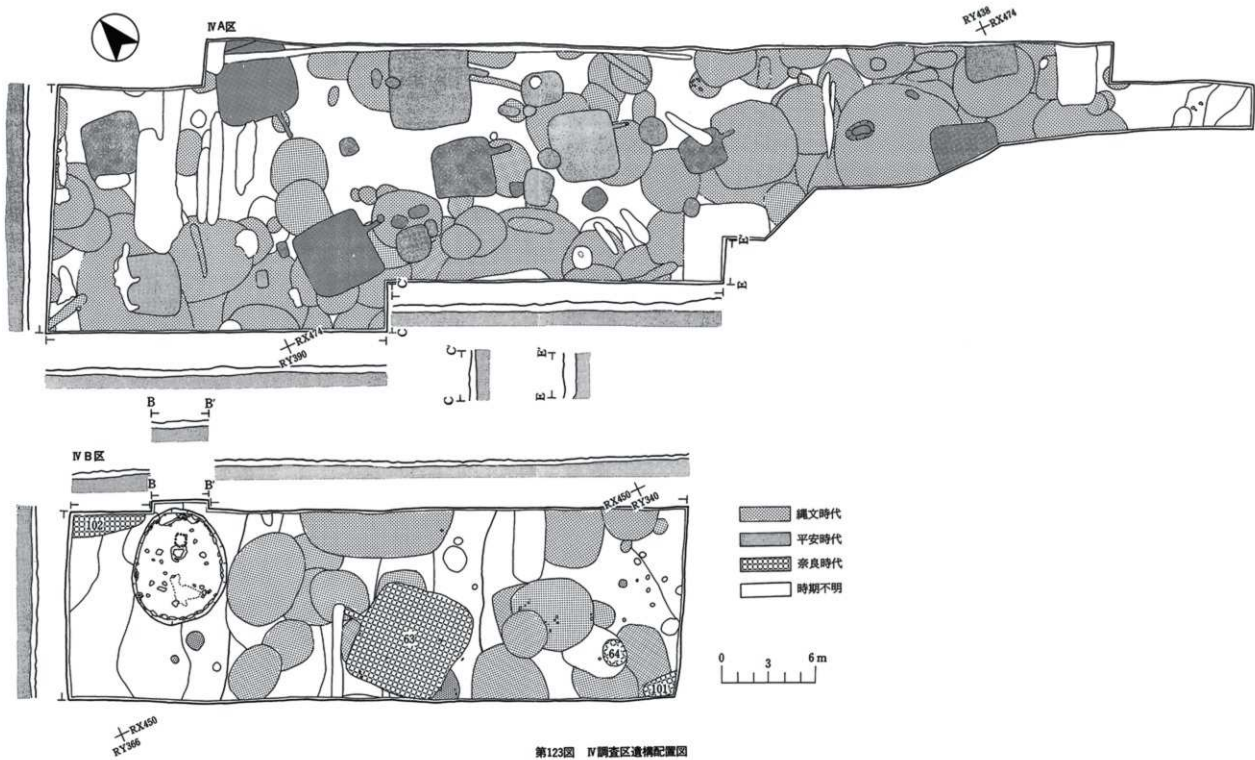
縄文土器 (第124~125、127図)

第II群土器、第III群土器、第IV群土器、第V群土器が出土している。

第II群土器(1~12) 体部文様が隆線文施文のもの(1~5、7、12)と隆沈線(11)、沈線(8~10)施文のものがある。6は口縁部突起に隆線を貼り付け縄文原体を施文している。貼り付けられる隆線文は、いずれも雑で貼り付け後の調整も顕著ではない。11は隆線に沈線を並走させているが、施文される沈線は第III群土器に比較して浅く、沈線と隆線の間を調整する事もない。原体はいずれもLR縄文である。8~10の口縁部にはヘラ状工具(10)や縄文圧痕(8、10)の刻みを入れている。

第III群土器(13~19) 隆沈線による渦巻文施文の土器群で、原体はLR縄文、RL縄文の両例があるが、RL縄文の方が多い。

第IV群土器(20~51) 沈線により区画し、その間を磨り消す磨消縄文施文の土器群である。20は磨消部分に隆線を貼り付けしている。破片のため詳細は不明であるが、磨消部分が広いも



第123図 IV調査区遺構配置図

のと狭いものがある。原体はLR縄文、RL縄文の両方ある。

第V群土器(52~66) 沈線で区画した曲線的な充填縄文施文の土器群である。56、57は先端部に「ヒレ」状の突起が付き、58、59は山形口縁の頂部から刺突文を伴う隆線を垂下させている。原体はLR縄文、RL縄文の両方あるがRL縄文の方が多い。

25は小型の鉢で、隆線を山形状に4個貼り付け、その間を沈線で区画している。第III、IV群土器に伴うものであろう。

第128図の56は体部が膨らみ頸部ですぼまる壺形土器で、4個の橋状把手が付き、口縁部は無文帯、体部には充填縄文による円形区画文を施文している。

石器

剥片石器は石鏃が12点、石匙が1点、礫石器は磨石類が出土している。

石製品(第116図24)

有孔石製品が1点出土している。

B区

縄文土器(第126、127図)

第III群土器、第IV群土器、第V群土器が出土している。

第III群土器(1~3) 隆沈線による渦巻文(1、2)とヘラ状工具の刺突文(3)施文の土器で、1は彩色土器で沈線に朱が残っている。2はLR縄文、3はRL縄文である。

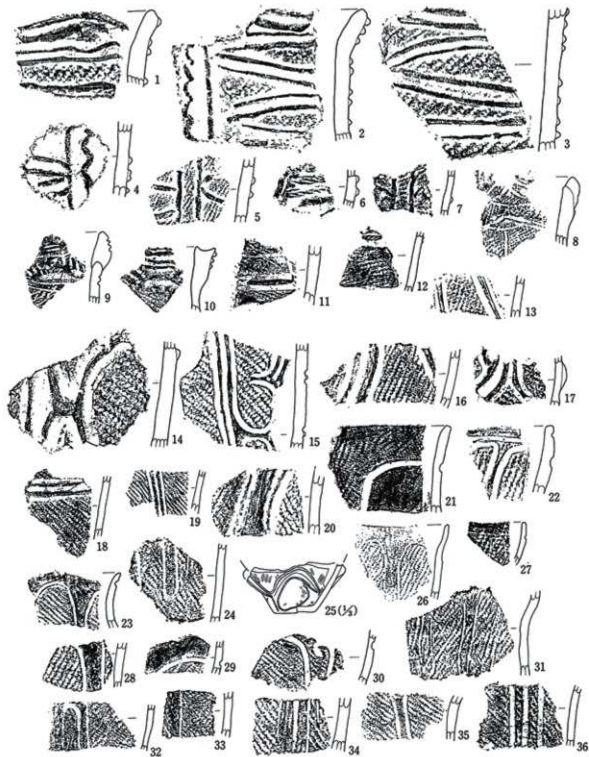
第IV群土器(4~35) 磨消縄文による縦位の楕円区画文施文の土器群で、4、12は無文部に隆線を貼り付けている。原体はRL縄文、LR縄文、更に6、29のようなRLR複節縄文も含まれている。

第V群土器(36~45) 直線的な方形区画文(36~39)と曲線的な区画文施文の土器群で、いずれも充填縄文により施文されている。40、41は先端部に「ヒレ」状の突起、36は口縁部内面に隆線を横位に貼り付けている。43、44も同じV群土器で口縁部に円形刺突文(竹管文)を施文している。

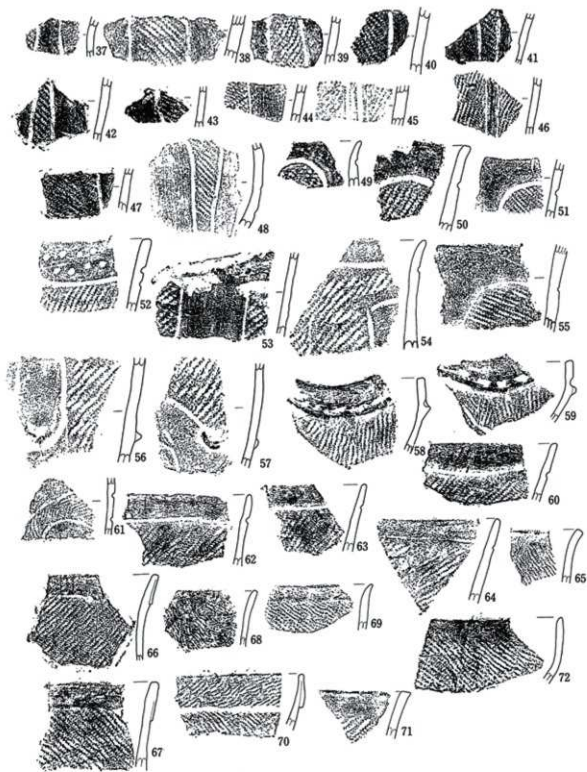
原体はLR縄文、RL縄文の両方あるが、RL縄文のほうが多くなっている。

石器(第143図)

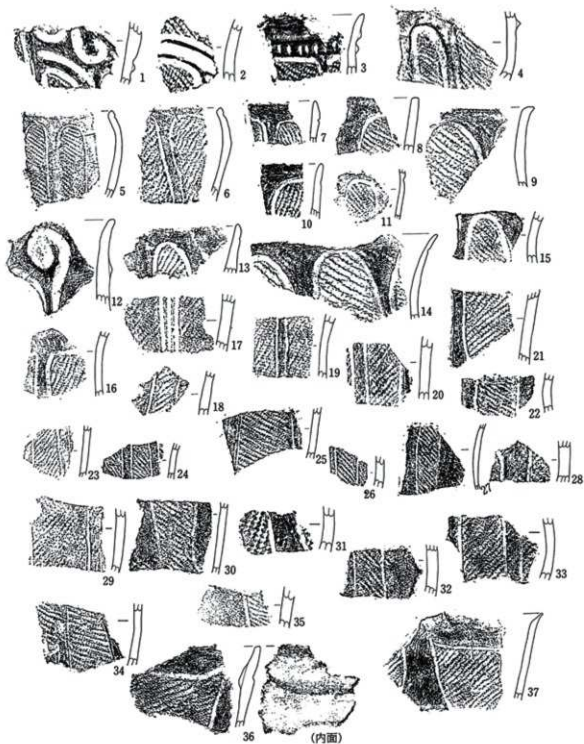
剥片石器は石鏃(2、5)、削器、礫石器は磨石類が出土している。



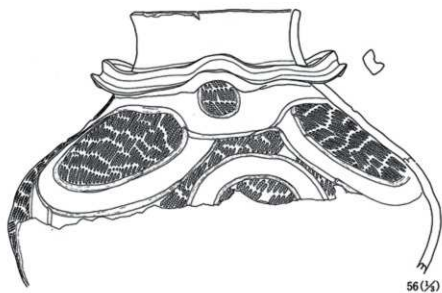
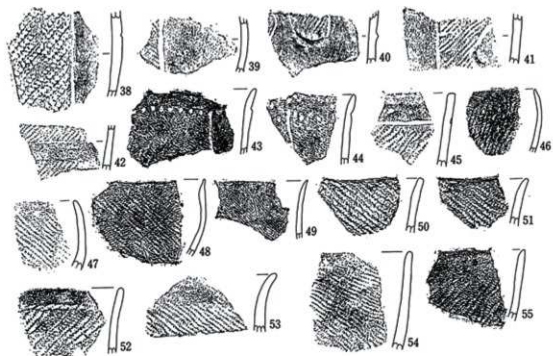
第124图 IV A调查区出土土器(1)



第125图 IV A调查区出土土器(2)



第126图 IVB调查区出土土器



第127图 IV A·IV B调查区出土土器

PL46 IV調査区



調査前の全景（東側より）



IV調査区（西側より）



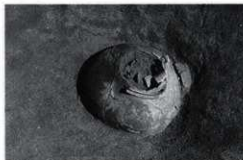
IV調査区（東側より）



IV調査区（西側より）



IV調査区（東側より）



遺物出土状態



現地説明会



現地説明会

HD 114 竪穴住居跡 (第 129 図、PL 47、48)

B 調査区の西寄りに位置している。南北 7.80 m、東西 5.86 m の南北方向に長い楕円形を呈するが、北側でやや細くなり卵形に近くなる。竪穴の検出面は東側がⅢ層、西側はⅣ a 層で、Ⅱ層起源の黒色土の存在から遺構を確認できた。ただ全体のプランは、Ⅳ a 層まで下げなければ判然としない。

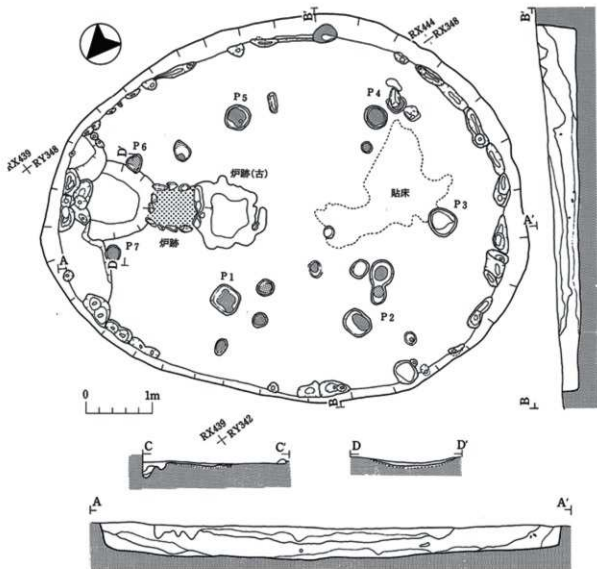
竪穴は東から西への緩斜面にあるため、残存する壁も東側で深く西壁で浅い。最も深い東壁で 70 cm を測り、徐々に浅くなっている。西壁の中央では 22~23 cm となっている。各壁は西側は直立ぎみで、東壁のうちとくに南側では傾斜が緩やかになっている。東壁は自然層序のⅣ・Ⅴ層で黒褐色土と褐色土層、西側はⅤ層の褐色土層が壁となっている。

堆積土は次のように堆積している。

- 1層：黒色土、細粒、Ⅱ層起源の黒色土層と考えられる。鉱物粒を含んでいる。上下2層に細分できるが、下層の方が締まりが良くなっている。
- 2層：黒褐色土、粒子細かく、層全体が硬くしまっている。1 mm 以下の褐色パミス(中礫浮石)を多量に含んでいる。下層には黄褐色ロームが粒状に少量混入している。
- 3層：黒褐色土、粒子は細かいが2層よりかなり軟質である。場所により炭化材を含んでいる。床面はほぼ平坦であるが、多少東より西、南より北側が低くなっている。特に北寄りに位置する炉の周辺が低くなっている。竪穴南側の図に破線で表わした部分は、貼床の痕跡が残っている場所である。

北壁よりに位置する炉は、南北 80 cm、東西 72 cm の長方形の石囲炉で、南側に長さ 40 cm の大きめの石を配置している他、いずれも 20 cm 程の川原石を並べている。石は東側の3個が砂岩で、他はいずれもチャートを使用している。ところでこの炉から北壁にかけて深さ 10 cm 程の掘り込みがある。この掘り込み部分は上、下2層に貼床され、しかも硬く叩き締られている。炉南側には南北 100 cm、東西 90 cm に古い炉の痕跡が残っている。中央が暗褐色土と炭混じりの黄褐色土があり、周辺には褐色土混りの暗褐色土が入り込んでいる。暗褐色土の部分は、非常に柔らかい事から炉石の抜き取りの痕跡と考えられる。以上から炉は作り変えているものと考えられる。

壁溝は西側で一部途切れる外は全周している。周溝には溝からさらに深く掘られたピットを伴っているものがある。全体に壁の深い東側にしかなく、しかも等間隔に配置されていることから、土止め用の杭を打った痕跡とも考えられる。北壁際には周辺の周溝より深い 30 cm 程のピットがいくつか重複している。このようなピットは HB 120 竪穴住居跡でも検出しており、炉跡から続く掘り込みに伴う特殊な施設と考えられる。周溝の途切れる場所には、壁と床面の境が周辺より一段高くなっている A、B、C の箇所がある。そのいずれかが出入口の可能性が高い。



第128図 HD114竪穴住居跡

柱穴状のピットは16個程検出しているが、その規模や配置からP1、P2、P3、P4、P5、P6、P7の7本が主柱穴の可能性が高い。各ピットの計測値は次の通りである。P1、44×40 cm、P2、36×34 cm、P3、42×36 cm、P4、46×44 cm、P5、38×38 cm、P6、24×26 cm、P7、26×24 cmとなっている。北側のP6、P7がやや小さい外はほぼ35～45 cmのピットである。

各ピットの中では15～24 cm くらいの柱径を確認している。全体に竪穴の規模に比較して柱穴は小さいようである。各柱穴は掘り下げていないため不確実ではあるが、炉を作り変えている事から考えて柱穴も重複している可能性が高い。

出土遺物

遺物は縄文土器、石器、コハク、ベンガラが出土している。HB 120 竪穴住居跡に比較し遺物の量はさほど多くない。

縄文土器 (第 129 図)

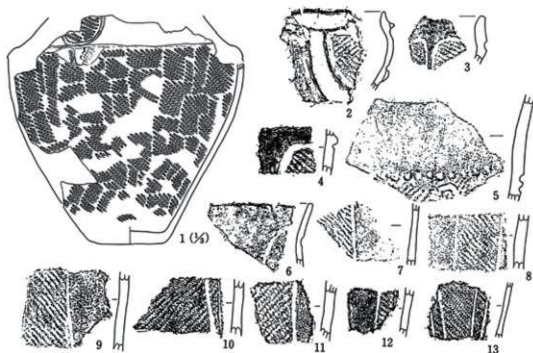
第III B、IV群土器が出土している。

第III B群土器 (2) 隆沈線が施文されている。

第IV群土器 (1、3~13) 1は体部上半に最大径があり、口縁部が内湾している。口縁部は外反するのであろうか。頸部から上に充填縄文により区画文を施文している。地文はRL縄文である。3も同じく充填縄文である。5は沈線文を縦位に施文している。4~6、13は磨消縄文による縦位の区画文を施文している。原体はLR縄文、RL縄文の両方ある。

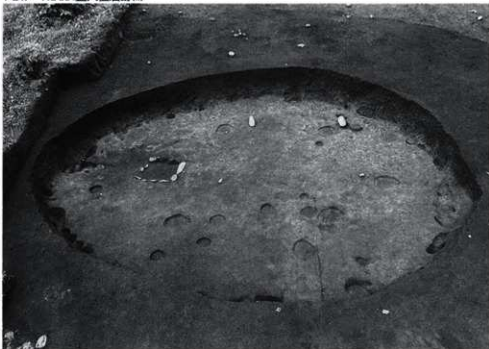
石器 (第 143、144 図)

剝片石器は石鏃が7点、礫石器は磨石類が1点出土している。



第129図 HD114竪穴住居跡出土土器

PL47 HD114竪穴住居跡(1)



全景 (西側より)



全景 (南側より)



遺物出土状態 (南側より)



土層セクション (東西)



土層セクション (南北)

PL48 HD114竪穴住居跡(2)



石囲炉



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態



現地説明会



現地説明会

(5) V調査区 (第130図)

中央の平坦面から西側への緩やかな斜面に位置し、調査区の南東と北東で1 m 50 cm程の比高差となっている。調査区の地質は、I層を除去するとIII層が露出する場所が多く、このIII層下、及びIV層の上面で遺構を検出面している。調査区の面積は、1,150 m²あるが、そのうち574 m²で遺構の確認をしている。

縄文時代から奈良時代、さらに平安時代後半の遺構を検出している。縄文時代の遺構は竪穴住居跡と土壌、奈良時代の遺構は竪穴住居跡、平安時代後半の遺構は竪穴住居跡と土壌をそれぞれ検出している。

縄文時代の竪穴住居跡は14棟確認している。いずれも調査区の南側に集中している。14棟のうち規模の大きいHB 120 竪穴住居跡を掘り下げて調査した。IV調査区との境には、東西に9.60 mのHC 118 竪穴住居跡を検出している。検出面での堆積土は内側にII層起源の黒色土があり、かなり深く掘られた竪穴住居跡と考えられる。

その他はHC 118 住が径5 mのほか、3~4 mの小さい竪穴が多く、それぞれ南西側で重複している。

土壌はHB 120 竪穴住居跡の北寄りですべて3基検出している。径70~80 cmの土壌で正方形配置となるのであろうか。掘立柱建物跡に伴う柱穴と考えられる。

出土遺物

縄文土器、石器が出土している。

縄文土器 (第131図)

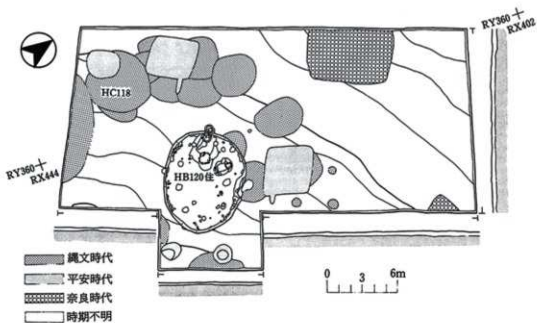
第III B、IV群土器が出土している。

第III B群土器 (1) 隆沈線による渦巻文施文の土器群である。1はキャリパー形土器の口縁部に隆沈線により山形文を施文し、山形文の先端に渦巻文が付けられる。原体はLR 縄文である。

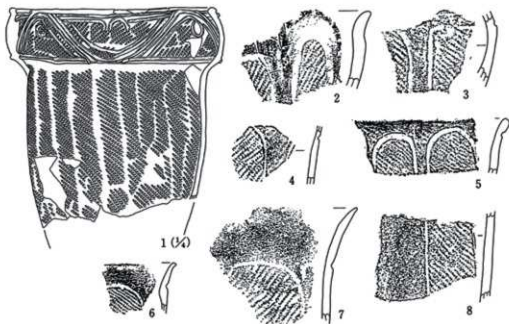
第IV群土器 (2~8) 縦位に磨消縄文が施文される土器群である。

石器 (第143図)

石鏃が6点、削器が1点、その他磨石類が出土している。



第130図 V調査区遺構配置図



第131図 V調査区出土土器

HB 120 竪穴住居跡（第 132 図）

V調査区の中央やや南よりに位置している。検出面はIV層で、遺構内の堆積土の周縁に褐色土が巡っていたため識別できた。竪穴は北側の HB 120-2 竪穴住居跡、HB 122 竪穴住居跡と重複しており、いずれも 2 棟の竪穴を切って構築している。

竪穴の規模は東西 8.40 m、東西 6.60 m の東西に長い楕円形である。壁溝は東側中央がもっとも深く検出面から 80 cm、西側ではしだいに浅くなり 50 cm 程となるが竪穴は全体に深く掘られている。ただ北西側だけは浅く 30 cm 程となっている。

竪穴内の堆積土は次の通りである。

1層：黒色土、細粒で層はやや硬くしまっている。1~5 mm の褐色パミスを含むこの土は大型住居跡の 1 層に共通する堆積土である。

2層：黒褐色土、同じく細粒で硬くしまっている。1~5 mm の褐色パミスを含んでいる。

3層：黒色土、やや粒子が粗く軟らかい。下面に暗褐色と黒褐色の混土、暗褐色と明褐色の混土がブロック状に混入している。以上の土には焼土、炭化物を多く含んでいる他遺物が多量に出土している。

4層：暗褐色土、やや粒子が粗く層も軟質である。褐色パミスを多量に含んでいる。

壁際に褐色土（V層）がブロック状に入っている。特に北側中央に多く、人為的に埋め戻されたものであろう。

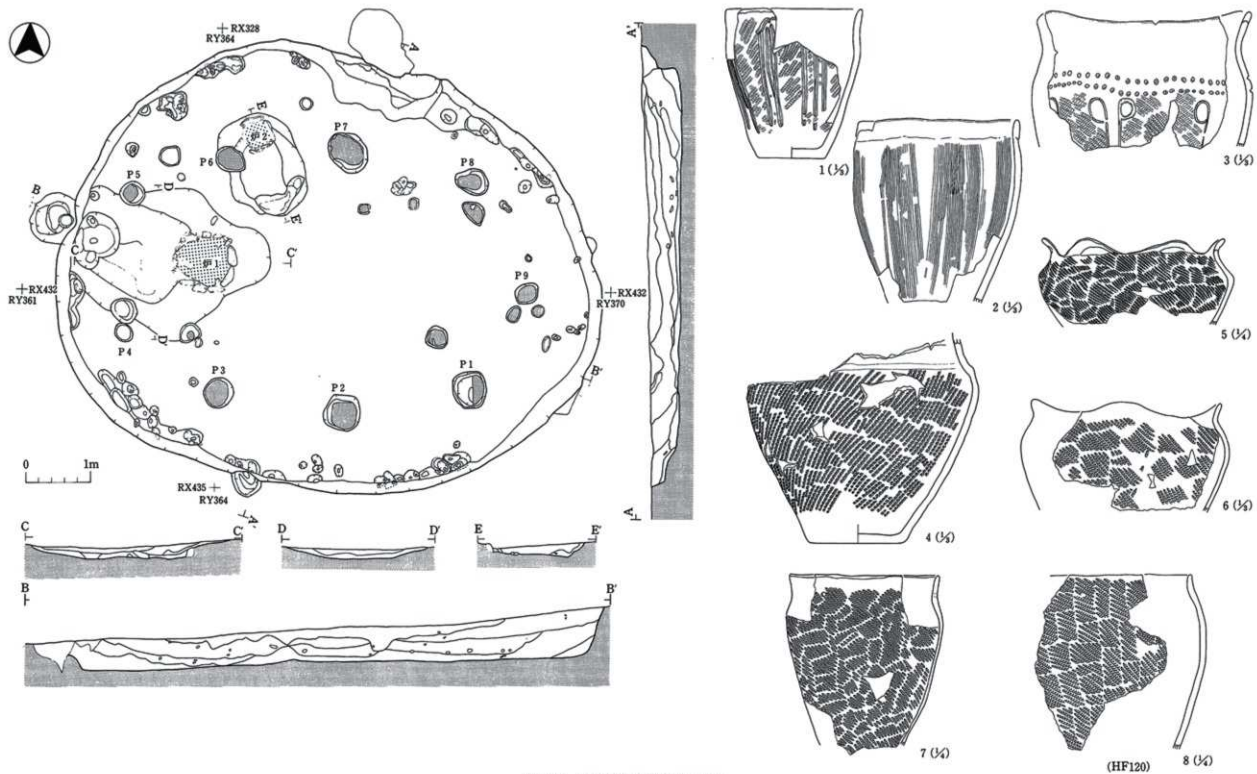
5層：黒褐色土、かなり軟質である。1~5 mm の褐色パミスを多量に含んでいる。

竪穴の床面は、IV・V層を叩き締めて構築している。西側がやや低いがほぼ平坦になっている。周溝は南側の壁際に部分的に小ピットが連続するだけである。壁が深くになっている東側では全くない。ところで北側中央は壁の立ち上がりか緩やかでスロープ状を呈する場所があり、しかもその面は硬く叩き締められている。あるいは出入口の施設であろうか。

炉は竪穴内で 2 基検出しているが炉 1 が本竪穴住居跡に伴うものである。炉 2 は掘り込みの上面が貼床の状態になっていた事と炉に伴う掘り込みの位置が壁とは反対の方向にある事から別の竪穴住居跡に伴うものと考えられる。

炉周辺はまわりより一段低く、最も低い場所で 20 cm 程下がっている。しかもこの掘り込みの底面は非常に硬く貼床された状態となっている。掘り込み面の奥には径 34 cm、深さ 10~20 cm の円形ピットがある。

石囲炉部分は南北 94 cm、東西 100 cm でやや東西方向に長くなっている。炉の中には全面に焼土が分布している。石質は北東側の 1 点だけが砂岩でほかは花崗岩である。埋土は上から 1 層・黒褐色土、2 層・暗褐色土、3 層・暗褐色土、4 層・黒褐色土であり、焼土、炭化物、褐色土を含んでいる。堆積土は炉と東側の掘り込みは同じ埋土となっており、掘り込み施設が炉



第132図 HB120整穴住居跡と出土土器

に伴うものである事を示している。

炉2も石罫炉の南方向に134×138 cm、深さ15 cmの楕円形の掘り込みを伴っている。この掘り込み部分は、ほぼ全面が貼床され、硬く叩き締められている。掘り込みの奥壁際には、幅15 cm、深さ10 cmの溝状のピットを伴っている。炉は48 cm×54 cmの方形の石組炉である。石質はチャートである。炉内の堆積土は、1層・黒褐色土、2層・暗褐色土、3層・暗褐色土である。2・3層はいずれも軟質であるが、1層は硬く叩きしめられている。この1層中にチップが多量に含まれていた。

柱穴状のピットは18個検出している。そのうちP1からP9までの9本が主柱穴と考えられる。なかでもP1～P3、P5～P8までの6個の柱穴は、掘り方や柱痕も比較的大きくなっている。以上の9本の柱穴の外はいずれも直径20 cm以下の小さいピットである。そのうちP1を半割して掘り下げた。堆積土は、1層・黒褐色土、2層・黄褐色土、3層・暗褐色土となり、1・3層中に炭化物を含んでいる。2層の黄褐色土は硬くしまっており、浅黄橙色土を含んでいる。

縄文土器 (第132、133図)

第IV、V群土器が出土しているが、第IV群土器が圧倒的に多い。

第IV群土器 (1～3、10～12、14～18、20～28) 磨消縄文による区画文と沈線文が縦位に施文される土器群である。1は3本の沈線文で縦位の区画文を施文している。原体はRL縄文である。その他の土器はいずれも磨消縄文による区画文を縦位に施文している。磨消部分は比較的狭いものが多い。3、28は口縁部に1～2条の連続刺突文を横位に施文し、口縁部は無文帯、体部に磨消縄文を施文している。いずれも深鉢で、体部から口縁部まで外傾するもの(24、15)もあるが、大半は頸部でくびれ、口縁部が緩やかに外反するものが多い。全体に器壁が薄く、焼成良好で褐色がかかった土器が多い。原体はLR縄文、RL縄文の両例ある。

第V群土器 (9、13、19) 充填消縄文が横位に施文される土器群である。19は口縁部に隆線貼り付け、その上下に刺突文を施文している。刺突文を伴う隆線文は口縁部から垂下したものである。13は彩色土器である。

第VI群土器 (2、4、5、6、7、8) III、IV群土器に伴う粗製土器であるが、大半はIV群土器に伴うものと考えられる。

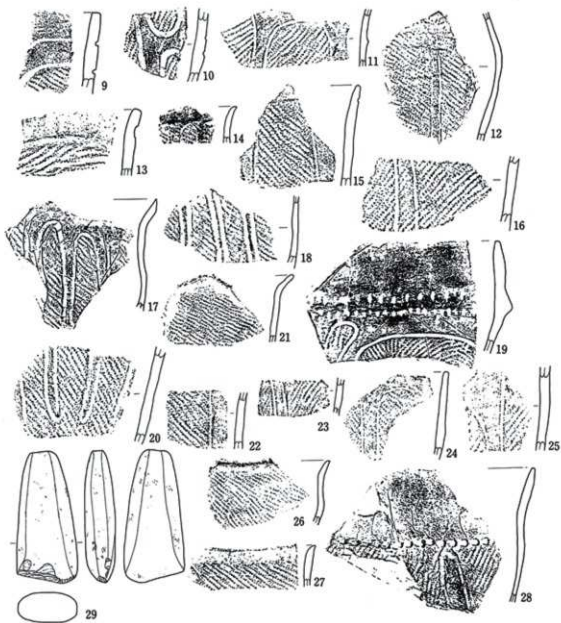
石器 (第134、135図)

剥片石器は、石鎌が21点、石匙が2点、石錐が1点、礫石器は石皿、磨石類、磨製石斧、台石が出土している。

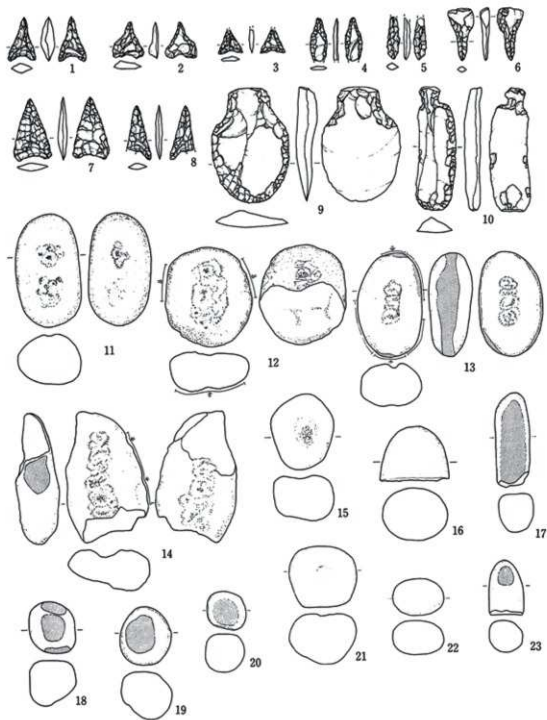
土製品 (第103～106図)

三角形土製品、棒状土製品、円盤状土製品が出土している。11は三角形の一端を欠いている。

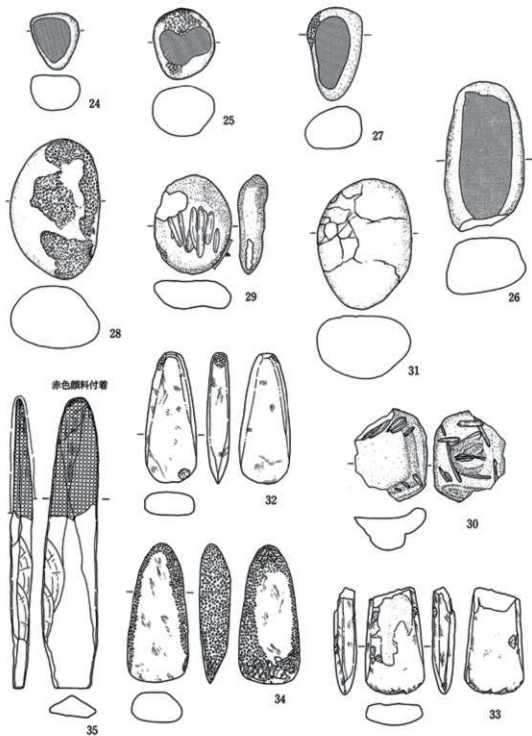
横断面形が内弯気味で無文の土製品である。判然としないが彩色している可能性が強い。15は
 両端を欠失している。残存している三角形の頂部に穿孔しているが貫通はしていない。同じく
 無文である。46は横断面形が円形の棒状土製品である。途中で欠損しているため全体の形状は
 不明である。



第133図 HB120竪穴住居跡出土土器



第134圖 HB120墜穴住居跡出土石器(1)



第135図 HB120竪穴住居跡出土石器(2)

PL49 HB120竪穴住居跡(1)



全景 (西側より)



全景 (西側より)



(西側より)



土層セクション (南北)



土層セクション (東西)

PL50 HB120竪穴住居跡(2)



No. 1 炉跡



No. 2 炉跡



炉土層セクション (南北)



炉跡周辺



炉土層セクション (東西)



炉土層セクション (南北)



遺物出土状態



遺物出土状態

PL51 HB120竪穴住居跡(3)



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態



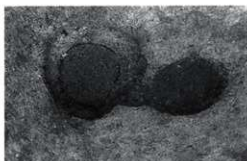
遺物出土状態



No 1 柱穴



No 9 柱穴



No 4 柱穴



現地説明会

(6) VI調査区 (第136図)

北側斜面の東側をA、B区、西側をC区とした。総面積は3,575㎡でそのうち1,008㎡を調査した。いずれも黒色土層が厚いためⅢ層、あるいはⅣa層上面で遺構を検出している。各調査区とも東南から北西にかけて傾斜しており、北側が1~2m程低くなっている。

縄文時代の遺構はA、B、C区で検出しているが、古代の遺構はB区の東側の壁際に竪穴住居跡の一部と煙道の煙出部を確認している。遺構中に灰白色の火山灰土が含まれている。

縄文時代の遺構は次のとおりである。

A区では竪穴住居跡7棟、土壇2基を検出している。竪穴住居跡のなかには、南東コーナーに推定で6mを越すものが1棟ある他はいずれも3~4mの小型の竪穴である。土壇2基は径1m程で長楕円形と円形の土壇が1基づつある。

B区はA区の北西よりに位置している。パイプハウスが西側にあるため、東西に7.5mしか調査できなかった。周辺は南から北への緩やかな斜面になっており、南側の斜面上ではⅣa層下、あるいはⅣb層上、斜面下の北側ではⅢからⅣa層の上面で遺構を検出している。

縄文時代の竪穴住居跡は5棟を数えている。北側のGA116住居跡が推定で径8~10m、その外は3~5mの竪穴である。GA116住居跡の中央にはⅡ層起源の黒色土層が堆積しておりかなり深い可能性が高い。他の遺構は暗褐色土、あるいは黄褐色土とにぶい黄褐色土の混土である。土壇は南側で1基検出している。長さ1.50×1.00mの楕円形の土壇である。

C区では竪穴住居跡6棟、土壇3基を確認している。その他調査区南側で遺構らしきものを確認しているが判別出来なかった。周辺からは前期の土器片も少量出土しており、あるいは前期の可能性もある。いずれ他の中期の竪穴住居跡とは堆積土が異なっている。以上の竪穴住居跡の中では、調査区中央に位置するGG110住居跡が比較的規模が大きく径4~5m、他は2~3mである。

出土遺物

縄文土器、石器、土製品、石製品が出土している。

縄文土器 (137、138図)

第Ⅳ群土器、第Ⅴ群土器が大半でその他第Ⅱ群土器かⅢ群土器に含まれる可能性のあるものが1点含まれている。

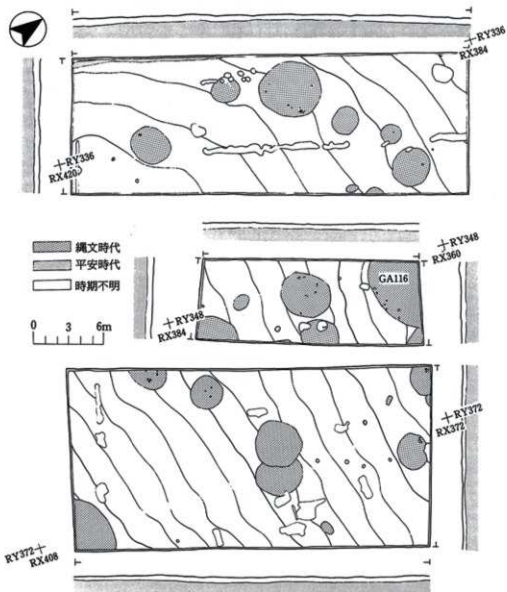
第Ⅳ群土器(1、2、8~16、23~25) 磨消縄文施文の土器群である。原体はLR縄文、RL縄文の両方ある。25は無文部に刺突文、1はLR縄文の上に沈線で懸垂文を施文し、沈線間は磨り消していない。7は小型の鉢で、頸部に刺突がめぐり体部は弧状に隆線で区画しその下を無文としている。

第Ⅴ群土器(3、17、26~39) 曲線的な充填縄文、磨消縄文施文の土器群である。3は彩色

土器で、頸部に橋状把手が付いている。26～34は充填縄文、35～39は磨消縄文である。

石器 (143図)

石鏃が2点出土しているが、そのうち1点(3)を図示している。



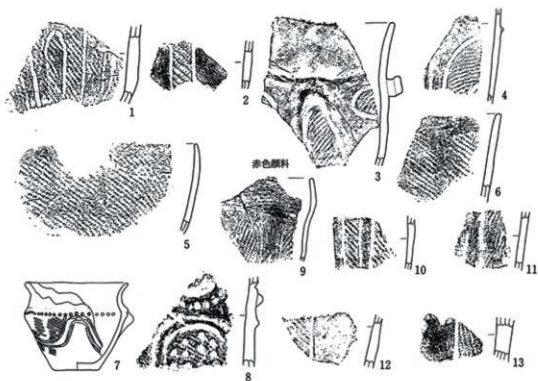
第136図 IV調査区遺構配置図

土製品 (104 図)

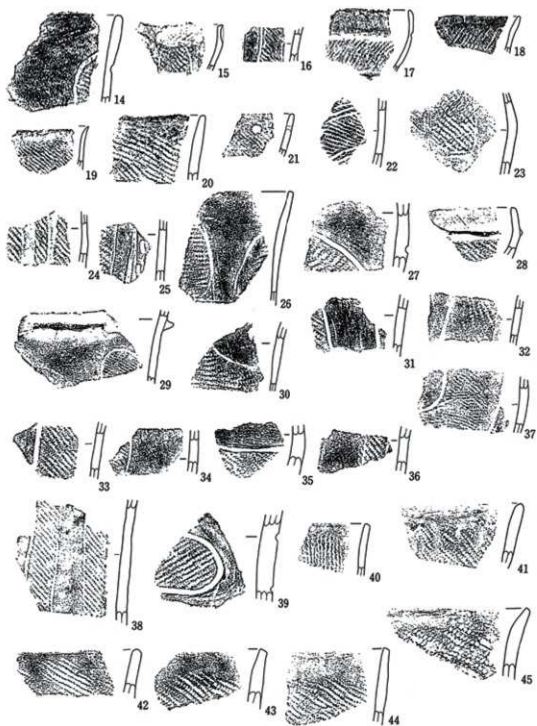
三角形土製品が 1 点 (16) 出土している。無文で頂部に穿孔している。

石製品 (114 図)

有孔石製品が 1 点 (11) 出土している。



第137図 IV調査区出土土器(1)



第138图 IV调查区出土土器(2)

PL52 VI調査区



VI調査区 (南側より)



VI調査区 (西側より)



VI調査区 (南側より)



VI調査区 (南側より)



VI調査区 (南側より)



遺物出土状態



遺物出土状態



遺物出土状態

(7) VII調査区 (第139図)

IV区の西隣に位置している。地表面は南東から北西に傾斜しており、調査区の南東隅が最も浅くなっている。表土から20cm下で遺構を確認しているが西側ではしだいに深くなり、北西端では50cmの深さとなっている。南東側ではIVb層、北西側でIII~IVa層が検出面となっている。

縄文時代の遺構は、竪穴住居跡5棟、土壇3基、焼土遺構1基を検出している。竪穴住居のうち、中央から東寄りで検出したHC104住居跡とHC106住居跡は、いずれも規模が大きくしかも重複している。推定でHC104住居跡は径8.8mの円形、HC106住居跡は径10.3×8.4mの楕円形に近い。

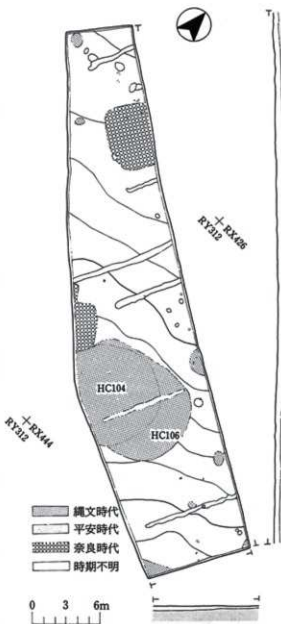
HC104住居跡の堆積土は、中央にII層起源の黒色土があり、周辺に黒褐色土と黄褐色土が混入した褐色土が堆積している。このような堆積土は、今年度調査したHB120、HD114竪穴住居跡と同じであり、この竪穴もかなり深い可能性が高い。

HC106住居跡は、部分的に褐色土や黒色土を含んだ暗褐色土で一致している。

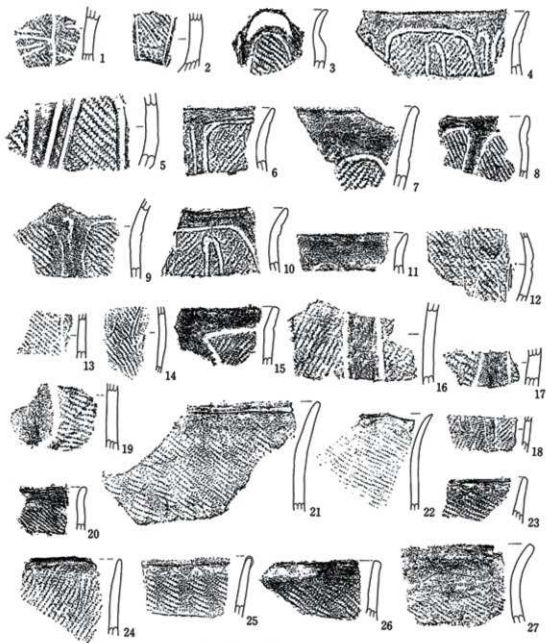
この2棟の竪穴住居跡以外は、いずれも部分的にしか確認していないため不明である。堆積土は各遺構によって異なるが、いずれも炭化物を多く含んでいる。土壇3基はいずれも1m内外の楕円形の土壇である。焼土遺構は東側中央で検出している。径80×50mの範囲に焼土が分布している。

出土遺物

縄文土器、石器、特殊土器が出土している。



第139図 VII調査区遺構配置図



第140図 W調査区出土土器

縄文土器 (第140図)

第II群土器、第IV群土器、第V群土器が出土している。

第II群土器(1) 体部の小破片であるが、RL縄文に懸垂文と弧状文の胸骨文を施文している。外面に煤が多く付着している。

第IV群土器(2~10、17~18) 口縁部が緩やかに外反する深鉢で、縦位の区画文が施文され

PL53 VII調査区



全景(東側より)



HC104・HC106整穴住居跡(北側より)



現地説明会

る。18は原体がRL縄文で、充填縄文による区画文を施文しているが、その他はいずれも磨消縄文である。原体はLR縄文とRL縄文の両方あるがLR縄文の方が多い。以上のIV群土器は器壁が薄く焼成良好な3、6、8、10、14と厚手の5、7、9とがある。前者の方が区画される無文部がやや狭く、後者の方が広がっている。9は無文部に「蕨」状の沈線を施文している。12はLR縄文に沈線で楕円区画文を施文しているが、その間は磨り消していない。胎土、焼成ともに薄手の土器群に酷似している。2は体部下半の破片で、詳細は不明であるが第III群土器の可能性もある。隆線文施文土器はほとんどないが、3は口縁部の突起部分に隆線を貼り付けている。

第V群土器(15、19) 15は充填縄文で方形区画文を施文している。胎土に砂粒を含んでおり摩耗も激しい。原体はRL縄文である。16と19は体部の破片で、第IV群土器、第V群土器のいずれか判断は難しいが、16はRLR複節縄文の磨消縄文、19はRL縄文の充填縄文である。16はIV群、19はV群の特徴により近い。

第VI群土器(20～27) 粗製土器である。口縁部が直線的に外傾する24、26と外反する20、22、27とがある。原体は24はRL縄文、その他はLR縄文である。

石器(第143、144図)

剥片石器は石鏃が5点、礫石器は磨製石斧が1点(148)出土している。磨製石斧は、定角式の磨製石斧で先端部を欠失している。欠失部分は打ち欠きによる刃部が形成されており、その先端に敲打痕が明瞭に残っている。先端部が破損してから再利用したのであろう。VII区の西端から出土している。

特殊土器(第108図57)

HC106 壑穴住居跡の検出面から出土している。三足の特殊土器で2本の脚部と体部の一部を欠いている。にぶい褐色を呈し、第IV群土器の薄手の土器と胎土、色調も酷似している。内外面ともに器壁を調整した以外に文様の全くない土器である。

(8) VIII・IX調査区 (第141図)

VIII区は、VI区とIX区の間位置するが、その南端の一部を調査した。検出面はIV a層上面で表土から50 cmの深さとなっている。縄文時代の竪穴住居跡を2棟、陥穴土壇を2基検出している。いずれも全体は判明せず、規模等も不明である。ただ堆積土は、竪穴住居跡が暗褐色土なのに対して、陥穴土壇は黒褐色土であり異なっている。

IX区はVIII区の西隣に位置している。北側をA区、南側をB区としたが、検出面はIV a層、検出面からの深さは40 cm程となっている。いずれも縄文時代の遺構を検出しているが、A区は土壇を1基、B区では竪穴住居跡を2棟、土壇2基を確認した。IX区は調査面積も少ないが、両調査区周辺では遺構は極端に少なくなっている。

竪穴住居跡2棟のうちGC 100住居跡は、径4 mの円形で、堆積土は炭化物を含んだ黒褐色土である。竪穴内から土器片がかなり出土している。GG 100住居跡は一部東側の未調査区まで分布するが、調査区内で確認した限りでは径3 m位の円形の竪穴住居跡である。堆積土は黒褐色土に暗褐色土が少量混入している。同じように堆積土に炭化物が混入していたため識別が容易であった。土壇3基のうち、A区の1基とB区の1基は、径1~2 m程の円形の土壇である。堆積土は、いずれも黒褐色土と暗褐色土の混合土で、炭化物を含んでいる。B区のもう1基は陥穴土壇である。

出土遺物

縄文土器、石器が出土している。

縄文土器 (第142図)

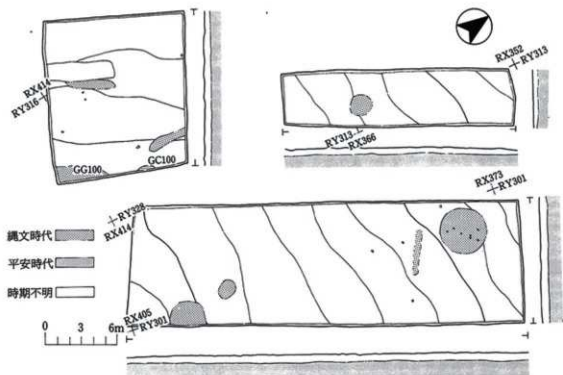
1、2はVIII区、3~9はIX区から出土している。以上の土器は、第三・IV群土器に相当する第三群土器(1) LR縄文に縦位の隆沈線を施文しているが、小破片のため詳細は不明である。

第四群土器(2~3、5~9) いずれも縦位の磨消縄文による区画文施文の土器群である。3、5は無文部の幅が狭く、5は沈線が3条施文されている。あるいは中の1本は懸垂文となるのであろうか。6、8は沈線間部の無文部の幅が広がっている。V群土器の可能性もある。原体は、RL縄文、LR縄文、更にLの懸糸文(7)もある。

第五群土器(4) 口縁部の突起部に刻みがあり、充填縄文で区画文を施文しているが、一部に竹管文を施文している。

石器

石鏃が2点出土している。



PL54 VII・IX調査区



VII調査区 (南側より)



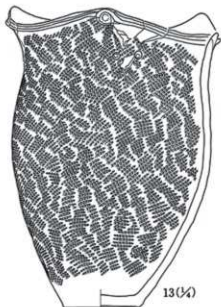
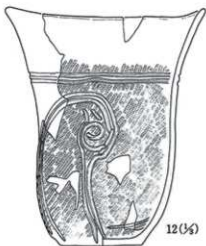
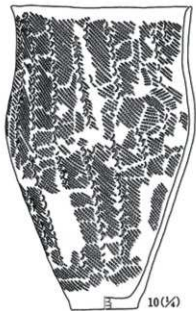
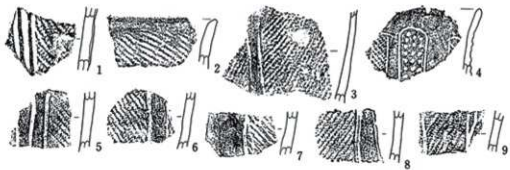
IXB調査区 (南側より)



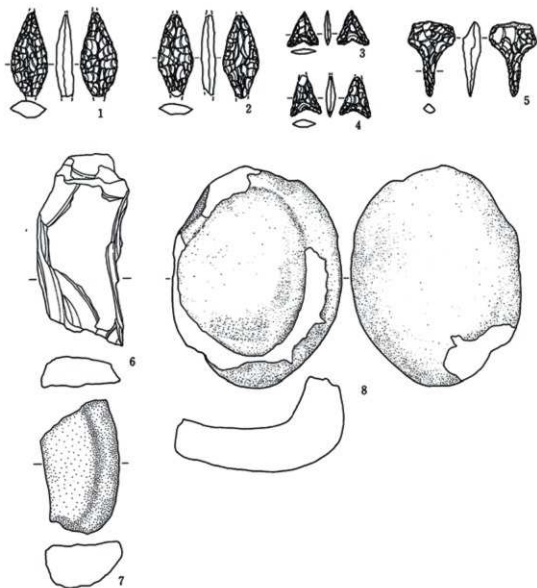
IXA調査区 (北側より)



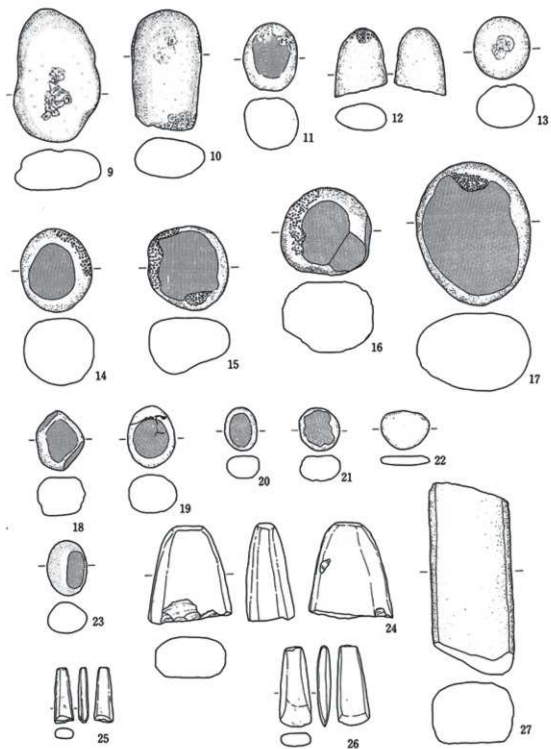
土層セクション



第142图 VII·IX調査区出土土器



第143图 东侧调查区出土石器(1)



第144图 東側調査区出土石器(2)

3. 西側調査区

RX 270 以北の畑地 15,000 m²のうち 10,000 m²を調査した。北側の松林となっている平坦面を除いたほぼ全域を調査している。

調査区の北端には中世の館跡に伴う堀跡があり、その北側は館を構築する際一部削平しており、現状でも東西から北側にかけて 1 m 程低い腰郭状の平坦面が巡っている。この館の部分と西側斜面の中央にある稲荷神社の境内が後世に削平されているが、その他は大きく現状は変えられていない。ただ北側の館内にトレンチを設定し調査したところ、縄文時代の遺構もそのまま保存されており竪穴住居跡を 3 棟確認した。そのうち CI 18-01 住を調査している。

西側調査区は中央が 20~30 m 幅の尾根状の平坦面となり、そのまま北西方向に伸び、更に北側まで続いているがその両側は緩やかな斜面となっている。

この平坦面を中心に縄文時代と古代、中世の遺構を検出している。古代は竪穴住居跡、中世は堀跡、掘立柱建物跡を検出しているが、古代の竪穴住居跡は中央部から東側斜面にかけて、中世の遺構は北側に限られている。その他時期不明の円形の溝状の遺構が西側斜面で 3 基重複している。堆積土から中世以降の遺構と考えられる。墳墓等に伴う周溝であろうか。

縄文時代の遺構も中央平坦面から東側にかけて密集しているし、西側斜面でも数棟が重複している。遺構には竪穴住居跡、土壇、埋設土器などがあり、土壇は竪穴住居跡の周辺に分布しており、埋設土器は西側斜面に限られている。

竪穴住居跡は調査区内で 40~50 棟を確認しているが、その中には径 10 m を越す大型住居址が 5~6 棟以上含まれているし、一方では 2~3 m のきわめて小さい竪穴住居跡もある。

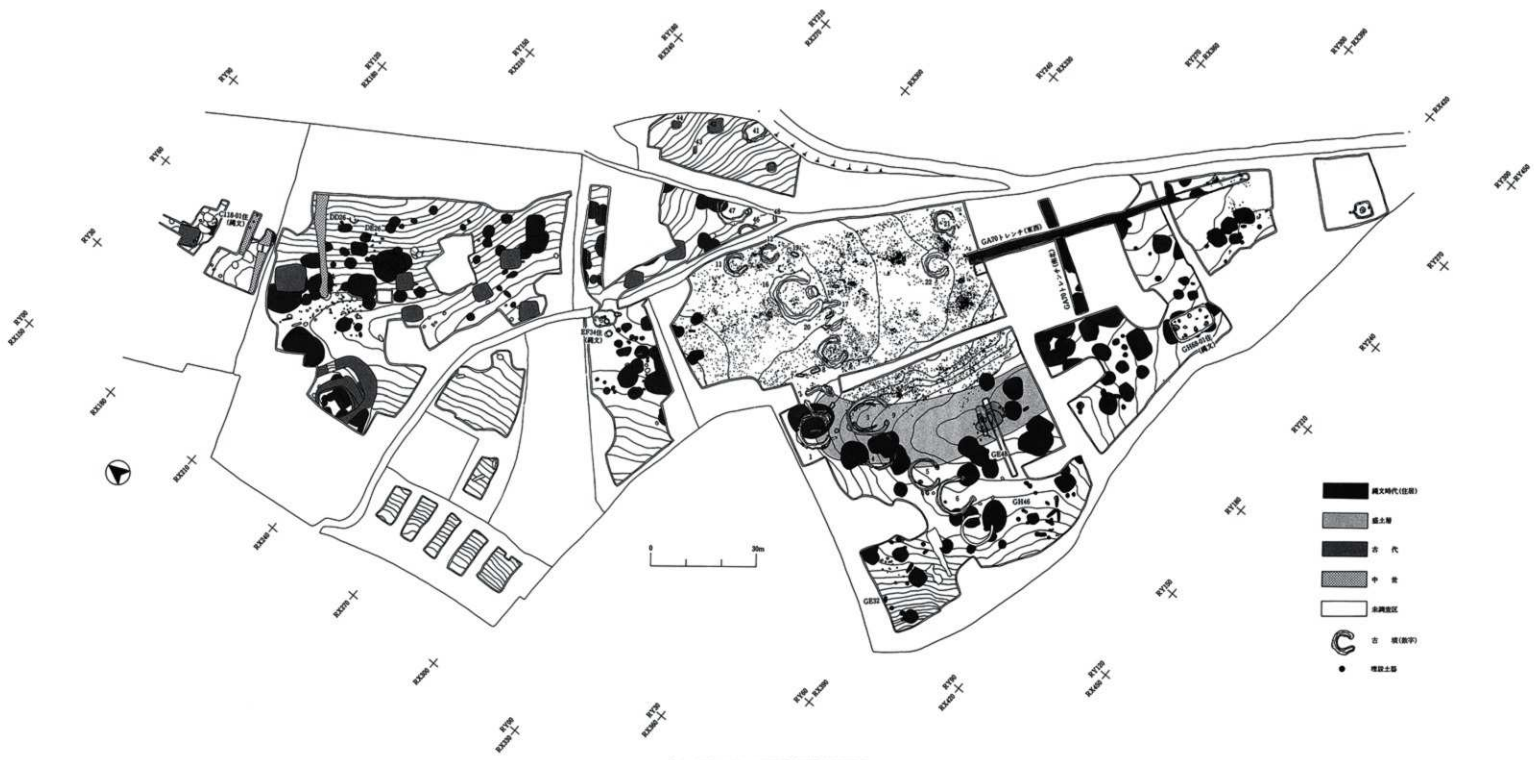
大型住居址の中には大型住居址どおしで重複しているものもあり、西側調査区にも大型住居跡を中心としてその周辺にほかの住居跡が分布するという集落の構成が明らかになった。なお西区では明確な配石遺構群は確認されなかった。

土壇は円形土壇と陥穴状土壇の 2 種類検出している。円形土壇は竪穴住居跡とともに中央から東側の斜面に分布しているが、陥穴状土壇は中央部から西側斜面に限られている。

埋設土器は、DD 26、DE 26 の 2 基検出している。

遺物は縄文時代中期後半の土器・石器等が出土している。土器は第 II 群土器から第 V 群土器まであり、中央部や東側調査区と同じ時期の集落が西側にも分布している事が明らかになっている。

なお西側調査区の西端は 10 m 程の段丘となっているがその下に馬場平遺跡がある。西側調査区の真下に相当する。



第145号中央部・西側調査区遺構配置図

(1) 竪穴住居跡

CI 18—01 竪穴住居跡 (第 146 図)

調査区北端の栗林中にあり、木の関係で遺構の全部は調査できなかった。東西 2.90 m、南北には不明であるが形態は円形あるいは楕円形を呈するものと思われる。堆積土は 1 層黒褐色土、2 層黒色土、3 層暗褐色土、4 層黒褐色土、5 層黒色土のように堆積し、部分的に周辺の遺構の残土と考えられる褐色ロームを含んでいる。

同じ時期の竪穴住居跡が西側にもあり重複するが、西側の住居跡の上に褐色ロームを埋めて構築している。

竪穴内の南側壁寄りに石囲炉がある。径 46×20 cm の楕円形を呈し、西側で一部石を欠いている。この炉の周辺と西側の壁寄り、更に北側の壁寄りに貼床した痕跡があり固く叩き締められている。また竪穴内では径 20~40 cm の柱穴を検出しているが、いずれも竪穴内の堆積土を掘り込んでいることから古代あるいは中世の館に伴う柱穴と考えられる。

出土遺物

縄文土器が出土している。

縄文土器 (第 147、148 図)

ほぼ完形品に近い土器が 4 点出土している。いずれも第 IV 群土器である。

7 は頸部がすばまり、口縁部が直立する平縁の深鉢である。体部下半から底部を欠いている。原体 LR 縄文を沈線で縦位に区画し、その間を磨り消す、磨消縄文の楕円形文を施文するが特に内面の頸部から下を丁寧に調整している。

8 は 7 と同じ器形で口縁部に半円状の小突起が付いている。体部上半から口縁部を一部欠いているため、突起の数は不明である。原体は RL 縄文である。内面の頸部に稜をもち、口縁部と体部を区別している。10 は体部上半で膨らみ、口縁部が内湾している。原体は LR 縄文である。特に内面の調整が顕著である。以上の 3 個の土器はいずれも色調は暗褐色で、胎土、焼成共に酷似している。

9 は小形の土器で、LR 縄文の地文を施文してから部分的に縦に磨り消している。によい褐色で、胎土は緻密である。

DD 26 竪穴住居跡 (第 146 図)

北よりの東側斜面下で検出している。南北に 1.46 m で東西方向は斜面下にあるため不明である。いずれかなり小型の住居跡である。

堆積土は次のようになっている。

1 層：黒褐色土 粘性はほとんどなく、硬く締まっている。黄褐色パミスと焼土、炭化物を多量に含んでいる。

2層：黒色土 粘性なく、やや硬く締まっている。小粒の炭化物を含んでいる。

床面は比較的軟らかく、堅穴内や外側で小ピットを検出しているが、堅穴に伴うのか否か確認できなかった。第147図3の土器の下で土器埋設炉を検出している。径15cmの小型の土器で中に焼土が残存していた。

出土遺物

縄文土器（第147図）

第II群土器（2、3） 2と3は床上から出土している。2は口縁部の突起と体部下半を欠損している。体部上半に隆線による胸骨文を施文している。縄文原体はRL縄文で、同じ原体は隆線上にも施文されている。胎土は砂を多く含み、やや粗雑である。

3は体部から口縁部までほぼ直線的に立ち上がり、口縁部に厚い粘土紐を貼り付け、折り返し口縁としている。口縁部から体部までLR縄文を施文し、さらに部分的に同じ原体を押しつけている。やや厚手の土器であるが、内外ともに丁寧に調整されており、焼成も良好である。

(2) 土 壇

円形土壇と陥穴土壇を検出している。いずれも検出しただけで下を調査していないが円形土壇は断面がフラスコ形、あるいはピーカー形の土壇と考えられる。堅穴住居跡の分布する中央平坦面から東側斜面で検出しており、20数基を数えている。

陥穴土壇は中央平坦面の北側で2基、西側斜面で3基確認している。いずれも1～2mの細長い土壇である。同じ土壇は東側調査区でも検出しているが、東側調査区では中期の最も新しい堅穴住居跡を切り込んでいる例がある事からやや時期が新しくなる可能性が強い。

(3) 埋設土器

DD 26 埋設土器（第146図）

北よりの東側斜面で検出している。第147図4が直立していた。第II群土器で口縁部に4つの山形突起を持つ深鉢で突起部分を欠失している。突起下には厚めの隆線を貼り付け、ヘラ状工具の刺突文を連続施文している。口縁部には同じく隆線を波状に貼り付け、体部にはLR縄文施文後突起の下に鉤形の懸鍾文を2本貼り付けている。色調は暗褐色で胎土は緻密である。

DE 26 埋設土器（第146図）

同じく北よりの東側斜面で検出している。DE 26 堅穴住居跡と接する位置で検出している。第148図11の土器を斜位に埋設している。キャリパー形に近い深鉢で、口縁部が膨らみながら内寄り、口縁部には突起が連続し、波状口縁としている。口縁部から体部まで隆沈線による区画文を縦位に施文しているが、部分的に磨消縄文により無文帯としている。頸部のやや下に横位に割れた痕跡があり、その部分に粘土を塗って補修した痕跡がある。縄文原体はLR縄文である。

DJ 36 埋設土器 (第 147 図 5)

南よりの東側斜面で検出している。DJ 36 竪穴住居跡と接する位置にある。頸部がくびれた深鉢で、口縁部の一部と頸部周辺を上下に切り取ったような状態で埋設されていた。頸部下の膨らんだ部分に隆線を貼り付け山形文としている。頸部には 3 条の沈線を横位に施文している。縄文原体は LR 縄文である。

(4) 西側調査区の出土遺物

竪穴住居跡以外の出土遺物について説明する。縄文土器、石器が出土している。

縄文土器 (第 147、148 図)

第 II A 群土器、第 II B 群土器、第 III 群土器、第 IV 群土器、第 V 群土器が出土している。

第 II A 群土器 (31~41)

口縁部に 4 つの突起をもつ円筒形の深鉢に胸骨文を施文した土器群である。体部文様には隆線施文のもの (32~35) と沈線施文のもの (37~39) とがある。32~35 は LR 縄文に粗雑な隆線を貼り付けている。32 は口縁部に厚い粘土紐を貼り付け、縄文を施文し複合口縁としている。同じく 33 も突起下に厚手の粘土を貼り付けている。

37、39 は突起下に隆線を貼り付け体部に沈線、38 は沈線だけ施文の土器である。縄文原体はいずれも LR 縄文である。

31 は口縁部に隆線を貼り肥厚させ、更にその上に波形に隆線を貼り刻みを施している。体部の隆線には沈線を並走させているが、第 III 群土器の調整した隆沈線とは明らかに異なっている。

40、41 は突起部分の破片である。1 は西側調査区の地権者がかって耕作した時に出土したもので、器高 56 cm とかなり大型の完形品である。口縁部に隆線を貼り付けた三角形の突起が付き、突起以外には縄文原体の圧痕による刻目、体部に胸骨文を施文している。胸骨文は突起下の懸垂文がへら状工具の刻目の付いた隆線で他は沈線を施文している。

第 II B 群土器 (30)

大型の浅鉢形土器の破片である。口縁部に隆線文による渦巻文 (剥落している) を施文している。縄文原体は RL 縄文である。

第 III 群土器 (27~29) 隆沈線施文の土器群である。27 は口縁部が内湾する浅鉢、28・29 は深鉢で、28 は体部から口縁部まで直線的に外傾、29 は頸部でくびれ口縁部が外反している。渦巻文、円形文、楕円区画文が施文され、縄文原体は 27・28 が LR 縄文、29 が RL 縄文である。

第 IV 群土器 (13~15、17~26) 磨消縄文による縦位の区画文施文の土器群である。26 は無文部に隆線を貼り付け、橋状把手が付いている。22 は沈線で区画しているが磨り消しを省略している。磨消部分の幅が広いものとやや狭いものがある。縄文原体には RL 縄文、LR 縄文の両方ある。

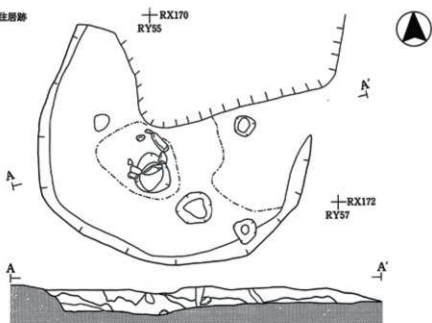
第V群土器（12、16） 充填縄文の区画文施文の土器群である。いずれも内外面の器面調整が顕著である。縄文原体はLR縄文である。

第VI群土器（6） 西側調査区の地権者が耕作中に出土したものとされ、口縁部から体部までLR縄文を施文した粗製土器の完形品である。器高40cmと大型の土器である。

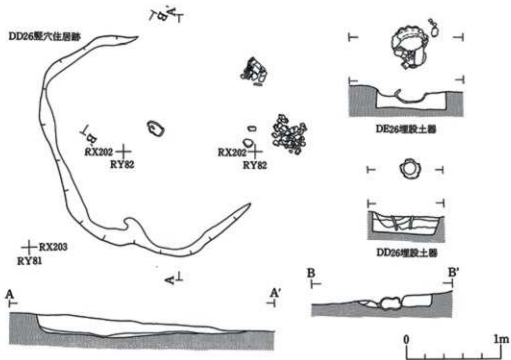
石器（第149図）

剥片石器は、石鏃（1～3）、石鏃未製品（4）、石匙（5～7）、礫石器は磨製石斧（8）、ブーメラン形石器（9）、磨石類が出土している。調査した遺構が少ない事と西側調査区が検出面まで非常に浅かったためか調査面積の割には石器の出土量が少ない。

CI18-01 竪穴住居跡



DD26 竪穴住居跡



第146図 西側調査区の遺構群

PL55 西側調査区の検出遺構群



全景 (南側より)



北東斜面 (東側より)



北西端 (南側より)



北側中央 (南側より)



北東端 (南東側より)



南東端 (北西側より)



南東EP40周辺



南西端 (北側より)

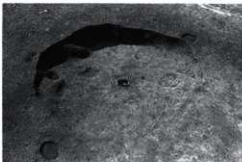
PL56 西側調査区の遺構と出土遺物



CI18-01 竪穴住居跡



CI18-01 竪穴住居跡出土遺物



DD26 竪穴住居跡



DD26 竪穴住居跡出土遺物



DD26 埋設土器



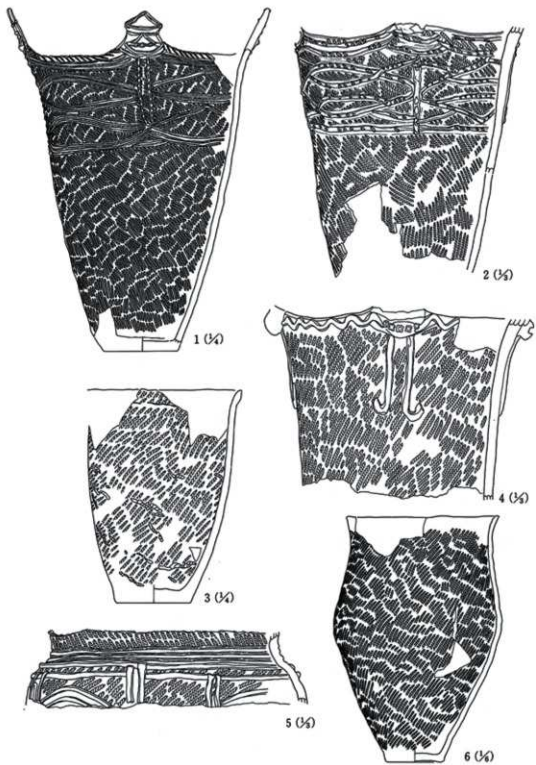
DD26 竪穴住居跡出土遺物



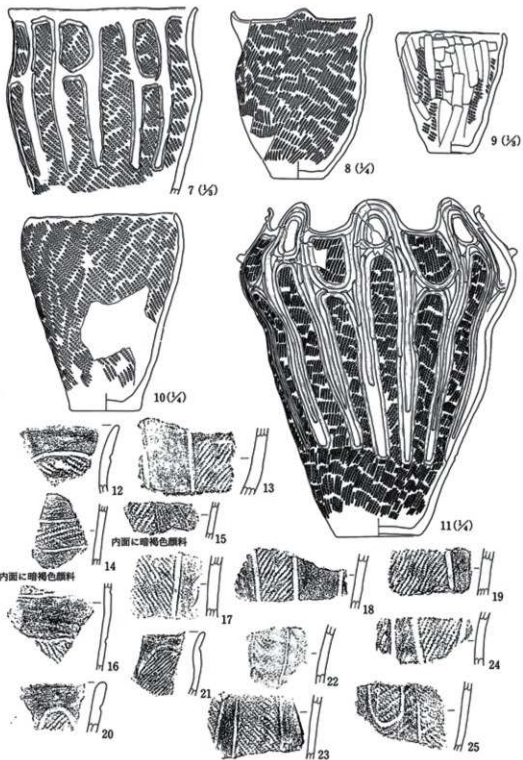
DD26 埋設土器



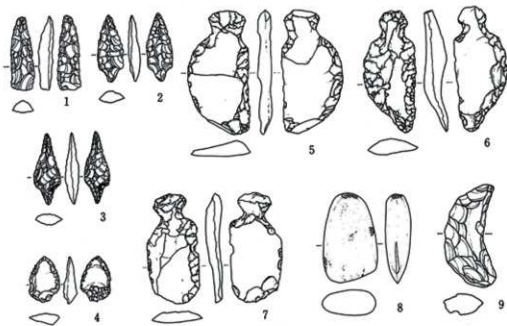
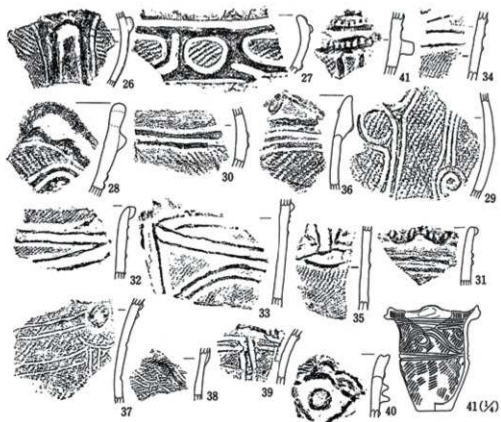
DD26 埋設土器



第147图 西例调查区出土土器(1)



第148図 西側調査区出土土器(2)



第149图 西側調查區出土土器・石器

4. 中期以外の土器 (第150~152図)

縄文時代の中期以外の土器は早期、前期、後期、晩期、更に弥生の各時期の土器が出土している。いずれも少量であり出土場所も限定されている。

早期 (1~19)

早期の土器はいずれも貝殻文系の土器群である。貝殻腹縁文、爪形文、沈線文が施文される。貝殻文系土器群でも後半の白浜式に併行する土器群である。いずれも中央部南側の中期の竪穴住居跡の分布地域から出土している。

前期 (26~87)

結節あやくり文、S字状燃糸文が施文される中葉の土器群(26~79)と体部に羽状縄文と口縁部に燃糸文を施文する末葉の土器(80~83)である。前者の結節あやくり文は、口縁部から体部にかけて数段横位に施文されており、円筒下層a式の直前に位置付けられる。S字状燃糸文は大木a式の特徴であり、同じく前期中葉の土器である。その他体部に縦線を含み羽状縄文となる土器群はそれより若干古くなる可能性がある。87は異条縄文施文の土器である。86の羽状縄文は円筒下層d式に伴うものである。以上の前期の土器は、東側調査区のVIC区、中央部南側の盛土層下のIVa層とその南側、西区の北側斜面から出土している。

後期 (88)

東側調査区のIV区から1点(88)、その他図示していないが中央部のEF竪穴住居跡の堆積土1層から十腰内I式の土器が1点それぞれ出土している。前者は口縁部の山形突起に沈線の刻みを入れ、その下にも沈線を施文しており後期初頭に位置付けられる。確認した後期の土器は以上の2点だけである。

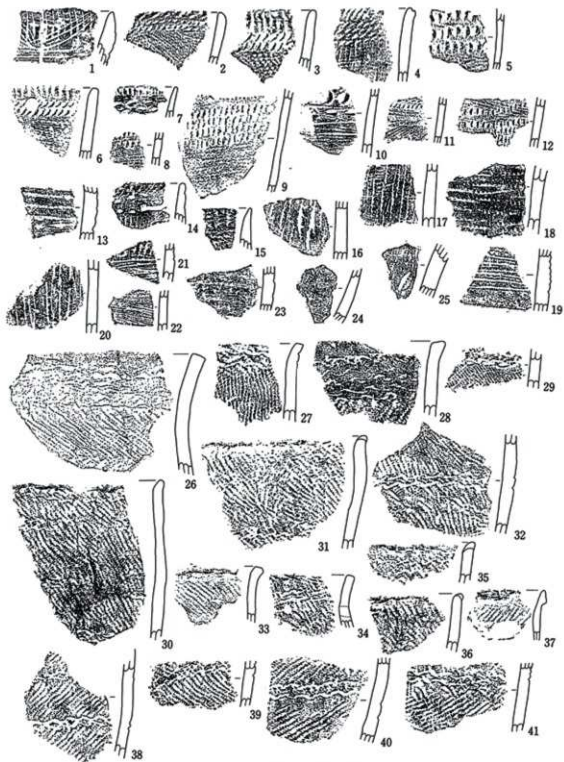
晩期 (89~101)

晩期初頭(89)から前半の大洞BC式(90~101)の土器である。93は半歯文や雲形文が施文されている。いずれも中央部の配石遺構群南側のI、II層の黒色土中から出土しており、出土層位からも中期の土器とは明確に区別される。

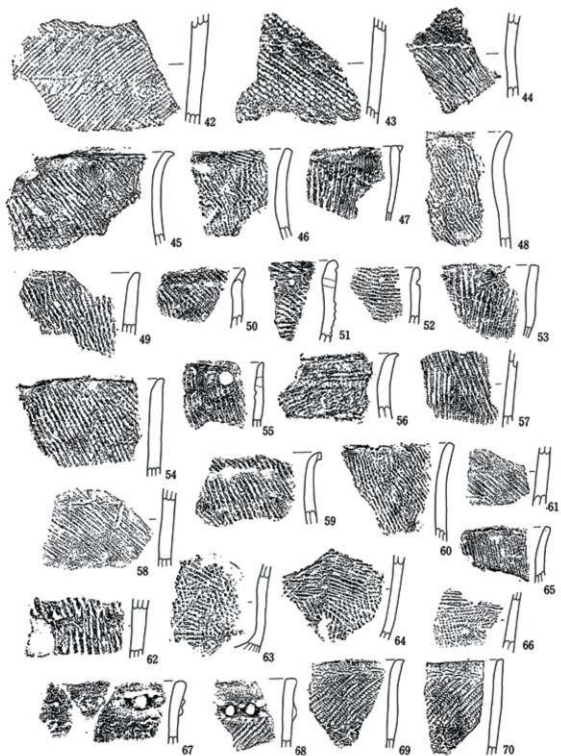
弥生土器 (102~107)

いずれも後期の土器で102、103は鋸歯文、あるいは連続山形文施文の土器で、町内では上野遺跡での出土例がある。104~107はいずれも燃糸文系の土器群で、同じく上野遺跡や田中1遺跡などから出土している。

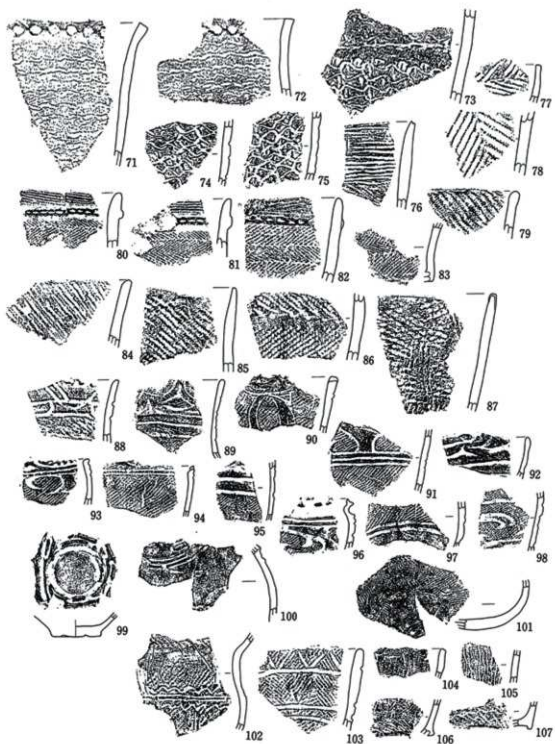
以上の土器のうち前期の土器は出土量も多く整理箱で2箱位出土している。その他の土器はいずれも出土した土器の全てを掲載しており、非常に限られた量しか出土してない。ただ早期から前期の土器は本来IV~V層に含まれる土器群であり、今後特に中央部で調査すれば出土する可能性もある。



第150図 中期以外の縄文土器(1)



第151図 中期以外の縄文土器(2)



第152図 中期以外の縄文土器(3)

IV. まとめ

1. 配石遺構

配石遺構群は中央部北側の平坦面、東西 80 m、南北 50 m の範囲に集中している。この北側平坦面は、削平・盛土という地業のうち削平する事により形成された平坦面である事は既に述べた通りである。ここでは個々の配石遺構を比較検討し、配石遺構群全体の様相についてまとめて見たい。

配石遺構群は全体に東側が表土層から検出面までが深く良好に保存されている。中央から西側は検出面まで非常に浅い事と周辺に末期古墳が分布しており、その構築時にいくつかは破壊されたのか保存状態はあまり良好とは言えない。以上の事を念頭に置きながら各配石遺構を検討してみよう。

検出した個々の配石遺構（小単位）は次のように分類できる。

Aタイプ—FD 52 配石、FE 58 配石、FG 60 配石、FI 58 配石

径 2~2.5 m の楕円形、円形に石を配置している。いずれも外側に比較的大きめ石（縁石）を巡らし、内側にやや小さい石を詰めている。FD 52 配石のように一端に立石が残っているものもある。FG 60 配石の北側に 1.50 m の巨石がある他、FE 58 配石の北西と南東にもそれぞれ大きい石が横たわっているが、いずれも立石の可能性が高い。

Bタイプ—FG 52 配石、FH 60 配石、EJ 46 配石、FD 54 配石

径 1~1.5 m の楕円形、あるいは円形に石を配置し、その内側あるいは上に巨大な石が横たわっている。この配石の外側の石も縁石が意識されたものが多い。巨大な石は扁平、あるいはずんぐりした石でAタイプの立石とは明らかに異なっている。FD 54 配石は下の石の配置は不明であるがここに含めた。

Cタイプ—FE 58 配石、FG 60 配石、FI 58 配石周辺の小配石

径 0.4~1.0 m の方形、あるいは円形の小型の配石で、内側にほとんど石がないものと石をつめているものがある。外側の石は明らかに縁石を意識した配置となっている。

Dタイプ—FE 52 配石、FI 46 配石

径 1~1.5 m、幅 0.5~1.0 m の方形に石が配置されているもので、特に縁石は意識されず、比較的同じ大きさの石を並べているが、各石の方向も一定していない。

Eタイプ—FG 46 配石、FJ 48 配石、EJ 48 配石、FA 48 配石、FC 48 配石、

FB 46 配石、FA 40 配石、EI 46 配石、FG 46 配石、FJ 48 配石

径 1~3 m のサークル、あるいは直線、鉤形を呈する配石遺構で、比較的大きめの

石を列状に配置している。各配石の中にはひとつの石を割り、それを列状に並べているものもある。

以上の配石遺構は、全体（大単位）としてどのような配置となっているのであろうか。

まず中央から東側にひとつの単位がある。しかもその中心部にはほとんど石もなく空白地になっており、その外側に楕円形、あるいは隅丸長方形に近い形態に小単位の配石遺構が分布している。同じように各配石遺構の間にもそれぞれ空白地があり、その空白地により区分するとFD 52 配石（A）、FE 58 配石（B）、FG 60 配石（C）、FH 60～FI 58 配石（D）、FG 52 配石（E）周辺の5群の空間に区分できる。

以上の東側の小単位の配石遺構はE区を除きいずれもAタイプの配石遺構が中心となっており、その周囲にCタイプの円形、あるいは方形の小配石が分布し、それでひとつの群を構成している可能性が高い。したがってAタイプの配石遺構は各空間で中心となる配石と考える事ができる。

西側の配石遺構群は圧倒的にEタイプの配石遺構が多い。EJ 48 配石のように径4～5mでしかも部分的に組石状の小配石を伴うものもあるが、その他はいずれも1～3mの小規模な列状の配石である。形態は円や半円状のものが最も多く、その他直線あるいはL字形のものなどが含まれている。FB 46 配石は半円状の小単位の配石がかなり広い範囲に密集、FA 40 配石の直線的な列石はひとつの石を割って並べたりしている。

西側の配石遺構群はあまり保存状態も良くなく細部については不明であるが、小単位の配石が中心部の空白地の外側に円形に配置され大単位を形成している可能性が高い事と各配石の間も同じように石が少なく空白になっている事から、全体を6～8区分できる可能性もある。

以上から配石遺構群は東西2つの大単位の配石遺構に区別でき、更にそれが小単位の配石となり群を構成しているものと思われる。この事は後述する墓塚群や掘立柱建物跡の分布の状況とも符号しており、その可能性が高い事を示している。

以上の2つの大単位の配石遺構群からやや離れた位置にあるFG 46 配石、FI 46 配石、FI 48 配石はいずれもD、Eタイプの配石遺構であるし、また中央部の竪穴住居の分布地域（居住域）の東側に位置するGG 80 配石、GE 82 配石の小規模な配石遺構も一定のまとまりを持つ可能性があるがその形態等はやや不明である。以上の配石遺構の周辺からはV群土器が主体的に出土している。

2. 墓塚と掘立柱建物跡

墓塚と掘立柱建物跡の大半は、配石遺構群の中央に南北に設定したFE 52 トレンチ内で検出している。墓塚はFD 52 配石とFG 52 配石の間、掘立柱建物跡に伴う柱穴群はその外側で検出しており、それぞれ分布を異にしている（第153図）。

墓墳は調査区内で36基まで確認しているが、範囲が限定されており、しかもFE52配石周辺(Aブロック)、調査区中央(Bブロック)、調査区南端(Cブロック)のようなまとまりがあり、群別することが可能である。検出した墓墳の数はAブロックが16基、Bブロックが7~8基、Cブロックが12~13基となっている。各墓墳のうち比較的重複の少ない1~7号を選んで調査している。

調査した墓墳が少ない事から細かい分類はしないが、いずれも形態は小判形で、長径が1m内外、短径が50~80cm、配石遺構の下からの深さが30~60cmの墓墳である。

各墓墳の長軸方向は、なかには南北方向のものも含まれているが、大半は東西方向でしかも各ブロックにより若干方向を異にしている。やや雑ではあるが、AブロックがN-50°-W、BブロックがN-70°-W、CブロックがN-100°-Wに近く、微妙に長軸方向がずれている。この事は墓墳の長軸方向が配石遺構群の中心を指し、しかも墓墳群が全体として一巡している可能性が強い事を示している。

各墓墳の中にはFE52配石の周辺に集中し、配石遺構に直接伴うものもあるが、Bブロック、Cブロックのように配石遺構のない場所でも検出しており、配石遺構に直接対応しない墓墳もかなり含まれているようである。

掘立柱建物跡に伴う柱穴は墓墳群の外側に分布している。FE52トレンチ内で、80個確認しているが、トレンチ内調査のため推定できた建物跡は3棟だけであった。この3棟の建物跡は次のような特徴がある。

1. いずれも墓墳群と分布を異にし、しかも墓墳群との間には空白地帯がありその外側に分布している。
2. いずれも6本柱で東西2間、南北1間の長方形配置の建物跡である。しかも棟方向はいずれもN-100~120°-Wで、Cブロックの墓墳群の長軸方向に合う。
3. 柱穴は径70~80cm、深さ100~140cmと大きく、かなり大型の建物跡と考えられる。

以上から掘立柱建物跡も配石遺構群の中心部を意識した配置になっているものと考えられる。配石遺構群の中心の空白地帯周辺に配石遺構と墓墳、その外側に掘立柱建物跡が分布するものと思われ、墓墳と掘立柱建物跡はそれぞれ大単位の配石遺構と同じく一巡する可能性が高い。

しかも配石遺構と墓墳がそれぞれブロックを形成している事から、墓域は区割されていたものと思われる。また掘立柱建物跡の柱穴は検出する場所が限られ事、しかも同じ場所に密集している事更に確認した建物跡の方向が墓墳や配石遺構の全体の構成にほぼ沿う事などからいずれも配石遺構や墓墳と密接に関連する施設で、しかも一定の場所で繰り返し構築された事を裏付けている。

東側の配石遺構群は、Aタイプの配石を中心にその周囲に小型の配石遺構が密集しひとつの

ブロックを形成している事は触れたが、墓墳も同じくブロックを形成している可能性が強く、配石遺構と墓墳の分布はきわめて類似し相互に関連するものとなっている。

ただ墓墳のBブロック、Cブロックのように上部に明確な配石遺構を伴わないものがある。それはどのように考えたらよいのであろうか。

当初から墓の中には配石遺構を伴わないものがあるのか、あるいは配石遺構が構築と取り壊しを繰り返すため、比較的古い墓墳には配石遺構が残存していないのか、いずれ現在までの調査結果からだけで明らかにできる事ではない。

ところで西側の配石遺構群の下部は今回全く調査しなかった。小単位の配石遺構の形態は東側と異っているが、全体が円形配置でしかも6～8区分できる事から、東側の配石遺構群と同じ構造となっている可能性が高い。

3. 中央部の集落

中央部の集落は配石遺構群を中心に構成されている。中央北側の東西80m、南北50mの範囲に配石遺構群が分布し、その南側に東西80～90m、南北30mの範囲に、配石遺構群周辺の削平に伴う盛土が弧状に分布している。配石遺構群との比高差は2～3mはあり、盛土からは配石遺構群を見下ろせるような位置関係となっている。盛土の層厚は30～50cmで、なかには土器、石器、石器剥片、獣骨片、焼土ブロック、炭化種子などが多量に廃棄された状態で出土しており、しかも至るところに石罫炉が残されている。

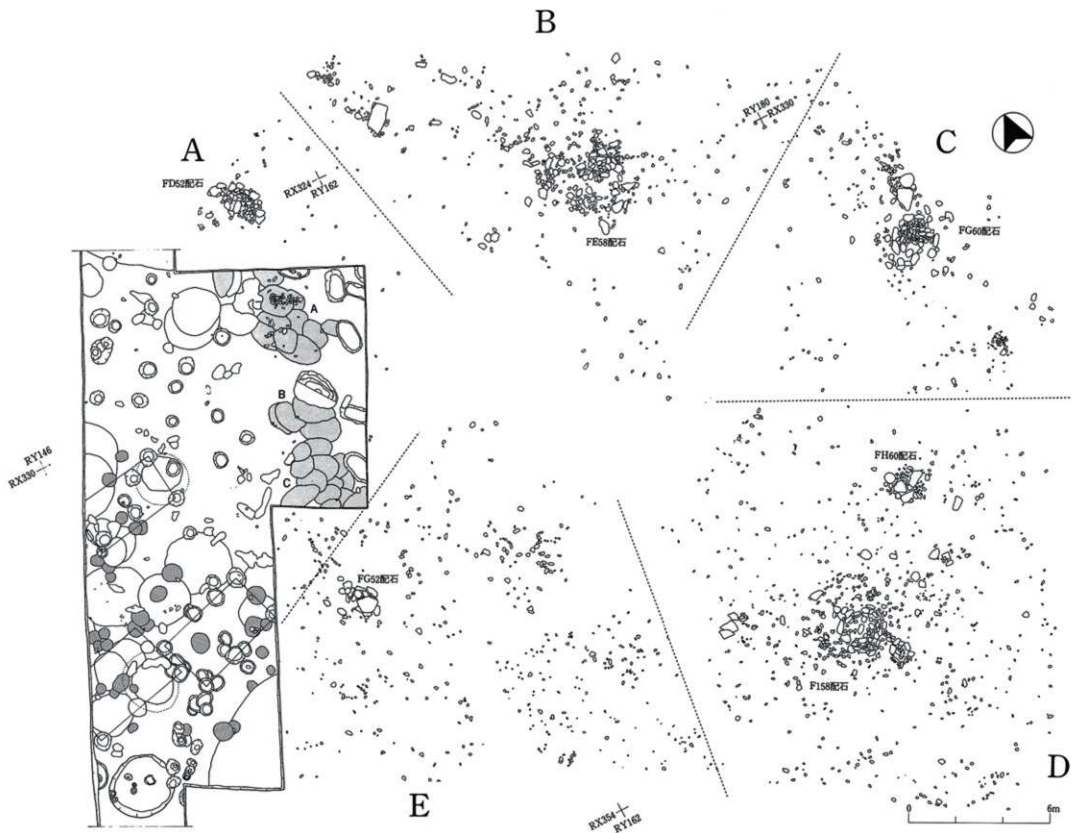
以上からこの「盛土遺構」は削平土を盛土だけでなく、特殊な場として機能していた可能性がきわめて強い。配石遺構の北側にも同じように遺物を多量に廃棄した場所がある。ここからは主に土器や石器が出土している。

以上から中央部の集落は墓域と考えられる配石遺構群を中心に、南側には配石遺構群を囲むように盛土が弧状に巡り、その外側に竪穴住居跡が分布する配置となっている。竪穴住居跡は北側を除いた東から南、更に西側でも検出しており、配石遺構群と盛土の外側をほぼ全周しており、全体として馬蹄形集落の配置となっている。各竪穴住居跡はGH 68-01 竪穴住居跡のように10mを越す大型住居跡から、5～7m、更に2～3mの小型住居までであるが、特に配石遺構群の東側に大型住居跡が密集している。

ところでこのような墓域を中心とした集落配置はいつ形成されたのであろうか。

盛土層に設定したGA 40.トレンチでは盛土1・2層の下でGB 44 竪穴住居跡を検出している。この竪穴住居跡の堆積土や床面からはいずれもII群土器（円筒上層d・e式）が出土しており、III群（大木8b式）以降の土器は全く含まれていない。

また配石遺構群周辺では、墓墳や掘立柱建物跡の柱穴と重複してフラスコ形土壇や竪穴住居跡を検出している。重複関係を確認できた遺構はいずれも後者の方が古く、同じく配石遺構群



第153図 東側の配石遺構群と基壇・独立柱建物跡

の北側でも大型住居跡を検出しているが掘立柱建物跡の柱穴よりは古い事を確認している。

以上から基城を中心とした中央部の集落配置は、大木8b式以降に形成されたものと考えられる。大木8a式期には基城周辺にも竪穴住居跡が分布しており、それ以降とは全く別な集落構成となっていた可能性が高い。

墓墳や掘立柱建物跡の堆積土中にはII層以上の黒色土がほとんど含まれず、フラスコ形土壇や竪穴住居跡にだけ含まれている。前者は大規模な削平後の遺構群でIVb層以下のローム起源の堆積土が中心となっているのに対して、後者はそれ以前の遺構であるからIII、IVa層の黒色土起源の堆積土が含まれているのであろう。

ところで配石遺構群東側の大型住居跡は規模が大きく壁高も深い、いずれも重複している。同じような状況は馬場平遺跡でも確認している。ただこの地域は配石遺構群に接した特殊な場所であり、建物の内容を馬場平遺跡と同列に扱う事はできない。大型住居跡が密集しているのは、その場所が集落の中心となっているからなのか、あるいは配石遺構群など葬送儀礼と関連あるため密集しているのか、今後検討しなければならない課題である。この大型住居跡群の性格が中央部の集落配置を理解する上で重要なポイントとなるであろう。なお中央部北側の斜面下につき最近まで使用された湧水地がある。

4. 東側の集落

東側調査区では竪穴住居跡と土壇を検出している。最も遺構が集中するのはIV区で、IVA区で65棟、IVB区で20棟の竪穴住居跡を検出しており、大半は重複している。

その他中央平坦面のII区、III区、V区も遺構は多く、特に南よりで密度が濃く、北側では極端に少なくなっている。I区、III A・B区、VI～IX区はさほど遺構数は多くはない。

以上から東側調査区では、比較的山よりの南側斜面とその周辺に遺構が密集している事になる。一方RY 270からRY 330の周辺ではほとんど遺構がない事から、中央部と東側はそれぞれ別集落と考えられる。

東側調査区の全体面積は、19,000㎡あるが、そのうち7,000㎡で遺構を確認している。検出した遺構数は、推定で竪穴住居跡187棟、土壇70基である。特に竪穴住居跡の多いのが特徴となっている。未調査区のうち北側斜面では今後もさほど遺構数も増加しないものと思われるが、中央から南側斜面のII～V区には未確認の遺構がかなり残っている可能性が高い。従って最終的には東側調査区の竪穴住居跡だけで少なくとも250～300近い数となるであろう。

検出した竪穴住居跡のうち比較的規模が大きく、しかも重複例の少ないV区のHB 120竪穴住居跡とIVB区のHD 114竪穴住居跡の2棟を掘り下げて調査した。HD 114竪穴住居跡は7.8×5.86、HB 120住居跡は8.40×6.60mであるが、同じような大型の住居跡はII B区、IVA区、IVB区でも検出しており、合計12～13棟を数えている。竪穴住居跡の中では5～6mのもの

のが圧倒的に多く、その他2~3mの小規模なものも含まれている。特に小型の住居跡は、掘込みが浅く、検出面が直接床面だったり、いきなり炉跡を検出したりする例もある。

土壌はいずれも竪穴住居跡の周辺で検出しており、土壌だけが一定の場所に密集するような分布状況とはなっていない。大半はフラスコ形土壌、ピーカー形土壌であろうが、V区では掘立柱建物跡の柱穴らしいものを3個検出している。なおIVa区南側にも崖の中腹に現在でも使用されている湧水地がある。

5. 西側の集落跡

西側調査区では竪穴住居跡、土壌、埋設土器を検出している。西側と中央部とは遺構の分布からその境界を明確にする事はできない。あるいは集落そのものも中央部とは区分されない可能性もある。ただ中央部の居住地帯の遺構群が配石遺構群の外側を取り囲むように分布するのに対して、西側の遺構群は東側の斜面に集中し、しかも南北に長く分布している事からRX 240から南側を中央部、それ以北を西側として区別した。

西側調査区では遺構は東側斜面に最も多く、さらに北側の平坦面から一部西側斜面でも検出している。竪穴住居跡が最も多く、10mを越す大型の住居跡が5~6棟含まれている他、5~6m、更に2~3mの小型の住居跡まで検出している。小型の住居跡のなかには径2mの円形竪穴で、中に径50~60cmの大型の石囲炉を備えた特殊なものもある。

竪穴住居跡のうちCI 18-01 竪穴住居跡、DD 26 竪穴住居跡の2棟を調査しているが、いずれも小型の住居跡で前者は大木9式、後者は円筒上層d式の住居跡である。

土壌、埋設土器とも特徴ある分布状況とはなっておらず、いずれも竪穴住居跡の周辺で検出分布している。その他中央部北側の平坦面で、径20~30m、深さ30cmの小規模な柱穴群を検出しているが、その性格等は不明である。埋土中に炭化物を含んでいる例が多い事からあるいは柱穴の可能性もある。西側から出土した土器の量は少ないが、II~V群の各土器が出土しており、中央部や東側と同じ時期の遺構が分布していた事が明らかになった。

6. 土器

平成元年度から4年度までの調査で出土した縄文土器は、ダンボール箱(29×43×29 cm)で300を越す膨大な量となっている。そのほとんどが中期中葉(大木8a式)から末葉(大木10式)の土器群で出土土器の95%以上を占めている。中期以外の土器は別章で一括しているのでここでは中期の土器についてまとめてみたい。

4年間で調査した遺構は、元年度は古墳が中心、2、3年度の範囲確認調査ではそれぞれ竪穴住居跡2~3棟と配石遺構群東側の栗林にトレンチ、4年度の内容確認調査も配石遺構群から南側の盛土層や北側に設定したトレンチだけである。このような調査状況で300箱以上の土器が出土しており、遺跡全体を調査したらどの位の量になるか想像もつかない。

以上のように範囲確認調査には出土した土器が多く、しかも遺物整理から報告書作成までを短期間で行った事もあり、土器については十分検討する事ができなかった。また遺構調査が少ないため、出土量の割に全体の器形や文様の判明する土器が少ない事としかも各土器の同伴関係を知る基礎データも当然少なかったため、かなりの部分を省略せざるを得なかった。

従って今回は従来の土器型式を基準にして、昭和52・53年に調査した馬場平遺跡の同伴例などを参考にしながら器形の判明する土器を中心に次のように分類した。

第I群土器(第52図15、第65図136)

いずれも破片で器形の判明するものは出土していない。隆線文と隆線間の連続刺突文に特徴がある土器群である。隆線上に縄文を施文するもの(15)と無文のもの(136)とがある。地文は15がRL縄文、136がLR縄文である。いずれも中央部から出土しており、15は東側の栗林、136は盛土から出土している。いずれも円筒上層C式に相当する。

第IIA群土器(第154図)

体部が直線的に外傾、あるいは直立気味に立ち上がる円筒深鉢形の土器群で、口縁部が直立するものと外反するものがある。なかには体部が膨らみ、やや丸みを持つ器形も含まれているが数は少ない。口縁部には4個の突起が付き、この突起下の懸垂文により体部上半の文様帯は縦に4区画されている。円筒上層d式、あるいはe式に相当する。器形はあまり変化がないので文様から次のように1類から3類まで分類した。

1類(1~9、13、14) 文様帯が「懸垂文+弧状文」施文の土器群で、体部文様帯の施文方法から、隆線施文のもの(a)、懸垂文が隆線で弧状文が沈線のもの(b)、いずれも沈線施文のもの(c)とに細分できる。

a.(1) 体部文様帯がいずれも隆線施文の土器である。1は口縁部と体部の文様帯の区別が明確でなく、体部上半から口縁部まで「懸垂文+弧状文」を施文している。懸垂文の隆線上には連続刻目文、弧状文の上には地文と同じ原体を回転押捺している。原体はRL縄文で横位回転

である。

b. (2, 3) 懸垂文が隆線で弧状文が沈線施文の土器群である。いずれも隆線上には指頭圧痕状の刻目を付している。2は大型の突起が付き、口縁部には縄文圧痕の刻目、5は山形状の小突起が突き、肥厚した口縁部に隆線により波状文、円形文を付している。いずれも大型の土器である。縄文原体は、2はRL縄文、5はLR縄文でいずれも横位施文である。

c. (3, 4, 6~9, 13, 14) 体部文様帯がいずれも沈線により施文されるものである。口縁部文様帯に3のような大突起が付き、口唇部にヘラ状工具の連続刻目文を施文するものと4のように小突起が付き縄文圧痕の連続刻目の付くものがある。体部文様には、7のように上下の弧状文が連結し楕円形文となるものが含まれている。9は口縁部文様帯に小突起が付き、口唇部に溝状文がありやや異質であるが、体部文様帯が懸垂文により4区画される事から1類土器に含めている。14の口唇部の刻目には「の字状」の貼り付け文、体部にも平行沈線以外の文様が施文されている。

縄文原体は、6, 7, 8はLR縄文、3, 4, 14がRL縄文、9, 13がRLR複節縄文で、いずれも横位施文である。

2類 (16) 体部に弧状文施文の土器群で、1類土器の懸垂文のない土器群を一括した。16は体部上半の破片のため器形は不明であるが、体部のほぼ中央で膨らみをもつ深鉢である。口縁部の突起は形骸化し波状口縁となり、その頂部に3条の隆線を貼り付けており、それ以外には縄文圧痕の刻目を付している。さらに刻目上に横位の「S字文」を貼り付けている。縄文原体はRL縄文で横位に施文している。

3類 (10~12, 15, 17) A群土器のうち体部文様のないもの、あっても簡略化されている土器群を一括した。17を除き小型の土器が多い。口縁部には突起が付き文様帯も4区画され、11は隆線の波状文、10と17がヘラ状工具、15は縄文圧痕の刻目をそれぞれ施文している

12は4単位の大突起の間に更に小突起が付き、小突起の下に縦に隆線を貼り付けている。11は突起下に隆線による鉤形の懸垂文を施文している。縄文原体は、10, 11, 12はLR縄文、15, 17はRL縄文で、12が部分的に縦位な他はいずれも横位に施文している。

第II B群土器 (第154図)

口縁部で膨らみを持つキャリパー形の深鉢、体部が膨らみを持ち口縁部が緩やかに外反する深鉢、体部が外傾し口縁部が内曲する浅鉢などの器形に、山形文、波状文、楕円形文、渦巻文横位S字文施文の土器群である。大木8a式に相当する。出土量が少ないため器形から次のように分類した。

1類 (18~21, 23) 体部が直立、あるいは直線的に外傾し口縁部が膨らみながら内湾するキャリパー形の深鉢である。23を除き文様は口縁部の膨らんだ部分に限られているが、文様の施

文技法から次のように分類した。

a. (20、21) 隆線、あるいは隆沈線施文の土器群である。20 は口縁部の膨らみも弱く体部が直線的に外傾するが、口縁部にやや粗雑な隆線で渦巻文等の文様が施文される。21 は典型的なキャリパー形の深鉢で、口縁部に隆沈線による連続山形文と渦巻文を施文している。縄文原体は、いずれも LR 縄文で、20 は口縁部から体部まで横位、21 は口縁部が横、体部は縦位に施文している。

b. (18、19、21) 沈線施文の土器群である。いずれも「連続山形+渦巻文」を施文している。21 はキャリパー形土器にしては珍しく体部にまで文様を施文している。口縁部に楕円区画文、体部に平行沈線文を縦横に施文している。縄文原体は、いずれも RLR 複節縄文で、18、19 は口縁部を横、体部を縦位、21 は口縁部から体部まで縦位に施文している。

2 類 (20) 体部中央がやや膨らみを持ち口縁部が外反する深鉢である。口縁部に「横位 S 字文」の小突起を持ち、その間の厚めの口縁部に縦に縄文圧痕の刻目を施文している。体部上半には沈線による山形文、体部下半には同じく沈線で波形文を垂下させている。口縁部の刻みは RL 縄文、体部には RLR 複節縄文を縦位に施文している。

3 類 (23) 体部から口縁部まで緩やかに外反する深鉢で、体部に沈線で平行文、渦巻文を施文している。縄文原体は RL 縄文で縦位に施文している。

4 類 (24) 口縁部から体部まで直線的に外傾する深鉢で、口唇部に縄文圧痕の連続刻目、その下に平行沈線を施文している。地文は RL 縄文である。あまり類例のない土器であるが、出土地点や原体の施文方向から第 II B 群土器に含めた。

5 類 (24、25) いずれも小型の浅鉢で、文様は口縁部と体部に区別できるが、24 は口縁部が無文で体部に隆線を施文している。25 は口縁部に隆線を横位に貼り付け、体部は無文となっている。地文は、24 が LR 縄文を縦位、25 が RL 縄文を横位にそれぞれ施文している。

第 III A 群土器 (第 155 図)

体部ほぼ中央で膨らみ口縁部が外反する深鉢で、口縁部に渦巻文と溝状文、体部に平行沈線文と弧状文施文の土器群である。渦巻文は波状を呈する口縁部の頂部に限られ、その間は溝状文となる。体部文様はいずれも沈線により施文されている。榎林土器に相当し、大木 8 b 式土器に併行する土器群を一括した。榎林 I 式土器に相当するのだろうか。

1 類 (28~30) 文様が口縁部から体部まで施文される土器群である。口縁部文様は渦巻文と溝状文で一致するが、体部文様はそれぞれ異なっている。すなわち 28 は平行沈線で区画し、その間に弧状文、29 は横位平行文の間に刺突文を並走させ、その下に上向きの弧状文を連結させている。30 は口縁部の 4 区画と同じくその間が弧状文で連結されている。

縄文原体はいずれも LR 縄文で、29 は横位、28、30 は縦位に施文している。28 は体部から口

縁部まで直線的に外傾しており、29、30とは器形がやや異なっている。

2類(31) 文様が口縁部に限られている土器で、口縁部に渦巻文と溝状文を施文している。体部にはLR縄文を横位に施文している。

第ⅢB群土器(第155、156図)

隆沈線、沈線による渦巻文、平行文、棘文、区画文施文の土器群である。他群土器に比較して胎土、焼成ともに良好で、特に器面調整が顕著で内外面ともに丁寧にミガキ調整されるものが多い。特に隆沈線による肉彫的な文様が体部全面に施文されている。器形は深鉢と浅鉢で構成されるが、特に深鉢の形態は多様である。大木8b式に相当するものを一括した。器形から次のように分類できる。

1類(32) 頸部でくびれ、口縁部が膨らむキャリパー形の深鉢である。文様は膨らんだ口縁部に限られ、渦巻文と菱形文をひとつの単位とする文様帯が横方向に連結される。地文はRL縄文で、口縁部が横位、体部は縦位に施文されている。

2類(33~39) 体部下半で膨らみながら頸部でくびれ口縁部が外反する深鉢である。33のように頸部のくびれが強く壺形に近い土器も含まれている。いずれも波状口縁で、口縁部と体部の間を隆沈線や沈線で区画し、口縁部を無文帯とするのが多い。体部には渦巻文を中心とした文様が横(33)、縦(34~39)に展開するが、後者ではしばしば縦位の楕円区画文を形成する場合が多い。34のように渦巻文に棘文が取り付く例もある。

縄文原体は、33、35、39が縦位のLR縄文、34、36、37、38も縦位のRLR複節縄文である。

3類(40、41、42) 体部がほぼ直線的に立ち上がり、口縁部が緩やかに外反する深鉢である。口縁部は無文帯とし、2条の平行沈線から下に渦巻文や波形式などを組み合わせた曲線文を施文している。いずれも40、41は沈線、42は隆沈線を施文している。縄文原体は、40がRL縄文、41はRLR縄文、42はLR縄文でいずれも縦位に施文している。

4類(43~46、48、53、54) 体部上半から口縁部にかけて内湾する深鉢で、波状口縁と平縁とがある。口縁部に溝状文施文のもの(43、44、48、53)と無文のもの(45、46、54)とがある。体部には隆沈線による渦巻文を中心とした曲線文を施文している。

いずれも破片のため断定はできないが、溝状文施文土器の体部には、棘文が付くものに対して無文部とする44、45にはない。53、54の渦巻文主体の文様は縦方向へ展開する例が多い。

縄文原体は、44がRL縄文、45、46、53はLR縄文、43、48、54はRLR複節縄文でいずれも縦位に施文している。体部上半を欠くため不明であるが、47も口縁部が内湾する小型鉢の可能性が高い。同じく文様は隆沈線の渦巻文で縄文原体はLR縄文である。

5類(52) 体部が強く外傾し、頸部でやや内湾しながら口縁部が外傾する深鉢である。波状口縁で、隆線の区画文上を無文とし、その下に縦に渦巻文を隆線で施文している。縄文原体は

LR 縄文である。

6類 (50) 体部が外傾し口縁部が強く内湾する浅鉢である。文様は口縁部に限られ、隆沈線による区画文の間に渦巻文を施文している。渦巻文には上、下2列に連続刺突文が伴っている。縄文はLR縄文で、口縁部が横、体部は縦位に施文している。

7類 (49) 簡略な文様が施文される土器である。体部がやや膨らみ口縁部が若干外反する深鉢で、口唇部に溝状文、体部に2列3条の平行沈線を施文している。地文はRLR複節縄文で、縦位施文である。

第IV群土器 (第156図)

区画文が縦位に施文される土器群で、区画文が磨消縄文帯になるものとならないものがある。体部が直立あるいは外傾し、口縁部がそのまま外傾するかあるいは内湾する深鉢、体部が直立し口縁部が内湾する深鉢、体部から口縁部まで直線的に外傾する小形鉢、体部が外傾し口縁部が短く外反する鉢など器形は多様である。文様と器形から次の様に分類した。

1類 (55) 体部上半が膨らみ頸部ですばまり平縁の口縁部が短く外反する深鉢である。口縁部から体部まで沈線の楕円区画文を施文し、その間を磨り消している。地文はLR縄文で縦位に施文している。

2類 (56) 口縁部が強く内湾する深鉢で、第II B、III B群土器のキャリバー形深鉢に近い器形である。口縁部は大波状口縁を呈し、口縁部から体部下半まで隆沈線で縦位の楕円区画文を施文している。隆沈線の狭い範囲が磨り消されている。地文はRLR縄文で縦位に施文している。

3類 (57) 体部上半を欠くため全体の器形は不明であるが壺形に近い。縦方向に沈線で区画し、その間を磨り消している。縄文原体は、LR縄文を縦位に施文している。

4類 (61~63) 頸部でくびれ口縁部が外反する鉢形土器で、口縁部を無文帯としている。

頸部と体部の境に刺突文を横位に施文している。体部文様帯は、61は隆線により山形文、その両側に沈線を施文している。62、63はいずれも沈線で、62は縦方向の楕円区画文、63は鉤形の懸垂文を施文している。縄文原体はいずれもLR縄文で縦位に施文している。

5類 (58~60、65~66) 小型の鉢形土器で、口縁部から体部下半まで直線的に外傾するもの(59)、体部が外傾あるいは直立し口縁部が内湾するもの(58、60)、頸部でくびれ口縁部が直立するもの(64)、体部が外傾し口縁部が短く外反するもの(66)がある。いずれも沈線で多様な文様が表現されるが基本的には縦方向の文様で一致している。

縄文原体は、58、60はLR縄文、59、64はRL縄文、65はRLR複節縄文でいずれも縦位に施文している。

第V群土器 (第156図)

曲線的な磨消縄文施文の土器群である。体部中央が膨らみ頸部でくびれ、口縁部が緩やかに外反する深鉢、口縁部が短く屈曲する深鉢、体部の膨らみと頸部のくびれがさらに強い壺などである。器形はいずれも単純なものが多く画一的なものとなっている。本群土器の磨消縄文帯は、沈線で区画→区画内に縄文を充填するという手順で施文された充填縄文が圧倒的に多く、磨消縄文手法の多い第IV群土器とは対照的である。口縁部は平縁と波状口縁の両方あり、主として体部上半に磨消縄文帯の曲線文(C字文、S字文)、方形区画文などが施文される。曲線文の先端部にはヒレ状の突起の付く例が多く、同じ突起は口縁部の内面や稀に外面にも付けられる。口縁部の外面には突起に沿って刺突文が並走される。文様は沈線で区画されるものが圧倒的に多いが、なかには細い隆線の例もある。

いずれも大木10式に相当する土器群である。主に器形から次のように分類した。

1類 (66、67、68) 体部中央で膨らみ口縁部が直立あるいは外反する深鉢で、第V群土器で最も一般的な器形である。口縁部は平縁と波状口縁の両方あり、主として体部上半に施文されている。66は充填縄文で横方向に「C字文」を施文しているが、無文部4ヶ所に橋状把手が付いている。原体はRL縄文である。67は口縁部に小突起が付き、体部上半に「C字文」を施文している。地文はLR縄文である。68も緩やかな波状口縁で、同じく体部上半にRL縄文の充填縄文で曲線的な文様が展開されている。その他体部が直線的に外傾し、口縁部が直立するものや口縁部が短く外反する深鉢もあるが、全体の器形が判明するものは少ない。文様も曲線的な文様の他に方形区画文(第27図1、4、6)も含まれている。

2類 (69、70) 壺形土器である。本群土器ではあまり一般的な器形ではない。69は体部が球形に近い程膨らみ、頸部に一巡する橋状把手が付いている。直立する口縁部は無文で、円形文が充填縄文で施文されている。縄文はLR縄文で、横位に施文されている。70は同じく頸部に橋状把手があり、口縁部が無文、体部の横方向に「C字文」を施文している。縄文はRL縄文で横位に施文されている。無文部の先端にヒレ状の突起が付いている。

第VI群土器 (第156、157図)

第II群土器から第V群土器までの粗製土器を一括した。器形や地文、更に出土状態から次の様に分類した。深鉢、鉢、浅鉢の器形がある。

1類 (71) キャリパー形の深鉢で、口縁部に4つの山形突起を付している。形態は大木系の土器で、口縁部の4個の突起はむしろ円筒土器の特徴である。地文は横方向に回転施文している。II群土器に伴うものであろう。

2類 (72、77) 口縁部が直立かあるいは若干外反する複合口縁の深鉢で、72は4つの突起77は口縁部が部分的にしかないため不明である。いずれも横位に施文している。

3類 (73、78) 膨らんだ体部から頸部ですぼみ、口縁部が外反する器形である。口縁部は一方がやや高い波状口縁部で、頸部から上は無文帯となっている。この無文帯と体部の地文の間に、73は沈線を3条、74は隆線を一条、それぞれ施文している。隆線の上には刺突文を施文している。地文はいずれもLR縄文で、縦方向に施文している。器形、地文の施文方向からもⅢ群土器に伴うものであろう。

4類 (74～76、79、81) 体部が直線的に外傾するか、やや膨らみをもつもの(76)もあるが口縁部が直立する深鉢、あるいは鉢である。75は無文、79は櫛目状文、74はLR縄文施文後縦にナデている。76はR、81はLR縄文を施文している。出土地点等からⅢ～Ⅳ群土器に伴うものであろう。

5類 (80、82～86) 口縁部が内弯する深鉢を一括する。口縁部は平縁に近く、口縁部から体部まで全面に地文を施文している。80、82、84、86はLR縄文、83、85はLの燃糸文でいずれも縦方向に施文している。84はCI 18 竪穴住居跡、82、83、85、86は、GA 82 竪穴住居跡から出土している。いずれも共伴土器から第Ⅳ群土器に伴う事が判明している。

6類 (89、90) 体部が外傾あるいは直立し、口縁部が短く外反する深鉢である。いずれも縄文原体はRL縄文で縦位に施文している。90はGA 82 竪穴住居跡から出土しており、同じくⅣ群土器に共伴している。

7類 (91) 体部の膨らみが強く頸部ですばまり口縁部がやや内弯気味に直立する深鉢である。口縁部には4つの小突起が付いている。地文はRL縄文で縦位に施文している。西区のCI 18-01 竪穴住居跡から出土しており第Ⅳ群土器に共伴している。

8類 (87、88) 体部上半が膨らみを持ち頸部がすばまりそのまま口縁部が直立する深鉢で、口縁部から体部までRL縄文を縦位に施文している。87が東側調査区のHB 120 竪穴住居跡から出土しており、Ⅳ群土器に共伴する可能性が高い。

9類 (92、93、95) 口縁部が波状口縁の小型土器で、92は直立、93はやや内弯気味、95は外反している。いずれもLR縄文を縦位に施文している。93はGA 82 竪穴住居跡から出土しておりⅣ群土器に共伴している。

10類 (94) 底部が小さく体部が外側に強く開き口縁部が直立する浅鉢である。地文はLR縄文を縦位に施文し、更にその上に同じ原体を縦方向に押しつけている。共伴遺物がないため所屬時期は不明であるが、地文を縦位に回転施文しており、Ⅳ・Ⅴ群土器の可能性が高い。

11類 (96、99、100) 体部中央が膨らみ頸部から口縁部にかけて緩やかに外反する深鉢である。96と99はRL縄文、100はLR縄文でいずれも縦位に施文している。100には結節文が伴っている。器形は第Ⅴ群土器で一般的な器形である。

12類 (97、98) 体部上半の張り出し・頸部のくびれ・口縁部の外反がともに強い特徴的な鉢

である。口縁部は波状口縁で無文となつている。原体はLR縄文で縦位に施文している。西区のHB 120 竪穴住居跡から出土しておりIV群土器に伴う可能性が高い。

以上が御所野遺跡から出土したI～VI群の各土器の様相である。次に各土器群の編年的位置付けについて若干補足してみる。

第I群土器は円筒上層C式である。いずれも破片でしかも出土量が極端に少ないため詳細については不明である。馬場平遺跡ではこの時期の竪穴住居跡も検出している。いずれも口縁部に4個の突起がつく深鉢で、隆線上に縄文施文のものと隆線上が無文のものがある。今回も同じく隆線上に縄文施文のものと無文のものが出土している。いずれも中央部から出土している。

第II A群土器は円筒上層d式、e式、第II B群土器は大木8 a式に相当する。円筒上層d式・e式は江坂輝弥、村越潔、鈴木克彦などにより型式の設定や見直しがされてきたが、馬場平遺跡等の出土状態から、少なくとも隆線文から沈線文という図式では型式分類できない事は明らかで、今回調査したGH 68-01 竪穴住居跡やGB 44 竪穴住居跡の共伴例もその事を裏付けている。なお大木8 a式と円筒上層d式・e式とが併行する事は、西田遺跡、大館遺跡、更に青森県の泉山遺跡、そして馬場平遺跡の出土状態からほぼ確実であり、今回も同じII群土器として扱っている。

II群土器は最も広範囲に出土しており、東側調査区、中央部、西側調査区のいずれからも出土しており、各調査区にこの時期の遺構があった事は確実である。ただII群土器の中ではA群が多く、III群土器になるとB群が圧倒的に多くなる事と対照的である。A群土器とB群土器の比率は馬場平遺跡とほぼ同じと思われるが、馬場平遺跡のB群土器はいずれも小型であったが、GH 68-01 竪穴住居跡の堆積土から出土した19は珍しく大型の土器である。

出土した土器の中には、円筒土器の文様の一部に大木式土器に特有な文様を部分的に採用している例も含まれているが、かつて馬場平遺跡から出土したような器形が円筒土器で文様が大木式土器というように、器形と文様がアンバランスな土器は出土していない。従って今回は、折衷土器としての分類は行わなかった。当地方のように円筒土器と大木式土器の接触地帯でも器形と文様がアンバランスな土器はそれ程多くない事が今回の調査でも証明された。

第III群土器はA群が榎林式土器、B群が大木8 b式に相当する。第III群土器とは反対にA群土器は少なく、B群土器が圧倒的に多くなっている。しかもA群土器は弧状文施文の土器が大半で、榎林式でも古手の土器、榎林I式土器が多いようである。B群土器は今回出土した各土器群の中では最も出土量が多いかも知れない。破片まで含めると大木8 b式土器の主要な器種がほとんど含まれている可能性が高い。大木8 b式土器については、最近遺構での共伴関係から積極的に細分されているが、今回は一括遺物があまり得られなかった事と破片が多く資料的

にやや不備であった事からあえて細分はしなかった。

B群土器の渦巻文を中心とした曲線文施文の土器群は、文様が縦方向に展開し、更に施文される隆線縁がやや細く断面形が三角形に近いものが比較的多い事から、大木8b式でも新しい時期のものが多くようである。この事は榎林II式土器が少ない事と符号するのかもしれない。

東北地方北部では、大木8b式以降大木式土器の影響が強まり、その地方化された土器群が広く分布するようになる事は古くから指摘されてきたが、御所野遺跡の出土状態もこの事を裏付けている。大木8b式でもその後半の土器が多く、しかも大木式土器そのものと言ってよい土器群が多量に出土している。むしろ同時期の榎林式土器が少なすぎる程である。同じような状況は九戸村江刺家の田代遺跡でも確認されており、この時期大木式土器文化圏から当地方にかなりの影響が及ぼされ、大木式土器が積極的に製作されはじめた事を示している。第III群土器も各調査区から出土しているが中央部で特に多い。配石遺構群の南側盛土、東側的大型住居跡群、更に北側の遺物包含層などからまとまって出土している。

第IV群土器は大木9式、あるいは大木9式に併行する土器群である。大木9式に特徴的な縦位の磨消縄文施文の土器群の他やや地方化されたと言われる土器群、例えば磨消縄文を省略し沈線文だけで種々の区画文を施文するものなどである。したがって第III群土器の8b式土器が大木式土器そのものが圧倒的に多かったのとはやや趣きを異にしている。あるいは9式の段階から更に当地方で独自に展開したのであろうか。

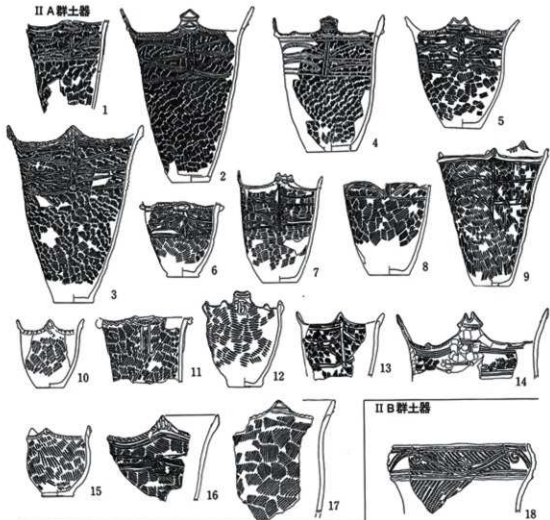
大木9式土器も2型式、あるいは3型式に細分されつつあるが、東北北部の様相はかならずしも明らかになっていない。IV群土器も各調査区から出土しているが特に東側調査区、西側調査区からの出土例が多く、調査した竪穴住居跡4棟のうち3棟がIV群土器に伴うものであった。

第IV群土器は大木10式、あるいはそれに併行する土器群である。曲線的な充填縄文施文の土器で頸部がすぼまる単純な深鉢が多くなるが、数は少ないが壺形土器も出土している。このような壺形土器は本来の大木文化圏ではあまり出土しないものである。

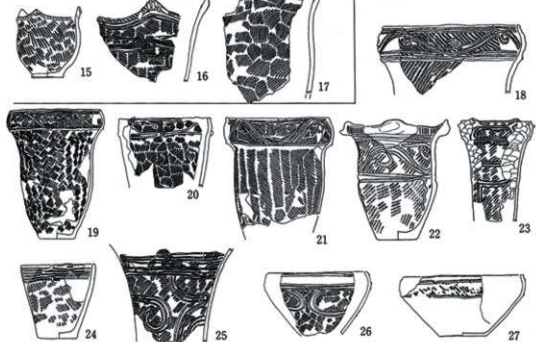
大木10式も最近積極的に細分されているが他の型式同様細分しなかった。ただ体部文様がより複雑で「ヒレ」状の突起が付いたり、さらに隆線に沿って刺突文を施文したりする比較的新しいと言われている土器群も出土している。

以上が今回出土した御所野遺跡の土器群の様相である。各群土器はいずれも細分できる可能性が高い。各群土器をそのまま時期に置き換えれば、各時期ともかなり時間幅のある区分となるざるを得ないが、集落のおおよその構造と変遷を考えるため、第I群から第V群土器をそれぞれI期からV期として考察する。集落全体の構成と各時期毎の変遷については次章にまとめている。

II A 群土器

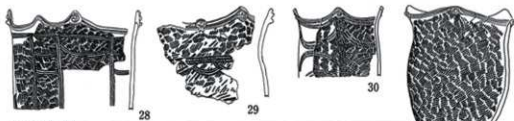


II B 群土器

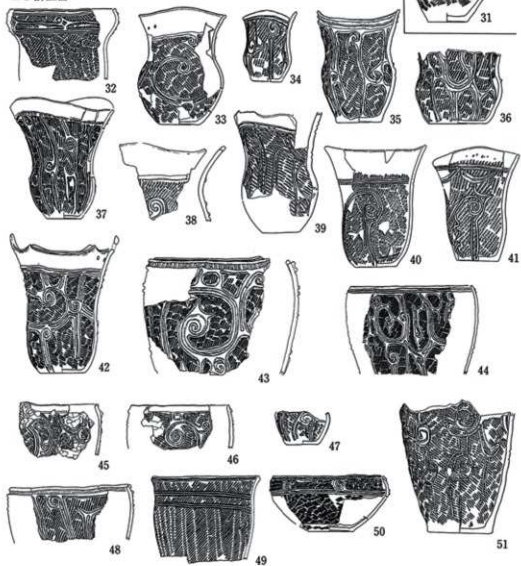


第154图 出土土器分類图(1)

III A 群土器



III B 群土器

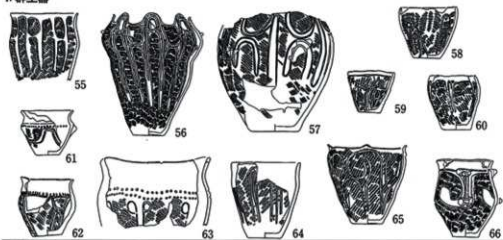


第155图 出土土器分類(2)

III B群土器



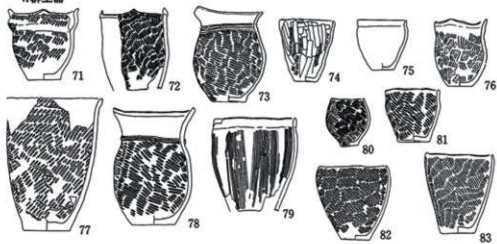
IV群土器



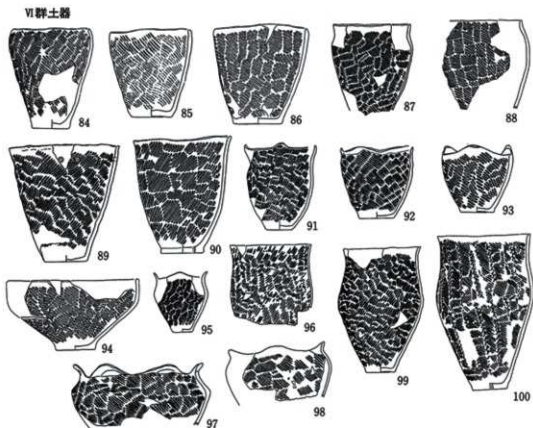
V群土器



VI群土器



第156图 出土土器分類図(3)



第157図 出土土器分類図(4)

表2 調査区毎の各群土器一覧表

○ 土器が出土している地点 ● 特に出土量が多い地点

東側調査区 (F区)

	I	II	III	IV	V
I区		○			○
II区		○		○	○
III区		○	○	○	○
IV区		○	○	○	○
V区			○	○	
VI区			○	○	○
VII区		○		○	○
VIII区			○	○	
IX区				○	○

中央部

	I	II	III	IV	V
B		○	●	○	○
C		○	●	●	●
D	○	○	●	○	○
E	○	○	●	●	○

馬場平遺跡 (参考)

	I	II	III	IV	V
東区遺構		●	●		
東区土器		●	●		○
西区遺構	○	○			
西区土器	○	○			

西調査区 (A区)

I	II	III	IV	V
	○	○	○	○

注 中央部地区区分(第159図参照)

B 配石遺構群北側

C 配石遺構群

D 盛土遺構

E 竪穴住居跡分布

地域

I~Vは各群土器をあらわす。

7. 石器

御所野遺跡からは、礫素材・剥片素材のものを含め、総計 2060 点の石器が発見された。しかし、この数は短期間の整理作業で登録したものであり、多くの剥片・裂片については記録化の余裕がなかった。それらについては調査時に加工痕・使用痕の有無を判別したが、後に再検討を行なう時間をもつことはできなかった。そのため、基本的には形状を加工した出土石器を総て登録したが、後日多少の数量の変更があるかもしれない。また、剥片剥離や剥片石器の製作技術に関連する分野の検討は、剥片類の継続調査の成果を加えて別の機会に行ないたい。

この報告では、石器の分類・計測値・石質出土地点・出土層位を一覧表で示し、そのなかから整理期間内で可能な限りの実測図・写真を付した。

①分類の基準 出土石器の分類は次のように行なった。剥片を素材としたものを A～F 類に分類し、礫素材の石器は G～L に分類した。以下、類型ごとに説明する。

A類：両面（少数ではあるが一面のものもあり）に調整加工がおこなわれるもので、調整は全周に及ぶことを原則とする。B類との区別は長さを基準とし、5cm未満の小さいものをA類とした。A類の細分は、Iとして石器の下端に茎がないもの、IIとして石器の下端に茎を作ったもの、IIIとして全体が木葉形に作られたものの三基本形があり、他にIVとして粗い調整によって形を大まかに作った厚手品を区別し、それにおさまらない形のものや、割れたために全体形を判断できないものをVとした。I・IIについては、さらに a =凹基・ b =平基としたが、IIでは基部を除いた形で分類した。IIにはまた c とした類型があり、基部と身が一体となった形の類型があり、これは身の部分の長幅比が $2:1$ 以上のもの= $A \cdot 2:1$ 未満のもの=イに再細分した。IIIについては、 a =尖基・ b =円基と基部の形を細分類し、さらに長幅比 $3:1$ 以上のもの= $ウ \cdot 3:1$ 未満のもの= $エ$ に分けた。

石器一覧表の分類記号の例を挙げると、A II cアは[5cm未満の両面調整品+有茎+最大幅下から徐々に幅狭になり基部に移行+機能部の身は長い]という石器を表現している。A類は通常「石鏃」と呼ばれる。A Iは「無茎石鏃」・A IIは「有茎石鏃」・A IIIは「木葉形石鏃」または「柳葉形石鏃」に対応し、A IVは「粗加工石鏃」もしくは「石鏃未製品」と呼ばれる資料である。

B類：両面（少量ではあるが一面のものもあり）に調整加工がおこなわれるもので、調整は全周に及ぶことを原則とする。A類との区別は長さを基準とし、原則として5cm以上のものをB類とするが、厚さや全体形により多少の幅をもたせて分類した。B類の細分は、Iは木葉形・IIは固定茎を持つ形とした。そして、厚手のものを a ・薄手のものを b として区別し、さらに調整加工の精粗で、細かいもの=イ・粗い物=ロ・先端部が細かく基部が粗いもの=ハと分類した。尖頭部を意図的に作成したものは○・その調整が無いものは×を区別した。

石器一覧表の分類記号の例を挙げると、B I b i は「5 cm以上の両面調整品+木葉形+薄手のつくり+細かな調整」という石器を表現している。B類は通常「石槍」と呼ばれる石器である。B Iは「木葉形石槍」・B IIは「装着部の造られた石槍」である。

C類：剥片を加工して刃部を作成し、加えて、両方または一方に挟り状に加工した部分を作ったもの。C類の細分は、素材剥片の形から長幅比2：1以上のもの=I・長幅比1：2未満のもの=II・その中間のもの=IIIとし、欠損品で判断不可能なものはIVとした。また、素材剥片の腹面に残る剥離時の打点の位置が上にあるもの=a・下にあるもの=b・不明なもの=c・それ以外の位置にあるもの=dと分類した。そして、刃部等の調整部位は挟り状加工部を上にして、全周に及ぶもの=1・下縁部のもの=2・下縁部+側縁のもの=3・側縁のもの=4・両側縁のもの=5・その他のもの=0とし、微細な加工については'の記号・上部の挟り状加工以外にノッチ部を作ったものについてはnの記号をつけ加えた。

C類は通常「石匕」と呼んでいる石器と対応する。石器一覧表の分類記号の例を挙げて理解をたすけると、C II a 4 nは「石匕+素材は横長剥片+剥片は打点部が挟り部もしくはその付近にある+刃は側縁にある+石匕の挟り部以外にノッチ部がある」石器を示す。素材の剥片が縦長か幅広であるかは、必ずしもC類の石器の縦長類型とに対応せず、I~IVの分類がこの石器の縦長類型や横長類型といった形状を説明する。

D類：剥片を加工して刃部を作成し、C類の様な挟り状加工を持たないもの。D類の細分はC類に準じ、素材剥片の形から長幅比2：1以上のもの=I・長幅比1：2未満のもの=II・その中間のもの=IIIとし、欠損品で判断不可能なものはIVとした。また、素材剥片の腹面に残る剥離時の打点の位置が上にあるもの=a・下にあるもの=b・不明なもの=c・それ以外の位置にあるもの=dと分類した。刃部等の調整についても、C類と同様に区分した。

D類は通常「削器」・「搔器」と呼ばれる石器にほぼ対応するが、縄文時代の刃部加工石器の分類にあたって、刃部を付けるのが剥片の側縁部か別かがどのような差異をもつかは確たる内容説明があるわけでない。また、剥離加工の角度の緩急は、経験的には「削器」・「搔器」を区別するひとつの基準になるが、その境界は曖昧でまたその差異を機能と結びつけて解釈するのは難しい。石器一覧表の分類記号を例をもって説明すると、D I b 42'は「刃部のある剥片+素材は縦長剥片+剥片の打点は下+刃は側縁にあり、さらに下縁には微細剥離が認められる」という石器を示している。

E類：両面もしくは一面から調整を加え、先端部をもつ棒状部位を作ったものをE類とした。

この類型には幅広な部分があるものと、全体が棒状に造られるものとに細分類できる。幅広部分が厚手なもの=I a・幅広部分が薄手なもの=I b・棒状なもの=IIとする。E類は通常「石錐」と呼ばれる石器であり、幅広部分を「つまみ部」・棒状部分を「錐部」と言いなら

わしている。そして、棒状部分が5mm未満の場合は表中にsを記して示すが、それより長い場合はその記号はつけない。棒状部分の調整については両面から両側に加工するもの=1・両面から一側に加工するもの=2・片面から両側に加工するもの=3・両面から加工するが断面が両凸でなくD字状になるもの=4と分けた。また、幅広部(つまま部)の調整については、両面にあるもの=イ・片面にあるもの=ロ・部分的に有るもの=ハ・ないもの=ニと分類した。

石器一覧表の分類記号の例を挙げると、E I b 1ニは[石錐+幅広部薄手+錐部は両面両側+幅広部調整なし]の石器である。

F類: 剥片素材の石器のなかで、A~E類以外の資料をF類として一括した。なかでも三日月形の両面調整石器はIとして類型化した。ほかには若干の類型に収まらない石器をこの類型に含めた。F Iは三日月形石器を示し、他はFのみで示した。

G類: 丸みのある礫や扁平礫を使用したもので、稀に大きな変形を与えたものもあるが、ほとんどは礫の形をあまり変形せずに、磨痕・敲打痕・凹みが使用の結果として残る。変形のほとんどない丸みのある礫=I・打ち欠きや磨き減らしによって変形したり、自然の扁平礫を使用したりして、敲打面や磨面が細長くなった握り部の下面にできるもの=IIと分類した。そして、変形がほとんど無いもの=a・変形があるもの=bとした。さらに、この石器の表面の特徴として、凹み部をもつもの=A・磨き減った面をもつもの=イ・敲打れた部分をもつもの=ウ・赤い顔料が付着しているもの=エ・表面が荒れヒビ割れがあるもの=オ・黒色の付着物があるもの=C・溝状の摩滅部があるもの=キ・剝離加工もしくは打撃による剝離があるもの=ク・加工や使用の痕跡が明瞭ではないもの=ケと観察項目を類型化した。

G類とした石器には、磨石・凹石・敲石や石弾・扁平磨石・砥石・石冠・半円状石器などと説明されるものが対応するが、磨石類は単一の要素のみが確認できるわけでもなく、分類の難しい部分がある。細分して他遺跡の資料と比較する場合、ア・イ・ウの要素は単純にひとつの石器に確認できるわけではなく厳密な区分が有効であるかは疑わしいが、ア=凹石の要素がある資料はイ・ウの磨石・敲石の要素があっても凹石とし、ウ=敲石の要素がある場合はイの要素があっても敲石とし、磨石としたのはイの磨り面があるものとして従来扱われていた。また、IIにあてはまるものは、本来不規則な形状の礫を素材としたものをそのまま使用したaと、大きめの石を分割したbに、ア~ケの要素が認められるもので、扁平磨石・砥石・石冠・半円状石器といった石器が対応する。また、キの要素をもつ石器はJ類のなかのキの要素をもつ資料を併せて砥石としての役割も果たしていたことになる。

また、御所野遺跡のG類石器のなかで注目すべきは、さしわたし4~6cmほどの小ぶりな球形礫にオの要素が認められる類型である。この石器は加熱の結果が反映しているものと思

われるが、ア～ウの要素が残る大型の資料にもオの要素を併せ持つ例がある（その場合はア～ウの要素を優先させて石器を分類する）。G類の石器群にはさらに、エ・カのように付着物がある例があり、カの要素は従来堅果類のアクが付着したものとされているが、エの要素は粉砕作業にはベンガラなどの顔料に対してのものも存在したことを示している。配石遺構の空間から出土したG類の石器にエ・オの要素があることは、縄文時代のこの種の遺構空間の具体的な役割について考える重要な資料となろう。

石器一覧表の分類記号の例を挙げると、G I a アイオは「円礫素材+変形は殆どない+凹と磨りの要素をもつ+ヒ割れがある」という石器を説明するものである。

H類：この類にまとめた石器の一群は、加工により形状を変形して使用した刃部を持つ礫石器である。素材本来の形を知ることが難しいものが多いが刃部のみを加工したものの存在の可能性を考慮してそれ以外は非変形のもの=a・全体を変形のもの=bと区別した。加工には剥離・磨り減らし・敲打の三種があり、剥離によって刃部を造ったもの=A・剥離によって形状と刃部を造ったもの=イ・磨り減らしによって刃部を造ったもの=ウ・磨り減らしによって形状と刃部を造ったもの=エ・敲打によって形状を加工したもの=オとして属性を説明した。この類型の石器は、従来の説明では礫器・篋状石器・打製石斧・磨製石斧といった種類の遺物名があるが、篋状石器の素材は加工痕の観察からのみではこの類型に収まるが実際は大型の剥片である場合が多い（素材の石材を含めて石器の最終的な類型化が必要となる）。

石器一覧表の分類記号の例を挙げると、Hb エオは「本来の形状不明な礫素材石器+変形+磨り減らして形と刃を造る+一部に敲打痕がある」という石器=磨製石斧を示している。

I類：この類型の石器は細長い棒状のもので、大きさは様でない。全体を変形せずに一部に加工があるもの=a・全体的な変形で形状が決定されたもの=bに細分できる。加工の種類は打ち割り・磨り減らし・敲打があるが、最終的には磨り減らしや敲打で表面を整える。さらに形状の細かく分類すると、断面が円形にちかい棒状のもの=A・断面が方形で直方体にちかいもの=イ・扁平なもの=ウとなる。通常の呼称では、A=石棒・ウ=石剣と対応するが、表にも示されるように石材や大きさの要素も考慮する必要がある。

石器一覧表の分類記号の例を挙げ説明すると、I b ウは「棒状の形をとる+全体の変形+扁平に仕上げる」という状態を示す。これは、この時期の石器では石剣に対応する。

J類：大型の石や扁平な石を素材とし、磨り痕跡・敲き痕跡などを残す石器をJ類としてまとめた。この類型の石器は、大型の石を素材としたもの=I・扁平礫を素材としたもの=IIがあり、さらに形状決定について非変形=a・変形=bの要素も細分類の基準とした。そして形状の特徴を分類して、周辺を剥離して加工したものはA・周辺を潰して（磨り減らして）加工したものはイ・その他の加工があるものはウとした。さらに使用時の痕跡の特徴を分類し

て、赤い顔料が付着しているもの=エ・周辺に使用痕跡があるもの=オ・平面に使用痕跡があるもの=カ・溝状の摩滅部があるもの=キ・黒色の付着物があるもの=クとした。J類の石器は、石皿・台石・砥石としていたものが相当する。Iのものには石皿が、IIのものには台石が多く対応するが、両方の痕跡があるものもある。そしてキの砥石としての使用は他の用途に使用した石に重複しているものが多い。

石器一覧表の分類記号の例を示すと、J I a イカクは[大型の石を素材とする+変形している+周辺を潰している+平面に使用痕跡がある+黒色の付着物がある]石器をさし、形を整えた付着物つき石皿を表している。

K類：円盤形の小板りで扁平な石器をK類としてまとめた。ほとんど変形がないもの=a・変形したもの=bに分け、さらに周辺を剥離して加工したもの=A・周辺を磨り潰して加工したもの=i・その他の部分に加工があるもの=u・加工は有るが明瞭でないもの=eと細分した。この類型は従来石製円盤と報告されていたものがほぼ相当するが、全面を剥離して円盤状にしたものには素材が剥片であるものも含まれる可能性がある。これについては石材を検討して別に細分する必要がある。

石器一覧表の分類記号の例を示すと、Kb Aは[円形扁礫を素材とする+形を造っている+周縁部を打ち欠いて加工している]の打製石製円盤と呼んでいた資料に対応する。

L類：これまでに類型化した以外の礫石器をL類とした。加工がどこかに認められる物=A・孔をあけたもの=i・その他に使用と考えられる痕跡のあるもの=uと細分した。

石器一覧表の分類記号の例を示すと、L iは[礫を素材とする+孔がついている]石器をさし、この類型のなかでは特徴的で、従来有孔礫等として類型化されて報告例がある遺物に対応する。

②各類型の器種認識と発見数量 御所野遺跡出土の石器を以上のように加工や使用痕跡から分類したが、それらを従来の石器名称と対照させながら器種をまとめ、その出土点数を集計すると第6表ようになる。この表は考察でこの遺跡の特徴を理解するために、御所野遺跡に接した一段低い丘上にある馬場平遺跡他のデータを加えて比較することができるようにし、さらに今回の調査で出土した本報告時の分類と、従来の縄文時代の石器分類が対照できるようにしてある。また石器の数量は石器一覧表にまとめた資料から、出土地点不明のもの・分類作業からもれたものを外した数量を示した。A I・A II・A IIIは石鏝でA IVを加えて集計すると671点が確認された。

以下表で対照関係を判読するとして基礎分類から器種認識への説明は略し、石器の種類ごとの出土点数を示すと、粗製石鏝（未製品）=99点・石槍=13点・石匕=26点・削器類=56点・石鏝=21点・その他の剥片石器=14点・石皿+台石=128点・扁平磨石+半円状石器+石冠+

他の磨り潰し用石器=67点・磨石=121点・敲石=204点・凹石=131点・加熱ヒビ球形礫=266点・磨製石斧=40点・打製石斧=1点・石製円盤=35点・砥石=10点・有孔石製品=3点・石棒=7点・石剣=7点・その他の礫石器=7点で、総計1927点が器種分類できた。

③石材の鑑定と器種ごとの用材 石材の鑑定は川守田浩氏に依頼して行なったが、継続調査と断続的な整理作業の実施という状態で、石器全点についてを同定できず、2点程度の石器について材質が確認できなかった。石材の判明した石器は総計1884点であった。その内容は、石器一覧表に記号で示したが、石器別にまとめ直したものが前述の理由から石器の総数とに若干の相違がある。

剥片石器と礫石器に使用する用材の違いは明らかに異なる。剥片石器では硬質頁岩が多く、玉髄・鉄石英・黒曜石・チャート・砂岩が少し混ざる。礫石器では安山岩が多く、砂岩・閃緑岩・粘板岩・チャート・軽石・シルトそして珪化木がある。器種別の用材については表にあるので詳述は省くが、いくつかの機種に用材の個性が反映している。剥片石器については、硬質頁岩の恒常的な入手が確保されていることはこの地域の一般的傾向と一致する。今回報告できなかった剥片類も調査時の所見では硬質頁岩がほとんどであった。

一方礫石器では、器種ごとに少々個性が現れている。石皿・台石・磨石類(G Iのもの)・扁平磨石・半円状石器・石冠等の類型は同様な石材を使用するが、安山岩への極端な集中はないようである。また、磨製石斧の同様な石材に及んでいるが、最も多用されているのは粘板岩である。石製円盤はチャート製のものや砂岩・粘板岩・安山岩製のものとは加工法や全体形に違いがあり、最終的には別の器種に分ける必要があるかもしれないが、後者のグループの量的関係も安山岩に集中する傾向にはない。砥石は磨石類との併用もあるためか、安山岩に集中する。石剣は粘板岩が多く安山岩はない。結局安山岩に集中しているのは量的に多く発見されている石皿・台石と磨石類・球形礫であり、むしろ礫石器は用途におうじてさらに適材を判別していたことが分かった。この傾向は石材の鑑定名称違いはあるが、同時期の遺跡である二戸市上里の用材傾向と共通している。

④小結 御所野遺跡の石器について、以上のような内容を報告し得たが、考察はまとめの部分で遺跡の性格と関連させながら述べることにして、ここでは御所野遺跡の石器の特徴についての列挙しておく。a) 石鏃が極めて多く、その比率は出土石器の34.8%・剥片石器の74.6%を占める。b) 石皿・磨石類も多く、出土石器の33.8%・礫石器の63.4%を占める。c) 石皿・磨石には黒色の付着物以外に、赤色顔料が付着したものがある。d) ヒビの入った球形礫が266点と出土石器の13.8%出土し、磨り石類の中にもヒビ入りのものがある。

(山田 昌久)

表3 石器の器種毎の石質集計表

石器の種類	石材記号 石材	J 類群	E I	P I	K I	L I	B I	S I	N I	A I	D I	F I	G I	T I	石器種類別 鑑定総数
石 鏃 (含む粗加工品)		733		17	10	4	1	1							766
石 槍		13													13
石 七		21		2											23
削 器 類		48	1	2	1										52
石 鏃		19													19
その他の 剥片石器		8							3						11
石 皿・台石								6		105	9	2			122
扁平磨石類・石冠 ・半月状石器・他							5	19	3	33	6				66
磨石類 (磨石・磨石)							3	34	3	355	21		1		417
球形磨 (含む 熱熱ヒビ入り)								23	1	247	14				285
磨製石斧							1	5	20	9					35
打製石斧										1					1
石製円盤							15	8	6	4					33
有孔石製品										3					3
砥 石								1		18					19
石 棒										7					7
石 剣							1	2	3						6
その他の 磨石										4				2	6
石材別の 鑑定総数		842	1	21	11	4	26	99	39	786	50	2	1	2	1884

表4 調査区毎の出土石器集計表

調査区名\石器類型	A I	AI・II	AIV	B	C	D	E	GI	GII	J	Hbx	K _{sp}	☆主要な石器を示し、また出土地点の確実なものを集計したため、石質集計表の数と一致せず少なめな数値を示している。
A 地区	2					1					1		
B 地区	4	19	5		1	8		36	1	3		3	
C 地区	80	71	12	1	5	9	5	133	7	20	6	11	
D 地区	56	181	32	7	3	17	8	271	28	45	9	37	
E 地区	31	104	25	3	10	14	7	230	19	58	13	8	
F 地区	47	16	5		3	6	1	55	8	7	9	1	

表5 遺跡の石器組成の比較(1)

石器の種類\遺跡	北上市城ノ沢遺跡	翠石町塚ヶ森遺跡	紫波町西田遺跡	盛岡市大館町遺跡	大迫町観音堂遺跡
石 鏃	570	353	22	66	250
石鏃(粗加工)			3	50	49
石 槍	13	74	1	5	
石 七	301	474	27	34	28
削 器 類	14	1553	40	281	778
石 鏃	48	64	3	14	25
その他剥片石器	491	4		19	398
石 皿・合 石	36	45	5	17	159
磨石類(薄手・石冠・平円状石器・他)	484	1203	1	86	
磨石類(有磨面)	393	325		16	30
磨石類(有縁部)		38	1	49	424
磨石類(有凹部)	297	327	10	41	154
球形礫(含加熱)					4
打ち欠き石鏃	2599	177	10	7	3
磨 製 石 斧	70	88	37	13	45
打 製 石 斧	17	13	9	2	6
石 鏃	153	1049	28	20	7
石 製 円 盤	22	8	4		103
砥 石	2	53	8	38	2
有 孔 石 製 品	46	42		2	4
石 棒		14		1	8
石 剣	2	13	8		72
その他の礫石器	23	16	4	9	5
装 飾 品	50	23	11	5	5
報 告 総 数	5631	5956	232	523	2559

表6 遺跡の石器組成の比較(2)

表の分類記号\遺跡	一戸町御所野遺跡	一戸町馬場平遺跡	三戸町 泉山遺跡	二戸市上里遺跡	鹿角市天戸森遺跡
A I, A II, A III	671	269	62	99	154
AN,	99	68			
B I, B II	13	12	5	13	21
C I, C II, C III CN	26	2	15	68	93
D I, D II, D III DN	56	8	20	221	707
E I, E II	21	3	14	19	54
F I, F II, F III FN, FV	14	35	2		2
J I, J II	128	9	18	7	40
G II, GIケ, Haア	67		4	80	
G Iaイ	121	33	12	68	124
G Iaウ	204	35	51	24	
G Iaア	131	13	20	62	110
G Iaオ	266	45			
—— 石鏃			29	30	5
Hbエ	40	19	20	37	52
Hbイ	1	12		7	3
—— 石腕		3	4	60	49
Ka, Kb	35	1	12		
GIキ, JIキ GIIキ, JIIキ	10	8		12	2
Li	3	5		1	
Iaア, Ibア	7	3	5	4	13
Ibウ	7	2	5	1	
Laア, ウ	7	24		3	
装飾品	別掲	2	5	5	
報告総数	1927	609	299	821	1429

8. 土製品・特殊土器・石製品

土製品

a、土偶（第103図1～5、第105図29）

7点出土している。1～5は全て厚さ0.8～1.6cmの板状の土偶である。1～3、5は胴部、4は頭部の破片で、2、3には貼付により乳房が表されている。1は3～4列、2は2列、3は1列、4～5は1～2列の刺突文がそれぞれ施され、1、5には赤色顔料が残存している。1はFD54グリット、EF48グリットより出土したものが接合している。下部のFD54グリットより出土した破片のみに赤色顔料が残存し、上部に赤色顔料はみられない。29は径2.6cmの円筒状の脚部で、下端及び中央部分に押圧縄文が施されている。他の土偶と形状が異なっており、あるいは土偶ではない可能性もある。

b、三角形土製品（第103図6～13、第104図14～18）

13点出土している。断面形が平板状のもの（10、12、15～17）と裏面が反り内湾するもの（6～9、11、13、14）とがある。7、8、13は縄文、7～10、12、17は刺突文、9、18は沈線文が施され、単独あるいは組み合わせられて文様が構成されている。11、14は無文である。刺突は正面のみのもの、更に側面に施されているもの（8、9、10）があり、12は刺突が裏面にまで貫通している。9は欠損品、10は刺突が施された部分より欠損している。6は粘土の貼付による隆帯で人面のようなものが表現されている。7、8は三角形の一頂点に粘土の貼付によるつまみ状の突起が見られる。13、15～17は三角形の頂点に穿孔が見られる。15は貫通していない。18は他と形状を異にするが、側面に横方向からの穿孔が見られる。6、11、18には赤色顔料が塗布されている。

c、耳飾り（第104図19～25）

7点出土している。全て滑車形の耳飾りである。21～25は比較的くびれが少なくやや円筒形に近い形状を呈する。中央部に貫通孔のあるもの（19～22）と、貫通孔のないもの（23～25）とがある。文様は20が片面、他は両面が施文されており、21～25は円形の刺突、19、20は三角形の刺突が施されている。20、22は両面に2個1対のヒレ状隆帯が貼付されるが、22の隆帯は剝落し1個が残存するのみである。21には片面に2個1対のヒレ状隆帯が貼付される。24は欠損品だが1個のヒレ状隆帯が見られる。

d、三角錐形土製品（第104図26、27、第105図28）

3点出土している。秋田県鹿角市天戸森遺跡では呼鐘状土製品としている。形態は三角錐形を呈する。26は円形、28は三角形の刺突文が施文されており、27は無文である。26、28の下端には正面と背面をつなぐ貫通孔が2個みられるが、26は穿孔部分から欠損している。27は底面が凹み、側面对称の位置に小突起が貼付されている。

e、環状土製品（第105図30、31、33、36、37）

5点出土している。30、36は完形品、他は欠損品である。30は両面及び側面に沈線文、33は刺突文が施されている。

f、有孔土製品（第105図32、34、35、38）

5点出土している。32、34は平板状、35、38は円筒形を呈する。32は長軸の両端、34、35は中央部分、38は長軸方向に穿孔が見られる。34は両面に縄文が施文されている。

g、棒状土製品（第105図44、第106図46～51）

7点出土している。大きさ断面の形状は種々である。51のみ完形品、他は欠損品である。46、47には赤色顔料が残存する。

h、スプーン型土製品（第106図45）

1点出土している。楕円形の皿に柄が付いた小型の土製品である。御所野遺跡の西側段丘下に位置する馬場平2遺跡より類似品が出土している。

i、キノコ形土製品（第106図52～54）

3点出土している。いずれもカサの部分が残存し、茎の部分は欠損している。形態は円形を呈し、52・54のカサは内反り、53のカサは外反りで周縁部が厚くなっている。

j、斧状土製品（第106図55～59、107図60～67）

14点出土しているが、いずれも欠損品である。55～58、62は基部破片で断面の短軸方向に穿孔がみられる。62は穿孔部分より欠損している。59、66は刃部の破片で先端部にミガキが施されている。57は無文、65は縄文及び沈線文、66は沈線文、他は全て縄文が施されている。

k、腕輪状土製品（第107図69）

1点出土している。比較的幅が狭く厚手のもので、断面形が楕円形を呈する。文様は施されていない。

l、土錘（第108図70）

1点出土している。形態は楕円形を呈し、短軸を一周する溝を3条、さらに長軸を一周する溝を1条持つ。全体は無文研磨されている。

m、貝形土製品（第108図73）

1点出土している。貝を模したと思われる土製品で、周縁が部分的に欠損している。文様は施されていない。

n、その他の土製品（第105図39～41、43、第108図71、72、74～76、77）

39、40は湾曲した棒状の土製品で、39は両端、40は一端が欠損している。39の両端の径は中央部分と比較すると大きく、土器の把手の可能性も考えられる。40の欠損部分の径も他の部分より大きく、もう一端で先細りしている。41は円形で対称の位置に脚状の突起が2個みられ

るがいずれも欠損しており、あるいはつまみの可能性も考えられる。断面は中央部分がやや張り出した三日月状を呈する。脚の間に1個の貫通孔、さらに脚から張り出し部に向かって1個の貫通孔が見られる。脚の下方にも2個ずつ対称の位置に穿孔がみられるが、いずれも貫通していない。脚及び穿孔部分にアスファルトが付着する。43は円形の扁平な土製品で無文研磨されている。71は全体の形状は不明だが残存部は皿状を呈し、対称の位置に脚状の突起が4個みられる。突起部分はいずれも欠損している。72は棒状の土製品で、断面は楕円形を呈する。一端の上部がやや膨らみ若干のくびれが見られる。

74は比較的薄手のややいびつな環状を呈する土製品で、一部に縦の貼付が見られる。文様は施されていない。75は開口部に2個、77は平坦面に近いところに1個の突起が見られる。いずれもつまみ部分が穿孔部分より欠損したものである。76は皿状の部分に柄をつけたもので、片面は平坦になっている。柄の部分には上方からの穿孔が見られ、文様は施されていない。

円盤状土製品 (第109~111図)

土器片を加工して一定の形態を作り出し二次的に再利用したもので、本遺跡では343点出土している。形態は打ち欠きや研磨の程度に応じて様々だが、形状により次のように分類した。

- | | |
|---------------|---------------|
| I類 円形を呈するもの | 267点 (全体の78%) |
| II類 三角形を呈するもの | 45点 (全体の13%) |
| III類 四角形に近いもの | 31点 (全体の9%) |

なかには明らかに全周が研磨された半円状を呈するもの(113)、形状が台形を呈するもの(98、99)もあるが、それぞれI、III類に含めている。

さらに加工方法により次のように分類した。

- | | |
|---------------------|------|
| a類 全体または一部を研磨加工したもの | 87点 |
| b類 周縁の打ち欠き加工だけのもの | 256点 |

打ち欠き加工のみのものが全体のおよそ75%を占めている。

形状で加工方法を分類すると、I a・33点、I b・234点、II a・34点、II b・11点、III a・20点、III b・11点で、円形のおよそ87%が打ち欠き加工のみであるのに対し、三角形、四角形では研磨率が高くなっている。素材としている土器片の大部分は体部破片を利用しているが、口縁部(116)や底部を利用しているものも数点見られる。素材の文様は縄文が大部分を占めるが、無文のみのも(102)、沈線文(112、116、91、94)等もみられる。94には2個の貫通孔がある。大きさは、3~4cmのものが最も多く、最小は2.0cm、最大は7.1cm(表339)となっている。重量では、10~20g前後が最も多く、最小4.1cm(83)、最大55g(表339)を計る。なかには調整のはっきりしたかなり大型のもの(表338~342)も含まれる。

出土地点の分布状況は、A区5点、B区22点、C区108点、D区103点、E区83点、F区6

点となっており、C区の配石遺構群及びD区の中央部南側盛土層周辺に集中している。C、D区の出土地点不明を除いた全体の65%、更にE区をも合わせると全体の90%を占めている。E地区のみの出土状況をみても半数の約52%は配石遺構群の東側に集中しており、以上のことから分布範囲はかなり限定されるものと思われる。

特殊土器（第112、113図）

1～14は台付土器である。台部が比較的長いもの（1、7、10、11）と短いもの（2～5）、体部から台部にかけてのくびれの大きいもの（1～3、6～14）と小さいもの（4、5）とがある。1は台部の対称の位置に4個の穿孔が見られる。15は皿状を呈し、対称の位置に脚状の突起が2個見られる。皿の内側は研磨している。16～56はミニチュア土器である。16は胴部が強くはり口縁部が内傾する小型の壺形土器で、胴部上端に把手を有する。17、18、21、23、26、29～33は鉢形土器で、17は口唇部に1個把手を有する。19、20、24、34は胴部が丸みを帯び口縁部が内湾する壺形土器である。22、25、27、28は平底の壺形土器である。19、25は円形の刺突文、20、35は沈線文が施文されている。36～55は底部の破片で、最大幅4.3cm～最小幅1.3cmを計る。50は胴部の張り出し部分に三角形の刺突文、沈線文の内側に四角形の刺突文が施された壺形土器である。57は鉢形土器に脚部を貼りつけたような形状を呈している。3脚のうち2脚は貼りつけ部分から欠損している。脚部の長さは1.8cm、最大径は1.0cmと細長い棒状で先き細りしている。

石製品

a、有孔石製品（第114図1～5、7～14、16、第115図24、31～33）

20点出土している。1～3は小礫を加工したもので、やや扁平な円形を呈する。石質は全て安山岩製で中央部に穿孔が見られる。2は両側からの穿孔であるが、径の大きさは1.8cm及び1.0cmと一方が広がっている。5、13、24、33は周縁あるいは全面に研磨が見られ、断面形は平板状を呈する。5、33は楕円形、24は隅丸方形で上方に穿孔がみられる。33の両面には縦に線刻が施され、暗褐色の塗料が残存している。13は欠損しているが穿孔の径は他と比較して大きく、片面に一条線刻がみられる。16は全面が丹念な研磨により整形されている棒状の石製品で、断面は方形を呈している。長軸の両端に穿孔が見られ、さらに横方向より直角に貫通する形で穿孔がみられる。両端の穿孔部分には対応する位置に調整によるえぐりが見られる。青森県富ノ沢遺跡、秋田県天戸森遺跡より類似品が出土している。4、7、32は自然礫をそのまま利用している。14は棒状の自然礫の片端に穿孔がみられ、もう一方に側面からの小さい穿孔がみられる。8、9、10、31は小型の玉類で10は翡翠製である11、12は自然礫の片側に穿孔が浅く残る未製品である。

b、環状石製品（第115図34）

1点出土している。穿孔の径が小さい有孔石製品に対し、径の大きいものを環状石製品とする。全面が研磨により整形されている。

c、大殊（第114図6）

1点出土している。翡翠製で両端が欠損している。転用したのでであろうか裏面には擦り切り調整が見られる。

d、線刻礫（第115図18、19、21）

4点出土している。18、19は全面が研磨された楕円形を呈する扁平な礫に線刻が施されている。18は中央が浅く凹み、この部分に長軸方向の縦の刻線が集中してみられる。凹みの左右ほぼ対称の位置に平行する形でやや深めの刻線、下方の中央やや右寄りに横の刻線が4条見られる。側面に線刻は見られない。19は表面の縁辺に線刻が施されている。この他の部分には弱い擦痕が不規則に認められる。21は球状の素材に研磨による平坦面が作出されており、幅約3mmの直線で十文字に線刻されている。

e、有溝礫（第115図17）

1点出土している。棒状の素材の短軸を一周する溝を2条もつものである。一部が擦られ平坦な面が作出されている。石錘の可能性が高い。

f、不明石製品（第114図15、第115図20、22、23）

4点出土している。15は両端が欠損している扁平な石製品で全体が研磨により整形されている。20は全体の形状は不明であるが、残存部は扁平な三角形を呈する。丹念な研磨により仕上げられている。22は全体の形状は不明であるが、残存部はL字形を呈する。研磨により整形されている。23は両端が欠損した扁平な棒状の石製品で、全面に磨痕・擦痕がみられるが、石剣、石刃類とはやや異なるものと思われる。

（松橋智佳子）

表7 土製品・特殊土器・石製品出土地点毎の集計表

（ ）は%を表す

	A	B	C	D	E	F	不明	合計
土製品	0 (0)	6 (8)	27 (35)	21 (27)	18 (24)	4 (5)	1 (1)	77
円盤状土製品	5 (1)	22 (6)	108 (32)	103 (30)	83 (24)	6 (2)	16 (5)	343
特殊土器	0 (0)	1 (2)	21 (37)	16 (28)	13 (23)	3 (5)	3 (5)	57
石製品	0 (0)	0 (0)	12 (35)	13 (39)	4 (12)	5 (14)	0 (0)	34
合計	5	29	168	153	118	18	20	511

9. 遺跡の構成

遺跡全体の範囲を確認する事が今回の調査の主目的であったため、各遺構とも掘り下げて調査したものは少ない。そのため具体的に遺跡の構成を詳述する事はできないが、検出した遺構のうち竪穴住居跡をいくつか調査しているし、中央部の配石遺構群の下やその周辺ではトレンチを設定し一部内容も確認している。以上の限られた資料から遺跡の全体像について考えてみたい。もちろん得られた資料は限定されたものである事と部分的な内容確認調査の結果からだけの現時点で把握した概要に過ぎない事はあらかじめ断っておきたい。

御所野遺跡の最大の特徴は、集落内に基城が取り込まれ、そこで暮らした人々の生活の場と墓が同じ遺跡内に分布していることである。遺跡のある台地面積は、約58,000㎡あるが、そのほぼ全域に遺構が分布している。この台地下の段丘面に位置する馬場平遺跡でも御所野遺跡と同時期の遺構を調査しており、この馬場平遺跡の調査結果も踏まえてまとめてみたい。

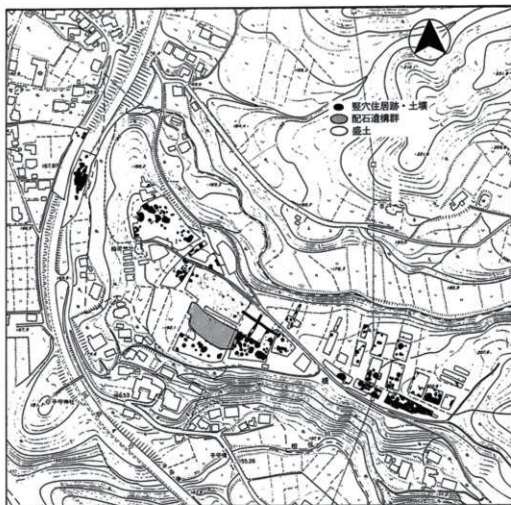
遺構の空間分布

配石遺構群は中央部の北側に分布している。東西に長い御所野台地の中でも、この配石遺構群の周辺は特に南北に広く、しかも起伏のない平坦面になっており、地形的に最も条件の良い場所が選択されている。配石遺構は東西に80m、南北に50mの範囲に分布しており、しかも周辺は大規模に造成工事が行われている。造成工事は、この配石遺構群周辺の土を削平し、それを南側に盛土しており、厚さは30～50cmとなっている。この配石遺構群と盛土の外側に竪穴住居跡を検出しており、北側の斜面を除いて東、南、西とほぼ一巡し、馬蹄形に近い配置となっている。以上が中央部の遺構の分布状況である。

東側調査区では主に竪穴住居跡と土壌を検出している。調査区東南よりの斜面に密集しており、そのほとんどが重複している。その他やや密度は薄くなるが、中央の平坦面から北側斜面でも確認している。ところでこの東側調査区の遺構群と中央部の遺構群の間、20～30mの範囲はほとんど遺構もなく空白地になっており、東側調査区と中央部の遺構群は区別して考えることができる。なお東側調査区には配石遺構は認められなかった。

西側調査区にも遺構は広く分布している。やや東西方向に傾斜した尾根状の丘陵の東側斜面から北よりの中央平坦面、さらに数は減少するが、西側斜面でも検出している。この西側調査区の西側は比高10mほどの段丘崖で、その下が馬場平遺跡である。かつて調査した場所はちょうど西側調査区の真下に相当する。遺構の大半は住居跡で、その他土壌、屋外埋設土器もあるが、中央部のような配石遺構は検出していない

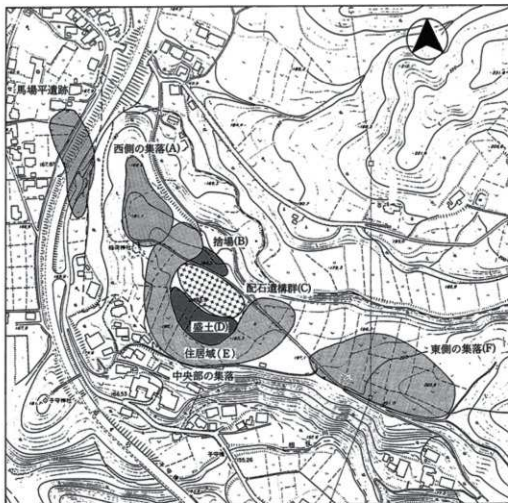
以上が4年間で調査した御所野遺跡の縄文時代の遺構群の空間分布である。中央部の配石遺構群とその周辺の盛土を中心とした集落跡であり、配石遺構群・盛土の外側に馬蹄形に配置された住居跡や土壌群、更に遺跡の東側と西側、更に馬場平遺跡も含めた範囲までの住居跡の分



第158図 遺構の空間分布図

布が明らかになった。検出した遺構のうち竪穴住居跡は、推定数で中央部が70～100棟、西側が187棟、西側が50～70棟、馬場平道跡が37棟となっており、以上だけで400棟近くに達する。遺構確認面積が全体の6割程である事から考えて、最終的には竪穴住居跡だけで総数500棟をはるかに越す事は確実である。

土壇は大半がフラスコ形土壇、更にピーカー形土壇と考えられる。いずれも竪穴住居跡の周辺に分布しているが、検出した数は竪穴住居跡より少なく、しかも密集しているところもない。このような土壇は一定の場所に集中し重複している例が多かったが、今回の調査ではそのような場所は確認できなかった。土壇のなかには、特にフラスコ形土壇のように開口部が狭まったり、次々と埋め戻されるため堆積土が周辺の土と同じになり遺構確認が難しくなったりするものもある。調査では一つの土壇を掘り下げてから下層で別な土壇を確認できたという例も



第159図 遺跡の構成概念図

多い事から、未調査区に集中地点があるのであろうか。

その他の遺構としては、屋外に設置したと考えられる埋設土器や炉跡がある。埋設土器は中央部南側の竪穴住居地域で3基、西側調査区の東側斜面で2基検出しているだけで、それほど数は多くない。屋外炉はいずれも中央部の配石遺構群の南側の盛土と北側の包含層で検出している。

基城の構成

基壇と考えられる土壇は、中央部の配石遺構群の周辺で検出しており、御所野遺跡の配石遺構は、基に伴う事が明らかになった。基壇は配石遺構群の中央に設定したFE 40 トレンチの中で確認しているが、第 237 図のようにいずれもトレンチの東側、FE 52 配石の下やその周辺に分布が限られている。

御所野遺跡の配石遺構群は、個々の配石遺構の配置から大きく東、西の2つに分けて考える事ができる。以上の2つの分布を大単位の配石遺構、それを構成する個々のものを小単位の配石遺構と区別して記述してきた。

ところで東側の大単位の配石遺構群は、その分布から、東西方向に長い40×20mの楕円形あるいは隅丸長方形とも考えられるが、中心部は組石以外の石もほとんどない空白地となっている。今回トレンチ内で調査した墓墳群は、大単位の配石遺構群の分布に沿った空間に限られる事から、墓墳群も大単位の配石遺構群に沿って一巡する可能性が高い。東側の配石遺構群が小単位の配石遺構の集合状態から全体が6区分される事は既に触れたが、調査区内で検出した墓墳が数ヶ所に密集し重複している事から考えて、それぞれ群を構成している可能性が高い。

墓墳の外側では掘立柱建物跡を検出している。トレンチ調査のため確定できた建物跡は3棟と少ないが、建物の棟方向はいずれも東西で、しかもこの方向は同じ地区の墓墳群の長軸方向に近いものとなっている。以上から墓墳群と掘立柱建物跡はそれぞれ密接に関わりのある遺構と考えられ、しかも確定した建物跡以外にも柱穴が多数ある事から何度も立て替えられた事が推測される。

以上から東側の配石遺構群を中心とした基域は、配石遺構群とその下の墓墳、更には外側の掘立柱建物跡により構成され、しかもそのいずれも基域全体にわたる強い規制により計画的に構築された可能性が高い。このような基域の構成は、岩手県西田遺跡、秋田県大湍環状列石、更に最近では山形県の西海淵遺跡、秋田県の高屋館跡などの基域と共通するものである。

西側の配石遺構群の下部は調査していない。小単位の配石遺構の形態はやや東側とは異なっているが、全体が大単位の配石遺構群としてまとまりがある事から東側と同じように墓墳や掘立柱建物跡が分布している可能性が高い。

以上から御所野遺跡の基域も、大単位の配石遺構群に対応し二分して考える事ができる。

基域が二分されるとすれば、それぞれ東側、中央部、西側、更に馬場平遺跡まで含めた竪穴住居跡などの分布地域（居住域）とはどのような関係になるのであろうか。縄文時代の集落構成を探る上で格好の遺跡となるであろうし、ひいては早くから言われている縄文社会の二分制あるいは三分制という問題など縄文時代の基本的な社会構造を考える上で貴重な遺跡となるであろう。残念ながら調査した遺跡があまりにも少なく、今回は具体的に叙述する事はできなかった。

盛土遺構の意味（祭祀域の様相）

配石遺構群の南側に作られた盛土からは遺物が多量に出土している。土器、石器、剥片、土製品、特殊土器、石製品などのほか、炭化植物種子、獣骨、焼土ブロックなどである。土器の総量は他の地区と具体的な数字で比較できなかったが、石器はA～Fの各地区のなかで盛土か

らの出土が最も多くなっている(表4)。土製品、円盤状土製品、特殊土器、石製品も配石地帯とほぼ同じ位出土しており、他の地区とは明らかに異なっている。もちろん全ての遺構を調査した訳でもなく、調査の程度により当然出土量も異なるであろうから今までに得られた資料からだけでは単純に比較できないが、各地区の遺構やトレンチ内は盛土のような出土状況ではない。

さらに獣骨、炭化種子、特殊な磨石類が特筆される。出土獣骨のほぼ70%がこの盛土から出土しており、更に中央部東側の小規模な配石遺構群周辺の一括品を除けば90%以上となる。しかも分析鑑定で指摘されているように、いずれも小片でかなりの高温で焼かれている。炭化植物種子も多く、なかには1ヶ所からまとまって出土している。その他赤色顔料付着の磨石やヒビ入り礫、文様の貼りつけ部分を連続して敲打し意識的に打ち剥がしたと思われる土器なども出土しており注目される。

以上からこの盛土やその周辺では、獣骨を使った祭祀が取り行われていた可能性が強い事を指摘できる。また土製品等の特殊な遺物が多い事から、あるいは基域周辺の祭祀に使用された遺物をこの盛土上に集中的に捨てたとも考えられる。後期以降の墓や祭祀の遺跡では、獣骨片や鳥骨・魚骨片が出土する例も多いが、御所野遺跡の今回の調査により中期後半の例が明らかになった。

縄文時代の集落遺跡では大規模な遺物包含層が形成されるが、その他廃棄された竪穴住居跡などの遺構に集中的に遺物が捨てられる場合もある。捨場となる遺構は、比較的規模が大きく、しかも掘込みの深い竪穴住居跡などが選択されているようであり、馬場平遺跡のC4とC7大型住居跡の2棟からも遺物が多量に出土している。他の遺跡でも竪穴の凹地から遺物が出土する例が多く、竪穴住居跡への遺物の廃棄が広範に行われていた事を示している。今回調査したGH 68-01 竪穴住居跡の堆積土からも第II、III群土器がまとまって出土しており、少なくとも2つの土器形式にまでわたる長い間、遺物が捨てられていた事になる。同じように中央部東側の大型住居跡からも遺物が多く出土しており、竪穴住居跡、特に大型住居跡に集中的に遺物が廃棄された事を示している。その他配石遺構群の北西側からもまとまって出土しており、遺物の棄てられる場所は必ずしも配石遺構群の南側の盛土に限定されていた訳ではない。中央部、特に配石遺構群の周辺に多く捨てられているようである。

東側調査区でもHD 114 竪穴住居跡とHB 120 住居跡の2棟を調査したが、中央部の大型住居跡に比較して堆積土中からの出土量はそれ程でもない。意外にも土器が少ないようである。西側調査区の小型の住居跡でも同じようにそれ程多くはない。以上から御所野遺跡ではIII期以降、基域周辺に意識的に遺物廃棄された可能性が強い。人間を埋葬したと同じ場所やその周辺に意識的に遺物を廃棄したのであろうか。

ただこのような中央部の配石遺構群の周辺と比較しても盛土からの出土遺物はやや異質なものが多く、単に墓域を削平して盛り上げて捨場としただけでなく、当初から祭祀の場として意識されていた可能性が強い。

集落の時期別の変化

御所野遺跡から出土した土器は前述のように第Ⅰ～第Ⅴ群土器に分類した。ここでは分類した各群土器をそのままⅠ期からⅤ期の時期に置き換えて、遺跡の変遷について考えて見よう。

Ⅰ期（円筒上層c式期）

出土土器も数片であり内容は不明である。馬場平遺跡では北西端に位置する竪穴住居跡を1棟調査している。土器はいずれも北西調査区だけから出土しており、Ⅰ期の集落は馬場平遺跡でも北西側に分布が限られているようである。

Ⅱ期（大木8a式、円筒上層d・e式期）

第Ⅱ群土器は、東側、中央部、西側から出土しており、ほぼ全域に遺構が分布している可能性が強い。馬場平遺跡では大型住居跡1棟を含む11棟の竪穴住居跡を調査しており、大型住居跡を中心とした集落の配置が明らかになっている。中央部では、配石遺構群の南側の盛土下でGB 44 竪穴住居跡を検出しているが、その堆積土中にはⅢ群以降の土器は全く含まれていない。以上から盛土はⅢ期以降に形成された事は確実で、配石遺構群の下に分布する墓域もⅢ期以降に位置づけられる。墓域周辺では掘立柱建物跡の柱穴と重複して竪穴住居跡や土壇を検出しているが、これらもⅡ期のものが大半であろう。大型住居跡のGH 68-01 竪穴住居跡もⅡ期の遺構である。

Ⅱ期は現状で把握できた墓域の形成以前の時期に相当するため集落配置など詳細については不明である。ただ出土土器の分布から遺跡の各地区に遺構があった事は確実で、Ⅰ期より集落は拡大し、竪穴住居跡もかなりの数にのぼるものと思われる。

Ⅲ期（大木8b式、榎林式期）

Ⅲ群土器も各調査区から出土している。なかでも中央部が多く、東側、西側調査区からの出土量が相対的に少なくなっている。特に配石遺構群南側の盛土や北側、更に東側の大型住居跡の周辺からも多く出土している。東側の大型住居跡の堆積土からもⅢ群土器が多く出土しており、大型住居跡はⅢ期がそれ以前の可能性が強い。馬場平遺跡でもこの時期の竪穴住居跡は6棟あり、同じく大型住居跡を中心とした集落配置を確認している。検出した配石遺構群を中心とした集落配置はこのⅢ期以降形成されたものと思われる。ただ中央部から出土する土器は、Ⅲ群土器でも比較的新しいものが多いようである。

Ⅳ期（大木9式期）

Ⅳ群土器も各調査区から出土している。Ⅲ群土器と同じく中央部が多いが、東側・西側調査

区からも出土している。東側調査区で調査した2棟の竪穴住居跡はいずれもIV期の遺構である。中央部では盛土層や東側的大型住居跡の密集区、さらに北側からも出土しており、特に墓域周辺からの出土例が多い。GA 82 竪穴住居跡もIV期に相当し、一括土器が得られている。なお馬場平遺跡では遺構・遺物とも全くなく空白期になっている。

V期（大木10式期）

V群土器も各調査区から出土している。特に東側調査区の北側斜面から出土した土器はV群土器が多く、中央部から南側斜面に集中していたのがV期になって分散した様子を指摘できる。中央部では墓域周辺の盛土、更に竪穴住居跡の分布地域からも出土している。

なお中央部東側で小規模な配石遺構を検出しているが、この周辺や南側盛土上の小規模な配石遺構周辺でもV群土器が出土しており、中央部北側に集中していた配石遺構群がこの時期にその外側にまで分散した可能性がある。V群土器は西区からも出土しているが、馬場平遺跡では遺物が少量出土しただけで遺構は確認できなかった。

以上のI～V期の遺構群から集落の変遷を要約すると次のようになる。

御所野遺跡の集落は、墓域を中心とした集落が形成されたIII期以降とそれ以前とに区別して考える事ができる。I期の遺構は馬場平遺跡の西側に限られ、遺物からみても馬場平遺跡の東側からは全く出土していないし、御所野遺跡の中央部から少量出土しただけである。したがって集落の規模もそれほど大きくはないであろう。

II期の遺物はほぼ全域から出土し、しかも出土量も多い事からおそらくI期より大幅に集落が拡大したものと思われる。馬場平遺跡のように大型住居を中心とした配置となっていた可能性が強い。ただII期までの墓域は現在のところ確認できていない。

III期は中央部が削平され盛土遺構が形成された時期で、墓域を中心に集落が配置された時期である。馬場平遺跡にも大型住居跡を中心とした竪穴住居跡群が分布しているし、御所野遺跡の西側、更に東側でも確認できるが、遺物は中央部から最も多く出土している。

IV期、V期ともそれぞれ時期により多少遺構数に増減はあろうが、基本的には墓域を中心とした集落が継続されたものと思われる。ただV期では東側調査区に多くなり、しかも竪穴住居跡は1ヶ所に集中せず、やや分散化する傾向がある。

出土土器の様相については既に略述しているが、I、II期までは基本的に円筒上層式土器群が主体を占め、大木式土器が少量伴出するだけである。ところがIII期になると大木8b式土器が圧倒的に多くなり、榎林土器そのものは極端に少なくなってくる。8b式でも比較的新しい時期になると榎林II式土器はほとんどなくなり、出土土器の大半を大木式土器そのものが占めるようになる。以上から大木8b式土器の北への進出という事が今回の調査でも裏付けられた。

III期の集落の再編成とこの土器群の変化はほぼ時期が一致している事から相互に関連がある

ものと思われ、墓域を中心とした集落配置への変化は南からの影響により引き起こされたものと考えられる。それ以降当地方でも大木式の影響の強い土器が主体的に出土するようになる。

集落構成の変化

ところで御所野遺跡から半径 500 m 以内に縄文時代中期の遺跡が集中している事は、I 章の周辺の遺跡でも記述しているが、大半は御所野遺跡の V 期、大木 10 式の時期である。御所野遺跡でも V 期になると東側調査区で集落が分散した可能性が強い事は触れているが、他の遺跡でも大木 10 式期では、住居跡が 1ヶ所に集中せず 3~4 棟を基本単位として、周辺に分散している場合が多い。

平成 2 年度から実施している一戸町内の分布調査でも、中期の遺跡は以外に少なく、しかも一戸地区では御所野遺跡の周辺に集中している事を確認している。対照的に後期の遺跡は数が多く、馬淵川流域やその支流の小河川の最上流域にまで広く分布しており、しかもひとつひとつの遺跡の規模は小さくなるようである。

また本遺跡には GH 68-01 住のような大型住居がかなり含まれている。特に平面形が長方形を呈する所謂「ロングハウス」型の住居跡は、中央部の配石遺構群の東側で重複している事が明らかになっている。このような大型住居跡は前期前半に出現し、中期中葉まで連続しその後消滅した事が指摘されてきたが、このような個別の遺構の変化も集落が質的に変化する前兆なのかもしれない。

以上から縄文時代の中期後半と後期では遺跡の構造そのものが異なっていた可能性が強い。青森県の六ヶ所村富ノ沢遺跡、青森市三内遺跡と近野遺跡、三戸町泉山遺跡、秋田県の鹿角市天戸森遺跡、岩手県内の盛岡市大館遺跡、岩泉町森の越遺跡、北上市柳上遺跡、九戸村田代遺跡、二戸市荒谷遺跡など中期の遺跡はいずれも規模が大きく、三内遺跡、富ノ沢遺跡、泉山遺跡、天戸森遺跡、柳上遺跡では住居域と墓域がセットで確認されている。それらの遺跡の構造全てが判明しているわけではないが、このような大規模な中期の遺跡では、集落内に墓域を取り込んでいる可能性がきわめて強い。対照的に後期の遺跡では、例えば滝沢村の湯舟遺跡のように墓域の近くでは居住地は確認されていない。秋田県の大湯環状列石でも最近までの調査結果から墓域に近接して大集落跡があるとは考え難い。以上から中期の配石遺構群が集落内に取り込まれるのに対して、後期の配石遺構群は個別の集落から独立した空間に計画されているものと推測される。この配石遺構群の違いは、中期までの大規模集落と後期になって集落が分散する事と密接に関わっているであろう。

本書の石器執筆者である山田昌久は、最近縄文時代集落の質的変化について、一後・晩期になるとそれまでの居住空間に墓域が取り込まれる「居住域集約型」のみでなく、「活動拠点分散型」の集落も存在した可能性が強いと指摘している。

まとめと課題

遺構の確認を主とした調査でも台地全域を調査できる例はそれ程多くはない。このような調査では資料的には限られたものとなるが、できるだけ地点毎に比較したり、遺構・遺物を的確に分類し、さらにその出土状況などを丹念に分析すれば、遺跡の全体像は理解しやすい。

開発に伴う部分的な調査結果だけ記載した報告書が氾濫している中で、今回の報告書は遺跡の性格を知るために以上の事を念頭において作成したつもりである。ただ実質3ヶ月という期間はあまりにも短すぎ、細部まで充分検討する事はできなかった。それでも遺跡の概要だけは理解できたつもりである。

以下今回の調査で明らかになった事と今後の課題について箇条書きにまとめてみる。

1. 御所野遺跡は縄文時代の中期中葉から末葉にかけての集落遺跡で、I期からV期まで時期区分した。遺跡の構成は、基域が確定する以前のI～II期とそれ以後のIII～V期に区分できる。
2. 基域と考えられる配石遺構群を中心とした集落配置は、III期以降に確立したものと考えられ、基域を中心にその周囲に馬蹄形に分布する中央部、東側、西側がそれぞれ住居地となっている。II期までの集落の構造は基域も含めて不明であるが、竪穴住居跡は馬場平遺跡から東側調査区まで大範囲に分布していたものと考えられる。II期までの集落構成については今後明らかにしなければならない。
3. 基域は大規模な造成工事を伴い、削平地に基壇と掘立柱建物跡があり、盛土から遺物が多量に出土している。焼骨(獣骨)が異常に多く、何らかの祭祀が行われた可能性が高い。
基域は配石遺構群の分布から全体が東、西の2つの大単位に別れて、広場を中心に小単位の配石遺構と基壇、掘立柱建物跡が同心円状に分布し、しかも大単位の基域は更に各遺構の分布から6～8区分できる。
4. III期の基域を中心とした集落配置は、より南の大木式土器文化圏からの影響によるものであろう。III期以降大木式土器が圧倒的に多くなる事が裏付けている。
III期以降の遺物は圧倒的に中央部の配石遺構群周辺から出土しており、III期以降意識的に配石遺構群周辺に廃棄した可能性が高い。
5. 土製品、石製品、特殊土器の大半は、基である配石遺構群とその周辺に集中しており、祭祀と関係ある事が裏付けられた。特に土器片を打ち欠いて加工した円盤状土製品や従来ミニチュア土器、袖珍土器と呼ばれた土器の他中期の遺跡であまり一般的でない台付・脚付土器なども祭祀空間での使用が推測できる。
6. 赤色顔料付着の磨石類やヒビ入り礫(加熱によるものか?)の出土も基域・祭祀の空間での使用が推定できる。

7. 石器のなかでは石鏃が圧倒的に多い。周辺の遺跡と比較してもその割合は極端である。対照的に馬淵川に近い遺跡にも拘わらず石鏃がほとんどない。石器群の構成は馬場平遺跡とほぼ同じ傾向であるが、特に石鏃が盛土から多く出土しており注目される。

また石鏃の形態で一つの傾向を確認できた。IV期(大木9式並行)のHD 112 竪穴住居跡からA I類、II期(大木8 a式)のGH 120-01 竪穴住居跡からA III類が多く出土している。時期的に古い住居跡しか確認されていない馬場平遺跡でもA I類は1点しか発見されおらず、石鏃の形態がA IIIからA Iへと変化した可能性が強い。

8. 出土した遺物の中には、鯨の骨の加工品や炭化食物が出土しており注目される。また加工品ではないが琥珀の小片が出土しており、装飾品以外の何らかの用途があったものと思われる。

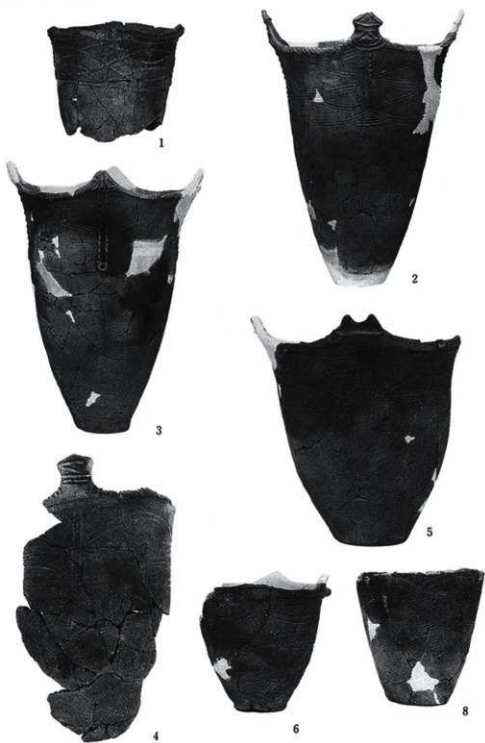
以上が4ヶ年の調査で明らかになった事と今後の課題である。冒頭でも触れているように調査の目的が遺跡の範囲確認であったため、調査した遺構数も少なく、得られた共伴遺物が少ないにも拘わらず、強引にまとめた気がしないでもない。ただ御所野遺跡は配石遺構群を伴う保存状態の良い貴重な集落遺跡であるが、それとともに今回概観したように、縄文社会の転換期とも考えられる中期後半の遺跡である事、また集落内に基域を取り込んでおり社会構造を把握する上で格好の遺跡である事、しかも地理的位置が円筒土器文化圏と大木式土器文化圏の接触地域に相当するため、その消長を明らかにする上でも重要な遺跡である事などから、取立て限られた資料にも拘わらず多くの事を記述してきた。今後調査する事があれば以上の事を踏まえ具体的に明らかにしていきたい。

引用・参考文献

- 江坂輝弥「石神遺跡」—円筒土器文化の編年的研究—ニューサイエンス社、1970
- 村越 深「円筒土器文化」 雄山閣、1973
- 「中の平遺跡発掘調査報告書」 青森県教育委員会 1974
- 鈴木克彦「円筒土器に後続する土器の編年」 考古風土器第2号 1982
- 「東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅶ(西田遺跡)」 岩手県教育委員会 1980
- 「泉山遺跡発掘調査報告書」 青森県教育委員会 1976
- 鈴木克彦「東北地方北部に於ける大木系土器文化の編年的考察」 北奥古代文化第8号 1976
- 丹羽 茂「大木式土器」、縄文文化の研究4、雄山閣、1981
- 林 謙作「縄文文化の発展と地域性」東北 日本の考古学Ⅱ 河出書房新社
- 「岩手の土器」 岩手県立博物館 1982
- 「天戸森遺跡」 鹿角市文化財資料26 鹿角市教育委員会 1984
- 「滝の沢遺跡」(1977～1982調査) 北上市教育委員会 1983
- 「御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書、磐石町塩ヶ森Ⅰ・Ⅱ遺跡」 岩手県教育委員会、剏岩手県埋蔵文化財センター 1982
- 「御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書、盛岡市繁Ⅴ遺跡・新城館遺跡、磐石町野中遺跡」 剏岩手県埋蔵文化財センター 1982
- 「大館町遺跡」 盛岡市教育委員会 1978
- 「大館遺跡群—昭和55年度発掘調査概報」 盛岡市教育委員会 1981
- 「大館遺跡群—昭和58年度発掘調査概報」 盛岡市教育委員会 1984
- 「大館遺跡群—昭和59年度発掘調査概報」 盛岡市教育委員会 1985
- 「大館遺跡群—昭和62年度発掘調査概報」 盛岡市教育委員会 1989
- 「大館遺跡群—昭和63年度発掘調査概報」 盛岡市教育委員会 1989
- 「柿ノ平遺跡—昭和50・51年度発掘調査報告」 岩手大学考古学研究会編 盛岡市教育委員会 1989
- 「柿ノ平遺跡—昭和57年度発掘調査概報」 盛岡市教育委員会 1983
- 「柿ノ平遺跡—昭和59年度発掘調査概報」 盛岡市教育委員会 1985
- 「繁遺跡—昭和58年度発掘調査概報」 盛岡市教育委員会 1984
- 「小山遺跡—昭和63年度発掘調査概報」 盛岡市教育委員会 1989
- 「観音堂遺跡—第1次～第6次発掘調査報告書」 大迫町教育委員会 1986
- 「上里遺跡発掘調査報告書」 剏岩手県埋蔵文化財センター 1983
- 「富の沢(1)(2)遺跡Ⅲ」 青森県教育委員会 1990

- 「富の沢(2)遺跡Ⅲ」 青森県教育委員会 1990
- 「富の沢(2)遺跡Ⅴ」 青森県教育委員会 1991
- 「近野遺跡」 青森県教育委員会 1978
- 「三内丸山遺跡」 青森県教育委員会 1973
- 「三内沢部遺跡」 青森県教育委員会 1978
- 「大湯環状列周辺遺跡発掘調査報告書(1)～(8)」、鹿角市教育委員会 1985～1992
- 「西海淵遺跡現地説明資料」 山形県教育委員会 1990
- 「西海淵遺跡現地説明資料」 山形県教育委員会 1991
- 小畑 巖「秋田県鹿角市高屋館跡」日本考古学年報 42、1989
- 「森の越遺跡」 岩泉町教育委員会 1985
- 「森の越遺跡—第13次発掘調査概報」 岩泉町教育委員会 1987
- 「森の越遺跡—第18次発掘調査概報」 岩泉町教育委員会 1990
- 「柳上遺跡—現地説明会資料—」 鉾岩手県埋蔵文化財センター 1991
- 「田代遺跡発掘調査報告書」 鉾岩手県埋蔵文化財センター 1982
- 「荒谷A遺跡発掘調査報告書」 岩手県教育委員会 鉾岩手県埋蔵文化財センター 1983
- 「二戸バイパス関係遺跡発掘調査報告書 二戸市家ノ上遺跡・長瀬A遺跡」 岩手県教育委員会 鉾岩手県埋蔵文化財センター 1982
- 「湯舟沢遺跡第1分冊」 滝沢村教育委員会 1986
- 「湯舟沢遺跡第2分冊」 滝沢村教育委員会 1986
- 「湯舟沢遺跡」 滝沢村教育委員会 1990
- 「上村遺跡・下村A遺跡・下村B遺跡発掘調査報告書」 岩手県教育委員会 鉾岩手県埋蔵文化財センター 1983
- 「松尾村長者屋敷遺跡(Ⅰ)(遺構編Ⅰ)」 鉾岩手県埋蔵文化財センター 1980
- 「松尾村長者屋敷遺跡(Ⅱ)(遺構編Ⅱ)」 鉾岩手県埋蔵文化財センター 1981
- 「松尾村長者屋敷遺跡(Ⅲ)(遺物編—本文)」 鉾岩手県埋蔵文化財センター 1984
- 水野正好「環状列石墓群の意味するもの」信濃 20—4 1968
- 山田昌久「縄文人は生活用具として、植物をどう利用したか」新視点日本の歴史、新人物往來社 1993
- 三浦謙一「岩手県に於ける大型住居跡の変遷について」縄文時代検討会資料、1981
- 高橋文夫「松尾村長者屋敷、大型住居址について」、「岩手県大型住居系列住居址群時期別変遷概念図」、前掲縄文時代検討会資料
- 山田昌久「貝塚と貝塚に残された道具」季刊考古学第41号 雄山閣、1992

- 中村良幸「大型住居」 縄文文化の研究 8 雄山閣、1982
- 「館石野 I 遺跡—縄文時代列石遺構の調査」 早稲田大学文学部考古学研究室 1992
- 「一戸町の遺跡 I」 一戸町教育委員会 1991
- 「一戸町の遺跡 II」 一戸町教育委員会 1992
- 「一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」 一戸町教育委員会 1983
- 「一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」 一戸町教育委員会 1983







PL60 出土土器(4)



PL61 出土土器(5)



PL62 出土土器(6)



52



53



54



55



60



56



57



58



59



61



62



63



64



65



66



67



68



69



70



71



72



73



74



75



76



77

PL64 出土土器(8)



PL65 出土土器(9)



93



94



95



96



97



98



99



100

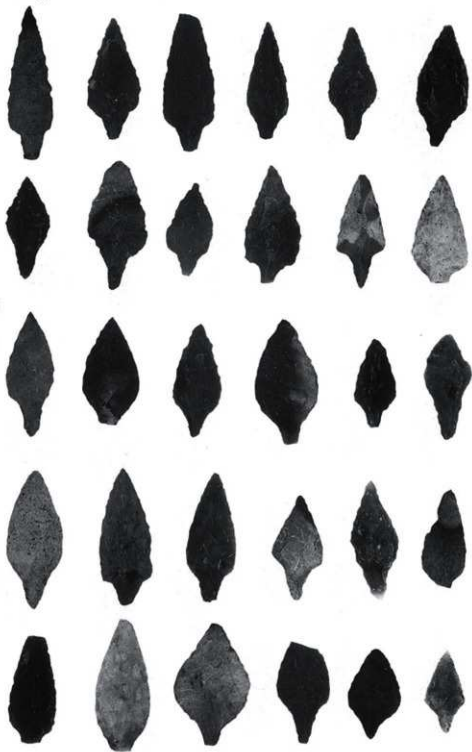


大木式土器

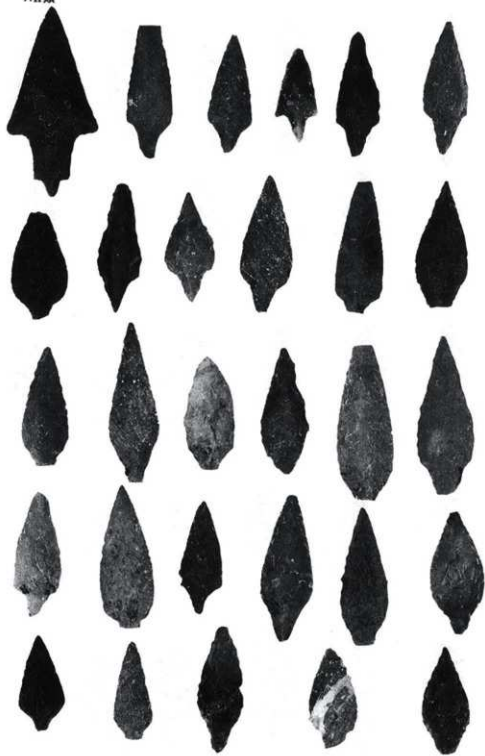


円筒上層式土器

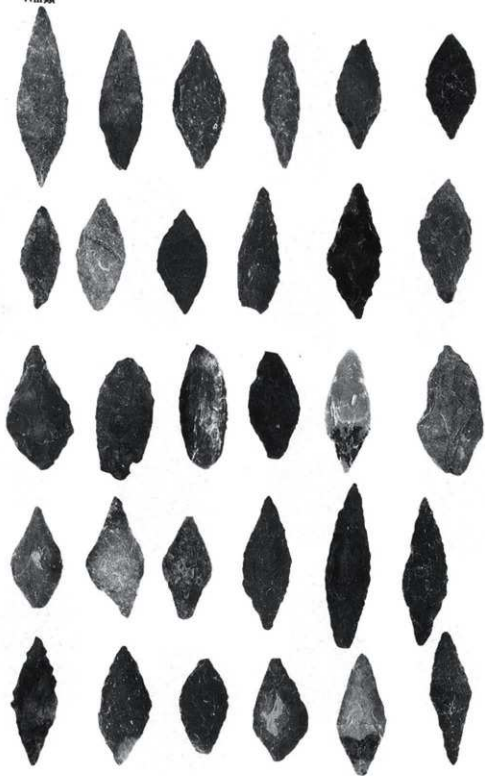
PL67 出土石器(1)
AII類



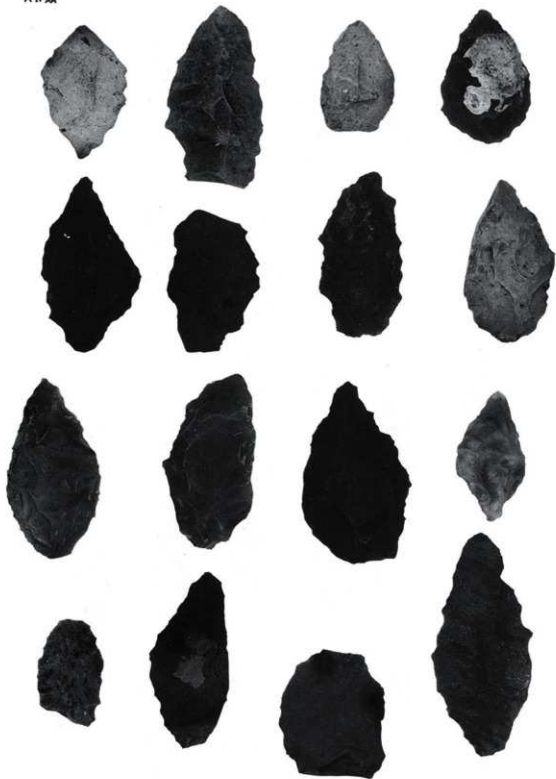
PL68 出土石器(2)
AII類



PL69 出土石器(3)
AⅢ類



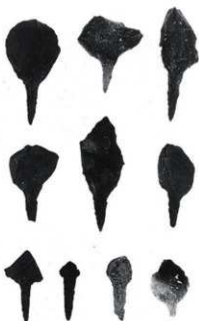
PL70 出土石器(4)
A IV類



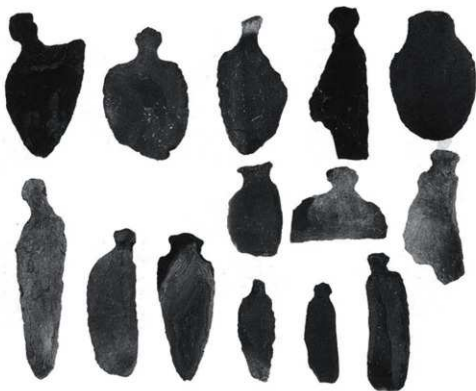
PL71 出土石器(5)
B類



E類



C類



PL72 出土石器(6)

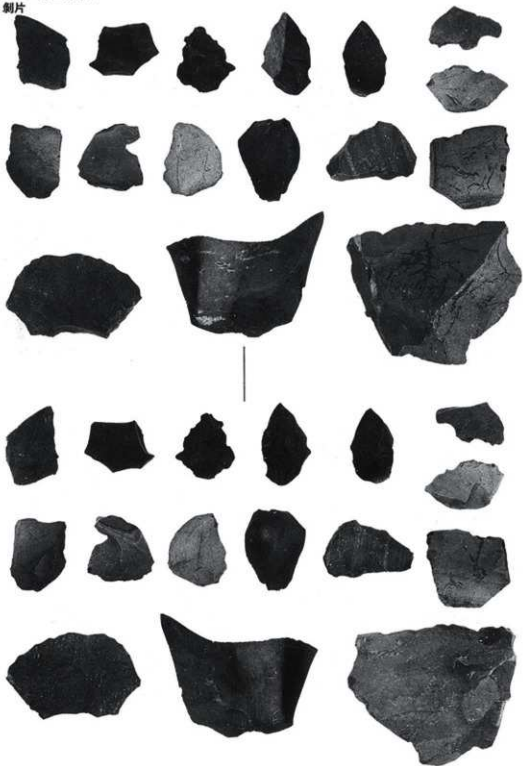
D類



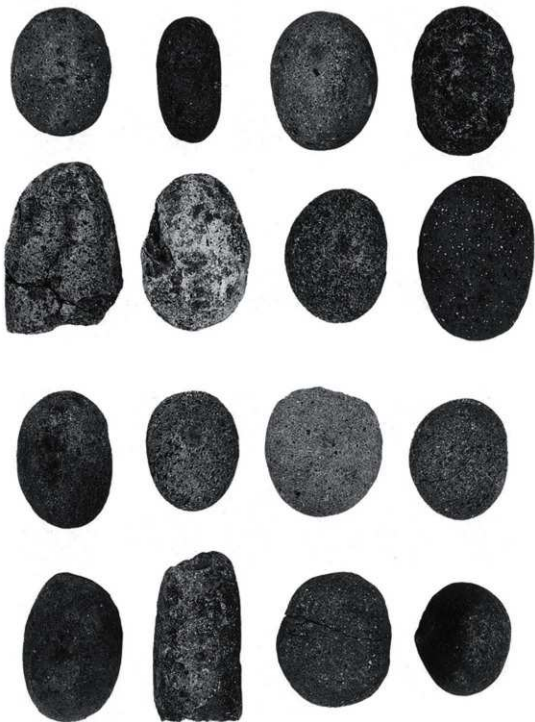
F類

PL73 出土石器(7)

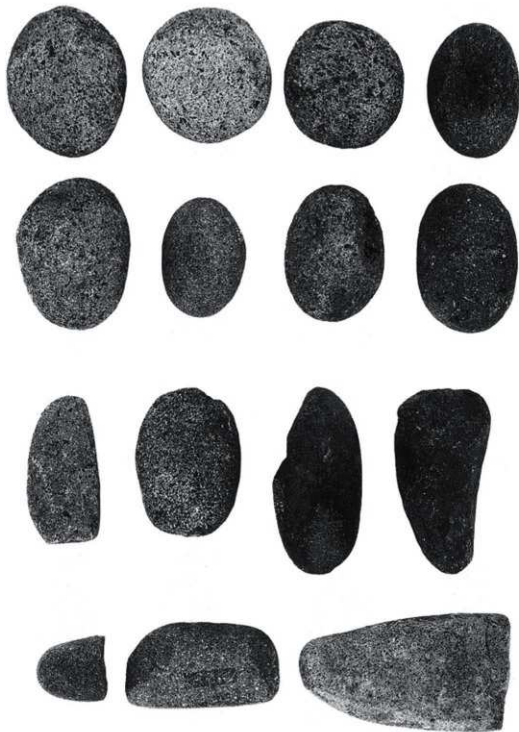
制片



PL74 出土石器(8)
G類



PL75 出土石器(9)
G類

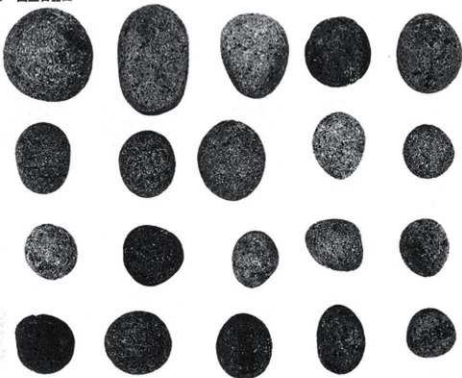


PL76 出土石器00
G類

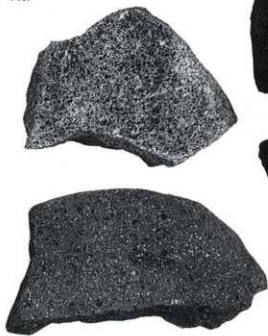


PL77 出土石器①

G類



J類



F類



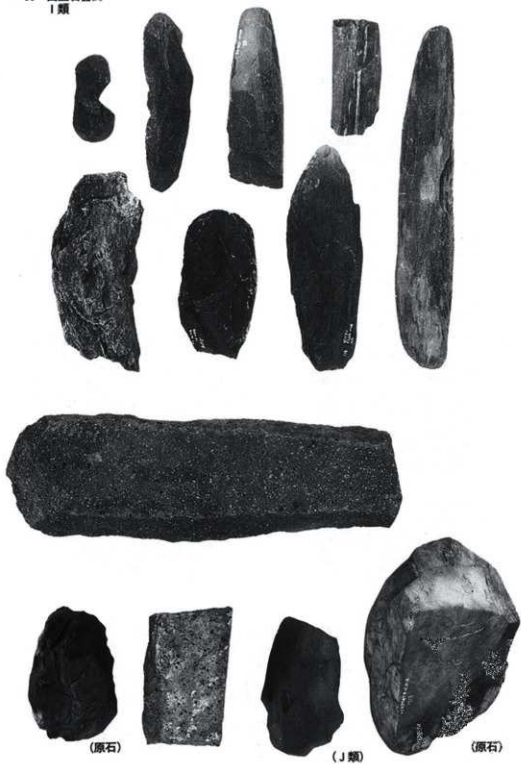
PL78 出土石器02
H類



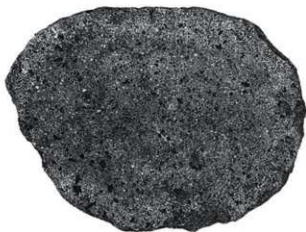
PL79 出土石器03
I類



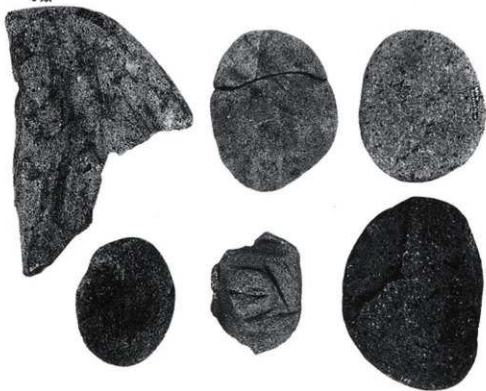
PL80 出土石器04
I類



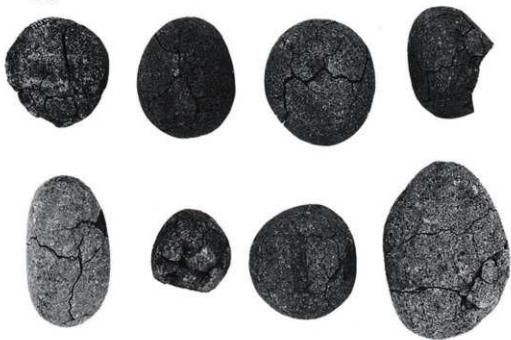
PL81 出土石器09
J類



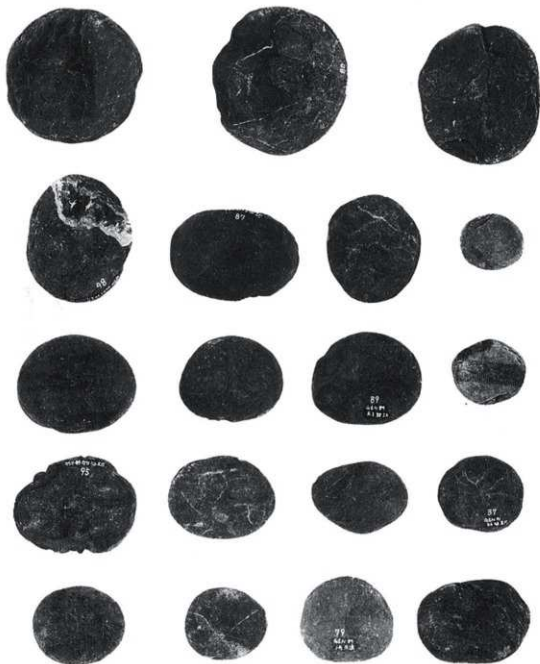
PL82 出土石器06
J類



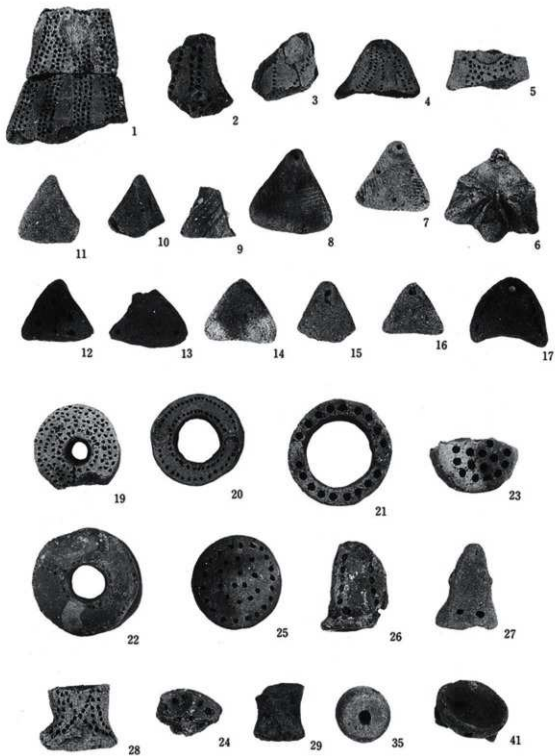
G類



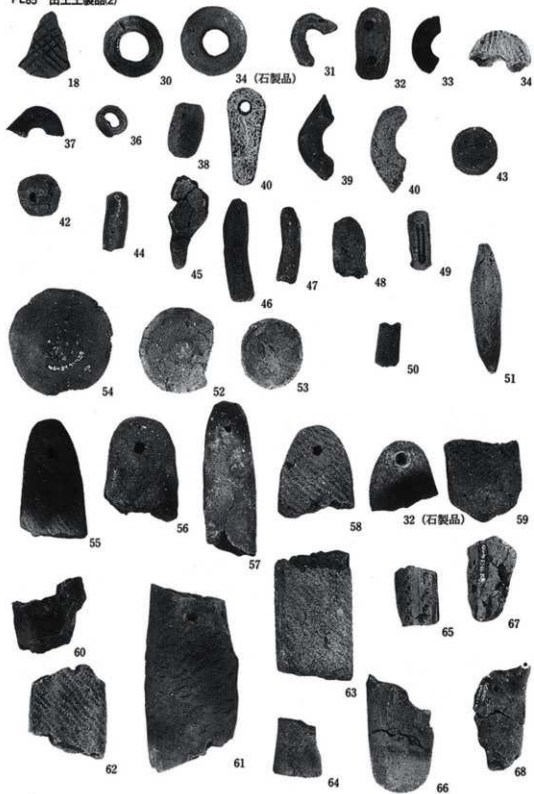
PL83 出土石製品(7)
K類



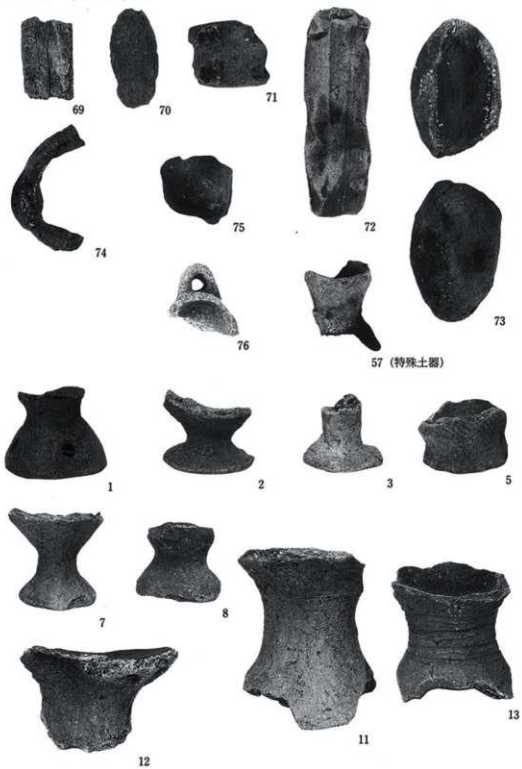
PL84 出土土製品(1)



PL85 出土土製品(2)



PL86 出土土製品・特殊土器



PL87 出土特殊土器



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



25



26



27



28



31



32



33



人体付土器

PL88 出土石製品

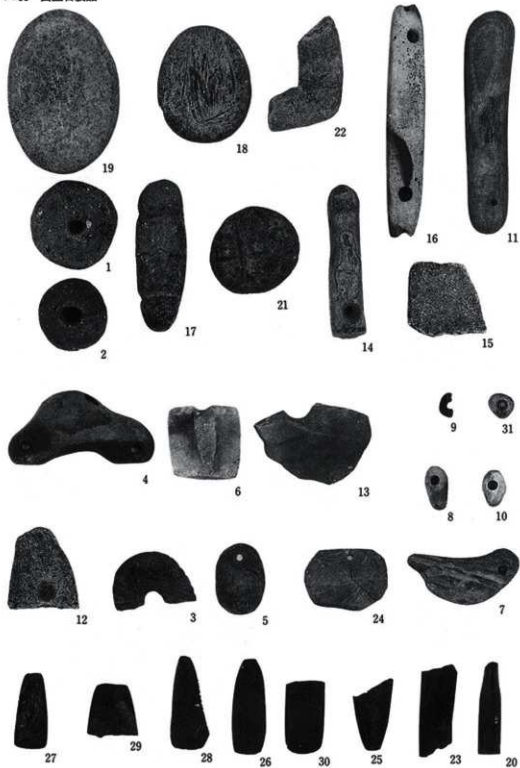


表 8 出土石器観察表

①) 新片素材石器 回数別観分 中央部	石質									
	A	安山岩	B	チャート	C	礫岩	D	閃緑岩	E	頁岩
	F	凝岩	G	シルト	H	凝灰岩	I	ウツイ	J	硬質頁岩
	K	炭石英	L	黒曜石	M	石灰石	N	粘板岩	O	碧玉
	P	玉髓	Q	石英	S	砂岩	T	珪化木		
	X	欠損品	●	アスファルト付着						

No	出土地点	層位	分	実				石質	No	出土地点	層位	分	実				石質			
				長さ	幅	厚さ	重さ						長さ	幅	厚さ	重さ				
1	C 11号址	周	溝	A1a	1.4	0.9	0.3	0.1	J	41	D FH42	I	層	A1a	1.6	1.2	0.3	0.4	L	
2	D F148	I	層	A1a	1.9	1.2	0.3	0.4	J	42	E GJ74	I	層	A1a	2.7	1.8	0.3	1.1	J	
3	C 16号址	周	溝	A1a	2.0	1.1	0.2	0.3	J	43	D FJ44	I	層	A1a	2.3	1.7	0.4	1.5	J	
4	D 2号址	周	溝	A1a	1.9	1.4	0.3	0.4	J	44	C 21号址	周	溝	A1a	1.9	1.2	0.3	0.4	K	
5	C FC44	I	層	A1a	1.8	1.1	0.3	0.3	J	45	E GA68	III	層	A1a	2.8	1.5	0.3	1.1	J	
6	D 5号址	周	溝	A1a	1.9	1.1	0.3	0.3	J	46	D FF48	II	層	A1a	2.3	1.4	0.4	0.7	K	
7	D 9号址	周	溝	A1a	2.8	1.4	0.4	0.8	J	47	C FH52	II	層	A1a	2.1	1.4	0.2	0.4	J	
8	C E J38	I	層	A1a	2.9	1.4	0.4	1.1	J	48	D F146	II	層	A1a	2.2	1.0	0.2	0.4	J	
9	E GF58	I	層	A1a	2.1	1.7	0.4	0.9	J	49	D F162	III	層	A1a	2.3	1.6	0.3	0.7	J	
10	D FJ44	I	層	A1a	2.4	1.7	0.3	0.7	J	50	D GB54	II	層	A1a	1.8	1.4	0.3	0.5	K	
11	C FB54	I	層	A1a	2.7	1.5	0.4	1.1	J	51	C 20号址	2	層	A1a	1.9	1.3	0.3	0.4	K	
12	D GC66	I	層	A1a	2.3	1.5	0.3	0.5	J	52	E F170	II	層	A1a	3.5	1.4	0.5	1.3	J	
13	D F142	I	層	A1a	2.1	1.3	0.5	1.0	P	53	E GA70	III	層	A1a	2.1	1.3	0.3	0.4	J	
14	C 22号址	周	溝	A1a	1.8	1.3	0.3	0.4	J	54	C FD58	II	層	A1a	1.3	1.2	0.2	0.3	J	
15	C 21号址	周	溝	A1a	2.7	1.6	0.5	1.2	J	55	C 16号址	周	溝	A1a	1.9	1.2	0.3	0.6	J	
16	C 21号址	周	溝	A1a	2.1	1.3	0.4	0.5	P	56	C FG48	II	層	A1a	2.1	1.3	0.3	0.6	J	
17	D 5号址	周	溝	A1a	2.2	1.6	0.4	0.8	J	57	C F154	II	層	A1a	1.8	1.4	0.3	0.4	L	
18	C 17号址	周	溝	A1a	2.7	1.4	0.4	0.8	J	58	C FG46	II	層	A1a	2.1	0.1	0.3	0.4	J	
19	D GB74	III	層	A1a	2.8	1.8	0.3	1.5	J	59	E F168	III	層	A1a	0.8	1.0	0.3	0.3	J	
20	C FJ58	II	層	A1a	2.1	1.4	0.3	0.6	J	60	E F164	III	層	A1a	2.5	1.8	0.3	0.9	J	
21	D GB72	II	層	A1a	1.9	1.3	0.3	0.5	K	61	D FJ48	III	層	A1a	2.0	1.3	0.3	0.7	J	
22	E GA70	III	層	A1a	2.6	1.5	0.3	0.7	J	62	E F168	III	層	A1a	1.5	1.7	0.3	0.4	J	
23	E GF70	II	層	A1a	2.0	1.6	0.4	0.7	J	63	C FG56	II	層	A1a	2.0	1.3	0.4	0.7	J	
24	E FJ66	III	層	A1a	1.9	1.2	0.4	0.6	P	64	D FH44	II	層	A1a	1.8	1.0	0.3	0.4	S	
25	E FJ64	II	層	A1a	2.6	1.7	0.3	0.6	J	65	D FH46	II	層	A1a	2.6	1.6	0.5	1.1	J	
26	D FJ50	III	層	A1a	2.6	1.6	0.4	1.0	J	66	C 20号址	2	層	A1a	1.7	1.4	0.3	0.5	J	
27	C FJ58	III	層	A1a	2.2	1.2	0.5	0.7	J	67	D GC44	II	層	A1a	2.3	1.4	0.3	0.9	P	
28	D GB54	II	層	A1a	2.4	1.2	0.3	0.7	J	68	D F148	II	層	A1a	1.6	1.1	0.2	0.3	J	
29	D GA54	II	層	A1a	2.0	1.2	0.2	0.4	J	69	C FH52	II	層	A1a	1.6	1.6	1.2	0.5	P	
30	D GA54	II	層	A1a	2.0	1.4	0.3	0.6	J	70	D F148	II	層	A1a	1.5	0.9	0.3	0.3	J	
31	D GA54	II	層	A1a	1.7	1.0	0.3	0.4	J	71	C FC42	II	層	A1a	1.3	1.5	0.3	0.4	B	
32	C E J40	III	層	A1a	2.9	1.3	0.4	0.9	J	72	C FE58	III	層	A1a	1.9	1.4	0.3	0.8	J	
33	D GAS2	II	層	A	1.6	1.2	0.2	0.3	J	73	D 9号址	周	溝	A1a	1.8	1.4	0.3	0.5	J	
34	E GB66	II	層	A1a	1.3	1.2	1.2	0.3	J	74	C 7号址	A1a			1.7	1.6	0.4	0.8	K	
35	表層	A1a			3.3	1.9	0.5	2.3	J	75	D 1号址	主体部	A1a			1.7	1.3	0.4	0.8	J
36	表層	A1a			2.0	1.5	0.4	1.0	J	76	C FD44	III	層	A1a	1.8	1.7	0.4	1.2	J	
37	C 16号址	周	溝	A1a	2.2	1.3	0.4	1.0	J	77	C FH52	III	層	A1a	1.6	1.2	0.3	0.4	J	
38	表層	A1a			2.3	1.2	0.4	0.3	J	78	D 1号址	周	溝	A1a	1.8	1.9	0.4	0.9	J	
39	C 21号址	周	溝	A1a	1.9	1.5	0.3	0.7	K	79	C FH48	II	層	A1a	2.3	1.4	0.4	0.8	J	
40	表層	A1a			0.8	1.1	0.4	0.6	J	80	D 6号址	周	溝	A1a	2.2	1.6	0.4	1.4	J	

No.	出土地点 ※地点	層位	分類	実積				No.	出土地点 ※地点	層位	分類	実積					
				長さ	幅	厚さ	積					長さ	幅	厚さ	積		
81	GE48	田	A1a	1.6	1.2	0.3	0.4	●	131			AMBウ	4.6	1.2	0.5	1.5	J
82	D1号址	周	A1b	2.0	1.6	0.7	2.2	J	132	FJ44	I	AMBエ	3.1	1.2	0.7	2.2	J
83	D5号址	I	A	2.1	1.5	0.5	0.8	K	133	表探		AMBエ	3.5	1.4	0.7	2.7	J
84	C2号址	I	A1	3.1	1.9	0.4	0.6	J	134	D3号址	I	AMBエ	3.0	1.1	0.8	2.0	J
85	C11号址	周	A1b	1.9	0.9	0.3	0.3	J	135	D3号址	周	AMBエ	3.4	1.2	0.6	1.8	J
86	GA46	A	A1a	2.6	2.2	0.8	3.6	J	136	D4号址	I	AMBエ	3.3	1.4	0.8	2.5	J
87	C2号址	周	A1d	3.9	2.0	0.6	3.4	J	137	表探		AMBエ	3.5	1.3	0.7	2.7	J
88	C2号址	II	A1c	3.2	1.4	0.5	1.6	J	138	D1号址	周	AMBエ	2.9	1.2	0.5	1.5	P
89	表探		A1b	3.6	1.4	0.4	1.5	L	139	D GB44	I ㊦	AMBエ	3.7	1.6	0.7	3.3	J
90	D FJ44	I	A1a	2.8	1.3	0.6	2.0	J	140	D GD44	I	AMBエ	3.3	1.3	0.8	2.6	J
91	C16号址	周	A1b	1.8	1.2	0.5	1.1	J	141	E GH48	III	AMBウ	3.7	1.1	0.4	1.4	J
92	E GF82	I	A1c	4.0	1.5	0.6	2.4	J	142	C21号址	周	AMB	2.6	1.2	0.5	1.2	J
93	C2号址	I	A1c	4.0	1.6	0.5	2.3	J	143	D GC48	III	AMBエ	2.9	1.7	0.5	1.4	J
94	D FJ44	I	A1c	4.1	1.6	0.8	2.6	J	144	D F132	I	AMB	3.5	1.5	0.5	2.8	J
95	E FJ66	III	A1cア	2.5	1.2	0.4	0.9	J	145	D GC44	I ㊦	AMBエ	2.9	1.3	0.6	1.5	J
96	表探		A1b	3.7	1.2	0.6	1.8	J	146	D GD44	I	A1c	3.9	1.5	0.8	2.4	J
97	C34号址		A1c	3.8	1.6	0.7	3.2	J	147	D GA52	II	A1cイ	2.3	1.4	0.6	1.6	J
98	D2号址	周	A1c	3.8	1.3	0.6	2.6	J	148	D 6号址	I	A1c	2.5	1.3	0.6	1.9	J
99	D3号址	I	A1c	3.4	1.2	0.5	1.7	J	149	C21号址	周	A1c	3.1	2.0	0.8	3.4	J
100	表探		A1c	3.6	1.4	0.6	2.4	J	150	表探		A1c	2.7	1.3	0.6	1.1	J
101	E GH64	II	A1c	3.0	1.3	0.4	1.6	J	151	C21号址	周	A1c	3.4	2.0	0.7	3.0	J
102	D GA44	I ㊦	A1c	3.2	1.3	0.6	1.5	J	152	D1号址	主体部	A1c	4.1	1.4	0.6	2.7	J
103	E GH30	I	A1aア	3.2	1.3	0.7	2.2	J	153	D1号址	主体部	A1c	3.9	1.6	0.7	3.0	J
104	C FF42	I	A1c	2.3	1.1	0.5	0.6	J	154	D1号址	周	A1c	4.2	1.7	0.5	3.2	J
105	C E148	I	A1c	3.5	1.6	0.8	3.0	J	155	D F142	I	A1c	3.9	1.8	0.9	4.4	J
106	D FG44	II	A1c	2.6	1.3	0.5	1.2	J	156	表探		A1c	4.4	1.8	0.8	4.8	J
107	表探		A1c	2.3	1.5	0.4	1.3	J	157	E GB74	III	A1cア	4.6	1.3	0.6	2.1	J
108	B EG48	II	A1aイ	2.7	1.6	0.5	1.5	J	158	D GB44	I ㊦	AMBエ	2.3	1.1	0.4	0.9	J
109	D GD50	III	A1c	3.8	1.1	0.5	1.6	J	159	D GG42	I	AMBエ	3.5	1.9	0.6	3.6	J
110			A1cア	3.2	1.1	0.5	1.7	J	160	表探		A1c	2.8	1.6	0.4	1.2	J
111	表探		A1c	3.0	1.3	0.6	2.2	J	161	D5号址	周	AMBエ	3.5	1.5	0.4	1.7	J
112	E GH70	I	A1c	2.7	1.2	0.6	1.7	P	162	表探		A1c	3.6	1.7	0.7	2.8	P
113	D1号址	周	A1c	3.2	1.6	0.7	3.2	J	163	D5号址	周	AMBエ	2.6	1.4	0.5	1.5	J
114	C21号址	周	A1c	3.2	1.2	0.4	1.2	J	164	D1号址	主体部	A1c	2.5	1.2	0.4	1.1	J
115	D FJ50	I	A1c	3.0	1.5	0.6	1.8	P	165	D1号址	周	AMBエ	2.4	1.1	0.4	0.7	J
116	D3号址	I	A1c	2.8	1.4	0.4	1.8	J	166	D5号址	I	A1c	2.8	1.3	0.3	0.4	J
117	表探		A1c	3.4	1.3	0.8	2.8	J	167	E GE64		AMBエ	3.3	1.3	0.7	2.3	J
118	表探		A1c	3.6	1.8	0.5	2.1	J	168	D F138	I	A1c	3.3	1.4	0.5	2.1	J
119	C FB52	III	A1c	2.6	1.5	0.6	1.2	J	169	D GA42		AMBエ	2.7	1.3	0.5	1.5	J
120			A1c	3.3	1.8	0.8	3.0	J	170	D GD44	III	AMBエ	3.1	1.1	0.6	1.5	J
121	D FH50	III	A1cア	3.6	1.3	0.6	2.1	J	171	E GG68	I	A1c	3.0	1.4	0.6	2.1	L
122	D4号址		A1c	3.4	1.3	0.5	2.1	J	172	D3号址	I	AMBエ	3.1	1.3	0.7	2.8	J
123	表探		A1c	3.7	1.2	0.6	2.4	J	173	C16号址	周	AMBエ	3.1	1.4	0.7	2.4	J
124	D1号址	周	A1c	3.6	1.5	0.4	2.0	J	174			A1c	3.0	1.7	0.7	2.7	J
125	D FH44	I	A1c	2.8	1.3	0.5	2.1	J	175	D5号址	周	A1c	2.6	1.3	0.5	1.4	J
126	C15号址		A1c	3.3	1.1	0.5	2.2	J	176	表探		AMBエ	3.0	1.3	0.6	1.4	J
127	D1号址	周	A1c	3.3	1.4	0.6	2.4	J	177	E GA6-32	3	AMBエ	2.6	1.4	0.4	1.1	P
128	C7号址		AMBウ	4.1	1.3	0.7	2.9	K	178	D1号址	周	AMBエ	2.6	1.2	0.6	1.1	J
129	C16号址	周	AMBウ	4.2	1.6	1.1	2.8	J	179	D GA52	I	A1c	2.1	1.4	0.7	1.2	J
130	D FJ42	I	AMBウ	3.1	1.1	0.5	1.3	J	180	B FB36	I	A1c	2.8	1.5	0.6	2.3	J

No	出土地点 所在地	層位	分	実測				No	出土地点 所在地	層位	分	実測							
				長さ	幅	高さ	石積					長さ	幅	高さ	石積				
181	D B46	1	層	AⅢdエ	2.6	1.3	0.7	2.1	×	231	D 5号址	周	溝	A	2.9	1.1	0.5		
182	表探			AⅢc	2.4	1.3	0.4	1.7	×	232	E GE60			AⅢ	4.1	2.5	1.3	10P	
183	D F140	1	層	AV	2.6	1.3	0.5	1.5	×	233	表探			AⅢ	3.3	2.6	1.1	7.8J	
184	表探			AⅢc	2.7	1.5	0.5	1.9	×	234	C FB46	1	層	AⅢdエ	3.3	2.1	0.7	3.8J	
185	D 2号址	周	溝	AⅢc	2.6	1.4	0.7	2.1	×	235	C FB36	1	層	BⅠaロ	8.3	2.5	1.3	23J	
186	D 1号址	周	溝	AⅢ	4.5	1.3	1.0	4.7	×	236	E GA70			BⅠaイ	7.5	2.0	1.1	15J	×
187	D 2号址	周	溝	AⅢbウ	3.6	1.2	0.4	1.2	×	237	D GB50			B	5.3	2.4	1.3	14J	×
188	E GF68	1	層	AⅢbウ	4.4	1.2	0.8	3.3	×	238	D GB56	2	層	BⅢdエ	5.1	2.5	1.1	9.1J	
189	D 1号址	周	溝	AⅢbウ	3.5	1.2	0.7	2.7	×	239	D FJ46			BⅠbイ×	5.7	2.2	0.8	9.0J	
190	表探			AⅢa	3.7	1.4	0.9	3.5	×	240	表探			BⅢdウ	4.8	1.5	1.1	6.7J	×
191	C 13号址	1	層	AⅢbエ	2.6	1.6	0.7	5.9	×	241	E GH64	1	層	BⅢdウ	4.6	1.5	0.9	4.6J	×
192	D G C50	1	層	AⅢc	3.0	1.4	0.7	2.6	×	242	D FJ44	1	層	BⅢdウ	5.6	1.5	0.8	5.7J	
193	D GB46	Ⅲ	層	AⅢbエ	3.3	1.7	0.5	2.4	×	243	C FA40	1	層	CHc1	4.3	6.1	1.0	22P	
194	D 5号址	1	層	AⅢc	3.4	1.9	0.5	2.6	×	244	C FF62	1	層	CHa1	3.0	4.0	0.7	8.2J	×
195	D 2号址	周	溝	AⅢc	3.4	1.7	0.9	4.1	×	245	E GB72	Ⅲ	層	CHa	4.5	2.7	0.6	6.7J	
196	表探			AⅢbウ	2.6	1.5	0.5	1.7	×	246	E FG84	Ⅳ	層	CHa1	9.4	2.5	1.0	21J	
197	C 7号址			AⅢa	2.8	1.4	0.8	2.2	P	247	E GH64	C	L	CHa4+9	6.2	4.1	0.8	14J	
198	D FJ38			AⅢc	2.0	0.8	0.4	0.5	J	248	D FJ48	1	層	CHa5	6.9	2.4	0.9	13J	
199	C 21号址	周	溝	AⅢbエ	2.7	1.4	0.8	3.5	×	249	C 8号址			CHa4	6.9	2.8	1.0	15J	
200	C 21号址	周	溝	AⅢcア	4.3	1.4	0.7	4.1	×	250	表探			CHb1	6.4	3.7	0.9	16J	
201	C 22号址	周	溝	AⅢbエ	4.1	1.4	0.5	2.6	×	251	C 16号址			DⅠa5a	5.9	3.0	1.4	15J	×
202	D 1号址	周	溝	AⅢc	3.3	1.3	0.7	2.5	×	252	B 47号址	周	溝	DⅠa4+4'	8.3	3.1	1.4	31J	
203	D 1号址	周	溝	AⅢbウ	2.7	0.9	0.6	0.9	J	253	表探			DⅠa5	6.4	3.2	1.1	20J	
204	D 1号址	周	溝	AⅢbエ	3.4	1.3	1.0	4.1	×	254	C 12号址	周	溝	DⅠa5	5.7	2.6	1.1	16J	
205	D F140	1	層	AⅢc	2.9	1.2	0.6	1.8	×	255	D FG44	Ⅲ	層	DⅠV	3.1	1.6	0.6	3.4J	×
206	D 2号址	周	溝	AⅢc	2.8	1.0	0.4	1.1	×	256	B 47号址	周	溝	DⅢa4	3.2	2.8	0.8	6.1J	
207	表探			AⅢbエ	2.8	1.3	0.5	1.6	J	257	D GB48			DⅢa5	4.3	2.9	0.8	8.8P	
208	E FJ66	Ⅲ	層	AⅢbウ	3.2	1.0	0.7	1.9	J	258	B EB26	1	層	DⅢa5	6.9	5.2	1.6	45J	
209	C FH46	1	層	AⅢc	1.9	0.7	0.4	0.4	J	259	D 1号址	周	溝	DⅢa4+4'	6.3	4.4	1.0	29J	
210	D 1号址	主体部		AⅢc	2.0	0.9	0.4	0.7	J	260	D GA44			DⅠa5	5.6	2.8	1.1	21J	
211	C 11号址	1	層	AⅢ	2.3	1.6	0.6	1.1	J	261	D GD46	1	③層	DⅠa1	6.2	3.4	0.8	15J	
212	表探			AⅢcイ	2.8	1.1	0.7	1.8	J	262	C FA38			DⅢa2+5	8.5	3.1	1.0	18J	
213	D GA44	1	層	AⅢbエ	3.6	1.5	1.0	4.6	×	263	B 47号址	周	溝	D	6.9	3.5	1.1	24J	
214	D 47号址	周	溝	AⅢe	3.7	1.4	0.8	3.8	J	264	E GE58	1	層	D	5.9	3.9	1.3		×
215	B EE46	1~3	層	AⅢbウ	3.7	1.3	0.7	2.9	×	265	D 3号址	周	溝	DⅠV5	4.1	2.8	1.1	11K	
216	C 16号址	周	溝	AⅢc	2.2	1.2	0.5	1.2	×	266	B 47号址	周	溝	DⅠV	4.7	1.8	1.0	7.2J	
217	C 22号址	周	溝	AⅢcア	3.3	1.2	0.5	1.7	×	267	D 5号址	1	層		6.1	3.7	1.8	31J	
218	D 47号址	周	溝	AⅢe	4.6	2.3	0.6	6.4	J	268	E FJ68	Ⅲ	層	EⅠa1イ	4.9	2.6	1.3	16J	
219	E 6号址	周	溝	AⅢe	2.1	1.4	0.5	1.5	J	269	D GD52	Ⅱ	層	EⅠa1=	3.5	2.2	0.9	5.1J	
220	D 9号址	周	溝	AⅢbエ	2.2	1.1	0.6	1.1	J	270	D GB44	盛土		EⅠb4ロ	3.1	1.3	0.7	1.9J	
221	B 47号址	周	溝	AⅢb	2.4	1.4	0.4	1.2	J	271	E FJ68	Ⅲ	層	EⅠb1ロ	3.5	3.0	1.5	7.1J	
222	E 6号址	周	溝	AⅢb	2.3	1.3	0.6	1.8	J	272	C FJ60	Ⅲ	層	EⅠb1=	3.8	2.7	0.6	2.6J	×
223	C 12号址	主体部		A	2.5	1.6	0.7		×	273	D 5号址	周	溝	EⅠb1	3.1	1.8	0.4	1.1J	
224	E 6号址	周	溝	AⅢdエ	2.6	1.5	0.5	1.8	×	274	C FC40			EⅠa1	3.6	1.6	0.8	3.7J	
225	C 15号址	1	層	AⅢdウ	3.5	0.9	0.5	1.2	J	275	E GA70	Ⅲ	層	EⅠb1イ	2.5	0.9	0.3	0.6J	
226	D GC44	1	層	AⅢ	3.3	1.7	1.3	5.4	J	276	D GE46	1	層	EⅠb1	5.0	2.0	0.5	3.7J	
227	D 3号址	1	層	AⅢbエ	3.3	1.4	0.5	2.6	J	277	E GG82	1	層	EⅡ1	3.7	1.1	0.6	2.6J	×
228	D 3号址	周	溝	AⅢ	3.2	1.4	0.8	3.4	J	278	E GB72	Ⅲ	層	EⅡ	3.2	0.8	0.5	1.2J	
229	B 47号址	周	溝	AⅢdエ	3.9	2.0	0.8	4.8	J	279	D FH38	1	層	FⅠ	6.0	2.8	1.0	14N	
230	C 16号址			AⅢdエ	4.1	2.0	0.8	3.5	×	280	E FJ68	Ⅲ	層	FⅠ	3.6	1.2	0.5	2.5J	

GH68住

No.	出土地点	層位	分	実			石	No.	出土地点	層位	分	実			石		
				長	幅	厚						長	幅	厚			
1	E GH68住	3	層 A1a	2.4	1.2	0.4	0.6	16	E GH68住	1	層 A1c	2.2	1.5	0.8	2.8	J	X
2	E GH68住	2	層 A1d	3.4	1.5	0.6	1.8	17	E GH68住		層 A1d	2.5	1.1	0.5	1.2	J	X
3	E GH68住	3	層 A1d	2.3	1.2	0.4	0.9	18	E GH68住	1	層 A1d	3.4	1.4	0.5	1.7	J	X
4	E GH68住	2	層 A1c	3.0	1.1	0.6	1.6	19	E GH68住	1	層 A1d	2.8	1.5	0.5	1.6	J	X
5	E GH68住	3	層 A1c	3.1	1.3	0.8	2.3	20	E GH68住	3	層 A1d	2.4	1.3	0.6	1.3	J	X
6	E GH68住	3	層 A1d	4.0	1.1	0.6	2.1	21	E GH68住	3	層 A1c	2.0	1.2	0.5	1.0	J	X
7	E GH68住	1	層 A1d	2.8	1.3	0.7	1.6	22	E GH68住	3	層 AV	2.7	1.1	0.5	1.1	J	X
8	E GH68住	3	層 A1c	2.2	0.9	0.4	0.6	23	E GH68住		層 A1d	2.5	1.2	0.4	0.8	J	X
9	E GH68住	2	層 A1c	2.7	1.1	0.4	1.0	24	E GH68住	1	層 A1d	2.6	1.3	0.5	1.5	J	X
10	E GH68住	3	層 A1d	2.5	1.2	0.5	1.5	25	E GH68住		層 A	2.5	1.3	0.6	1.4	J	X
11	E GH68住	2	層 A1d	2.8	1.2	0.5	2.0	26	E GH68住	1	層 A1V	2.8	1.9	0.7	3.1	J	X
12	E GH68住	1	層 A1d	3.2	1.1	0.5	1.7	27	E GH68住	2	層 A1V	3.7	1.6	0.9	3.8	J	X
13	E GH68住	1	層 A1d	2.4	1.4	0.8	2.2	28	E GH68住	1	層 A1d	3.8	1.9	1.0	6.9	J	X
14	E GH68住	3	層 A1d	3.2	1.3	0.6	1.7	29	E GH68住	2	層 A1V	4.3	1.8	1.0	6.4	J	X
15	E GH68住	1	層 A1d	2.9	1.1	0.5	1.6										

東区

1	F HI130	C	L A1a	ウ	3.3	1.4	0.7	3.0	J	3	F GG112	C	L A1a	1.4	1.2	0.2	0.2	J
2	F HC112	I	層 A1c	イ	3.3	1.4	0.6	2.5	J	4	F GH132	C	L A1a	1.6	1.3	0.4	0.5	J

HB120住

1	F HB120住	炉	A1b1	2.4	1.5	0.6	1.1	J	6	F HB120住	P	7 E1b1	2.7	1.1	0.5	1.4	J
2	F HB120住	炉	A1a	2.0	1.7	0.5	2.2	J	7	F HB120住	3	層 A1b	3.3	1.9	0.5	2.0	J
3	F HB120住	2	層 A1a	1.3	1.3	0.3	0.4	J	8	F HB120住	4	層 A1a	2.9	1.3	0.4	1.0	J
4	F HB120住	2	層 A1e	2.3	0.9	0.3	0.7	J	9	F HB120住	4	層 C1a1	6.1	4.2	1.1	2.4	J
5	F HB120住	2	層 A1e	2.2	0.8	0.5	0.9	J	10	F HB120住		層 C1b4	6.5	2.2	0.9	1.3	J

西区

1	A DB18	不	明 AV	4.0	1.3	0.7	3.2	J	5	A DG20	II	層 C1a5	6.6	3.4	0.8	6.1	J	
2	A DE24	I	層 A1c	7	3.7	1.5	0.6	2.6	J	6	A DC22	II	層 C1d1	6.7	2.9	1.3	5.0	J
3	A DJ16	I	層 A1c	7	3.8	1.4	0.7	2.4	J	7	A DJ24	I	層 C1a4	5.8	2.8	0.9	1.3	J
4	A EA34	I	層 A1V	2.5	1.7	0.6	2.1	J										

未開帳分

1	D 2号址	周	溝 A1d	2.6	1.1	0.5	1.1	J	15	C 21号址	周	溝 A1c	2.4	1.4	0.4	1.2	J	
2	D 1号址	周	溝 A1V	4.2	2.5	1.6	1.0	J	16	B 47号址	周	溝 A1V	4.4	2.3	1.3	9.8	J	
3	D 5号址	周	溝 A1V	3.3	2.4	1.0	8.5	J	17	B 47号址	周	溝 A1a	2.3	1.0	0.4	0.5	J	
4	D 5号址	周	溝 H	5.8	2.0	1.2	1.1	J	18	B 47号址	周	溝 A1c	3.4	1.2	0.8	2.9	J	
5	D 5号址	周	溝 E1b1	3.2	2.4	0.7	3.7	J	19	B 47号址	周	溝 A1V	3.5	2.1	0.7	4.8	J	
6	D 4号址	周	溝 E1a1	2.7	2.1	1.2	5.5	J	20	D GES8	I	層 DIV	5.8	4.8	1.3	32	J	
7	D 12号址	主	体	2.6	1.5	0.7	3.1	J	21	D GB40	I	層 D11a5	6.1	4.0	0.6	11	J	
8	C 16号址	周	溝 A1c	7	3.1	1.2	0.5	1.9	J	22	B ED58	I	層 A1c	2.8	1.6	0.8	2.6	K
9	C 16号址	周	溝 A1V	3.2	1.7	0.7	3.0	J	23	D FJ42		層 A1c	2.5	1.2	0.4	1.2	J	
10	C 21号址	周	溝 A1a	1.8	1.3	0.2	0.5	P	24	C FA38		層 D1a5	4.1	2.1	1.0	9.3	J	
11	C 21号址	周	溝 A	3.1	1.3	0.9	3.7	J	25	C FA38		層 D11c5	4.3	2.8	1.0	12	J	
12	C 21号址	周	溝 A1e	1.8	1.6	0.4	1.5	J	26	C FB50	I	層 C1b5	5.7	1.6	0.8	5.2	J	
13	C 21号址	周	溝 A1V	2.7	1.6	0.7	2.4	J	27	C FE42	I	層 A1b	1.8	1.5	0.3	0.7	J	
14	C 21号址	周	溝 A	3.0	1.6	0.3	1.4	J	28	C FE52	I	層 A1a	1.8	1.0	0.2	0.3	J	

No	出土地点 出地点	層位	分類	実測値				No	出土地点 出地点	層位	分類	実測値					
				長さ	幅	高さ	石積					長さ	幅	高さ	石積		
29	C FE42	I	層 AIIc	3.1	1.3	0.5	1.3	J	79	D 1号址	周溝	B1a0x	6.3	3.0	2.1	3.0	J
30	C FH42	I	層 AMd±	2.6	1.0	0.5	0.9	K	80	D 2号址	周溝	AV	2.2	1.4	0.3	0.6	J
31	C FH46	I	層 AMd±	3.4	1.4	0.6	2.0	J	81	D 5号址	周溝	D1a4	1.3	5.6	2.3	11.5	J
32	C FH46	I	層 AIV	5.4	2.3	1.0	9.0	J	82	E 6号址	周溝	AV	2.4	1.3	0.5	1.1	J
33	D F142	I	層 AIIc	1.8	1.2	0.4	1.1	J	83	E 6号址	周溝	AMd±	2.4	1.5	0.5	0.1	J
34	E F162	II	層 A1a	2.3	1.3	0.3	0.6	J	84	D 3号址	周溝	AV	1.1	2.3	0.6	0.9	J
35	D GA44	I	層 AMd±	3.5	1.4	0.8	3.3	J	85	D 3号址	周溝	AIV	2.9	1.6	0.5	1.7	J
36	D GA46		AMd±	3.1	1.4	0.5	1.8	J	86	D 4号址	周溝	AIV	3.4	1.8	0.9	3.7	J
37	D GAS2	II	層 AMd±	2.4	1.3	0.5	1.4	J	87	D F136	I	層 AMa±	2.7	1.4	0.5	2.0	J
38	D GAS6	I	層 AIIc	3.0	1.4	0.5	1.8	J	88	A C112		A1a	1.8	1.2	0.3	0.4	J
39	C GA60	II	層 AIIc-f	3.5	2.1	0.7	4.1	P	89	C FA38	II	層 AIIc	2.8	1.2	0.5	1.5	J
40	D GC82	II	層 AIIc	3.0	1.6	0.4	1.8	J	90	C FA42	C	L AV	1.7	0.6	0.4	0.3	J
41	D GC50	I	層 AIIc	2.6	1.7	0.6	1.8	J	91	C FA44	II	層 AMd±	3.5	1.1	0.7	2.6	J
42	D GC56	II	層 AMd±	3.6	1.5	0.3	4.1	J	92	C FB36		AV	2.4	1.3	0.5	1.1	J
43	D GC44		A1a	2.1	1.4	0.4	0.8	J	93	C FB48	I	層 AMd±	2.7	1.3	0.4	1.1	J
44	D GD48		AMd±	2.8	1.4	0.6	2.4	J	94	C FC44	II	層 A1a	1.9	1.6	0.4	0.8	J
45	D GD50	I	層 AIV	2.7	1.1	0.4	0.9	J	95	C FE42		AIV	3.3	1.4	0.9	4.2	J
46	E GG62	I	層 AIIc	3.4	1.6	0.7	2.6	J	96	C FF46	II	層 AV	2.5	0.9	0.3	0.7	J
47	E GH62	I	層 AIIc	3.8	1.3	0.6	2.7	J	97	C FGS2		A1a	1.5	1.2	0.3	0.4	J
48	E F164	I	層 A1a	1.7	1.5	0.3	0.5	J	98	C FH46	II	層 AV	2.5	1.6	0.6	1.7	P
49	D FJ36	I	層 AIIc	2.3	1.2	0.4	1.3	J	99	C FH46	II	層 AMd±	2.8	1.6	0.4	1.5	J
50	D FJ50	I	層 AMd±	2.7	1.2	0.9	1.9	J	100	C FHS8	II	層 A1a	2.4	1.3	0.3	0.5	J
51			AMe	2.7	1.4	0.5	1.2	J	101	C FH62	C	L AMd±	2.3	1.1	0.8	1.0	J
52			AMe	2.2	1.2	0.7	1.5	J	102	D F146	II	層 AIV	2.9	1.6	0.5	0.8	J
53			AIIc	3.3	1.3	0.5	1.6	J	103	D F148	II	層 AMd±	3.1	1.3	0.7	1.5	J
54			AMd±	3.2	1.1	0.7	1.6	J	104	C F154	II	層 AMd±	3.5	1.3	0.7	2.6	J
55			AMd±	3.6	1.6	0.7	3.5	J	105	C E144	II	層 AII±	2.7	1.2	0.5	1.2	J
56			AIV	4.1	2.1	1.2	5.9	J	106	C FC46	II	層 A1a	2.5	1.5	0.4	0.9	J
57			AMe	3.3	1.1	0.6	1.8	J	107	E FC76	II	層 AMd±	4.8	1.5	0.1	5.1	J
58			AMd±	3.0	1.4	0.6	2.6	J	108	D F142	II	層 AIV	3.3	1.8	1.1	4.7	J
59			AIVd±	3.3	1.4	0.8	3.3	J	109	D F146	II	層 AIIc	3.4	1.4	0.5	1.5	J
60			AMe	2.0	1.0	0.3	0.7	J	110	D F146	II	層 AIIc-f	3.3	1.4	0.8	2.5	J
61	E GF64		AMd±	3.0	1.4	0.5	1.8	J	111	D F146	II	層 AIIc	2.6	1.4	0.6	1.5	J
62	D EJ48	I	層 D1a4	7.1	2.1	1.8	21	J	112	D F148	II	層 AIIc	3.3	1.4	0.6	2.4	J
63	C FB44		AIV	2.7	1.4	0.5	1.4	J	113	D F148	II	層 D1a2+5	4.2	2.6	1.3	5.1	J
64	C FB44	I	層 AV	2.5	1.4	0.4	0.8	J	114	D F148	II	層 AIIc	2.4	1.2	0.5	1.4	J
65	C FB44	I	層 DW5	3.1	1.9	0.9	4.9	J	115	C F158		A1a	2.5	1.4	0.4	0.7	J
66	D FH38	I	層 DIIIc1	4.3	3.8	1.1	1.9	J	116	E F164	III	層 AIV	3.0	1.4	0.8	2.0	J
67	D FH38	I	層 AIV	3.8	2.0	0.3	2.6	J	117	E F164	III	層 C1a1	4.8	1.8	0.4	3.1	J
68	E F164	I	層 AIV	2.3	2.4	0.7	3.9	J	118	E F164	III	層 AMd±	2.9	0.7	0.4	0.8	J
69	E F164	I	層 AIV	3.1	2.7	0.9	7.5	J	119	E F168	III	層 AIIb	3.1	1.4	0.8	1.6	J
70	D FJ44	I	層 DIIa3	3.6	5.6	1.2	20	J	120	E F170	II	層 AV	2.6	0.8	0.5	0.7	J
71	D FJ44	I	層 DIIIa2	6.2	3.7	1.6	37	J	121	E F170	III	層 AIIc	3.0	1.3	0.7	1.8	J
72	E GA62	I	層 AIV	3.0	1.8	0.6	3.3	B	122	D FJ38	盛土	AMd±	3.7	1.3	0.7	0.9	J
73	D GB48	I	層 AIV	3.5	2.6	0.6	4.9	J	123	D FJ38	盛土	AIIc	3.6	1.5	0.8	3.4	J
74	D GB56	II	層 AIV	3.1	1.8	0.6	2.7	J	124	D FJ40	II	層 AIIc	3.0	1.3	0.7	2.2	J
75	D GC56	II	層 DIIIa4	3.9	2.8	0.4	5.5	J	125	D FJ42	II	層 AMd±	2.6	1.4	0.7	1.4	J
76	E GF60	I	層 AMe	3.1	1.7	0.9	5.6	J	126	D FJ42	II	層 AMd±	3.9	1.5	0.8	4.3	J
77	D 1号址	周溝	AIV	2.9	1.8	0.9	3.3	J	127	D FJ44	II	層 AIIc	2.5	1.3	0.3	0.8	J
78	D 1号址	周溝	AIV	3.6	7.1	1.1	4.8	J	128	D FJ46	II	層 AIIc	2.8	1.7	0.4	1.5	J

No	出土地点 ※	層位	分	実			石積 備考	No	出土地点 ※	層位	分	実			石積 備考								
				長さ	幅	厚さ						長さ	幅	厚さ									
129	D FJ48	II	層	AMd	ウ	3.1	0.8	0.6	1.1	J	179	E	GB66	II	層	A1a	2.1	2.0	0.5	1.2	J		
130	D FJ48			A1c		2.8	1.5	0.5	1.6	J	180	E	GB66	II	層	A1e	2.5	0.9	0.3	0.7	J		
131	D FJ48	II	層	A1V		5.4	2.4	1.0	96	J	181	E	GB66	III	層	A1a	1.7	1.2	0.4	0.6	J	x	
132	D FJ48	盛土		B1b	ハ	8.7	2.7	1.1	19	J	182	E	GB70	III	層	A1V	3.1	2.2	1.0	5.6	J	x	
133	D FJ50	盛土		A1c	イ	2.9	1.3	0.4	0.9	J	183	E	GB70	III	層	A1b	2.0	1.6	0.4	1.6	J	x	
134	C FJ58	II	層	AMd	エ	3.3	1.3	0.6	1.9	J	184	E	GB72	III	層	A1c	2.9	1.5	0.6	2.7	J	x	
135	C FJ58	II	層	A1e		2.3	1.9	0.8	2.7	K	185	D	GC48	II	層	AMd	エ	2.6	1.4	0.8	3.1	J	x
136	E FJ66	III	層	A1a		1.9	1.1	0.3	0.5	J	186	E	GC64	III	層	A1c	フ	3.3	1.2	0.6	1.7	J	x
137	E FJ66	III	層	AMd	エ	2.4	1.5	0.8	2.4	J	187	E	GC66	III	層	A1c		2.8	1.4	0.6	2.0	J	x
138	E FJ66	III	層	A1a		1.9	1.1	0.2	0.4	J	188	E	GC78	III	層	AMd	エ	2.8	1.2	0.7	1.8	J	x
139	E FJ66	II	層	AMd	エ	3.4	1.6	0.8	3.5	HC	189	E	GC80	I	層	A1c	イ	3.1	1.1	0.6	1.7	J	x
140	E FJ66	III	層	A1V		3.6	2.0	0.8	4.6	HC	190	E	GD80	I	層	AMd	エ	3.1	1.4	0.6	1.8	J	x
141	E FJ66	II	層	A1c		3.4	1.6	0.7	2.6	HC	191	D	GE48			A1V	2.3	1.2	0.5	0.6	J	x	
142	E FJ66	IV	層	A1a		2.5	1.2	0.4	0.6	HC	192	E	GE64	II	層	D1a	2	4.5	2.2	0.5	5.4	J	x
143	E FJ68	III	層	A1c		3.3	1.0	0.5	1.3	HC	193	E	GF66	I	層	D1V		5.2	3.0	0.7	7.9	J	x
144	E FJ68	III	層	AV		2.9	2.0	0.3	1.5	HC	194	E	GE34	I	層	C1a	5	5.9	2.2	1.1	8.2	J	x
145	E FJ68	III	層	A1b		2.8	1.5	0.6	2.0	HC	195	D	GE46	II	層	B1a	4	6.8	2.1	1.4	5.3	J	x
146	E FJ68	III	層	A1a		1.8	1.2	0.3	0.5	HC	196	D	GE46	II	層	A1c		3.7	1.7	0.9	4.7	J	x
147	E FJ68	III	層	AMd	エ	2.9	1.3	0.4	1.6	HC	197	E	GE60	II	層	A1c		2.8	1.6	0.7	2.1	J	x
148	E FJ68	III	層	A1c		3.3	1.3	0.6	0.8	HC	198	E	GE62	II	層	AMd	エ	3.4	1.5	0.7	2.4	J	x
149	E FJ68	III	層	A1a		2.1	1.3	0.3	0.7	HC	199	E	GE64	II	層	AMd	エ	2.9	1.3	0.8	2.4	J	x
150	E FJ68	I	層	A1c		2.5	1.2	0.4	1.1	HC	200	E	GG44	II	層	A1c		2.5	1.2	0.5	1.2	J	x
151	E FJ68	III	層	D1c	5+2	5.6	5.0	1.0	33	HC	201	E	GG46	II	層	AMd	エ	3.5	1.7	0.7	3.6	J	x
152	D GA40	II	層	AMd	エ	2.4	1.3	0.4	1.0	HC	202	E	GG70	I	層	A1V		4.0	2.1	0.7	5.3	J	x
153	D GA42	II	層	A1c	フ	3.7	1.3	0.7	3.2	HC	203	E	GG72	II	層	AMd	エ	4.0	1.5	1.0	5.1	J	x
154	D GA42	II	層	AMd	エ	2.8	1.2	0.7	1.8	HC	204	D	GE48			A1V	2.0	1.7	0.5	1.8	P	x	
155	D GA44	II	層	AMd	エ	3.1	1.5	0.7	2.3	HC	205	E	GF46			AMd	エ	3.4	1.3	0.8	3.1	J	x
156	D GA46	II	層	A1c	イ	3.3	1.6	0.8	3.2	HC	206	D		盛土		A1V	3.2	1.9	1.0	4.8	J	x	
157	D GA48	II	層	AMd	エ	2.5	1.2	0.8	0.8	HC	207	D		盛土		A1c	フ	4.2	2.0	1.2	7.9	P	x
158	D GA54	II	層	A1a		1.7	1.3	0.3	0.4	HC	208	D		盛土		A1c	フ	4.0	1.5	0.8	4.5	J	●
159	D GA54	II	層	A1a		1.6	1.4	0.4	0.5	HC	209					A1c		3.3	1.4	0.7	2.6	J	x
160	D GA54	II	層	A1a		2.6	1.6	0.7	2.2	HC	210					AMd	エ	2.5	1.2	0.5	1.2	J	x
161	D GA54	II	層	AMd	エ	1.9	1.1	0.4	0.7	HC	211					F11		5.3	5.0	0.9	17	N	x
162	E GA66	III	層	C1V	ロ	2.7	3.1	0.4	2.9	J	212					B1a	ロ	5.8	1.8	1.0	7.1	J	x
163	E GA66	III	層	A1a		2.3	1.6	0.3	0.6	J	213					A1c		2.5	1.1	0.5	1.6	J	x
164	E GA68	III	層	A1V		3.3	1.6	0.5	2.3	J	214					A1a		2.5	1.3	0.3	2.0	J	x
165	E GA68	III	層	AMd	ウ	4.5	1.1	1.0	3.3	J	215					AV		3.6	1.6	0.8	3.2	J	x
166	E GA70	III	層	AMd	エ	2.5	1.2	0.7	1.6	J	216	A	DB20溝	I	層	A1a		1.7	1.3	0.3	0.4	J	x
167	E GA70	III	層	E1c	フ	4.1	1.5	0.6	3.0	J	217	B	EF46			D1a	4	5.7	2.8	1.0	6.1	J	x
168	D GB44	II	層	AMd	エ	4.3	1.5	0.6	4.3	J	218	C	FB42	III	層	AMd	エ	2.7	1.3	0.7	1.9	J	x
169	D GB48	II	層	AV		2.8	1.5	0.3	1.5	J	219	C	FB52	III	層	H		2.8	0.8	0.7	1.4	J	x
170	D GB48	II	層	AV		2.1	1.2	0.4	0.9	J	220	C	FC38	III	層	AMd	エ	3.3	1.2	0.7	1.8	J	x
171	D GB48	II	層	AMd	エ	2.8	1.3	0.6	1.9	J	221	C	FC44	III	層	A1a		1.8	1.6	0.4	0.7	J	x
172	D GB48	II	層	A1c		3.1	1.4	0.6	2.0	J	222	C	FD42	III	層	D1a	4	6.1	3.7	1.7	36	J	x
173	D GB50	II	層	A1c		2.3	1.4	0.6	1.4	J	223	C	FF48	II	層	D1a	5	6.6	2.3	1.2	11	J	x
174	D GB50	I	層	A1V		4.9	2.2	1.1	9.5	J	224	C	FH50	III	層	A1b	4	4.9	1.8	0.9	5.9	J	x
175	D GB50	II	層	AMd	エ	2.7	1.4	0.6	2.0	J	225	D	FI42	II	層	AMd	エ	3.4	1.5	0.8	3.8	J	x
176	D GB52	II	層	AMd	エ	3.3	1.1	0.8	3.0	J	226	D	F148	3	層	E1a	1	3.4	1.4	0.9	4.2	J	x
177	D GB52	II	層	AMd	エ	3.6	1.7	0.8	1.8	J	227	E	F164	III	層	A1b	7	3.2	1.6	0.5	1.9	J	x
178	D GB54	II	層	AMd	ウ	3.7	1.0	0.6	1.0	J	228	E	F168	表探		A1V		2.7	1.8	0.7	2.6	J	x

No	出土地点	層位	分類	実測				No	出土地点	層位	分類	実測					
				長さ	幅	厚さ	高さ					長さ	幅	厚さ	高さ		
229	E F170	3	層 AIIb	3.2	1.4	0.9	3.1	J	279	E GH60住	4	層 AIV	3.5	2.2	1.1	7.2	J
230	D GA50	3	層 AIII d x	2.7	1.5	0.5	1.7	J	280	E GH60住	4	層 AIV	4.0	2.1	1.1	6.7	J
231	D GA50	4	層 AIII d x	3.1	1.3	0.8	2.7	J	281	E GH60住	5	層 AIV	3.2	1.8	0.9	4.4	J
232	E GA68	3	層 AII c	2.7	1.5	0.8	2.1	J	282	E GH60住	5	層 AIV	3.0	2.0	0.7	3.7	J
233	E GA68	4	層 AII c	2.6	1.2	0.3	0.6	J	283	E GH60住	1	層 C1 a 4	7.1	2.8	1.3	3.9	J
234	D GC50	II	層 AIII d x	3.5	1.2	0.5	1.7	J	284	E GH60住	1	層 AV	2.5	0.7	0.7	1.0	J
235	D GD50		AIV	4.1	1.1	0.6	2.5	J	285	B EF34住		FIII	6.0	2.4	1.2	21	J
236	D GD50		AIV	3.6	2.1	0.7	5.3	J	286	E FII c住		D1 a 4	5.9	2.3	1.2	15	P
237	D GD50		AIII d x	3.8	1.5	0.6	2.7	J	287	E FII c住		AII c	3.1	1.3	0.6	1.7	J
238	D GF48	②	AIII d x	2.1	1.2	0.4	0.7	J	288	E FII c住		D	6.5	2.5	0.7	11	J
239	D GF50	II	層 AIII d x	2.5	1.4	0.5	1.5	J	289	E FII c住		AIII d x	3.7	1.7	0.5	3.2	J
240	D GH52	II	層 AIII d x	2.3	1.2	0.4	1.0	J	290	E FII c住		AII c 7	4.1	1.3	0.5	2.1	J
241	E G146	III	層 DII a 1	3.9	1.9	0.5	3.3	J	291	E FII c住		AIII d x	3.7	1.8	0.7	4.1	J
242	D		盛土 C1 a 3 n	6.2	2.7	0.6	9.1	J	292	E FII c住		F1	2.5	0.9	0.5	1.6	J
243	E FJ66	III	層 AIV	3.4	2.3	1.3	7.5	J	293	E FII c住		D1 a 2	5.7	2.8	1.0	5.2	J
244	D GB50	III	層 AIV	3.3	2.4	1.4	9.9	J	294	E FII c住	3	層 E1 a 1 a 2	5.0	1.8	1.1	6.2	J
245	D GD48	III	層 AIV	3.4	2.1	1.1	6.1	J	295	E FII c住	3	層 H	3.4	2.7	1.2	12	J
246	C FC40		A1 a	2.7	1.8	0.5	1.9	J	296	E FII c住	③	II c 7	3.0	0.9	0.4	0.9	J
247	E GH30		D	6.2	2.8	1.0	6.4	J	297	E FII c住	4	層 H	2.7	1.7	0.4	1.4	J
248	E GH30		D	4.8	1.5	0.6	4.0	J	298	E FII c住	4	層 H	5.1	3.3	1.4	5.2	J
249	A DB16	I	層 D	4.0	3.2	1.2	0.1	J	299	E FII c住	4	層 H	3.2	1.7	1.1	5.2	K
250	E F170	III	層 C	4.6	2.5	0.7	5.0	J	300	E FII c住	4	層 H	4.1	3.0	0.8	6.4	J
251	E FJ70	III	層 D	3.3	2.4	1.3	8.7	J	301	E FII c住	4	層 A1 a	2.9	1.3	0.4	1.0	J
252	E FJ70	III	層 D	3.4	2.6	0.5	5.1	J	302	E FII c住	3	層 AII c	2.1	1.7	0.5	1.8	J
253	D GC56	II	層 D	3.3	2.7	1.0	5.8	J	303	E FII c住	3	層 A1 a	2.6	1.3	0.3	0.8	J
254	E GD74	II	層 D	3.1	2.3	1.0	6.9	J	304	E FII c住	3	層 AIII d x	3.0	1.4	0.5	1.9	J
255	E GH60住	I	層 AIII e	3.2	1.7	0.7	2.9	J	305	E FII c住	3	層 C1 a 5	5.6	2.3	0.9	6.6	J
256	E GH60住	I	層 AIII d x	2.7	1.2	0.6	1.7	J	306	E GII c住	3	層 CH a 2	4.0	5.5	1.2	5.4	J
257	E GH60住	2 a	層 AIII d x	3.7	1.5	0.7	2.7	J	307	E GII c住	3	層 AIII d x	3.8	1.9	0.7	3.5	J
258	E GH60住	2 a	層 AIII d x	4.2	1.5	0.7	2.9	J	308	E GII c住		No12	5.3	3.4	1.5	33	S
259	E GH60住	2	層 AIV	2.7	1.3	0.5	1.6	J	309	F HB120住	1	層 A1 a	2.7	1.0	0.7	1.1	J
260	E GH60住	2	層 AIII d 少	3.2	1.1	0.7	1.8	J	310	F HB120住	2	層 A1 a	2.8	1.9	0.7	2.1	J
261	E GH60住	2	層 AIV	2.4	1.4	0.6	1.4	J	311	F HB120住	2	層 A1 v	1.7	1.4	0.3	0.7	J
262	E GH60住	2	層 AIII d x	2.9	1.2	0.6	1.9	J	312	F HB120住	2	層 A1 a	2.3	1.3	0.4	0.7	J
263	E GH60住	2	層 AIII d x	5.6	1.2	0.6	3.9	J	313	F HB120住	2	層 A1 a	1.9	1.5	0.3	0.9	J
264	E GH60住	2	層 AII c 4	2.8	1.3	0.6	1.4	J	314	F HB120住	2	層 A1 a	2.3	1.4	0.8	0.8	J
265	E GH60住	2	層 AIV	2.8	1.6	0.6	2.5	J	315	F HB120住	床直	A1 a	1.8	1.1	0.3	0.3	J
266	E GH60住	2	層 AIII d x	2.4	1.0	0.4	0.8	J	316	F HB120住	4	層 A1 a	2.3	1.3	0.3	0.5	J
267	E GH60住	2	層 A1 a	2.4	1.5	0.6	1.1	J	317	F HB120住	Flr7	A1 a	3.3	2.2	0.6	2.6	J
268	E GH60住	2	層 AIV	2.7	1.9	0.7	2.7	P	318	F HB120住		A1 a	2.7	1.7	0.7	2.4	J
269	E GH60住	2	層 AIII d x	4.1	2.1	1.0	6.2	J	319	F HB120住	4	層 A1 a	2.2	1.4	0.3	0.7	P
270	E GH60住	2	層 AV	2.7	1.5	0.6	0.6	J	320	F HB120住	4	層 A1 b	3.2	1.6	0.8	2.7	J
271	E GH60住	2	層 D1 a 5'	6.4	3.0	1.2	2.4	J	321	F HB120住		A1 a	2.4	1.7	0.5	0.4	J
272	E GH60住	2	層 AIII d x	3.0	1.0	0.6	1.5	J	322	F HB120住	FR222A	Av	3.5	2.6	1.1	8.9	J
273	E GH60住	3	層 AIV	4.3	2.1	1.0	7.8	J	323	D GB44住	1	層 AIII d x	2.6	1.2	0.4	1.3	J
274	E GH60住	3	層 AII c 7	3.7	1.2	0.8	2.9	J	324	D GB44住	1	層 A1 v	2.5	1.8	0.8	2.8	J
275	E GH60住	3	層 AIII d x	2.9	1.2	0.5	1.7	J	325	D GB44住	1	層 AIII d f	4.9	1.3	0.6	3.1	J
276	E GH60住	3	層 AIII d x	2.8	1.2	0.5	1.4	J	326	D GB44住	1	層 AII c	1.2	0.5	0.5	0.1	J
277	E GH60住	4	層 AIII d x	2.6	1.9	0.5	1.9	J	327	D GB44住	1	層 AIII d x	2.8	1.3	0.6	1.7	J
278	E GH60住	4	層 AIV	2.9	1.5	0.4	1.2	J	328	D GB44住	伊1	AIII a 少	2.7	1.0	0.7	1.6	J

No	出土地点	層位	分類	実測				No	出土地点	層位	分類	実測			
				長さ	幅	厚さ	備考					長さ	幅	厚さ	備考
329 F	HD14柱	1	層 AIV	3.3	2.1	1.2	3.1 J	379 D	GD48	III	層 AIIc	2.4	1.2	0.5	0.7 J
330 F	HD14柱	1	層 A Ia	1.7	1.5	0.8	0.9 J	380 B	EE46	III	層 AMd±	4.3	1.5	0.5	3.0 J
331 F	HD14柱	2	層 A Ia	1.8	1.2	0.3	0.4 J	381 B	EF46	III	層 AMd±	4.4	1.5	0.8	4.5 J
332 F	HD14柱	2	層 AIV	3.0	1.8	0.8	5.6 J	382 B	EF46	III	層 AMd±	3.4	1.4	0.9	2.9 J
333 F	HD14柱	3	層 A Ib	2.0	1.5	0.5	1.1 J	383 B	EF46	III	層 A Ia	2.4	1.4	0.3	0.8 J
334 F	HD14柱	3	層 A Ia	2.6	1.6	0.4	1.1 J	384 B	EF48	II	層 AIIc7	3.1	1.2	0.4	0.1 J
335 F	HD14柱	1	層 D Ia 2	7.4	2.9	1.3	9.4 J	385 B	EF48	II	層 A Iv	2.9	1.4	9.3	3.0 J
336 E	GA錠住	1	層 AIIc4	3.6	1.5	0.9	3.2 J	386 B	EF48	III	層 A Iv	2.3	1.1	0.5	1.6 J
337 D	GA錠	1	層 A Ib	1.8	1.8	0.3	0.6 J	387 B	EF48	III	層 AMd±	2.4	1.2	0.4	1.2 J
338 D	GA44	1	層 AIIc7	3.2	1.1	0.4	1.2 J	388 B	EF46	III	層 AMd±	3.8	1.2	0.6	2.4 J
339 D	GA44	1	層 AIIIe	3.4	1.5	0.8	2.4 J	389 B	EG46	I	層 AMd±	3.0	1.2	0.5	1.7 J
340 D	GA44	1	層 AMd±	2.8	1.1	0.5	1.2 J	390 B	EG46	III	層 AMd±	3.0	1.7	0.9	3.1 J
341 D	GA44	1	②層 AIIc	2.1	1.3	0.6	1.2 J	391 B	EG46	III	層 AMd±	3.7	1.6	0.9	3.5 J
342 D	GA44	1	②層 AMd±	3.0	1.4	0.3	1.3 J	392 B	EH50	III	層 AIV	4.2	2.4	1.2	8.6 J
343 D	GA44	1	②層 AMd±	2.4	1.2	0.5	1.3 J	393		盛土	AIIa	1.7	1.2	0.3	0.3 J
344 D	GA44	1	③層 A Ia	1.9	1.4	0.4	0.9 J	394		盛土	A Ia	1.9	1.4	0.3	0.6 J
345 D	GA44	1	③層 AIIc	2.3	1.3	0.4	1.9 J	395 F	HC144	I	層 DIIIa 4n	6.3	3.9	0.9	19 J
346 D	GA44	1	④層 AIIc7	2.9	1.1	0.4	1.3 J	396 F	HC114	I	層 AIV	3.5	1.6	0.9	4.1 J
347 D	GB44		A Iv	3.2	1.5	0.7	3.5 J	397 F	HC118	III	層 A Ia	1.7	1.1	0.3	0.4 J
348 D	GB44		A Iv	4.1	2.0	1.6	8.9 J	398 F	HD114	I	層 AIV	2.8	1.5	0.6	2.6 J
349 D	GB44		AMd±	3.1	1.3	0.8	2.6 J	399 F	HD114	I	層 A Ia	1.6	1.2	0.3	0.4 J
350 D	GB44		AMd±	2.7	1.4	0.4	1.3 J	400 F	HD114	I	層 A Ia	1.6	1.4	0.4	0.8 J
351 D	GB44		A Ia	1.8	1.1	0.3	1.8 J	401 F	HE112	I	層 Div 2	5.5	2.8	0.9	12 J
352 D	GB44		AIIc7	4.1	1.5	0.8	4.2 J	402 F	HE114	I	層 Div	4.3	3.1	0.9	12 J
353 D	GB44		盛土 A Iv	2.9	1.8	1.2	3.8 J	403 F	HE114	I	層 A Ia	2.4	1.5	0.4	0.7 J
354 D	GB44		1 ①層 AMd±	3.3	1.2	0.7	2.7 J	404 F	HE116	I	層 AMd±	3.2	1.3	0.6	2.2 J
355 D	GB44		1 ②層 AIIc	3.3	1.5	0.5	2.1 J	405 F	HE116	I	層 A Ib	2.0	1.3	0.5	1.1 J
356 D	GB44		1 ③層 AMd±	3.2	1.1	0.4	1.4 J	406 F	HE120	I	層 A Ia	3.3	1.4	0.5	1.6 J
357 D	GB44		1 ④層 AIV	4.6	2.0	1.0	5.8 J	407 F	HF118	I	層 A Ia	2.0	1.4	0.2	0.5 J
358 D	GB44		1 ⑤層 AMd±	2.6	1.3	0.6	1.8 J	408 F	HF118	I	層 AIV	3.0	2.0	0.8	4.5 J
359 D	GB44		1 ⑥層 AMd±	2.5	1.1	0.5	1.3 J	409 F	HF120		A Ia	1.8	1.3	0.2	0.4 J
360 D	GB44		1 ⑦層 A Ib	1.9	1.8	0.4	0.9 J	410 F	HF122		DIIIc 4	4.7	6.9	1.8	6.7 J
361 D	GB44		1 ⑧層 A Ib	1.7	1.6	0.3	0.5 J	411 F	HG120		A Ia	1.9	1.6	0.5	0.7 J
362 D	GC錠	1	層 A Iv	3.2	1.3	0.8	3.7 J	412 F	HG128	I	層 A Iv	2.2	1.3	0.6	1.8 J
363 D	GD錠	1	①層 AIIc	3.1	1.4	0.5	3.9 J	413 F	HH130	I	層 A Ia	1.5	1.2	0.3	0.3 J
364 D	GD錠	1	②層 AMd±	2.8	1.4	0.6	1.6 J	414 F	HH130	I	層 AMd±	3.3	1.7	0.8	3.8 J
365 D	GG錠	1	層 A Iv	4.7	1.8	1.3	8.3 J	415 F	HH134	I	層 AIIc7	3.7	1.4	0.6	2.7 J
366 D	GA錠	III	層 AMd±	2.1	1.1	0.5	0.8 J	416 F	H1132	I	層 A Iv	4.5	2.7	1.3	11 J
367 D	GA錠	III	層 AMd±	3.7	1.2	0.5	2.3 J	417 F	H1136	I	層 AIIc	2.6	1.1	0.5	1.3 J
368 D	GB錠	III	層 AIIc	2.2	1.0	0.5	0.7 J	418 F	H1136	I	層 A Iv	4.0	2.1	1.0	7.1 J
369 D	GB錠	III	層 AIIc	3.3	1.7	0.6	2.5 J	419 F	H1138	I	層 AIIc7	3.1	1.5	0.5	2.3 J
370 D	GB錠	III	層 AIIc	2.2	0.9	0.2	0.4 J	420 F	HJ126	I	層 A Iv	3.1	1.3	0.9	3.3 J
371 D	GB錠	III	層 AMd±	2.7	1.3	0.6	1.6 J	421 F	HJ138	I	層 A Iv	3.2	2.1	0.8	5.4 J
372 D	GB錠	III	層 AMd±	4.4	1.4	0.7	3.1 J	422 F	HJ140	I	層 AMd±	1.9	1.2	0.4	0.6 J
373 D	GC錠	III	層 AIIc7	3.4	1.3	0.6	2.1 J	423 F	HJ146		A Ia	2.1	2.5	0.5	1.7 J
374 D	GD錠	C	L AMd±	1.5	0.8	0.4	0.3 J	424 E	X1区		盛土 AIIc	2.1	1.2	0.5	1.3 J
375 D	GD錠	III	層 AMd±	3.9	1.5	0.7	3.2 J	425 E	X1区		盛土 AMd±	3.2	1.4	0.6	2.6 J
376 D	GD錠	III	層 AIV	3.1	1.8	0.8	3.6 J	426 E	X1区	I	層 AIIc	2.6	1.2	0.5	1.2 J
377 D	GD錠	III	層 AIV	3.5	1.7	0.8	3.7 J	427 E	X1区	I	層 AMd±	2.4	1.4	0.6	1.8 J
378 D	GD錠	III	層 AIIc	3.0	1.4	0.6	1.9 J	428 E	X1区	III	層 AIIc7	2.6	1.1	0.4	1.0 J

No	出土地点	層位	分	実測				No	出土地点	層位	分	実測								
				長さ	幅	厚さ	高さ					長さ	幅	厚さ	高さ					
429	E X I 区	田	層	AIIc	3.2	1.5	0.7	2.7	J	479	D FJ46	盛土1層	AIIIa±	2.2	1.2	0.6	1.6	J	×	
430	E X I 区	田	層	AV	2.7	1.5	0.7	2.4	J	480	D FJ44	盛土1層	A	2.9	1.5	0.6	2.9	J	×	
431	E X I 区	田	層	AIIc	2.7	1.6	0.6	1.9	J	481	D FJ46	盛土1層	AV	4.5	2.2	0.5	5.1	J	×	
432	E X I 区	田	層	AIII d	2.7	0.9	0.4	0.7	J	482	D FJ44住	1層%1	AIIc7	2.8	1.2	0.5	1.2	J	×	
433	E X I 区	C	L	BIIIbイ	6.1	2.4	0.9	9.0	J	483	D FJ46	S 6	AIIc7	3.7	1.5	0.6	2.9	J	×	
434	E IXB区	田	層	AIa	2.5	1.2	0.3	0.5	J	484	C FB36	II 層	AIIc7	3.1	1.4	0.7	2.5	J	×	
435	F VII区	田	層	AIb	3.5	1.7	0.3	1.9	J	485	C FBS2	2 面	AIV	4.3	1.9	0.8	5.6	J	×	
436	F VII区	IV	層	AIIc	2.5	1.6	0.4	1.5	J	486	C FBS2	5層%13	AIIIbウ	3.1	1.3	0.6	0.5	J	×	
437	F VE	I	層	AIIc7	4.1	1.2	0.6	2.2	J	487	C FC36	I 層	AIIc7	3.2	1.4	0.5	2.0	J	×	
438	F VE	I	層	AIII d	2.5	2.8	0.5	0.9	J	488	C FCS2	5層%10	AIIc7	2.7	1.1	0.5	1.3	J	×	
439	F IVE	表	掘	AIb	2.2	1.6	0.4	0.9	J	489	C FCS2	4層%7	AIV	4.3	2.4	0.9	7.7	J	×	
440	D GB44	I	層	AV	2.6	1.0	0.5	1.5	J	490	C FC38	II 層	AIIc7	3.3	1.3	0.6	2.1	J	×	
441	D GB44	I	②	層	E1b1イ	2.5	1.8	0.6	2.1	J	491	C FC38	II 層	AIIc7	3.8	1.4	0.5	2.3	J	×
442	D GB44	I	②	層	AIIc7	2.5	1.0	0.5	1.4	J	492	C FC58	I 層	AIIIa±	2.6	1.1	0.7	1.6	J	×
443	D GB44	I	②	層	AIII d	2.2	1.2	0.5	0.7	J	493	C FD36	I 層	AIb	2.7	1.3	0.5	1.8	J	×
444	B EP64	II	層	C1a9	4.7	1.6	0.6	3.5	J	494	C FD36	I 層	AIIc7	2.9	1.3	0.8	2.4	J	×	
445	F GF120	C	L	AIa	1.2	1.2	0.3	0.3	J	495	C FD36	I 層	AIIc7	2.9	1.5	0.6	2.0	J	×	
446	F GG120	C	L	AIIc	2.2	0.1	0.5	0.9	J	496	C FD90	表	掘	AIIc7	2.7	1.4	0.5	1.3	J	×
447	F GI98			AIIc7	3.7	1.2	0.6	2.5	J	497	C FE48	S 2	AIIIaウ	3.7	1.2	0.7	3.0	J	×	
448	F HB104	C	L	AIb	1.9	1.4	0.3	0.7	J	498	C FES2	S 6	AIV	3.2	1.7	0.8	3.5	J	×	
449	F HB106	C	L	AIa	2.5	1.5	0.5	0.8	J	499	C FES2	S 2	AIIc7	2.7	1.1	0.4	1.0	J	×	
450	F HB106	C	L	AIa	1.8	1.0	0.3	0.3	J	500	C FES0	基礎%6	AIIc7	2.4	1.4	0.4	1.0	J	×	
451	F HC106	C	L	AIII d	3.5	1.2	0.6	2.1	J	501	C FE48	2 面	AIIIb±	3.1	1.8	0.7	3.8	J	×	
452	F HD142	C	L	AIb	2.7	1.8	0.3	1.7	J	502	C FF50	基礎%1	AIIc7	3.3	1.4	0.8	2.8	J	×	
453	F HF118	I	層	D1a4+4'	6.5	3.0	1.5	1.7	J	503	C FG48	S 5	AIIc7	2.9	1.5	0.7	2.6	J	×	
454	F HG154	I	層		4.2	3.8	0.9	1.9	J	504	C FG48	S 12	AIIc7	2.5	1.1	0.5	0.9	J	×	
455	F HJ144	I	層	CIW	5.3	1.4	0.8	5.7	J	505	C FG48	S 4	AIIIaウ	3.1	1.3	0.5	1.9	J	×	
456	B 中央北側	盛	土	AIII d	3.0	1.2	0.5	1.6	J	506	C FH48	1面S13	AIIIaウ	3.2	1.2	0.5	1.4	J	×	
457	D 中央盛土	表	掘	AIIc7	3.6	1.2	0.6	2.5	J	507	C FH48	S 14	AIIIaウ	4.0	1.4	0.7	2.7	J	×	
458	B E150	II	層	D1a4	6.7	3.3	1.2	2.2	J	508	C FH48	S 15	AIIc7	3.9	1.9	0.6	2.5	J	×	
459	B E150	II	層	D	4.7	3.6	0.9	1.3	J	509	D F146	4面S80	AIb	5.3	2.5	0.7	5.7	J	×	
460	B F164	II	層	AV	3.3	2.2	0.9	5.8	J	510	D F146	3面S41	AIb	1.6	1.1	0.3	0.3	J	×	
461	B F164	II	層	AIV	4.1	2.6	0.8	7.8	J	511	D F146	4面S59	AIIc7	2.3	1.5	0.5	1.4	J	×	
462	D GC60区	盛	土	AIIIa±	2.6	1.1	0.7	1.5	J	512	D FH46	4面S83	AIIIa±	2.5	1.7	0.7	2.2	J	×	
463	D F166	盛	土	AIIIa±	2.7	1.4	0.5	1.6	J	513	D F146	4面S84	AIIIa±	2.5	1.7	0.7	2.3	J	×	
464	D GC60区	盛	土	AIIIaウ	4.0	1.5	0.7	2.4	J	514	D F146	3面S46	AIIc7	3.7	1.3	0.6	1.8	J	×	
465	D 配石南西	盛	土	AV	3.7	2.1	0.6	3.8	J	515	D F146	盛土1層	AIIIaウ	2.6	1.2	0.3	0.8	J	×	
466	D 配石南西	盛	土	AIIIa±	2.9	1.4	0.6	2.2	J	516	D F146	盛土	AIIIa±	2.0	1.1	0.6	1.3	J	×	
467	D 配石南西	盛	土	AIIIa±	2.3	1.0	0.5	1.1	J	517	F1	盛土1層	AIIc7	2.5	1.9	0.5	1.3	J	×	
468	C EH44区	盛	土	AIIIc7	3.1	1.4	0.9	3.2	J	518	C FF50	3面S1	AIa	2.9	1.4	0.3	0.8	J	×	
469	C FC34	盛	土	AIV	4.3	2.0	1.1	8.5	J	519	C FF50	S 6	AIa	1.9	1.5	0.3	0.6	J	×	
470	D GA44	埋	土	AIIc	3.0	1.4	0.6	1.7	J	520	C FBS2	3面S5	AIa	1.4	1.4	0.2	0.4	J	×	
471	D FJ44	盛	土	1層	AV	3.2	1.7	0.6	3.2	J	521	C FB54	I 層	AIa	2.6	1.3	0.4	0.9	J	×
472	C FBS2	埋	土	EII	2.3	1.1	0.4	0.8	J	522	C FB54	盛	土	AIV	2.0	1.3	0.5	1.1	J	×
473	C FC56	盛	土	AIIIa±	3.2	1.6	0.8	2.7	J	523	C FB54	I 層	AIa	1.5	1.5	0.3	0.5	J	×	
474	D GA44	盛	土	1層	AIIIa	2.7	1.2	0.5	1.6	J	524	C FB56	I 層	AIa	1.5	1.4	0.3	0.5	J	×
475	D GA44	盛	土	1層	AIIIa±	2.3	1.3	0.5	1.6	J	525	C FB36	II 層	AIb	2.0	1.7	0.6	1.9	J	×
476	D GA46	盛	土	1層	AIIIa	3.5	1.4	0.8	3.3	J	526	C FB36	II 層	AIa	1.9	1.2	0.3	0.5	J	×
477	E GF66			AIIc7	4.0	1.4	0.7	3.3	J	527	C FC36	II 層	AIa	1.2	1.4	0.3	0.4	J	×	
478	D GA44>>>	埋	土	AIIIa7	2.8	1.2	0.7	1.8	J	528	C FC36	II 層	AIb	2.2	1.3	0.4	0.8	J	×	

No	出土地点 ※地点	層位	分	実測				石積 備考	No	出土地点 ※地点	層位	分	実測				石積 備考		
				長さ	幅	厚さ	高さ						長さ	幅	厚さ	高さ			
529	C FCS2	3	面S4	A1a	1.5	1.0	0.2	0.3	J	551	C FJ44	S 2	A1a	2.6	1.4	0.3	1.1	J	
530	C FCS4	盛	土	A1a	1.7	1.5	0.4	0.8	J	552	C FJ44	盛土1層	A1a	2.1	1.8	0.4	1.1	J	
531	C FCS8	盛	土	A1a	1.9	1.3	0.3	0.5	J	553	C FJ44	盛土1層	A1a	1.7	1.2	0.5	0.7	J	
532	C FDS36	1	層	A1a	2.5	1.8	0.5	1.6	J	554	D 配石南西	盛	土	A1b	1.4	1.2	0.3	0.5	J
533	C FDS36	1	層	A1a	2.1	1.5	0.6	1.4	J	555	D 配石南西	盛	土	A1a	1.9	1.4	0.3	0.9	J
534	C FDS2	4	面	A1a	2.7	1.2	0.3	0.7	J	556	D EH44	盛	土	A1a	1.9	1.3	0.4	0.8	J
535	C FF48	2	面S7	A1a	2.4	1.6	0.6	1.1	J	557	D GA44	埋	土	A1a	1.7	1.5	0.6	1.1	J
536	C FF48	埋	土	A1a	2.2	1.5	0.4	0.8	J	558	D GF60	A1a		1.9	1.6	0.3	0.7	J	
537	C FFS0	S 2	A1b		1.7	1.5	0.4	1.0	J	559	D GC60	盛土1層	A1a	2.4	1.5	0.4	1.5	J	
538	C FFS0	S 11	A1b		2.4	1.5	0.5	0.8	J	560	C FF48	S 8	A1a	2.2	0.7	0.4	0.5	J	
539	C FG48	2	面	A1a	2.3	1.2	0.3	0.5	J	561	C FD38	II 層	FI	3.3	1.6	0.7	3.5	J	
540	C FH46	S 19	A1b		1.6	1.3	0.3	0.5	J	562	D GA44	盛土1層	AIIc-i	2.9	1.8	0.6	2.3	P	
541	C FH46	4	面S8	A1a	3.8	1.5	0.4	2.1	J	563	C EI38	I 層	E1b	3.1	2.4	0.7	4.2	J	
542	C FH46	S 12	A1a		1.8	1.2	0.3	0.5	J	564	C FBS2	炭化物中	AIV	4.3	3.0	1.0	9.4	P	
543	C FH48	S 2	A1a		2.4	1.4	0.3	1.0	J	565	D FJ46	S 5	AIV	4.5	2.3	0.9	8.9	J	
544	C FH48	S 10	A1a		2.6	1.2	0.3	0.7	J	566	D FJ46	II 層	D14	6.4	3.1	1.4	27	J	
545	C FH50	No 1	A1a		2.5	1.5	0.3	0.8	J	567	D GC42	C	C13	3.4	4.6	0.8	9.5	J	
546	C F146	4	面S81	A1a	2.4	1.5	0.4	1.4	J	568	C EH44	盛	土	D14	6.6	5.1	1.3	4.1	E
547	C F146	盛土1層	A1a		2.0	1.3	0.3	0.4	J	569	C 炭探	CH1		4.3	3.5	0.5	7.7	E	
548	C F146	盛土1層	A1a		1.9	1.2	0.3	0.4	J	570	C ED50	C	L AIIc-a	3.2	1.5	0.6	1.9	J	
549	C F146	盛土1層	A1a		1.8	1.2	0.3	1.4	J	571	C FGS0	E	Ia	2.8	1.2	0.7	1.9	J	
550	C F146	盛土1層	A1a		2.5	1.5	0.4	0.9	J	572	C FES2	C	L AIIIb-c	2.8	1.3	0.4	1.6	J	

② 建築材石部

図版掲載分

1	C FPG48		G1aアウ	10.7	8.4	6.7	820	A	26	D 3号址	2	層	G1aアイ	10.7	7.5	5.5	615	A	
2	D GAS2	II	層	G1aアウ	11.5	8.3	5.8	675	A	27	D EF48	III	層	G1aアウ	9.5	7.8	4.4	435	A
3	B EF46	III	層	G1aア	8.8	7.3	4.4	400	S	28	D GC64	2	層	G1aアウ	8.3	7.2	5.7	365	A
4	B EF46	II	層	G1aアウ	12.3	8.6	6.2	755	A	29	D GB44	2	層	G1aアイ	9.8	9.3	5.5	650	A
5	E 7001111		G1aア	9.5	7.1	5.0	500	A	30	D GBS2	I	層	G1aア	6.2	5.8	3.3	152	A	
6	C FA46	I	層	G1aアイウエ	8.9	5.9	3.2	235	A	31	E 6号址			G1aアイウ	14.9	8.5	6.4	980	A
7	E		G1aアウ	11.1	9.0	5.4	750	A	32	D FJ48	盛	土	G1aアウ	9.9	8.8	3.6	450	A	
8	D FJ48	配	石	G1aアイウ	11.1	11.0	5.0	715	A	33	D GC56	I	層	G1aアウ	13.1	8.4	6.0	930	A
9	D FJ38		Lア		8.9	3.8	3.7	165	A	34	B EF46	III	層	G1aアウ	9.6	7.4	4.9	395	A
10	E F182	III	層	G1aアウ	12.9	9.2	4.5	680	A	35	B 7号			G1aアウ	9.9	7.9	3.9	425	A
11	D 3号址	2	層	G1aアウ	10.4	8.2	4.9	540	A	36	D GBS6	II	層	G1aアウ	7.9	6.3	3.1	210	A
12	C 11号址		G1aアイ	9.6	7.8	5.5	490	A	37	B EE48	3	層I	G1aアイ	12.9	9.3	4.8	760	A	
13	D FJ52	II	層	G1aアウ	8.8	8.1	4.6	340	A	38	E FJ82	III	層	G1aアイウ	11.9	8.9	5.0	655	A
14	C FPG48		G1aアイ	9.2	7.8	5.5	465	A	39	D GB44	I	層	G1aアイウ	9.2	9.2	5.0	645	A	
15	E FJ70	3	層	G1aアイウ	10.1	7.8	4.5	430	A	40	E FJ70	I	層	G1aアイウ	8.9	7.7	6.6	580	A
16	E FJ68	3	層	G1aアウ	9.9	8.8	6.0	715	A	41	C FFF40	I	層	G1aアウ	9.7	9.9	5.6	360	A
17	C 16号址	周	溝	G1aアイウ	11.6	9.4	5.6	775	A	42	D FH40	I	層	G1aアウ	6.2	6.2	4.1	210	A
18	D 3号址	周	溝	G1aアイウ	13.5	8.4	5.5	800	A	43	D 2号址	周	溝	G1aイ	6.3	5.6	4.2	210	A
19	D F138	I	層	G1aアイウ	9.8	5.2	4.9	285	A	44	D FGA4	2	層	G1aアイ	7.8	8.8	3.4	200	A
20	B GC74	I	層	G1aアイ	12.5	9.6	5.9	1200	S	45	C FE40	I	層	G1aアウ	9.2	8.1	4.4	415	A
21	E FDS0	II	層	G1aアイウ	15.5	7.4	5.4	750	A	46	E GA68	3	層	G1aアウ	8.0	8.1	6.7	545	A
22	D 2号址	周	溝	G1aアウ	10.6	6.3	6.8	690	A	47	E 7001111			G1aウ	11.2	8.1	4.9	570	A
23	E FB26	II	層	G1aアイウ	14.3	11.5	4.4	990	A	48	C FC42	I	層	G1aアウ	10.0	10.0	5.3	465	A
24	D GAS4	配	石	G1aアイウ	13.3	8.1	4.6	645	A	49	C FI62	3	層	G1aウ	9.8	8.6	6.0	710	D
25	F B28		G1aアウ	14.6	8.4	4.9	835	A	50	E F164	3	層	G1aア	8.4	10.1	4.5	565	S	

No	出土地点 ※地点	層位	分	実測				No	出土地点 ※地点	層位	分	実測								
				長さ	幅	高さ	備考					長さ	幅	高さ	備考					
51	D FJ44	II	層	G1aウケ	7.0	6.4	4.7	265	A	101	D	GC48	II	層	JBaカオ	16.2	8.4	4.0	870	A
52	C FC44	I	層	G1aウ	6.5	5.7	4.2	195	A	102	D	EH40	I	層	JBaカ	15.5	11.3	3.3	740	A
53	E FJ70	I	層	G1aアウカ	12.5	8.3	5.1	665	A	103	C	16号址	周	溝	G1aイエ	11.5	7.9	4.7	640	A
54	C 周溝	I	層	G1aイエ	12.4	9.2	5.3	850	S	104	C	FM11ソツ			G1aウケ	11.8	6.9	6.2	665	S
55	E FM11ソツ			JBaカ	11.1	9.3	3.0	475	A	105	E	FM11ソツ			G1aウケ	10.5	8.0	6.0	610	A
56	E FM11ソツ			G1aイ	9.1	8.7	5.8	635	A	106	D	FE40	I	層	G1aイ	13.3	8.3	6.5	1800	A
57	D FG38	I	層	G1aウ	9.0	7.3	5.6	695	S	107	D	GB44	I	層	G1aウケ	8.8	8.8	6.7	655	A
58	D GA44	3	層	G1bウケ	7.5	6.3	4.8	420	A	108	C	7号址			G1aイ	5.7	8.5	4.4	335	A
59				G1aウ	14.6	7.5	3.6	564	A	109	D	3号址	周	溝	G1aウケ	5.2	3.6	3.2	64	A
60	E GA68	3	層	G1aウカケ	12.7	10.2	8.3	1260	A	110	B	EF46	II	層	G1aオ	5.2	4.3	3.5	100	A
61				G1aイ	11.5	8.3	5.8	955	A	111	D	2号址	周	溝	G1aイ	8.1	4.0	3.4	140	A
62	E GC42	I	層	G1aイ	12.5	6.8	3.3	565	S	112	E	G146	II	層	G1aウ	7.4	6.4	6.3	375	A
63	C 奥掘			G1aイ	16.6	9.3	3.9	1120	A	113	E	GF64	I	層	G1aオ	5.8	4.8	4.4	143	A
64	D FH40	I	層	G1aウ	14.6	7.0	7.0	865	S	114	D	3号址	I	層	G1aキオ	4.7	3.3	3.2	80	A
65				G1aウケ	11.6	8.6	6.5	850	A	115	B	EE48	II	層	G1aオケ	5.4	4.6	4.3	130	A
66	D 1号址	周	溝	G1aイ	9.5	7.5	5.7	585	A	116	B	EF46	II	層	G1aオ	4.6	4.0	3.2	70	A
67	B 40号土壌			G1aオケ	4.0	3.1	2.7	50	D	117	D	FG42	I	層	G1aイ	6.2	5.4	4.6	325	A
68	C FE42	I	層	JBaカ	12.6	8.6	2.4	350	A	118	D	GA42	I	層	G1aイ	6.7	5.5	4.3	205	A
69	E FM11ソツ			G1aオ	8.8	6.7	3.7	315	S	119	D	FJ52	II	層	G1aイ	6.9	5.8	4.6	220	A
70	D 2号址	主	体部	G1aイ	5.7	5.1	3.6	170	A	120	E	GG58	I	層	G1aイ	6.2	5.1	4.8	210	A
71	D GB56	II	層	JAaカ	13.9	8.7	2.6	625	S	121	C	FE50	I	層	G1aイ	6.7	5.8	4.2	195	A
72	C FJ56	II	層	Haエ	11.9	5.7	2.0	195	N	122	E	EJ36	I	層	G1aイ	4.7	3.5	4.4	100	A
73	E FM11ソツ			JBaカ	12.0	10.2	2.3	415	A	123	E	GF64	I	層	G1aイ	5.0	4.0	3.2	80	A
74	C FG48			G1aイ	20.5	6.4	5.9	1210	S	124	D				G1aイ	5.4	5.3	3.8	135	A
75	D FH38	I	層	G1aウケ	18.2	7.8	5.1	920	A	125	E	F168	3	層	G1aイ	5.2	4.5	4.1	115	A
76				G1aウケ	12.2	6.5	3.7	585	S	126	E	FM11ソツ			G1aイ	6.2	5.1	5.3	225	A
77	D FG44	II	層	G1aウケ	8.8	6.7	6.1	420	A	127	D	GA46	I	層	G1aウ	4.9	11.1	2.0	180	N
78	D EJ50	I	層	Haア	14.4	6.0	1.4	190	B	128	D	FH38	II	層	G1aイ	5.0	4.2	3.6	80	A
79	D FH42	I	層	G1aイ	11.8	6.3	3.3	415	S	129	C	FE4	I	層	G1aウ	7.7	4.8	2.8	200	S
80	D FJ38	I	層	G1bウ	19.3	8.7	7.0	1825	A	130	E	FJ68	I	層	G1aイ	4.1	4.1	2.8	75	A
81	E FJ82	III	層	G1aイ	17.9	9.1	4.9	435	A	131	D	FG42	I	層	G1aイ	4.2	4.1	2.2	60	A
82	E GB40	I	層	G1aアウ	11.4	5.2	3.3	300	A	132	D	F146	I	層	G1aイ	5.3	6.2	4.6	200	A
83	C GC44	I	層	G1aイ	8.7	6.7	4.3	495	A	133		奥掘			G1aオ	8.2	5.9	5.1	350	S
84	E FM11ソツ			G1aイ	7.0	7.0	5.4	330	A	134	B	47号址	周	溝	G1aオ	6.3	5.7	2.7	140	A
85	E GG60	I	層	G1aキ	9.3	7.6	4.7	489	A	135	D	1号址	周	溝	Kaイ	4.1	3.0	0.8	27	A
86	D GB44	2	層	G1aウカ	9.9	9.8	4.7	650	A	136	D	F148	II	層	G1aオ	3.8	3.1	2.6	35	A
87	D FA36	I	層	G1aウ	13.7	7.1	3.1	535	S	137	D	FJ46	II	層	G1aオ	4.5	3.7	3.7	70	A
88	F GA44	3	層	G1aイ	11.6	6.2	5.2	665	S	138	D	GC40	I	層	Kaアイ	3.5	4.1	0.6	30	B
89	E GA70	II	層	G1aイ	11.5	5.7	3.5	360	A	139	D	3号址	周	溝	G1aオ	4.0	4.0	1.8	40	A
90	E FM11ソツ			G1aイ	10.2	10.2	5.7	840	A	140	C	F158	II	層	G1aキ	3.7	3.1	3.3	58	A
91	E FM11ソツ			G1aイ	11.7	8.7	7.5	1060	A	141	D	FH42	I	層	G1aオ	5.3	3.9	3.0	84	A
92	E FM11ソツ			G1aイ	10.8	7.4	5.1	590	A	142	D	F146	I	層	G1aオ	4.9	3.0	3.3	80	A
93	C FCS2	I	層	G1aウカ	11.7	7.7	4.8	650	A	143	E	F182	II	層	G1aオ	3.4	3.1	2.3	30	A
94	C 11号址	周	溝	G1aアウケ	11.9	9.5	5.7	945	A	144	D	GAS2	II	層	G1aオ	4.2	3.6	2.4	45	A
95	E GA38	I	層	G1aイ	9.2	6.6	5.7	500	A	145	B	EF46	II	層	G1aオ	4.5	4.3	3.4	100	A
96	E GM11ソツ			G1aイ	10.0	9.8	5.5	785	A	146	E	X188X	III	層	G1aオ	5.0	4.4	2.0	70	S
97	D 周溝	2	層	G1aウ	7.3	6.5	4.7	360	D	147	B	EE48			G1aオ	4.8	4.6	4.0	110	A
98	E GE72	I	層	G1aウケ	9.5	8.2	3.9	415	A	148	F	GJ98			Hbエ	12.5	5.6	2.9	372	A
99	D 1号址	周	溝	G1aウ	9.0	8.9	6.2	710	S	149	C	FD54	I	層	Hbエ	8.8	3.1	1.5	83	N
100	C FA46	I	層	G1aオケ	6.5	5.6	4.8	220	A	150		FG48			Hbエ	10.1	4.8	3.3	268	A

No	出土地点 ※地 点	層 位	分	実				No	出土地点 ※地 点	層 位	分	実				No	出土地点 ※地 点	層 位	分	実			
				長さ	幅	厚さ	調査備考					長さ	幅	厚さ	調査備考					長さ	幅	厚さ	調査備考
151	E GH64	II	層	Hbエ	9.8	5.4	3.0	185A	X	201	C FC44	I	層	Kaアイ	5.6	6.9	1.9	100	S				
152	E GA68	II	層	Hbエ	11.6	4.7	1.5	147N		202	D F138	I	層	Kaアイ	4.7	5.4	0.9	50	S				
153	C FD48	I	層	Hbエ	3.0	3.3	1.2	20J	X	203	D F138	I	層	Kbイ	4.3	5.2	0.9	30	A				
154	E GC74	III	層	Hbエ	6.3	3.3	1.3	49N		204	D GC48	I	層	Kaアイ	4.7	6.3	1.1	50	B				
155	D FG44	II	層	Hbエ	5.6	4.9	2.7	146N	X	205	D F146	I	層	Kaイ	4.6	5.8	0.7	35	B				
156	D GA48	2	層	Hbエ	10.7	3.6	1.5	95N		206	D GD46	I	層	Kbアイ	5.8	5.9	1.3	55	B				
157	C H号址	周	溝	Hbエ	7.9	2.4	2.4	72N	X	207	C FE50	I	層	Kaアイ	5.0	6.9	1.0	60	S				
158	E FJ66	3	層	Hbエ	6.7	5.2	2.6	157S	X	208	D 3号址	周	溝	Kaイ	4.7	5.0	0.9	40	B				
159	C FF54	III	層	Hbエ	5.7	3.7	1.8	58N	X	209	B EF48	III	層	Kbアイ	4.3	4.5	0.9	30	B				
160	E GH68住	I	層	Hbエオ	8.5	5.9	3.3	254A	X	210	E GH60	I	層	Kaエ	4.0	5.1	0.7	30	B				
161	C FF48			Hbエ	8.2	5.6	2.7	217A	X	211	D 3号址	周	溝	Kaアイ	3.4	4.1	0.5	20	B				
162	D GB54			Hbエ	7.4	4.6	2.5	134N	X	212	C 8号址			Kbイ	5.4	6.3	1.4	70	S				
163	E GD90	III	層	Hbエ	6.8	4.3	2.4	118A	X	213	D GB56	II	層	Kaアイ	5.4	6.6	0.8	45	N				
164	E GH56	I	層	Hbエ	5.1	4.1	1.4	56N	X	214	E 6号址	周	溝	Kaエ	3.9	4.6	1.0	30	N				
165	E FJ68	III	層	Hbエ	7.2	2.8	0.8	23N		215	D 1号址	周	溝	Kaイ	3.1	3.4	0.6	20	N				
166	E GC76	II	層	Hbエ	7.7	4.1	1.6	89N	X	216	D F142	I	層	Kaアイ	4.1	4.4	1.0	35	B				
167	C FG60	II	層	Hbエ	3.5	4.6	1.1	293N	X	217	D 1号址	周	溝	Kaエ	4.8	5.1	1.1	45	N				
168	D F148			Hbエ	4.5	3.2	1.3	30N		218	D 1号址	周	溝	Kaイ	4.4	4.9	1.0	40	N				
169	C F160	III	層	Hbエ	5.7	4.5	2.6	99A	X	219	D GFS8	I	層	Kaイ	5.4	4.0	1.2	40	A				
170	E GA66	I	層	Hbエ	5.2	3.5	1.8	61A	X	220	D 1号址	周	溝	Kaイ	3.9	3.6	0.9	20	B				
171	D GB44	I 2	層	Hbエ	7.2	4.5	1.4	87N	X	221	D 4号址	周	溝	Kaエ	3.6	4.1	0.5	15	B				
172	D F148	I	層	Hbエ	7.4	3.7	1.6	73A	X	222	D FH48	II	層	JBaホ	10.4	7.9	3.3	290	A				
173	D FJ58	II	層	Hbエ	6.0	1.3	0.5	7N	X	223	D 2号址	周	溝	G1aアイウ	10.6	7.3	6.8	690	A				
174	D GA52	I	層	Hbエ	4.7	3.4	1.6	48N	X	224	D 2号址	周	溝	JAbイホキ	12.3	8.4	7.5	415	A				
175	C EJ48	I	層	1bIII	9.0	3.9	1.5	75N	X	225			JAbイホキ	12.3	8.4	7.5	2335	A					
176	C FG48			1bIII	13.9	4.6	1.7	149N	X	226	D FG44	II	層	JBaホ	24.1	25.2	4.5	290	A				
177	B EH50	C	L	1bIII	26.1	4.5	2.0	295N		227			JAbイホ	24.1	17.8	4.7	2850	A					
178	E FM1777			G1aウ	14.0	5.6	4.1	540A		228			JAbイホ	14.1	9.2	2.7	425	A					
179	E FM1777			G1aオク	12.6	10.1	8.5	1150A		229	D FD52	I	層	JBaホ	11.6	9.1	9.4	1570	A				
180	B EG48	3	層	I G1aイウ	6.8	6.2	3.2	265D		230	C FD56	I	層	JAbイホ	8.8	7.1	4.0	230	A				
181				Hbア	13.7	7.0	4.3	600B		231	E FH62	II	層	JAbホ	15.2	12.0	4.5	740	A				
182	E FD40	I	層	Hbア	13.4	8.7	3.4	740A		232	C H号址			JBaホ	29.7	15.7	6.0	5000	A				
183	D GA56	II	層	Hbイ	11.0	5.9	3.5	200N		233			JBaホ	19.4	17.9	6.2	3120	A					
184	E FM1777			Hbア	13.8	3.7	1.1	70N		234	E 6号址	周	溝	JBaホ	16.8	14.0	7.3	2710	D				
185	C 6号址	周	溝	1bI	5.0	14.8	11.6	15kgA		235	D FJ46	II	層	JBaホ	15.8	9.7	6.3	1190	A				
186	カクラン	①		1bI	15.2	9.1	8.6	1410A		236	C 16号址	周	溝	JBaホ	14.8	11.9	5.7	1280	A				
187	F HE118			Hbエ	4.5	4.3	1.1	45N	X	237	E FM1777			JBaホ	14.8	12.8	4.2	1190	S				
188	C FC54	I	層	1bI	6.5	5.7	5.7	265A		238	C 16号址	周	溝	JBaアア	10.8	9.7	9.7	670	A				
189				1bI	8.5	9.3	3.9	435A		239	E FH62-1住			JBaア	10.4	6.4	5.0	450	A				
190	FE46			1bI	29.9	10.1	10.0	6kgA		240	E FH62-1住			G1aアイウ	8.9	8.3	4.3	540	S				
191				Kaアイ	9.5	9.2	2.6	390B		241	E FH62-1住			G1aウ	10.3	8.3	5.7	665	A				
192	C E140	I	層	JBbホ	9.2	10.8	2.9	395A		242	E F11住	3	層	JAbイホ	10.4	5.2	3.4	210	A				
193	C EH40	I	層	Kaアイ	16.5	14.0	6.2	510B		243	E FH62-1住			F1aウ	9.9	6.8	4.8	370	A				
194	D F142	I	層	Kaエ	7.1	7.4	1.8	145S		244	E FH62-1住			G1aウ	12.7	8.1	4.0	560	A				
195	D F138	I	層	Kaイ	5.1	5.9	1.0	55S		245	E F160住			JBaウ	22.4	11.9	4.5	2300	A				
196	E GH46	II	層	Hbエ	7.3	8.1	2.2	175S	X	246	E FH62-1住			JBaホ	22.3	12.9	8.9	5500	A				
197	D F146	I	層	Kaイ	7.1	7.0	1.6	120B		247	E FM4-1住	4	層	1bIII	17.0	6.0	2.2	285	B				
198	D 1号址	周	溝	Kaアイ	4.3	5.2	0.9	30B		248	E FM4-1住	4	層	GGaアウ	11.5	6.5	3.8	371	A				
199	C FA36	I	層	Kaイ	4.6	6.1	1.4	70S		249	E GE62住			G1aウ	8.8	8.0	5.1	565	S				
200	D GB56	II	層	Kaアイ	6.4	7.8	1.2	100S		250	E FM4-1住	3	層	G1aホ	6.4	6.4	4.5	265	S				

G H68住

No	出土地点 改地	階位	分	期	実				No	出土地点 改地	階位	分	期	実					
					長さ	幅	厚さ	量						長さ	幅	厚さ	量		
31	E GH68住	2	層	G1aアイウ	13.1	6.9	5.3	640	A	42	E GH68住	3	層	G1aアイウ	9.6	7.0	5.6	570	D
32	E GH68住	2	層	G1aアイウ	14.4	9.1	5.3	1060	A	43	E GH68住	3	層	G1aイカ	12.6	8.3	7.5	1150	D
33	E GH68住	1	層	G1aアイウ	14.3	17.6	14.5	570	A	44	E GH68住	3	層	G1aイウ	6.0	5.6	4.6	190	A
34	D GH68住	2	層	G1aアイウ	8.7	7.4	5.5	465	A	45	E GH68住	2	層	G1aイオ	5.6	5.1	5.2	225	A
35	E GH68住	2	層	G1aアイウ	9.5	6.8	5.4	440	A	46	E GH68住	4	層	G1aウ	8.8	6.8	3.3	310	D
36	E GH68住	2	層	G1aアウ	8.9	7.1	3.8	310	A	47	E GH68住	2 a	層	JAbイカ	7.6	6.6	2.1	110	A
37	E GH68住	2	層	G1aアイウエ	11.5	7.9	5.0	620	A	48	E GH68住	2	層	JBaキ	12.7	10.2	3.3	360	A
38	E GH68住	2 b	層	G1aアイウ	11.5	10.5	3.7	520	A	49	E GH68住	2 c	層	G1aウケ	6.2	6.2	5.2	230	A
39	E GH68住	1	層	G1aアウ	7.4	6.3	3.2	145	A	50	E GH68住	1	層	G1aイ	10.4	8.6	8.6	1000	A
40	E GH68住	2	層	G1aアイウケ	10.4	9.2	5.3	665	A	51	E GH68住	4	層	Hbエ	11.4	4.9	2.2	171	N
41	E GH68住	3	層	G1aアイウ	11.9	7.7	5.7	770	D	52	E GH68住	2 a	層	JAaイカキ	20.3	31.7	4.0	720	A

東区

6	F HB120住	2	層	Haオ	15.1	6.7	2.4	318	A	17	F HD114	C	L	G1aウ	15.0	11.8	8.2	2910	N
7	F HB120住	4	層	Hbイ	10.6	6.0	3.4			18	F HE114	C	L	G1aウ	6.3	4.9	4.0	170	N
8	F HB120住	3	層	JAbイカ	26.4	20.3	5.4	710	A	19	F HF116	C	L	G1aウオ	6.5	5.0	4.0	145	A
9	F HE118	C	L	G1aアウエ	14.0	8.8	4.5	740	A	20	F Ⅱ区	C	L	G1aキ	4.5	3.4	2.4	50	A
10	F HE114	C	L	G1aイウ	12.6	7.3	4.2	630	A	21	F HE118	C	L	G1aキ	4.5	4.2	2.7	70	A
11	F HD114	C	L	G1aオケ	7.3	5.7	5.3	250	A	22	F Ⅱ区	C	L	Kaアイ	5.0	4.1	0.9	30	A
12	F HE114	1	層	G1aアウ	6.5	5.3	2.8	170	A	23	F Ⅱ区	C	L	G1aキオ	5.8	4.1	3.2	95	A
13	F HB102	C	L	G1aアウ	6.6	5.9	4.5	215	A	24	F HF114	1	層	Hbエ	5.0	4.4	2.5	90	A
14	F HE114	C	L	G1aイウ	8.7	7.3	7.0	650	B	25	F HH150	C	L	Hbエ	5.7	1.9	1.1	27	A
15	F HF122	1	層	G1aウ	8.8	8.4	5.9	555	A	26	F HD106	C	L	Hbエ	8.4	3.4	1.9	75	A
16	F HD114	1	層	G1aウ	9.3	9.2	7.4	880	S	27	F HF116	C	L	1b1	20.5	8.8	6.7	1890	A

HB120住

11	F HB120住	2	層	G1aアイウ	11.9	6.5	5.4	620	A	24	F HB120住	2	層	G1aウ	5.9	5.0	3.7	145	A
12	F HB120住	3	層	G1aアイウケ	10.5	9.0	4.7	395	A	25	F HB120住	3	層	G1aウ	7.4	6.5	5.3	290	A
13	F HB120住	3	層	G1aアイウ	10.9	6.7	4.5	460	A	26	F HB120住	1	層	G1aイウ	15.2	8.2	5.9	1115	A
14	F HB120住			G1aアウ	13.9	8.5	4.3	490	A	27	F HB120住	2	層	G1aウ	9.8	5.9	4.4	380	D
15	F HB120住	2	層	G1aウ	7.8	6.6	4.7	325	A	28	F HB120住	2	層	G1aウオ	14.8	9.4	6.3	1235	D
16	F HB120住			G1aイカ	7.3	5.1	5.5	345	D	29	F HB120住	4	層	JBaキウ	10.4	8.1	2.9	220	A
17	F HB120住	4	層	G1aアウ	10.1	3.6	4.1	245	A	30	F HB120住	2	層	JAbイカキ	9.1	7.5	3.4	190	A
18	F HB120住			G1aウ	5.4	4.7	4.8	170	A	31	F HB120住			G1aウオ	13.5	9.8	6.6	1100	A
19	F HB120住	2	層	G1aキ	6.1	5.4	5.1	200	A	32	F HB120住	1	層	Hbエ	9.8	3.8	1.7	115	S
20	F HB120住	2	層	G1aウ	4.1	3.9	4.0	95	A	33	F HB120住	2	層	Hbエ	7.5	4.4	1.7	105	N
21	F HB120住	4	層	G1aウ	7.1	4.6	5.3	345	A	34	F HB120住	4	層	Hbエ	10.5	4.5	2.3	165	S
22	F HB120住	4	層	G1aキ	5.4	3.9	3.6	105	A	35	F HB120住	4	層	1bⅡ	31.5	5.7	2.3	475	S
23	F HB120住	1	層	G1aウ	5.7	3.6	3.3	105	A										

未掲載分

1	D 2号址	岡	溝		4.7	1.9	0.4	4.9		9	C G162	Ⅱ	層		6.1	4.9	1.7	3.2	
2	D 2号址	岡	溝	Li	7.4	4.223	5	70	A	10	C 12号址	岡	溝		3.7	1.9	0.6	8.2	
3	C 21号址	岡	溝		2.2	1.1	0.8	1.9		11	E 6号址	岡	溝		13.7	6.1	3.5		
4	C 21号址	岡	溝		4.8	1.7	0.6	7.6		12	C FCS2	Ⅰ	層		4.8	2.0	1.0		
5	B 47号址	岡	溝	Li	9.4	5.127	5	120	A	13	C 2号址	主	体	部	8.8	7.7	5.1		
6	C FE40	1	層		7.8	2.3	2.350	7		14				G1aアウ	6.9	8.3	4.3	315	A
7	D FJ50	Ⅱ	層		4.9	4.4	3.6	70		15				G1aアイウケ	7.6	12.3	6.5	680	A
8	E GH68住	2	層	Hbエ	8.8	5.2	3.0	220	S	16				G1aアイウケ	9.3	10.2	5.3	590	A

No	出土地点 ※	層位	分	実				No	出土地点 ※	層位	分	実						
				長さ	幅	厚さ	石巻 備考					長さ	幅	厚さ	石巻 備考			
17	奥探		G1aアイウ	6.7	10.6	5.3	500A	67	C FF50	1	層	G1aオ	5.2	5.5	4.1	160A	×	
18	D 1号址	周	溝	G1aアウ	9.0	10.7	5.4	650A	68	D FG42	1	層	G1aオ	3.2	3.6	2.6	42A	
19	D 3号址	周	溝	G1aアウ	6.5	8.1	3.2	109A	69	D FG42	1	層	G1aイクケ	8.6	8.8	4.4	340A	×
20	D 3号址	周	溝	G1aアイウケカ	6.4	9.5	5.1	305A	70	D FH40	1	層	G1aウ	7.8	7.0	4.9	400A	×
21	D 3号址	周	溝	G1aアイウカ	8.0	10.3	5.3	665A	71	D FH40	1	層	G1aオ	7.8	10.4	3.8	405D	×
22	D 4号址	周	溝	G1aアウカ	5.7	8.3	5.0	285A	72	D FH40	1	層	G1aケオ	5.4	10.0	3.7	210A	×
23	D 5号址	周	溝	G1aアウ	8.0	10.1	5.3	595A	73	D FH46	1	層	G1aオ	3.6	4.6	3.3	79A	
24	C 21号址	周	溝	G1aアウ	9.2	12.7	2.6	390A	74	D FH46	1	層	G1aオ	3.0	3.8	2.5	35A	
25	C E J50	1	層	G1aアイウ	8.9	10.8	7.0	750A	75	D FH46	1	層	G1aオ	3.4	4.1	3.0	55A	
26	C FA46	1	層	G1aアウオ	5.3	7.3	4.9	210A	76	E FH66	1	層	G1aオカケ	5.7	10.8	6.3	500A	
27	C FC54	1	層	G1aアウ	7.5	10.7	4.4	510A	77	D F144	1	層	G1aオ	3.7	4.6	3.3	75A	
28	D FG40	1	層	G1aアイ	7.4	10.1	3.4	315A	78	D F144	1	層	G1aウ	6.8	10.7	3.7	370A	
29	D FH42	II	層	G1aアウケ	7.2	10.3	5.6	675A	79	D F144	1	層	G1aイ	6.9	8.3	5.4	380A	
30	D F J50	II	層	J Bカ	8.1	8.4	1.7	180A	80	D F144	1	層	G1aオケ	3.6	4.6	3.1	60A	×
31	D F J50	II	層	G1aアウ	6.4	11.0	4.1	380A	81	D F146	1	層	G1aオ	3.9	4.6	2.7	67A	
32	D GAS2	1	層	G1aアイウ	5.9	7.2	4.4	240A	82	D F146	1	層	G1aイ	6.6	5.8	4.8	205A	
33	D GAS2	1	層	G1aウ	7.6	8.7	3.6	365A	83	D F146	1	層	G1aオ	4.3	4.7	3.2	92A	
34	D GA36	II	層	J Bカ	9.1	10.2	2.4	297A	84	D F148	1	層	G1aオケ	4.8	6.0	3.6	138A	
35	E GG60	1	層	J Aオ	19.3	15.3	5.2	2250A	85	D F J44	1	層	G1aオ	4.0	4.5	2.5	70A	
36	C FC42	1	層	J Bカ	8.8	11.4	1.9	230A	86	D GB42	1	層	G1aオ	8.0	10.6	4.1	490A	
37	D FG40	1	層	J Aオカ	10.1	18.6	4.9	1100A	87	D GB42	1	層	G1aオ	4.5	5.8	2.9	90A	
38	D F148	1	層	G1aイ	4.1	7.4	2.7	130A	88	D GB42	1	層	G1aオ	2.5	3.7	2.4	40A	
39	E F J68	1	層	G1aイ	5.7	7.0	3.5	90G	89	D GB42	1	層	G1aオ	4.3	5.0	4.0	85A	
40	E GA58	1	層	J Bカ	5.2	5.4	2.9	75A	90	E GB66	1	層	G1aオ	5.9	7.0	3.6	215A	
41	D 3号址	周	溝	G1aアウ	5.5	6.4	4.1	130A	91	E GB66	1	層	G1aオカ	5.0	4.8	3.1	100A	
42	C F142	1	層	G1aウ	11.6	4.3	2.7	217A	92	E GB66	1	層	G1aオ	3.5	3.7	3.2	60	
43	C FC36	1	層	G1aウ	10.9	3.4	2.3	135S	93	E GB66	1	層	G1aオ	4.2	4.7	3.0	80A	
44	D FF40	1	層	G1aウ	5.8	7.6	3.8	220B	94	E GB66	1	層	G1aオ	3.4	3.9	2.8	65D	
45	D FF44	1	層	G1aウ	7.8	8.7	4.2	370S	95	D GC48	1	層	G1aオケ	4.3	5.3	3.6	103A	
46	D F146	1	層	G1aイウ	7.2	10.9	5.1	660S	96	E GC68	1	層	G1aウ	6.8	11.6	5.5	470A	
47	D F J46	1	層	G1aウケ	9.3	11.8	6.3	907A	97	E GC70	1	層	G1aイ	5.2	6.2	5.1	207A	
48	D F J50	1	層	G1aウ	7.2	12.3	5.3	630B	98	D GD46	1	層	Gaイケ	8.8	7.3	6.7	550A	
49	D F J52	II	層	G1aウ	7.4	9.7	4.9	475A	99	D GD48	1	層	G1aオ	5.5	4.8	4.4	150A	
50	E GA70	1	層	G1aウ	4.9	11.2	3.0	210N	100	D GD48	1	層	G1aオケ	4.1	4.6	2.2	60A	
51	D GB58	1	層	G1aウ	7.0	10.3	2.6	290S	101	D GD48	1	層	G1aオケ	4.6	4.7	4.2	100A	
52	D GC36	1	層	G1aウ	5.1	9.8	2.9	250S	102	D GE50	1	層	G1aオ	3.9	4.3	3.6	75A	
53	D GP58	1	層	G1aウ	7.3	11.0	4.8	565A	103	D GE50	1	層	G1aオケ	5.2	5.4	3.4	70A	×
54	E GG60	1	層	G1aウ	6.1	12.6	2.7	315S	104	D GE50	1	層	G1aイ	4.2	5.5	3.6	115D	
55	F46	1	層	G1aオ	3.0	3.2	1.8	30A	105	D GE50	1	層	G1aオ	5.0	5.1	4.1	125A	
56	C 7号址		G1aイ	5.1	5.7	2.1	90A	106	E GH68住	2	層	G1aイ	13.2	9.1	5.7	990S		
57	C 11号址	周	溝	G1aウケ	6.8	11.0	5.0	445A	107	E GH68住			G1aエオ	5.2	4.2	2.7	75A	
58	C FA50	1	層	G1aオケ	6.3	5.7	3.5	132A	108	E GH68住			G1aウ	10.7	6.3	3.0	360S	
59	C FB36	1	層	G1aオ	3.9	4.0	3.7	60A	109	E GH68住	2	層	G1aウ	7.5	6.2	4.4	230A	
60	C FC42	1	層	G1aオケ	5.1	5.1	4.2	108A	110	E GH68住	2	層	G1aイクケ	6.2	3.8	6.0	145A	
61	C FC44	1	層	G1aウケ	7.1	6.2	5.7	265A	111	E GH68住			G1aアウ	7.7	6.4	3.2	210A	
62	C FC44	1	層	G1aウカ	6.3	9.2	4.7	435B	112	E GH68住	2	層	G1aオケ	5.5	4.8	5.6	150A	
63	C FC44	1	層	G1aオ	7.7	10.8	3.7	345A	113	E GH68住			G1aオ	5.9	4.6	4.4	180S	
64	C PCS2	1	層	G1aオケ	6.7	7.6	3.9	245A	114	E GH68住	2	層	G1aイクケ	7.9	9.0	7.0	565A	
65	D FF40	1	層	G1aオ	4.9	5.4	4.1	135A	115	E GH60	1	層	J Aオカ	13.3	13.0	5.7	1450A	×
66	D FF40	1	層	G1aウ	5.5	8.4	3.6	215A	116	E GB42	1	層	J Aオカ	10.5	10.0	4.8	715A	×

No	出土地点 地 点	種 位 分	実 測 石 積				No	出土地点 地 点	種 位 分	実 測 石 積							
			長さ	幅	高さ	積				長さ	幅	高さ	積				
117	D 2号址	周 溝	J A a c	21.5	16.7	7.0	3420	A	167	D GA56	I 層	G I a i	11.9	7.9	5.2	685	A
118	D FF42	I 層	J A a c	32.3	10.6	7.0	710	A	168	C 7号址	I 層	G I a i	7.1	7.4	5.9	520	A
119	C 11号址	周 溝	J A a c	19.7	16.2	6.6	3190	A	169	C GB42	I 層	G I a i	13.1	8.8	4.9	760	A
120	D GAS2	I 層	J A a c	16.0	11.5	5.0	850	A	170	D GE48	I 層	G I a i	11.0	9.1	4.9	605	A
121	表探		J A a c	19.5	17.2	5.0	2290	A	171	C FE42	I 層	G I a u	6.2	5.2	6.0	250	A
122	C 12号址	3 層	J A b	7.8	4.3	2.0	88	A	172	C FE42	I 層	J B a c	8.5	7.0	5.9	485	A
123	C FA50	I 層	K b i	8.9	4.8	1.3	70	A	173	E GB42	I 層	G I a o	8.0	6.7	6.1	420	A
124	D FG42	I 層	J B a c	8.8	7.8	3.2	260	A	174	D GF58	I 層	G I a u	6.7	5.5	5.2	255	A
125	C 11号址	周 溝	J A a c	13.9	5.1	3.8	530	A	175	D F140	I 層	G I a c o	7.2	3.1	2.3	90	A
126	D F146	I 層	J A a c	32.0	11.3	3.2	690	A	176	C FD42	I 層	G I a i	5.9	4.0	1.8	70	A
127	E GC68	I 層	J A a c	13.7	12.1	14.2	900	A	177	C FD42	I 層	G I a o	4.8	3.4	1.8	57	A
128	C FC42	I 層	G I a i	10.3	10.0	4.2	550	A	178	D 1号址	周 溝	G I a o	6.5	4.5	3.5	135	A
129	D 4号址	周 溝	J A a c	11.4	6.0	3.1	325	A	179	D GA50	I 層	G I a o c a k e	5.0	4.7	4.1	70	A
130	C FC46	I 層	J B a c	10.5	9.3	3.9	490	A	180	D 1号址	周 溝	G I a o	4.0	3.5	1.9	40	A
131	C FD56	I 層	G I a u	10.0	8.8	5.6	650	A	181	D GES2	I 層	G I a i	4.7	4.7	3.3	90	A
132	D 43号址		J B a c a k e	16.7	11.0	6.0	320	A	182	C FJ40	I 層	G I a o	3.8	3.4	3.2	60	A
133	D 43号址		G I a u c a k e	9.1	5.9	5.2	500	A	183	C FC54	I 層	G I a i	8.7	4.7	3.2	180	A
134	D 43号址		G I a u	12.0	7.3	3.5	530	A	184	E H A M	I 層	G I a o	5.0	4.3	3.0	90	A
135	E GC74	I 層	G I a u c e	7.2	6.2	2.7	155	A	185	C FCS2	I 層	G I a o	4.3	4.2	2.0	60	S
136	D FJ52	II 層	G I a o	11.8	5.0	3.6	365	A	186	D 1号址	周 溝	G I a o c a k e	4.5	3.3	3.6	65	A
137	D FJ52	II 層	G I a u c e	10.9	9.0	6.0	710	A	187	E 6号址	I 層	G I a o	5.0	4.0	1.8	60	A
138	E GC74	I 層	G I a u	17.8	6.0	4.4	680	A	188	D 1号址	周 溝	G I a o	5.6	4.1	2.2	70	A
139	D FJ50	II 層	J B a c	10.5	8.1	2.3	270	A	189	D 1号址	周 溝	G I a o c a k e	4.2	4.1	3.9	90	A
140	E GE62		G I a o	10.0	6.2	3.0	260	S	190	E GD42	I 層	G I a o c a k e	5.3	4.4	4.2	130	A
141	D FH44	II 層	G I a u c a k e	7.7	6.9	5.7	330	A	191	D F140	I 層	G I a o c a k e	4.6	4.4	2.9	67	A
142	D GC56	II 層	G I a o	3.3	3.1	2.8	40	A	192	D 1号址	周 溝	G I a o	4.6	3.9	2.9	75	A
143	B EE38		G I a o	3.3	2.8	2.0	20	A	193	C FA46	I 層	G I a o	4.0	3.9	2.7	55	A
144	D FE38		G I a u	7.2	5.2	4.8	265	A	194	E GB40	I 層	G I a o	3.9	2.5	1.7	30	A
145	D GA50	II 層	G I a o	5.4	4.5	4.1	110	A	195	C FDS8	I 層	G I a o c a k e	3.4	2.9	2.7	30	A
146	C 11号址	周 溝	G I a i c e	11.1	8.3	5.8	840	D	196	D GF58	I 層	G I a o	3.4	3.3	2.3	35	A
147	E GA72	I 層	G I a o	10.0	8.0	3.6	420	S	197	D GB56	II 層	G I a o	2.8	2.1	1.9	20	A
148	D 1号址	周 溝	G I a o c a k e	6.4	5.1	3.9	170	A	198	C G188	I 層	G I a u c e	7.5	2.3	3.4	70	A
149	C FD56	I 層	G I a i c u	7.4	4.0	6.9	275	D	199	C 16号址	周 溝	I a i	31.3	8.5	6.1	2910	A
150	D 1号址	周 溝	G I a o	9.7	6.5	3.9	475	S	200	C 16号址	周 溝	G I a o	15.2	9.9	5.0	1335	S
151	D FH38		G I a o	4.8	3.8	3.6	85	A	201	C FD46	I 層	G I a i c u	11.9	8.2	4.5	660	A
152	C FE42	I 層	G I a u c e	10.7	8.1	6.8	757	A	202	E GB70	I 層	G I a o	8.1	6.2	4.7	360	S
153	C FE42		I a k e	4.7	3.9	3.7			203	E GA70	I 層	G I a o c a k e	9.6	5.7	3.7	320	N
154			I b i	10.3	9.4	7.8	1550	A	204	E 6号址	周 溝	G I a o c a k e	6.0	3.9	3.9	65	A
155	E GB42	I 層	G I a u	12.3	7.5	3.3	378	A	205	C FE40	I 層	G I a i	9.6	8.4	6.5	645	A
156	E GB42	I 層	G I a o	6.9	5.9	5.3	250	A	206	D GB56	II 層	G I a o	6.1	5.0	3.5	160	A
157	D FH40	I 層	G I a u	10.7	6.1	4.9	440	A	207	D GB56	II 層	G I a i c u	7.8	6.7	6.4	440	A
158	B 47号址	周 溝	G I a i	8.9	6.0	5.4	370	S	208	C FE42	I 層	G I a o	7.0	6.2	3.5	220	A
159	C FE42	I 層	G I a o	6.0	5.3	4.1	60	A	209	C FD46	I 層	G I a o	6.2	5.7	4.7	200	A
160	E GH58	I 層	G I a i	6.0	6.2	6.4	215	A	210	D 2号址	周 溝	G I a o c a k e	5.8	4.6	4.2	125	A
161	C FE42	I 層	G I a u	6.4	4.2	4.1	140	A	211	E GH62	I 層	G I a u	6.8	5.4	4.8	205	A
162	C 7号址		G I a o c a k e	6.0	4.6	4.6	150	A	212	C FC38	I 層	G I a c e	6.8	4.3	3.8	150	A
163	D F140	I 層	G I a u	8.8	5.9	4.5	290	A	213	D GB56	II 層	G H a u	8.2	4.9	2.4	70	A
164	C 7号址		G I a o c a k e	5.0	4.8	4.0	125	A	214	E GJ76	I 層	G I a o	5.2	4.1	2.2	60	A
165	E GB42	I 層	G I a i c e	11.1	7.5	5.8	600	A	215	D FH38	I 層	G I a o	5.4	4.1	2.5	88	A
166	C 7号址		G I a o c a k e	4.6	2.0	3.1	40	A	216	D 3号址	I 層	G I a o	5.3	4.8	3.5	120	A

No	出土地点 ※	層位	分	実測				No	出土地点 ※	層位	分	実測							
				長さ	幅	厚さ	石積 備考					長さ	幅	厚さ	石積 備考				
217	D 3号址	周	溝	G1オ	5.5	4.3	3.4	100	A	267	D 1号址	周	溝	G1オ	3.6	3.5	2.7	45	A
218	D FG42	I	層	G1ウ	7.0	5.2	5.3	210	A	268	D 1号址	周	溝	G1オ	5.0	3.9	2.9	80	A
219	C FA46	I	層	G1ウ	7.0	4.2	5.0	260	A	269	E F138	I	層	G1ウ	4.9	3.9	3.6	107	A
220	E 6号址	I	層	G1オ	5.2	4.6	2.9	90	A	270	E GD40	I	層	G1オ	5.6	4.7	3.1	98	A
221	E GE64	I	層	G1オケ	5.0	4.8	2.5	60	A	271	C EH40	I	層	G1オケ	5.7	5.4	4.2	180	A
222	D FG42	I	層	G1ウ	5.8	3.6	3.7	130	A	272	E F138	I	層	G1オカケ	6.8	5.6	4.6	194	A
223	C FC36	I	層	G1オ	4.2	3.3	1.9	30	A	273	E GE48	I	層	G1ウ	6.8	4.8	4.7	210	A
224	D 3号址	周	溝	G1ウ	7.3	4.5	2.9	120	A	274	C EH40	I	層	G1オ	6.5	5.9	4.5	210	A
225	D 3号址	I	層	G1オ	4.5	3.0	2.5	50	A	275	D GC50	I	層	G1オケ	5.7	4.7	3.8	120	A
226	D FG42	I	層	G1オケ	4.7	4.4	3.7	100	A	276	E F138	I	層	G1オ	6.1	4.0	3.1	104	A
227	E GB70			G1ウエカ	6.5	4.8	4.1	150	A	277	E F138	I	層	G1オケ	4.4	3.9	2.6	50	A
228	C 11号址	周	溝	G1ウ	6.9	4.7	6.1	210	A	278	E F138	I	層	G1オケ	4.3	4.1	2.7	68	A
229	D 1号址	周	溝	G1ウ	7.7	6.1	6.1	320	A	279	D GD50	I	層	G1オ	4.7	3.5	3.5	95	A
230	D 3号址	周	溝	G1オケ	4.9	4.1	2.5	55	A	280	C EH40	I	層	G1オ	4.2	3.0	2.8	60	A
231	E GG60	I	層	G1オケ	3.0	3.7	3.4	58	A	281	D GA50	I	層	G1オ	3.6	3.0	2.7	40	A
232	E 6号址	周	溝	G1オケ	4.8	4.3	2.5	75	A	282	D 1号址	周	溝	G1オ	3.5	3.0	2.4	40	A
233	C E142	I	層	G1オ	3.9	3.0	2.3	40	A	283	E GG58	I	層	G1オ	4.6	3.7	1.8	34	A
234	D 3号址	周	溝	G1オケ	4.9	4.5	3.9	95	A	284	D 1号址	周	溝	G1オケ	4.5	3.2	3.0	50	A
235	E GG58	I	層	Kbイ	6.1	4.7	1.2	52	A	285			J Aa	20.2	15.9	4.6	1825	A	
236	D FH38	I	層	G1オ	3.5	2.9	2.6	30	A	286	D F140	I	層	J Aa	12.3	14.4	6.5	1615	A
237	D FJ50	II	層	G1オケ	3.6	3.6	3.0	50	A	287	D 5号址	周	溝	J Aa	19.9	9.2	5.7	1415	A
238	D 1号址	周	溝	G1オ	4.7	3.7	2.1	50	A	288			J Aa	15.4	13.7	4.4	1480	A	
239	E 6号址	周	溝	G1オケ	4.1	3.7	2.9	50	A	289	D F142	I	層	J Aa	14.3	6.5	5.1	510	A
240	D FH38	I	層	G1オ	3.5	3.0	2.4	36	A	290	D GD60	I	層	J Aaケ	11.3	10.9	8.8	840	D
241	D 3号址	周	溝	G1オケ	4.1	2.7	1.6	25	N	291	D GA50	I	層	J Aa	10.4	4.3	4.1	3055	A
242	D D FH38	I	層	G1オ	3.0	2.7	2.0	25	A	292	D FJ52	II	層	J Bb	6.6	5.8	2.4	135	A
243	D 3号址	周	溝	G1オ	3.8	3.3	2.8	43	A	293	D F142	I	層	J Bb	6.8	4.8	3.0	100	A
244	C FD42	I	層	G1オ	14.2	9.9	4.8	785	A	294	D FG42	I	層	G1ウ	15.1	9.5	3.5	650	A
245				G1ウオケ	11.7	9.6	6.4	875	A	295	D FJ48	I	層	J Bbイ	10.0	6.6	3.8	325	A
246				G1ウ	12.5	8.0	5.5	845	A	296	D GA48	I	層	J Aaケ	18.1	12.2	5.4	1440	A
247	D GA50	I	層	G1ウ	10.5	6.2	6.1	665	S	297	D GC56	I	層	J Bbケ	12.1	7.4	4.7	460	A
248	D 1号址	周	溝	G1ウ	9.0	7.4	6.7	555	A	298	D GA48	I	層	J Bb	8.5	6.0	6.1	470	A
249	C FE42	I	層	G1ウ	11.7	8.9	3.0	385	A	299	D FF42	I	層	J Aa	6.5	5.2	5.0	215	A
250				G1ウ	10.9	7.5	6.8	685	A	300	D F140	I	層	J Aa	11.2	6.0	4.0	350	A
251	D F140	I	層	G1ウ	12.4	7.1	3.5	485	D	301	E GC70	I	層	J Bb	10.9	7.1	3.7	370	A
252				G1オ	10.4	7.8	5.9	710	S	302	E GA50	I	層	J Aa	7.0	6.2	4.4	225	A
253	E FJ38	I	層	G1オ	9.5	8.3	7.2	795	A	303	D GB54	I	層	J Aa	17.5	6.4	4.5	680	A
254	E F138	I	層	G1オケ	9.2	8.9	6.5	640	A	304	C 7号址	周	溝	J Bb	8.1	5.7	3.8	230	A
255	D 5号址	2	層	G1ウカ	11.4	6.1	5.2	430	A	305	E GE48	I	層	J Bb	10.7	4.3	6.0	380	A
256	D GA50	I	層	G1ウカ	9.1	7.5	5.8	560	A	306	C FCS2	I	層	J Aa	8.4	7.2	4.7	275	A
257	D 1号址	周	溝	G1ウ	6.5	5.5	4.8	210	A	307	E GE48	I	層	J Aa	7.8	4.7	4.3	150	A
258	E 6号址	周	溝	G1ウ	6.4	5.9	4.0	205	A	308	D GB50	I	層	J Aa	12.5	8.8	4.0	685	A
259	D 1号址	周	溝	G1ウ	6.6	4.7	4.3	165	A	309	E GDS2	I	層	J Aa	10.1	11.8	5.7	1515	A
260	C FA48	I	層	G1オ	6.7	4.8	3.8	185	A	310	C E J44	I	層	G1イ	6.4	5.5	3.6	200	A
261	C GD60	I	層	G1オケ	6.2	5.0	3.6	130	A	311	D FJ48	I	層	Kaアイ	10.3	7.2	2.4	255	N
262	D 1号址	周	溝	G1ウオケ	6.0	4.5	4.5	150	A	312	E FJ70	I	層	G1オ	7.9	5.6	3.1	170	A
263	D GD40	I	層	G1オ	6.0	5.3	3.7	145	A	313	D GB56	II	層	G1ウ	7.8	6.4	3.7	235	A
264	C FC44	I	層	G1ウカ	6.1	7.2	3.1	220	A	314	C E J48	I	層	G1イ	6.6	4.2	5.6	220	A
265	E GE48	I	層	G1ウケ	5.1	4.6	4.5	140	A	315	D 3号址	周	溝	G1オケ	4.9	4.2	3.3	85	A
266	D 1号址	周	溝	G1オ	4.5	3.8	3.9	105	A	316	E GC60	I	層	G1ウ	6.6	5.8	5.4	260	A

No	出土地点 宗地	層位	分	実積				No	出土地点 宗地	層位	分	実積							
				長さ	幅	面積	石積					長さ	幅	面積	石積				
317	C FD40	1	層	G1aイ	4.1	5.4	4.5	150	D	367	C FD40	1	層	G1aイ	6.0	5.8	4.8	230	A
318	D GE60	1	層	G1aイ	5.6	4.2	3.6	93	A	368	C 16号址	周	溝	G1aイ	8.6	7.5	5.6	500	A
319	C E140	1	層	G1aイ	6.8	6.5	4.6	280	A	369	D FJ46	1	層	G1aウ	5.1	4.7	3.3	80	A
320	表探			G1aイ	11.9	9.7	6.5	409	A	370	E GF66	1	層	G1aオ	4.8	4.5	3.4	115	S
321	表探			G1aイ	4.7	3.3	6.7	350	A	371	C FF44	1	層	G1aイ	4.8	4.7	3.6	100	A
322	D FE40	1	層	G1aイ	6.6	4.7	4.2	190	A	372	E GF60	1	層	G1aオ	4.8	4.4	3.4	90	A
323	D GE60	1	層	G1aイ	9.1	7.7	4.5	443	A	373	D 3号址	周	溝	G1aオ	3.3	3.0	2.3	30	D
324	D GA46	1	層	G1aオ	4.8	4.1	3.0	70	A	374	D FH38	1	層	G1aオ	5.2	3.6	2.9	65	D
325	B 48号址	周	溝	G1aイ	6.1	4.5	2.2	80	A	375	E GB66	1	層	G1aオ	4.4	3.0	2.3	35	A
326	D 1号址	周	溝	G1aイ	7.3	4.2	5.1	200	A	376	D 2号址	周	溝	G1aイウ	8.9	7.9	7.2	710	A
327	C EE52	1	層	G1aオ	3.7	3.4	2.7	45	A	377	C FC36	1	層	JBaホ	14.9	11.6	6.0	415	A
328	C 12号址	周	溝	G1aイ	4.5	3.8	2.2	50	A	378	D FG38	1	層	G1aオ	11.6	6.8	3.2	465	S
329	D 1号址	周	溝	G1aイ	7.1	6.5	4.4	260	A	379	E GF62	1	層	G1aオ	7.3	5.2	3.3	125	A
330	D FJ48	1	層	G1aオカ	9.7	6.6	4.0	445	S	380	C FE42	1	層	G1aイ	7.0	5.2	4.3	210	A
331	E FD40	1	層	G1aイ	6.5	5.8	2.9	110	S	381	E GE52	1	層	JBaホ	7.2	4.9	1.8	85	A
332	C 21号址	周	溝	G1aイ	6.1	5.5	4.5	170	A	382	D FH38	1	層	G1aオ	4.0	3.9	3.2	70	D
333	D F148	1	層	G1aイ	8.1	4.5	3.5	170	A	383	D 2号址	周	溝	G1aオ	3.9	3.6	2.9	60	A
334	C FD50	1	層	G1aイ	9.4	6.2	5.5	420	A	384	D FH38	1	層	G1aオ	4.7	4.2	3.8	95	A
335	D FJ50	II	層	G1aオ	5.0	4.0	3.7	90	A	385	E GD46	1	層	JBaホ	5.0	5.0	1.5	60	A
336	D 1号址	周	溝	G1aイ	7.4	4.5	3.7	160	D	386	C FC52	1	層	G1aオ	4.1	3.4	1.2	25	A
337	E GG76	1	層	G1aオ	3.6	3.5	3.5	58	A	387	D F146	1	層	G1aオ	5.4	4.2	1.9	60	A
338	D FJ50	II	層	G1aイ	9.8	8.8	4.7	460	A	388	E GB66	1	層	G1aオ	5.2	4.0	2.0	115	A
339				G1aイ	13.3	10.1	6.6	800	S	389	C 11号址	周	溝	G1aオ	4.4	4.1	3.3	80	A
340	D FH40	1	層	G1aイ	6.5	6.1	5.5	210	D	390	C FC52	1	層	G1aオ	4.0	3.2	2.0	40	D
341	C FE52	1	層	G1aオ	4.0	3.3	2.9	65	S	391	D GD48	1	層	G1aオ	4.3	3.3	2.3	500	A
342	D FJ44	1	層	G1aイ	4.2	3.8	3.1	70	A	392	C FFS2	1	層	G1aオ	4.0	3.2	2.5	48	D
343	E GH62	1	層	G1aオ	5.5	2.6	2.9	70	D	393	D GC48	1	層	G1aオ	3.7	2.7	1.8	30	S
344	D FJ50	II	層	G1aオ	3.9	3.2	3.2	45	A	394	D FG42	1	層	G1aイ	4.0	2.8	1.5	30	A
345	E GA38	1	層	G1aオ	5.2	5.0	4.2	140	A	395	D 3号址	周	溝	G1aオ	3.1	2.8	2.1	30	A
346	C FE50	1	層	G1aオ	6.9	3.2	2.5	90	A	396	D 3号址	周	溝	G1aオ	3.2	2.5	2.5	33	D
347	D 3号址	2	層	G1aイウ	4.1	3.5	2.9	30	A	397	D GA50	1	層	JBaホ	16.8	16.1	6.0	1745	A
348	C 12号址	3	層	G1aオ	4.3	4.2	3.2	70	A	398	C 7号址	周	溝	G1aアウ	10.1	6.3	4.0	265	A
349	D 1号址	周	溝	G1aオ	5.2	4.0	3.3	95	A	399	D FH42	1	層	G1aアイ	9.5	8.2	4.1	445	A
350	C 12号址	周	溝	G1aイ	6.9	5.8	4.0	220	A	400	D FG38	1	層	G1aア	11.7	6.5	3.8	335	A
351	HA74	1	層	G1aオ	4.1	3.6	2.8	60	S	401	D FF40	1	層	G1aア	4.9	5.2	4.2	144	A
352	D FH40	1	層	G1aオ	4.0	4.2	2.6	50	A	402	C FHS2	1	層	G1aイウ	8.4	7.3	6.5	570	A
353	C 12号址	3	層	G1aオ	3.8	3.5	3.0	65	A	403	D 1号址	4	層	G1aアウ	10.8	8.8	5.2	615	A
354	D FG50	II	層	G1aオ	3.4	3.0	2.4	30	A	404	HA84	1	層	G1aアウ	10.4	7.3	3.2	320	A
355	D GA46	1	層	G1aイ	8.9	4.4	3.3	205	S	405	D GA50	1	層	G1aウ	8.3	5.6	1.8	105	A
356	E GE66	1	層	JBaホ	11.5	10.8	3.2	600	A	406	D 3号址	2	層	G1aアウ	10.5	8.9	3.7	430	A
357	E GF62	1	層	G1aイ	10.3	8.0	3.4	400	S	407	C 3号址	周	溝	G1aアウ	10.5	8.8	6.3	725	A
358	D GB52	1	層	G1aウ	10.2	3.2	3.1	170	A	408	D 3号址	2	層	G1aアウ	9.5	8.0	5.6	525	A
359	C FFF44	1	層	G1aウ	9.2	5.7	3.7	265	A	409	盛土			G1aアウ	10.5	9.6	7.2	860	A
360	D GB50	1	層	G1aイ	7.4	4.8	6.2	185	A	410	E GE60	1	層	G1aアウ	7.4	6.2	3.8	230	A
361	E GE66	1	層	G1aウ	7.6	7.7	3.8	180	D	411	D GE50	1	層	G1aア	7.8	6.8	5.2	440	A
362	E GF60	1	層	G1aウ	9.3	4.5	3.5	180	S	412	E GD62	1	層	IaII	10.9	3.5	3.0	295	A
363	表探			G1aイウ	9.3	6.8	6.1	530	A	413	D FJ50	II	層	G1aア	6.7	5.9	4.1	220	A
364	D GA56	II	層	G1aイ	7.3	6.0	5.5	365	A	414	C FCS2	1	層	G1aウ	8.7	7.2	4.4	360	A
365	E FJ68	1	層	G1aイ	8.1	7.9	5.5	460	A	415	C FC36	1	層	G1aウ	7.6	6.2	3.8	200	A
366	E F168	1	層	JBaホ	6.1	7.0	5.1	950	D	416	D 3号址	2	層	G1aアウ	9.6	6.0	4.3	230	A

No	出土地点 ※地点	層位	分類	実積				石積 備考	No	出土地点 ※地点	層位	分類	実積				石積 備考	
				長さ	幅	厚さ	積さ						長さ	幅	厚さ	積さ		
417	E GE66	I	層	G1aウク	7.4	4.3	4.6	200A	X	467	C FA48	I	層	G1aオ	5.6	4.4	3.8	100A
418	C 12号址	周	溝	G1aウク	7.8	5.0	5.5	225A	X	468	E FJ36	I	層	G1aウ	6.5	5.8	4.0	200A
419	C FD40	I	層	G1aイテ	5.7	5.2	4.2	140A		469	D FJ38	I	層	G1aウ	20.1	7.9	7.0	1940A
420	D FH42	I	層	G1aイテ	6.7	5.3	4.3	190A		470	C FH58	I	層	JBaオ	6.5	4.7	1.5	70S
421	D FH38			G1aアウケ	9.4	8.5	5.3	580A		471	D FI40	I	層	JBaオ	5.8	5.0	1.5	55A
422	D 3号址	周	溝	G1aイオケ	5.7	5.5	4.1	160A		472	E GB66	I	層	G1aオ	6.3	4.3	3.8	140A
423	C FD54	I	層	G1aオケ	5.7	6.7	4.2	163A	X	473	C FE48	I	層	G1aイウ	7.0	6.5	5.5	297A
424	D 3号址	周	溝	G1aイテ	4.3	5.7	4.0	100A	X	474	C FF54	I	層	G1aイ	8.6	3.3	4.3	140A
425	D 4号址	I	層	G1aアケオ	7.8	7.9	5.7	435A		475				G1aオ	7.1	5.3	4.9	265A
426	C FF56	I	層	G1aウケ	8.6	7.3	6.5	530A		476	D GA48	I	層	G1aオ	4.1	3.3	3.1	60A
427	C FD56	I	層	G1aイテ	12.6	8.8	3.4	470A		477	D FJ42	I	層	G1aオ	4.2	3.8	3.8	80A
428	B 46号址	周	溝	Gvブウ	15.8	10.1	5.2	895S		478	D FJ38	I	層	G1aオ	6.3	3.4	5.1	130A
429	表探			JBaオ	14.8	11.6	3.2	795A	X	479	D FH44	I	層	G1aオ	4.7	4.8	3.6	120A
430	D 1号址	周	溝	G1aオケ	7.9	6.4	6.4	315A		480	E GC66	I	層	G1aオ	3.5	3.2	2.6	50A
431	D FJ38	I	層	G1aオ	18.1	9.1	7.5	1810S		481	E GB66	I	層	G1aウ	7.1	5.2	4.1	210A
432	D 3号址	I	層	G1aウ	4.1	7.2	5.7	1045S		482	E GB66	I	層	G1aウ	6.5	6.6	5.6	295A
433	D FJ52	II	層	G1aウ	8.9	8.1	7.2	740S		483				G1aアウ	11.0	8.4	5.1	650A
434	D 5号址	2	層	G1aイウ	12.5	7.0	4.9	615S		484	C FC44	I	層	G1aアウ	11.7	7.0	6.6	635
435	D 5号址	3	層	G1aウ	6.2	5.0	3.6	195A	X	485				G1aウ	9.5	8.5	5.6	653A
436	D FJ50	II	層	G1aウ	6.2	5.3	4.9	275A		486				G1aオケ	6.2	5.8	4.2	199A
437	D GA52	I	層	G1aオケ	6.1	5.5	4.3	175A		487	E GB66	I	層	G1aオケ	5.7	4.9	4.3	140A
438	D 1号址	周	溝	G1aウ	13.3	4.8	3.8	390D		488	E GC70	I	層	G1aウケ	6.8	6.9	4.9	250A
439	D FE38			G1aウ	6.6	3.2	2.6	75D		489	D GB54	I	層	JBbオ	7.9	7.6	2.1	200A
440	D GA44	II	層	G1aオケ	6.4	3.3	3.2	95		490	D FJ48	I	層	G1aイテ	8.8	7.1	6.2	530A
441	C 11号址	周	溝	G1aウ	6.7	5.0	3.4	110A	X	491	C FC36	I	層	G1aオケ	5.2	4.6	3.9	125A
442	D FJ50	II	層	G1aオケ	5.4	5.7	5.7	185A		492	D FH44	I	層	G1aオ	6.1	5.0	2.9	110A
443	D FJ38	I	層	G1aウ	8.5	6.0	5.8	420A		493	C FA36	I	層	G1aオケ	4.6	4.1	3.5	80A
444	D FJ50	II	層	G1aウ	5.0	4.5	4.1	130A		494	D FH42	I	層	G1aウケ	6.0	4.1	2.7	95A
445	C EH40	I	層	G1aオ	4.5	3.4	2.7	55A		495	D FCS2	I	層	G1aオケ	7.2	6.3	3.3	115A
446	B EF48	III	層	G1aオ	4.2	3.8	1.8	500		496	C EJ50	I	層	JBaオ	17.3	10.5	5.5	1120C
447	D GA56	II	層	G1aオケ	5.1	4.0	2.5	68A		497	D FG42	I	層	JBaケ	8.3	6.4	2.1	130A
448	B EH48	III	層	G1aオ	4.8	3.7	3.7	90		498	B 47号址			Kaア	8.6	5.7	1.4	120N
449	E FJ70	I	層	G1aオ	5.0	4.5	3.5	100A		499	B 47号址			G1aイ	4.9	3.1	2.6	55A
450	表探			G1aアウ	8.0	6.7	4.5	330A		500	B 47号址			G1aオ	5.9	5.5	3.9	175A
451	D 3号址	I	層	G1aウ	5.9	4.8	3.6	150A		501	D 2号址	主体部		G1aア	8.7	7.7	5.2	480A
452	E EG34	周	溝	G1aウ	8.2	7.4	5.0	440S		502	D FF42	I	層	G1aア	8.2	7.1	5.6	400A
453	B EG	周	溝	G1aイウ	7.6	6.6	6.2	470A	X	503	E 70111111			G1aイテ	10.8	7.1	6.7	525
454	C FCS2	I	層	JBaオ	6.8	6.0	1.4	105A		504	表探			G1aアウ	9.2	4.5	4.3	180A
455	E GB66	I	層	G1aイエ	7.7	6.0	3.3	230S		505	B 47号址			G1aオ	4.7	4.0	4.3	110A
456	盛土			G1aオケ	13.3	6.8	3.6	465A		506	B 47号址			G1aオ	3.8	3.1	2.6	50A
457	C FA48	I	層	G1aオ	4.4	3.8	3.3	70A	X	507				G1aイ	3.3	2.8	2.2	30A
458	C FF54	I	層	G1aウ	7.6	6.7	5.4	335A		508	B 47号址			G1aオ	3.5	2.9	2.8	35A
459	E GB66	I	層	G1aウ	5.0	5.1	5.0	180A		509	E GH68			JBaオ	38.5	26.5	9.0	
460	D FH42	I	層	G1aオ	4.5	3.7	5.5	90A	X	510	E GH68	II	層	JBaオ	28.6	17.8	10.5	3670A
461	盛土			G1aウ	6.7	5.3	5.0	220A		511	D FG38	I	層	JBaオ	24.5	13.0	11.4	4600
462	E GB66	I	層	G1aウ	6.9	6.0	3.3	203A		512	C 16号址	周	溝	JBaオ	25.7	23.2	17.7	5080A
463	D FI40	I	層	G1aオ	5.7	5.3	4.1	175A		513	C FC36	I	層	G1aウケ	11.1	10.4	4.6	900A
464	D GB54	I	層	G1aオ	4.7	4.5	3.5	110A		514	B 40号址			Kaイ	12.0	8.2	3.7	535S
465	E GA70	II	層	G1aイウ	14.2	7.9	5.5	880A		515	E GH68	II	層	Kaイ	10.5	8.7	3.1	420B
466	D GA48	I	層	G1aオケ	4.8	4.0	2.3	60A		516	D GD48	I	層	G1aオ	8.9	3.1	5.0	155A

No	出土地点 ※地点	層位	分類	実測			石質 備考	No	出土地点 ※地点	層位	分類	実測			石質 備考			
				長さ	幅	厚さ						長さ	幅	厚さ				
617	E GAN1007		G1aウ	9.2	11.5	7.0	1235A	667	盛土		G1aオ	5.7	5.2	4.0	155D			
618	E GAN1007		G1aウ	5.4	6.2	4.0	200A	668	盛土		G1aオケ	4.9	4.2	3.7	100A			
619	E GAN1007		G1aアイウ	8.3	10.3	5.6	595A	669	盛土		G1aオ	3.8	3.4	3.1	60A			
620	E GAN1007		G1aウ	6.0	5.9	4.1	180A	670	盛土		G1aオ	4.6	3.8	3.4	80A			
621	E GAN1007		G1aオ	5.3	4.4	3.8	150A	671	盛土		G1aオケ	3.9	4.4	4.1	105A			
622	E GAN1007		G1aオケ	5.4	6.0	4.4	175A	672	盛土		G1aイ	5.9	5.2	4.2	155A			
623	E GAN1007		G1aウケ	7.1	7.9	6.9	425A	673	盛土		G1aウ	5.6	4.3	3.6	110A			
624	E GAN1007		G1aオ	5.6	6.1	4.8	260A	674	ナナソ①		G1aオ	4.6	4.5	4.0	105A			
625	E GA60-3位	3	層	G1aオケ	7.2	6.4	4.6	280A	675	ナナソ①		G1aオケ	6.1	5.2	4.6	170A		
626	E FJ66-15	3	層	G1aウエ	13.8	10.3	5.8	1160A	676	盛土		G1aウケ	5.4	4.7	4.0	140A		
627	E GA68位		G1aウケ	11.0	6.9	4.5	360A	677	E FMI1007		G1aイウ	11.1	8.6	7.2	1070A			
628	E GA68位		G1aウ	8.0	7.3	6.2	475	678	C FHS2	II	層	G1aウ	8.2	6.4	5.8	420D		
629	A DG1007	I	層	F I	11.0	4.6	2.3	140	679	E GGS58		G1aオ	5.1	4.8	4.7	160A		
630	E HB120位	4	層	JAbイ	10.4	6.1	3.4	185F	680	C FDS0	II	層	G1aウ	5.5	5.5	4.1	165A	
631	E GH68位	2	層	G1aオケ	8.3	7.9	5.5	420	681	C FDS0	II	層	G1aオケ	5.5	4.6	4.3	145A	
632	E GH68位	2	層	Kaアイ	7.4	7.1	0.9	81B	682	E GB66	III	層	G1aオケ	4.9	4.0	3.2	80A	
633	E GH68位	2	a	層	Haア	16.5	10.7	5.5	1420D	683	E GH48	II	層	GHaオ	9.0	4.1	3.3	185D
634	E GH68位	I	層	IaII	20.4	9.2	6.8	2990A	684	D FH48	II	層	G1aイウ	7.1	6.9	5.7	365A	
635	E GH68位	2	a	層	G1aオ	5.9	5.1	4.4	160A	685	D GA48	II	層	G1aオ	6.0	5.1	3.9	140A
636	E GH68位	5	層	G1aウケ	6.0	5.3	3.8	140A	686	D GE48	III	層	G1aオ	4.5	3.7	3.3	80D	
637	E GH68位	2	f	層	G1aウイ	6.8	5.8	5.0	225A	687	E FMI1007		G1aイウ	9.5	7.8	5.7	590A	
638	E GH68位	床	直	G1aウ	8.8	5.8	5.4	320S	688	D F148	II	層	G1aオケ	4.7	3.6	2.7	60A	
639	E GH68位	2	層	GIIaウ	12.2	7.8	3.3	370A	689	E GGN1007		G1aオオ	4.8	4.5	4.0	120A		
640	E GH68位	2	a	層	GIIaイウ	13.9	8.0	5.3	820S	690	C FH54	II	層	G1aオケ	6.0	4.9	3.2	110A
641	E GH68位		G1aオ	6.8	5.2	4.2	220A	691	D GA48	II	層	G1aオケ	5.9	5.2	3.6	148A		
642	E GH68位	2	c	層	G1aオ	11.3	5.8	4.2	400S	692	D CA48	II	層	G1aオケ	6.1	4.8	4.0	180A
643	E GH68位	2	a	層	GIIaオケ	12.6	8.1	6.4	980D	693	D FH46		G1aオ	5.6	4.9	3.9	135A	
644	E HB120位	I	層	G1aオケ	6.6	6.0	5.4	250A	694	D GB48	II	層	G1aオ	5.0	4.2	1.3	45A	
645	E FJ66	3	層	JAbカ	21.0	18.5	6.1	2960A	695	D F144	II	層	G1aオケ	4.9	3.5	2.0	35A	
646	E GH68位	1	層	JAbカ	32.9	23.4	7.9	9200A	696	E GAN1007		G1aウ	8.2	6.7	3.6	195S		
647	E FMI1007		JAbカ	20.0	14.5	5.3	2155A	697	D FJ46	II	層	G1aイ	9.9	6.7	5.2	367A		
648	E GA66	I	層	G1aオケ	6.2	5.5	2.8	90A	698	D GC50	II	層	G1aオ	8.9	7.2	3.3	320S	
649	E FMI1007		JAbカ	11.7	4.9	4.4	360S	699	E GAN1007		G1aイケ	8.3	5.9	5.0	288A			
650	E FMI1007		JAbカ	12.2	10.1	5.0	800A	700	E GAN1007		G1aオ	5.2	4.5	4.3	135A			
651	E FJ66	3	層	G1aアイウケ	11.6	9.0	4.6	580S	701	D GDS2	II	層	G1aオ	5.9	5.5	4.6	190A	
652	E GC76	II	層	G1aイケ	5.3	6.0	4.7	200A	702	D GAS8	II	層	G1aオケ	4.1	3.5	3.4	70A	
653	E FMI1007		G1aイ	7.0	5.8	5.2	300A	703	E GAN1007		G1aオケ	4.6	4.4	4.0	100A			
654	E G146	II	層	G1aイ	11.7	5.5	4.6	480D	704	D GAS8	II	層	G1aオケ	3.8	3.5	3.3	60A	
655	E FMI1007		G1aイ	7.7	6.2	5.3	330A	705	D GAS8	II	層	G1aオケ	4.5	3.3	2.8	60A		
656	D GAS2	II	層	G1aオ	7.5	6.0	5.5	320A	706	E GAN1007		G1aオ	3.8	3.4	2.8	60A		
657	E FJ66	3	層	GIIaウ	32.0	9.9	9.5	5000A	707	C FF50	II	層	G1aオケ	4.2	3.5	2.8	48A	
658	E FMI1007		JAbカ	11.5	10.1	5.4	970A	708	E FMI1007		G1aイウ	11.0	7.2	6.1	680A			
659	E FMI1007		GIIaウ	17.3	8.5	6.0	2110D	709	E FMI1007		G1aイウ	14.1	10.5	5.9	1130A			
660	E GH68位	2	c	層	JAbオカ	18.1	12.8	3.5	1190D	710	E FMI1007		G1aイ	5.9	4.8	4.6	150A	
661	D FJ46E		GIIaウ	11.1	7.0	3.8	420D	711	E FMI1007		G1aイ	12.8	10.3	7.8	1470A			
662	E GGN1007		GIIaウ	10.9	3.8	3.5	270A	712	E FMI1007		G1aオ	7.6	4.3	3.6	200S			
663	表探		GIIaウ	9.5	6.4	4.1	380S	713	E FMI1007		JAbカ	12.7	11.7	6.1	895A			
664	E GAN1007		G1aイウ	6.2	7.6	4.8	395S	714	E FMI1007		JAbカ	15.3	11.7	4.8	1280A			
665	E GAN1007		G1aウケ	12.5	8.2	7.0	1085A	715	E FMI1007		JAbカ	13.4	10.6	5.3	1165A			
666	表探		G1aイ	8.5	7.5	5.8	520A	716	E FMI1007		G1aイウ	8.1	9.7	6.2	650A			

No	出土地点 ※地 点	層 位 分	實 類	測 石 簿				No	出土地点 ※地 点	層 位 分	實 類	測 石 簿					
				長さ	幅	厚さ	底さ					長さ	幅	厚さ	底さ		
717	E GAN1000		G1aイテ	11.5	11.9	7.1	1240	A	×	767	F HD114	2 a 層	G1aアテ	8.7	6.9	5.0	360
718	E GAN1000		G1aイクテ	9.4	8.4	6.0	600	A		768	F HD114住	2 a 層	G1aウ	9.3	5.8	3.3	265A
719	E GA040E		G1aオ	7.5	5.7	4.4	260	A		769	F HD114住	2 a 層	G1aイウ	11.1	6.4	4.8	535D
720	E GAN1000		G1aイ	9.5	10.0	6.3	850	A	×	770	F HD114住	2 a 層	G1aオ	4.6	4.5	3.8	80A
721	C GA60	II 層	G1aオ	9.6	7.1	5.2	320			771	F HB120住	3 層	G1aアエ	9.3	7.8	3.8	400S
722	D F14E		J Aaオ	23.0	18.7	8.6	3830	A	×	772	F HB120住	2 a 層	G1aオ	6.8	5.6	4.7	190A
723	E GH68住	3 層	G1aウ	6.1	6.5	5.6	330			773	F HB120住	2 層	G1aオテ	7.1	5.2	5.0	210A
724	E FA26	II 層	G1aウ	10.5	7.9	6.5	555	A		774	F HB120住	4 層	G1aオ	3.6	3.4	3.2	60S
725	E GH68住	2 b 層	G1aウ	5.1	4.9	3.2	115	B	×	775	F HB120住	2 層	G1aウ	10.7	6.3	4.1	350D
726	E GC66	2 層	J Aaオ	18.3	14.4	4.9	1865	S		776	F HB120住	2 層	G1aウ	6.0	5.1	4.6	125A
727	E FN1000		J Aaオ	15.9	17.2	4.9	2105	D		777	F HB120住	2 層	G1aイ	9.2	8.6	4.1	435A
728	E GAN1000		J Aaオ	20.2	14.0	8.2	2790	A		778	F HB120住	3 層	G1aオ	8.2	6.7	6.1	495S
729	E GAN1000		J Baオ	12.2	11.7	2.7	475	D		779	F HB120住	4 層	G1aオ	10.7	10.1	6.4	775A
730	E GAN1000		J Baオ	13.0	8.7	5.9	970	A		780	F HB120住	2 層	G1aウ	10.3	8.9	4.8	540S
731	E GA70	2 層	J Aaウ	3.0	25.3	6.0	6200	A		781	F HB120住	3 層	G1aウ	9.6	8.1	5.1	455B
732	E GAN1000		J Aaウ	21.2	14.0	9.8	5500	D		782	F HB120住	4 層	G1aイ	10.2	6.6	5.2	515S
733	E FN1000		J Aaオ	25.1	14.0	0.7	6700	A		783	F HB120住	4 層	G1aイ	12.7	8.5	6.0	780D
734	E GC66	2 層	J Aaウ	29.8	22.4	7.7	7300	D		784	F HB120住	2 層	G1aイ	5.9	4.8	3.7	150S
735	E GH68住	2 c 層	Lウ	38.0	9.8	5.9	3600	T		785	F HB120住	2 層	G1aオウ	9.2	7.2	1.9	195A
736	E F60	3 層	J Aaウ	26.5	22.2	7.9	5500	A		786	F HB120住	2 層	G1aウテ	8.2	6.4	4.3	210A
737	E FN1000		G1aア	10.2	6.8	3.1	290	A		787	F HB120住	1 層	G1aイ	4.1	3.1	2.9	35A
738	E FN1000		G1aウ	11.3	10.3	3.8	610	A		788	B EF48	III 層	J Abイ	7.7	5.0	4.0	90 F
739	D F14E		J Baオ	15.9	13.7	5.9	1720	S		789	D GB44	2 層	G1aオ	5.9	5.0	3.7	140A
740	E GAN1000		J Aaオオカ	24.3	17.9	8.8	4200	A		790	B GB44	III 層	G1aウテ	5.8	5.3	4.8	210A
741	E GAN1000		J Aaオ	18.3	9.6	5.5	1340	A	×	791	B EE48	II 層	G1aオ	4.0	3.6	3.2	65A
742	E FB28		J Aaア	13.0	9.4	3.4	645	A		792	B EE48	II 層	G1aオオ	7.0	5.4	4.0	200A
743	D GES0	3 層	G1aウ	10.8	9.3	4.9	700	S		793	D GB44	1 層	G1aウ	11.1	7.7	4.3	600A
744	E FN1000		G1aウ	10.3	6.7	1.5	415	S		794	X区盛土		G1aウテ	6.8	4.8	4.2	150A
745	C FG68		G1aオ	4.0	3.6	2.7	50	A		795	D GB44	2 層	G1aウテ	4.9	4.1	3.1	80A
746	表掘		G1aイウ	14.8	6.6	4.1	500	A		796	F X1区	III 層	G1aオ	8.9	5.5	2.3	180D
747			G1aアイ	12.1	7.4	4.8	595	A		797	F F184	III 層	G1aウテ	9.1	6.3	4.1	270A
748	E FN1000		J Aaオ	14.8	14.8	4.8	1485	A	×	798	B EF46	II 層	G1aウ	5.8	4.6	2.5	190A
749	E GAN1000		G1aオ	13.8	7.6	2.8	445	A		799	B EF48	II 層	J Baオ	8.8	7.2	2.7	230A
750	E FN1000		J Aaウ	20.6	12.9	6.5	1830	A	×	800	F F180	III 層	G1aウテ	6.6	5.5	4.1	195A
751	E FH70	2 層	J Aaウ	28.0	12.5	3.9	1210	A		801	B EF48	III 層	G1aオウ	4.7	3.8	3.0	80A
752	E F166	III 層	I b III	7.0	4.6	2.2	85	S		802	B EF46	II 層	G1aオオ	3.5	2.6	2.1	25A
753	E FN1000		J Aaオ	23.0	18.4	4.4	2375	A		803	F F182	III 層	G1aイ	5.6	4.8	4.5	165A
754	E GAN1000		G1aウ	8.2	6.0	3.0	235		×	804	X区盛土		G1aウテ	7.7	6.4	5.3	335A
755	F HB120住	2 層	H bエ	10.7	4.8	2.4	220	A		805	E CA78	III 層	G1aイ	8.2	7.2	6.5	520A
756	22区	盛 土	G1aアオカ	9.8	13.9	6.6	1400	A		806	D GA44	I 層	G1aイ	9.2	7.5	5.9	580A
757	B EG46	III 層	G1aアウテ	7.6	9.5	6.6	620	A		807	F F180	III 層	G1aウテ	7.7	6.6	6.7	390A
758	B EG48	II 層	G1aアウカ	7.6	10.1	5.1	530	A		808	B EF48	III 層	G1aウ	9.6	5.2	4.0	295A
759	E F184	II 層	G1aイウ	12.3	9.9	5.8	580	A		809	D GB44		Lウ	44.2	20.5	12.3	146T
760	E F182	III 層	G1aアウ	11.5	7.3	4.9	290	A	×	810	F F182		J Aaオ	43.0	17.9	12.1	126A
761	E GB42	2 層	G1aアイ	5.0	9.3	3.8	190	A		811	F F184	III 層	J Aaオ	24.0	15.5	5.9	3330A
762	D GB44	1 層	G1aアウ	6.9	11.4	4.1	400	S	×	812	F HB120住		J Aaオ	30.0	21.7	6.2	25000A
763	F HR120住	4 層	G1aウ	13.5	17.7	7.0	985	S		813	F HR120住		J Aaウ	23.5	13.5	9.7	2770A
764	F HE112	1 層	G1aイウ	9.4	10.6	5.2	780	S		814	B EF46	III 層	G1aオ	5.5	4.1	3.3	115S
765	F X区	IV 層	G1aアイウ	7.8	13.1	5.8	790	S	×	815	B EF48	III 層	G1aオ	5.2	4.3	2.2	70A
766	D GA50	C L	G1aウ	5.5	10.0	4.5	410	A	×	816	E FH84		J Aaオ	50.5	29.8	15.0	316

表9 出土土製品・小型磨製石斧観察表

×欠損品 ○彩色土製品 ●アスファルト付着土製品

No	出土地点 ※地点	層位	分	類	実測			備考	No	出土地点 ※地点	層位	分	類	実測			備考	
					長さ	幅	厚さ							長さ	幅	厚さ		
1	C PD54	II	層	土偶	6.7	6.0	1.5	32.3×	49	C F164	III	層	不明	1.9	4.5	1.4	0.9×	
2	C FF42	I	層	土偶	4.3	3.2	1.6	14.1×	41	D FH60盛土	I	層	不明	3.7	3.5	1.4	15.4×●	
3	E GC66	II	層	土偶	4.1	2.6	1.3	10.1×	42	C FA46	I	層	有孔土製品	2.1	2.3	1.8	8.2	
4	D GA58	III	層	土偶	4.3	2.8	0.8	7.9×	43	E GA880住	3	層	不明	2.6	2.5	0.5	3.3	
5	D 3号址	I	層	土偶	2.0	4.0	1.1	8.5×	44	F HB120住	3	層	棒状土製品	3.1	1.3	1.2	6.1×	
6	E GA80-3住	3	層	三角形土製品	4.7	4.7	1.6	20.4×	45	B 47号址			スプーン形土製品	4.8	2.2	1.4	5.5	
7	C E150	III	層	三角形土製品	3.5	3.8	6.7	9.1	46	C FCS8	盛土		棒状土製品	5.2	1.2	1.2	11.0×	
8	B 40号墳	2	層	三角形土製品	4.2	4.4	2.2	4.4	47	B 46号址	周溝		棒状土製品	3.8	1.1	1.2	5.8×	
9	C EH48	III	層	三角形土製品	2.7	3.0	1.0	7.2×	48	C FA38	P	4	層	棒状土製品	3.2	1.6	1.9	9.0×
10	D FH48	2 a	層	三角形土製品	3.2	2.8	1.0	6.7×	49	E GH68住	1	層	棒状土製品	3.1	1.1	1.0	3.6×	
11	F HB120住	1	層	三角形土製品	3.0	3.2	1.0	9.3	50	C FF48	No3		棒状土製品	2.3	1.3	1.2	3.9×	
12	E GH48	III	層	三角形土製品	3.1	3.6	0.8	8.7	51	C FD50	No2		棒状土製品	6.9	1.8	1.5	12.2	
13	D FG40	I	層	三角形土製品	3.3	3.0	1.2	7.8	52	E GB72			キノコ形土製品	3.6	4.4	2.0	19.2×	
14	D FH38	I	層	三角形土製品	3.1	3.7	0.7	4.7	53	C 20号址	周溝		キノコ形土製品	3.3	3.7	1.2	10.2×	
15	F HB120住	1	層	三角形土製品	2.9	0.3	0.8	4.6×	54	D GA52	II	層	キノコ形土製品	5.6	5.6	2.6	36.6×	
16	F GC114	C	L	三角形土製品	2.5	3.1	0.7	8.7	55	B E152	盛土		斧状土製品	6.4	3.6	1.2	23.2×	
17	C FD58	I	層	三角形土製品	3.0	4.0	0.7	16.1	56	D 3号址	周溝		斧状土製品	5.3	4.0	1.9	41.1×	
18	E GD34	I	層	三角形土製品	2.9	3.6	1.0	6.5	57				斧状土製品	8.0	2.9	1.7	47.2×	
19	C FG48	No3		耳飾り	4.4	4.3	2.3	38.7	58	D GB44	I	層	斧状土製品	4.6	4.3	1.2	19.3×	
20	C E138	I	層	耳飾り	4.5	4.6	2.2	28.6	59	E F164	II	層	斧状土製品	4.4	4.1	1.2	20.7×	
21	D GA52	II	層	耳飾り	5.2	5.1	3.0	45.7	60	C E142	I	層	斧状土製品	2.8	4.0	2.0	24.5×	
22	C FH62			耳飾り	4.1	2.8	3.1	31.0	61	C FE42	I	層	斧状土製品	9.7	5.0	3.0	145×	
23	C FA40			耳飾り	5.5	5.4	3.0	33.3×	62	D GA46	埋土		斧状土製品	4.8	4.2	2.2	41.1×	
24	D GB56	II	層	耳飾り	3.3	2.5	2.6	14.4×	63	D 3号址	周溝		斧状土製品	7.1	4.2	2.9	5.0×	
25	D 700E	II	層	耳飾り	4.6	4.7	1.6	44.8	64	E GA68	I	層	斧状土製品	3.1	2.6	1.4	12.1×	
26	B E F46			三角錐形土製品	4.4	2.8	2.7	26.3×	65	E F J68	I	層	斧状土製品	3.3	2.3	2.4	19.0×	
27	C 肥石			三角錐形土製品	4.0	3.2	2.2	16.2	66	E F164	III	層	斧状土製品	6.0	3.5	2.0	36.2×	
28	C 20号址	周溝		三角錐形土製品	3.1	4.0	2.7	24.1×	67	E F J66	III	層	斧状土製品	4.4	2.5	1.7	15.5×	
29	E GG58	I	層	土偶	2.4	2.4	2.6	11.5×	68	D FG38	I	層	斧状土製品	5.5	3.0	1.6	23.1×	
30	C FF48	No1		環状土製品	3.3	3.3	0.8	5.6	69	C FE48	I	層	腕輪状土製品	4.2	2.6	1.7	22.6×	
31	D FG46	II	層	環状土製品	2.8	2.0	0.6	2.1×	70	E F J70			土鏃	5.0	2.5	2.2	4.4	
32	E F170	II	層	有孔土製品	1.9	3.8	0.9	6.2	71	E GH68住	2	層	不明	3.8	3.4	0.8	15.8×	
33	D F J48			環状土製品	3.0	1.3	0.9	2.1×	72	C F158	I	層		10.5	3.4	2.5	31.6	
34	B 47号址	周溝		有孔土製品	2.0	3.3	1.0	5.3×	73	C FD56	I	層	貝形土製品	7.2	4.3	1.6	53.0×	
35	C 22号址	I	層	有孔土製品	2.8	2.7	1.7	13.0	74	C 16号址	周溝		土鏃	3.3	6.4	1.7	30.7×	
36	D 4号址	周溝		環状土製品	1.6	1.6	0.3	0.3	75	D GB44	I	層	不明	3.2	3.3	0.8	12.6×	
37	E GH68住	No34		環状土製品	1.5	3.0	0.7	2.8×	76	C GA68	III	層		3.6	3.1	1.0	14.5×	
38	D GA52	II	層	有孔土製品	3.0	1.9	1.5	8.3	77	E GH68住	2	層	不明	3.0	2.9	1.0	8.2×	
39	D 5号址	3	層	不明	1.4	4.5	1.0	7.9×										

円盤状土製品

No.	出土地点 所在地	層位	分類	実測				No.	出土地点 所在地	層位	分類	実測				
				長さ	幅	厚さ	重さ					長さ	幅	厚さ	重さ	
1	D 3号址	周溝	Ia	4.2	4.0	0.715	102	49	B 46号址	周溝	Ia	3.7	3.2	0.7	8.8	
2	E G148	凹層	Ia	5.0	4.7	1.025	6	50	C FFS0土	フタ土		4.0	3.7	0.8	14.5	
3	C FJ58	凹層	Ia	3.4	3.2	0.8	9.7	104	51	C FFS2	I層	Ia	3.2	3.1	0.9	11.2
4	E GC78	凹層	Ia	4.1	3.8	1.020	6	105	52	E GA68	凹層	Ia	3.9	3.3	0.8	12.6
5	D FH48	2層	Ia	4.2	3.8	0.816	8	106	53	C F158	I層	Ia	5.2	4.6	1.1	31.0
6	D FH50	凹層	Ia	3.8	3.8	0.713	1	107	54	D FJ50	凹層	Ia	3.7	2.8	0.5	6.6
7	C FC38	I層	Ia	4.3	4.2	0.920	6	108	55	C FG48	2層	Ia	3.7	3.6	0.6	10.1
8	D F142	I層	Ia	3.8	3.6	0.913	8	109	56	D F146	I層	Ia	4.2	3.8	0.7	10.6
9	D GA56	凹層	Ia	3.6	3.1	0.710	1	110	57	F HB120址	4層	Ia	4.4	4.2	0.7	15.6
10	E GA70	3層	Ia	3.0	2.9	0.7	8.1	111	58	C FB42	凹層	Ia	4.9	4.9	0.9	22.8
11	C FF48	凹層	Ia	4.5	4.2	0.918	7	112	59	E GG80	凹層	Ia	2.6	2.6	0.7	5.8
12	C FBS2	2層	Ia	3.7	2.6	0.9	9.9	113	60	E GB64	I層	Ia	3.0	3.0	0.9	9.5
13	D F146	凹層	Ib	4.4	4.4	1.025	6	114	61	F HC130	C L	Ia	4.2	4.0	0.6	13.2
14	D F164	凹層	Ib	4.0	3.8	1.121	6	115	62	B EF48	凹層	Ia	3.7	3.6	0.9	14.1
15	D GB56	凹層	Ib	5.0	4.6	0.717	0	116	63	E GA66	凹層	Ia	4.1	4.0	0.8	13.8
16	D FH44	凹層	Ia	3.6	3.4	0.710	9	117	64	B 40号址	周溝	Ia	4.4	4.0	0.8	14.0
17	C F48	凹層	Ib	4.4	4.0	0.817	1	118	65	E GC64	2層	Ia	4.7	4.2	0.8	18.5
18	E GB121	4層	Ib	3.4	3.4	0.6	6.7	119	66	D GA56	I層	Ia	4.4	3.8	0.9	18.4
19	E FK121	2層	Ib	3.6	3.4	0.6	9.5	120	67	C FG48	2層	Ib	4.9	4.3	0.8	18.3
20	C FD36	凹層	Ib	5.8	5.2	0.934	6	121	68	E GF60	I層	Ib	4.8	4.7	0.8	22.7
21	E GA68	凹層	Ib	4.1	3.8	0.6	9.5	122	69	E F170	凹層	Ib	5.4	4.7	0.9	26.4
22	F 1区	盛土	Ib	3.9	3.9	0.814	5	123	70	A DE18	I層	Ib	4.6	3.8	1.0	17.5
23	表探	Ib		3.7	3.6	1.016	8	124	71	D FH46	2層	Ib	6.5	5.5	0.9	37.2
24	D FF42	I層	Ib	4.2	4.1	1.021	5	125	72	D FH48	I層	Ib	4.6	3.6	0.7	12.8
25	C FJ58	凹層	Ib	4.0	3.7	0.711	8	78	73	C 18号址	I層	Ib	4.2	3.9	0.7	15.7
26	C FE46	凹層	Ib	3.9	3.9	0.711	7	79	74	C FAS2	盛土	Ib	5.0	4.8	0.9	26.9
27	D 3号址	周溝	Ib	4.4	4.1	0.919	1	80	75	C FG50	2層	Ib	4.3	4.2	1.0	18.8
28	D 3号址	周溝	Ib	2.8	2.7	0.9	8.5	81	76	E GE68	盛土	Ib	4.8	4.4	0.9	20.4
29	C FE42	I層	Ib	2.9	2.5	0.4	4.2	82	77	C F146	2層	Ib	4.0	3.7	1.1	17.6
30	C FC50	I層	Ib	2.5	2.3	0.1	4.1	83	78	C FG56	I層	Ib	4.1	3.6	0.9	16.7
31	C 21号址	周溝	IIa	4.8	4.5	0.617	2	84	79	C FG50	2層	Ib	4.1	4.0	1.1	20.0
32	D EF48	凹層	IIa	4.7	4.2	0.818	8	85	80	E GF70	凹層	Ib	3.2	3.0	0.9	11.7
33	E G170	凹層	IIa	3.9	3.6	0.6	9.5	86	81	C FC40	I層	Ib	3.7	3.3	0.7	10.6
34	表探	IIa		4.0	3.7	0.6	7.3	87	82	D GB56	I層	Ib	3.3	3.3	0.9	11.0
35	C FH60	凹層	IIa	3.7	3.1	0.7	8.1	88	83	C FAS2	盛土	Ib	4.2	4.2	0.9	16.9
36	表探	IIa		3.3	2.9	0.9	7.4	89	84	D GB56	凹層	Ib	3.9	3.4	0.7	11.7
37	C FFS8	I層	IIa	6.3	4.0	0.719	6	90	85	D F146	I層	Ib	5.6	4.5	0.8	22.7
38	D GA44	I層	IIb	4.9	4.8	1.020	3	91	86	D F148	凹層	Ib	5.8	5.0	1.1	35.0
39	C FE50	2層	IIb	4.3	3.5	0.711	9	92	87	C EH44区	盛土	Ib	6.0	4.9	0.9	33.8
40	C 22号址	周溝	IIb	4.4	3.6	0.813	0	93	88	D 1号址	周溝	Ib	4.8	4.6	1.4	34.8
41	C FD56	I層	IIb	4.5	4.3	0.713	8	94	89	C FAS0	I層	Ib	5.3	5.2	1.0	31.3
42	表探	IIIa		3.7	3.0	0.815	6	95	90	B EF48	凹層	Ib	5.1	4.9	0.8	21.4
43	C FF48	凹層	IIIa	5.0	4.5	0.822	4	96	91	B EF48	凹層	Ib	4.6	4.3	0.7	14.0
44	D FJ50	I層	IIIa	3.7	3.6	0.915	0	97	92	C 11号址	周溝	Ib	4.4	3.8	1.1	21.2
45	C FC46	I層	IIIa	5.0	4.8	0.924	6	98	93	C EH48	凹層	Ib	4.3	4.3	0.9	15.8
46	F HH148	C L	IIIa	5.3	5.0	1.033	6	99	94	C 21号址	周溝	Ib	3.8	3.6	0.8	18.0
47	C FG50	凹層	Ia	4.2	3.6	0.915	9	100	95	E FJ68	凹層	Ib	3.5	3.3	0.8	8.9
48	E J38	凹層	Ia	4.2	3.7	0.813	7	101	96	B EF48	凹層	Ib	4.3	4.1	1.2	20.3

No	出土地点 类地点	层位	分期	实测数据				测区号	No	出土地点 类地点	层位	分期	实测数据				测区号
				尖角	幅	厚	层数						尖角	幅	厚	层数	
97	C P F 52	3	层 1b	3.9	3.8	0.8	13.4	147	C E 142	I	层 1b	3.5	3.5	0.8	9.6		
98	D F G 46	II	层 1b	3.6	3.5	0.8	12.0	148	B F B 42		1b	3.5	3.5	0.8	11.2		
99	C E H 44区	盛土	1b	4.1	3.6	0.8	13.0	149	B 46号址		1b	3.2	2.8	0.7	6.1		
100	F F H 89		1b	4.3	3.5	0.4	7.4	150	D G A 50	II	层 1b	4.1	3.5	0.8	14.0		
101	C F 146	2	层 1b	3.8	3.4	1.0	14.1	151	E G B 72		1b	3.6	3.5	0.9	11.9		
102	C F 158	II	层 1b	3.7	3.5	0.9	12.5	152	C F F 46	I	层 1b	3.8	2.7	0.7	5.8		
103	D E H 44区	盛土	1b	3.7	3.1	0.8	9.4	153	C F 158	II	层 1b	4.2	3.5	0.9	12.9		
104	B 47号址	周溝	1b	3.1	2.9	0.8	6.2	154	D F H 44	II	层 1b	3.1	2.5	0.7	6.6		
105	C F E 50	2	层 1b	4.4	4.1	0.8	16.5	155	C F J 58	III	层 1b	3.4	3.1	0.7	8.6		
106	C F D 50	2	层 1b	4.0	3.5	0.9	12.5	156	D F 148	II	层 1b	4.9	4.0	0.7	14.5		
107	E G A 66	III	层 1b	3.8	3.3	0.9	13.3	157	D F J 52	II	层 1b	5.1	4.8	1.0	24.8		
108	D F 146	2	层 1b	3.7	3.3	0.8	9.9	158	E G A 66	III	层 1b	4.5	4.4	0.9	18.0		
109	C E 150	I	层 1b	3.5	3.3	1.0	12.8	159	D F J 50		1b	4.9	3.9	1.0	20.6		
110	E F 164	II	层 1b	3.4	3.3	0.8	8.5	160	D G A 48	C L	1b	4.9	4.4	0.9	20.7		
111	C F E 44	II	层 1b	3.1	2.9	1.1	11.4	161	E G A 68	III	层 1b	4.0	3.8	0.6	9.7		
112	D F H 48	盛土	1b	3.2	3.0	1.0	9.3	162	E G A 68	III	层 1b	4.2	3.8	1.1	19.9		
113			1b	3.0	2.7	0.6	5.5	163	E G G 48	II	层 1b	4.5	3.7	1.0	21.1		
114	E G B 40	II	层 1b	3.4	3.2	0.9	10.0	164	B E E 48	III	层 1b	4.7	4.2	1.2	24.2		
115	夹探		1b	3.1	3.0	0.8	8.8	165	B E F 48	II	层 1b	4.0	3.9	1.0	19.3		
116	E G A 68	III	层 1b	3.3	3.2	0.8	10.9	166	C E H 44区	盛土	1b	3.8	3.6	0.8	13.5		
117	C F F 48	2	层 1b	3.3	3.1	0.5	4.7	167	D F 146	II	层 1b	5.0	5.0	1.0	26.2		
118	D G A 54	II	层 1b	3.3	3.3	0.7	9.6	168	E F 164	II	层 1b	5.2	4.6	1.4	37.6		
119	E G A 66	I	层 1b	2.6	2.6	0.5	3.7	169	C F 154	III	层 1b	4.0	3.9	1.0	17.1		
120	D F H 46	I	层 1b	3.2	2.9	0.7	8.1	170	D G A 52	II	层 1b	5.1	4.3	0.9	25.9		
121	E F J 66	III	层 1b	3.0	2.9	1.0	7.9	171	E F 168	III	层 1b	5.5	5.1	1.1	34.8		
122	D F H 46	II	层 1b	2.6	2.6	0.5	3.9	172	D F H 44	II	层 1b	5.0	4.5	1.2	27.5		
123	D F J 50	I	层 1b	2.6	2.6	0.7	5.3	173	D F 148	II	层 1b	4.8	4.8	0.9	23.6		
124	E F J 68	II	层 1b	2.7	2.6	0.6	4.8	174	D G B 44	II	层 1b	4.7	4.5	1.0	19.4		
125	C F H 48	2	层 1b	3.2	3.1	0.6	7.2	175	F 114	I	层 1b	4.7	4.4	1.0	26.4		
126	C E H 44区	盛土	1b	2.9	2.3	0.7	5.2	176	C 21号址		1b	4.5	3.9	0.7	16.6		
127	C E H 44区	盛土	1b	3.3	3.2	0.6	8.0	177	C 20号址	周溝	1b	4.5	4.4	0.7	17.3		
128	C F H 48	2	层 1b	4.0	3.8	0.8	12.5	178	D F J 48	盛土	1b	4.1	4.0	1.1	21.5		
129	C F H 48	2	层 1b	3.1	3.0	1.0	9.5	179	E G E 68		1b	4.0	3.8	0.9	14.0		
130	C F E 50	2	层 1b	3.1	3.1	0.9	9.3	180	C F E 58	II	层 1b	4.3	3.5	1.0	15.9		
131	D F H 46	II	层 1b	2.4	2.2	0.8	5.2	181	C F 160	III	层 1b	4.1	4.0	1.0	16.8		
132	C B 52	3	层 1b	2.4	2.2	0.8	5.0	182	D G D 50		1b	4.3	3.9	0.8	14.8		
133	C E H 44区	盛土	1b	3.1	2.8	0.9	7.3	183	D F H 44	II	层 1b	3.9	3.7	1.0	17.8		
134	E F J 68	I	层 1b	4.6	4.5	0.9	15.7	184	E G G 72	III	层 1b	4.4	3.9	0.9	17.3		
135	B 46号址		1b	4.5	4.0	1.1	21.1	185	D F H 44	II	层 1b	4.0	3.5	1.0	17.1		
136	E G A 70	III	层 1b	6.0	5.2	0.7	39.9	186	E G G 80	III	层 1b	4.0	3.6	0.7	13.3		
137	D F 146	II	层 1b	4.8	4.6	0.8	17.7	187	C F G 52	II	层 1b	4.0	3.8	1.0	20.3		
138	B E F 48	3-1	层 1b	6.0	5.6	0.9	25.7	188	E F J 50		1b	3.9	3.7	0.9	13.3		
139	夹探		1b	5.2	4.2	1.0	24.5	189	C F F 46	I	层 1b	4.2	3.6	0.9	17.4		
140	B E F 40	I	层 1b	5.1	4.5	1.1	28.0	190	E G E 68		1b	4.2	3.9	0.7	13.7		
141	A D H 24	I	层 1b	4.3	4.0	1.0	18.5	191	D F H 50	II	层 1b	3.9	3.7	0.8	10.2		
142	B E F 48	3-2	层 1b	4.5	3.9	0.8	14.6	192	D G D 50		1b	4.3	4.1	0.7	12.9		
143	C 20号址	2	层 1b	5.0	4.1	1.0	23.2	193	E G A 70	III	层 1b	4.2	4.0	0.5	10.8	126	
144	E F J 66	III	层 1b	3.5	3.2	0.8	11.9	194	B E F 48	3-1	层 1b	4.0	3.7	1.0	17.5	127	
145	E G E 64	I	层 1b	5.0	4.7	0.8	25.0	195	E G H 68址	2 a	层 1b	3.4	3.1	0.7	9.2	128	
146	C F A 50	I	层 1b	5.0	4.3	0.9	21.7	196	C E 152	II	层 1b	3.5	3.5	0.6	8.8	129	

No	出土地点	层位	分	实				No	出土地点	层位	分	实				
				共	厚	层	版号					共	厚	层	版号	
197	C FH50	II	层 1b	3.6	3.6	1.1	16.7	130	247	C 16号址	I	层 1b	4.3	4.1	1.0	19.0
198	C FA50	II	层 1b	4.3	3.9	1.1	21.9	131	248	D F142	I	层 1b	4.8	4.2	0.6	17.5
199	表探	I	层 1b	3.6	3.5	1.1	15.7	132	249	D FH42	I	层 1b	5.3	5.2	0.6	16.7
200	E GH68住	2 f	层 1b	4.3	3.8	0.8	14.4	133	250	D GA44	I	层 1b	4.7	4.5	0.9	15.8
201	D GA68	III	层 1b	3.6	3.2	0.8	10.1	134	251	E GH68住	3	C 1b	4.3	4.2	1.1	22.8
202	C FH58	II	层 1b	3.8	3.3	0.7	10.7	135	252	E EH36	I	层 1b	4.6	3.7	0.8	17.9
203	B EF48	3-2	层 1b	4.0	3.0	0.7	11.5	136	253	C FJ68	I	层 1b	4.3	3.4	1.0	18.7
204	D F146	II	层 1b	3.8	3.2	0.9	12.1	137	254	E FB28	I	层 1b	2.9	2.7	0.7	6.1
205	D F146	II	层 1b	3.5	3.5	1.1	15.3	138	255	E GE72住	I	层 1b	3.2	2.7	0.6	5.9
206	E F162	II	层 1b	3.3	2.8	0.9	9.0	139	256	E FJ38	I	层 1b	2.9	2.9	0.7	7.8
207	A DB16	I	层 1b	3.5	3.2	1.1	14.8	140	257	D GA50	I	层 1b	3.5	2.8	0.7	7.7
208	D GA54	II	层 1b	4.1	3.8	0.7	15.4	141	258	E EH68住	1	层 1b	3.5	3.2	0.7	8.9
209	E GA70	III	层 1b	4.0	4.0	0.8	13.9	142	259	E GH68住	2	层 1b	3.3	3.2	1.1	13.3
210	A EA28	I	层 1b	3.2	3.0	0.8	8.2	143	260	D GB54	I	层 1b	3.2	3.0	0.7	9.3
211	D F148	II	层 1b	4.3	3.6	0.9	15.6	144	261	E GE72住	I	层 1b	3.9	3.6	0.9	12.9
212	D FH66	II	层 1b	3.8	3.3	0.8	12.0	145	262	C FF50	I	层 1b	4.6	4.6	0.9	19.5
213	C FJ58	II	层 1b	3.0	2.9	1.1	10.2	146	263	C FF62	I	层 1b	3.9	3.5	0.8	11.8
214	C FH60	II	层 1b	3.8	3.5	0.9	14.1	147	264	E GE72住	I	层 1b	4.4	4.2	0.9	17.9
215	E GA66	III	层 1b	3.8	3.6	0.9	12.9	148	265	C FC42	I	层 1b	4.1	3.5	0.7	11.8
216	E FH68	I	层 1b	4.0	3.4	0.8	11.3	149	266	D FJ52	I	层 1b	4.0	4.0	0.9	17.4
217	E F162	I	层 1b	3.5	3.1	0.9	11.0		267	C FG62	I	层 1b	3.8	3.7	1.3	19.0
218	D EF48	3-1	层 1b	2.7	2.6	1.0	7.2		268	D FH40	I	层 1b	4.4	3.4	0.8	12.8
219	E FJ66	III	层 1b	3.7	3.0	0.8	9.6		269	D FG44	I	层 1b	4.1	3.8	0.9	14.4
220	D FJ48	盛土	1b	3.7	3.4	1.0	14.7		270	D GB56	II	层 1b	4.2	3.9	0.8	15.5
221	E GA66	III	层 1b	3.0	3.0	0.8	8.7		271	E 6号址	周	满 1b	4.1	4.0	0.9	15.4
222	E FH62	II	层 1b	3.8	3.2	0.9	11.9		272	D FG44	I	层 1b	3.4	3.2	0.9	12.0
223	D F146	2	层 1b	2.7	2.5	0.8	5.6		273	D GB56	II	层 1b	3.9	3.7	0.8	12.9
224	E FH60	III	层 1b	3.1	3.1	0.7	7.4		274	C F158	I	层 1b	4.0	3.7	0.9	14.9
225	D GA54	II	层 1b	2.7	2.7	0.4	4.3		275	E GH68住	2	层 1b	5.0	3.4	1.2	15.7
226	D FH46	II	层 1b	3.0	2.6	0.5	3.5		276	C FH52	I	层 1b	3.7	3.6	0.8	13.9
227	C FJ58	II	层 1b	2.4	2.4	0.6	4.3		277	C 11号址	周	满 1b	3.6	3.6	1.0	12.7
228	D FH44	II	层 1b	5.2	4.6	0.7	17.7		278	C 21号址	I	层 1b	3.8	3.6	1.2	15.1
229	E FH68	I	层 1b	5.9	5.3	1.2	40.2		279	A DB16	I	层 1b	3.2	3.0	0.8	7.8
230	E FH46	I	层 1b	5.3	5.0	0.7	21.4		280	B EH50	III	层 IIa	5.2	4.6	1.0	26.5
231	E GA70	I	层 1b	4.7	4.6	1.1	21.7		281	C FA44	I	层 IIa	6.0	3.7	0.9	23.0
232	D FJ44	I	层 1b	5.0	4.9	1.1	19.5		282	D FJ50	II	层 IIa	4.9	4.2	1.2	25.5
233	E 6号址	周	满 1b	4.6	4.2	1.1	27.7		283	E GG48	II	层 IIa	5.4	4.7	1.0	26.8
234	D FJ42	I	层 1b	5.0	4.4	0.8	20.4		284	C FC42	I	层 IIa	5.2	4.2	0.9	20.5
235	C FD54	I	层 1b	4.3	3.7	0.8	16.4		285	表探	II	层 IIa	4.9	3.1	1.0	16.1
236	D FG44	I	层 1b	4.4	4.3	0.8	15.6		286	B EF46	III	层 IIa	4.0	3.8	0.9	12.8
237	D GB56	II	层 1b	5.0	4.8	1.0	22.4		287	E FJ68-0住	II	层 IIa	3.5	3.0	1.0	11.8
238	D 3号址	周	满 1b	4.3	4.2	1.0	20.6		288	表探	II	层 IIa	5.0	4.1	1.0	17.9
239	E GH68住	I	层 1b	3.8	3.2	1.0	14.2		289	C FC46	I	层 IIa	4.6	4.3	0.9	17.1
240	D FG44	I	层 1b	4.2	3.7	1.2	18.0		290	B EE46	III	层 IIa	4.1	4.1	0.8	13.7
241	C 22号址	周	满 1b	3.7	3.7	0.9	12.8		291	D FJ50	II	层 IIa	4.2	4.1	0.8	14.2
242	D FC42	I	层 1b	3.8	3.7	1.0	15.5		292	D F142	I	层 IIa	4.1	3.1	0.8	10.4
243	表探	I	层 1b	4.7	4.2	1.0	22.1		293	表探	II	层 IIa	3.8	3.7	0.8	13.6
244	D FF42	I	层 1b	4.6	4.0	0.9	20.3		294	C FG50	II	层 IIa	4.6	2.9	0.6	8.1
245	D F142	I	层 1b	6.1	5.0	0.7	21.5		295	E XI区	I	层 IIa	4.9	3.8	0.7	14.6
246	C FC	I	层 1b	5.5	5.1	0.9	32.0		296	E F164	III	层 IIa	3.8	2.0	0.8	6.8

No	出土地点	层位	分期	实际			图号	No	出土地点	层位	分期	实际			图号
				长	宽	面积						长	宽	面积	
297	E F 170	田	II a	5.1	3.0	1.014.9	321	E GE72住	田	a	5.0	4.7	0.721.8		
298	E GE58	I	层 II a	4.4	3.5	0.913.1	322		II	层 II a	4.1	4.1	1.126.4		
299			II a	3.9	3.8	0.813.5	323	G A52	I	层 II a	5.2	4.2	0.824.7		
300	E GA70		II a	3.2	2.6	0.6 4.8	324	C FE46	II	层 II a	4.6	4.0	1.021.6		
301	B EE48	II	层 II a	2.9	2.8	0.6 5.2	325	C 11号址	周	满 II a	3.7	3.0	0.7 8.9		
302	E FH68	I	层 II a	3.9	3.0	0.8 9.4	326	C FA42	I	层 II a	3.9	3.5	1.219.5		
303	C FH58		II a	4.1	2.8	0.7 9.0	327	D FH46	II	层 II b	5.3	4.8	1.029.4		
304	D FH46	II	层 II a	3.6	3.4	1.012.0	328	D FH44	II	层 II b	4.5	4.1	1.432.9		
305	E F 168	I	层 II a	3.8	3.7	0.610.4	329	D 1号址	周	满 II b	5.5	5.2	1.134.7		
306	C E 150	III	层 II a	5.3	4.9	0.822.0	330	D FH44	I	层 II b	5.3	4.2	0.928.5		
307	C FH52		II b	4.3	4.1	0.815.2	331	D FH38	I	层 II b	5.2	5.0	1.441.9		
308	D F 148	II	层 II b	5.0	4.3	0.816.0	332	D F 144	I	层 II b	5.3	4.7	0.827.7		
309	C EE46	III	层 II b	4.0	3.0	0.6 6.7	333	D GA50	II	层 II b	4.5	4.0	0.920.8		
310	C FC46	I	层 II b	4.6	4.2	0.918.5	334	C FCS2	I	层 II b	4.5	3.7	0.918.5		
311	B EF48	III	层 II b	3.7	3.7	0.6 8.2	335	D F 142	I	层 II b	3.2	3.0	0.911.0		
312	D F 146	虚土	II b	4.5	3.3	0.915.5	336	E GH68住	1	层 II b	4.4	3.5	0.713.8		
313	E GH68住	2 a	层 II b	4.5	4.2	0.610.0	337	E GG76	I	层 II b	5.1	4.4	0.821.4		
314	D FF40		III a	4.3	4.2	0.714.5	338	D F 148	II	层 I b	6.5	5.7	1.148.0		
315	E GA68	III	层 III a	4.9	4.4	0.922.1	339	D GA50	III	层 I b	7.1	6.3	1.055.0		
316	D F 142	I	层 III a	3.9	3.6	0.918.2	340	C FG48	II	层 I b	6.5	5.9	0.737.6		
317	夹探		III a	4.1	3.7	1.019.0	341	E GA70	III	层 I b	6.8	6.3	1.048.2		
318	C FDS2	I	层 III a	3.5	3.4	0.6 9.6	342	C FDS0	I	层 III a	5.9	5.4	1.140.1		
319	C 20号址	周	满 III a	4.1	3.6	0.815.0	343	C F 168	II	层 III a	4.7	4.2	0.818.2		
320	E EH36	I	层 III a	4.7	3.6	0.818.9									

表10 出土特殊土器観察表

A脚付土器

B皿型脚付土器

Cミニチュア土器

D三足土器 ×文損品 (器形を復元出来ないもの) ○彩色土器

No	出土地点	層位	分類	実測				No	出土地点	層位	分類	実測			
				長さ	幅	厚さ	高さ					長さ	幅	厚さ	高さ
1			A	3.8	5.1	0.4	7.9	30	E FJ66	3	層C	2.2	3.3	0.3	3.6
2	C GA58	2	層C	4.4	4.4	0.7	41.9	31	E GA68	II	層C	2.8	4.2	0.3	9.7
3	D GB44	II	層A	3.4	4.0	1.9	23.5	32	E GE36	P-3	C	3.5	4.5	0.3	17.3
4	C 20号址	周溝	A	3.9	3.7	0.3	12.8	33	D GA68	III	層C	3.0	4.0	0.4	19.4
5	D 5号址	周溝	A	2.8	3.7	0.3	25.1	34	D 2号址	周溝	C	3.3	3.8	0.4	12.3
6	D 3号址	周溝	A	2.1	4.5	2.3	25.3	35	E GH68住	2	層C	2.8	2.6	0.2	3.2
7	D FG38	I	層A	4.0	4.3	0.5	25.9	36	E GA72	I	層C	2.0	3.8	0.4	7.2
8	D FJ66	3	層A	3.8	3.9	2.3	31.9	37	C FC56		C	1.5	3.3	0.5	14.5
9	C FAS2	I	層C	3.1	1.6	0.5	7.9	38	E GA70	盛土	C	2.7	4.3	0.3	18.2
10			A	2.8	3.2	0.6	14.4	39	C FDS2	I	層C	1.3	3.7	0.4	7.0
11	E GC60		A	9.1	10.1	1.0	219	40	D FH36		C	1.9	3.9	0.5	16.0
12	E F164	III	層A	6.2	6.0	1.0	169	41	D GA48		C	1.4	3.6	1.0	21.8
13	D FH38	I	層A	5.1	7.5	0.6	165	42	C FA48	I	層C	2.1	2.3	0.3	7.9
14	C FF50	P-1	A	3.6	5.1	0.5	94.5	43	D F146	I	層C	1.0	2.5	0.8	7.3
15	B EF46	II	層B	4.4	6.1	0.6	24.3	44	D F150	I	層C	1.0	2.7	0.3	7.3
16	E GH68住	2	b層C	6.4	5.0	0.4	29.3	45	C FJ68	I	層C	1.2	3.0	0.4	7.7
17	D F146	P-4	C	5.4	5.8	0.4	49.2	46	C FB40	II	層C	1.3	2.3	0.3	5.9
18	E FJ66住	3	層C	4.0	4.3	0.3	20.3	47	C FH50	II	層C	2.0	2.1	0.3	4.7
19	C FC45	I	層C	4.8	5.5	0.5	69.4	48	C 21号址	周溝	C	1.6	2.3	0.4	6.1
20			C	4.5	4.5	0.4	37.0	49	C FF48	I	層C	1.2	1.3	0.5	4.3
21	C 16号址	周溝	C	3.5	3.6	0.6	35.8	50	D FJ50	I	層C	2.2	4.2	0.3	11.0
22	E GH44	II	層C	3.1	4.2	0.4	31.2	51	C EJ50		C	1.2	2.4	0.6	6.8
23	D F148	II	層C	3.3	3.2	0.4	14.0	52	E GD80		C	1.0	3.1	0.6	10.3
24	F HH148	P-1	C	3.0	3.5	0.3	9.6	53	C EH40	I	層C	1.2	2.3	0.3	3.2
25	F HH68住	C	L	5.0	4.7	0.3	32.0	54	C FE48		C	1.7	2.2	0.4	5.4
26	C FC40	I	層C	3.8	4.0	0.3	21.2	55	D FH48	II	層C	2.2	2.4	0.5	3.7
27	C FBS2	I	層C	5.0	4.1	0.5	44.2	56	C EI38	I	層C	4.5	4.5	0.4	11.0
28	E F164住	3	層C	3.5	4.5	0.3	32.5	57	F HC106	III	層D	4.5	3.5	3.4	21.2
29	C 12号址	周溝	C	2.2	3.2	0.3	10.0								

表11 出土石製品観察表

×欠損品 ○彩色石製品

No	出土地点	層位	分類	実測値				備考	No	出土地点	層位	分類	実測値				備考
				長さ	幅	厚さ	重さ						長さ	幅	厚さ	重さ	
1	E GH60住	2 b 層	有孔石製品	4.6	4.6	1.3	19.1	A	20	D FH44	II 層	不明	4.8	1.1	0.6	2.8	P ×
2	D GA44	1 層	有孔石製品	3.7	3.7	2.1	17.6	A	21	D FJ50	II 層	線刻磨	4.8	4.4	3.6	70.2	A
3	D GB44	1 層	有孔石製品	2.9	3.8	1.1	8.4	A ×	22	D FH40	I 層	不明	5.3	4.5	2.4	37.9	A ×
4	D GB56	II 層	有孔石製品	7.1	3.1	1.3	30.1	J	23	D 4号址	周溝	不明	4.1	1.7	0.6	8.7	N ×
5	D GB44	3 b 層	有孔石製品	3.6	2.4	0.4	5.0	G	24	F H136	I 層	有孔石製品	4.0	3.0	0.5	9.2	B
6	F HF148	C L 大塚		3.8	3.5	1.6	34.3	I ×	25	C FI56	II 層	磨製石斧	3.3	1.9	0.5	4.3	N ×
7	E GE46	3 層	有孔石製品	5.5	2.4	0.5	8.6	B	26	C 21号址	周溝	磨製石斧	3.7	1.6	0.6	6.3	N
8	C 21号址	周溝	有孔石製品	2.2	1.1	0.8	1.9	N	27	C FF50	II 層	磨製石斧	4.7	1.7	0.5	7.6	N
9	C 22号址	周溝	有孔石製品	1.2	0.6	0.4	0.5	N ×	28	C 2号址	周溝	磨製石斧	4.7	1.9	0.4	4.9	N
10	C 16号址	周溝	有孔石製品	1.9	1.1	0.7	1.9	I	29	C E144	I 層	磨製石斧	2.7	2.4	1.0	9.3	G ×
11	F GA116	C L	有孔石製品	11.6	2.4	1.1	43.6	S	30	C 12号址	周溝	磨製石斧	3.6	1.9	0.6	8.3	G ×
12	C 17号址		有孔石製品	4.3	3.4	1.3	17.9	A ×	31	D GA44	I 層	有孔石製品	1.2	1.1	0.6	0.7	H
13	F I 区	盛土	有孔石製品	5.3	4.0	0.5	15.5	J ×	32	D FG40	II 層	有孔石製品	3.9	3.7	1.1	15.4	H ×
14	F HH146	C L	有孔石製品	8.0	1.8	1.2	26.9	G ×	33	C FF50土		有孔石製品	5.1	2.1	0.7	7.3	G
15	D FH40	I 層	不明	4.0	3.9	0.9	17.8	A ×	34	D GD50	C L	線状石製品	3.6	3.7	0.9	8.6	S
16	C FI58	II 層	有孔石製品	12.0	1.9	1.3	47.9	G	35	D 5号址	I 層	線刻磨	5.5	3.7	0.6	2.5	E
17	D FE40	I 層	有溝磨(石鏃)	7.8	2.7	2.2	51.1	A	36	C E140	I 層	有孔石製品	9.1	3.4	7.4	56.1	F
18	E FI62	II 層	線刻磨	6.1	4.9	1.8	53.8	G	37	A C118住		有孔石製品	5.7	4.8	4.0	146	C
19	E GH60住	2 a 層	線刻磨	8.4	5.8	2.3	118	G									

V. 鑑定及び分析

1. 花粉分析・炭化材同定・種子同定

髙橋バリエ・サーヴェイ

はじめに

御所野遺跡（岩手県二戸郡一戸町岩館字御所野）は、馬淵河右岸の中位段丘面（一戸段丘面）に立地する（一戸町教育委員会、1990）。この一戸段丘は、丸山・松山によれば低位段丘面に区分されている（丸山・松山、1989）。

本遺跡では、これまでに縄文時代から平安時代にわたる遺構・遺物が検出されている。とくに縄文時代中期後半（大木 8 a 式期～大木 10 式期）の集落跡が確認され、同時期の配石遺構・フラスコ形土壌・ピット群・捨て場などが検出されている。また、8 世紀～9 世紀に築造された古墳群（円墳）も確認され、当時本遺跡では基城であったことも明らかにされている。

今回、一戸町教育委員会より縄文時代中期を中心とした本遺跡周辺地域の古植生推定などに関する分析調査依頼が当社にあった。平成 4 年 8 月 17 日に当社技師が現地調査を行い、同教育委員会と分析調査に関する協議および資料採取を行った。

1. 分析調査依頼について

(1) 縄文時代中期後半（大木 8 a～10 式期）の古植生推定

本遺跡では、縄文時代中期後半（大木 8 a～10 式期）とされるフラスコ形土壌が数基検出されている。フラスコ形土壌は、従来の考古学的見解では貯蔵穴とされている。

今回、縄文時代中期の古植生を復元したいとのことから、フラスコ形土壌の埋積土について花粉分析調査を行い、当時の古植生を推定することとした。現地調査にはおいてフラスコ形土壌の埋積土を観察した結果、黒ボク土が主体的であり、花粉化石の保存が悪いと判断した。しかし、当時の古植生を明らかにしたいという強い要望からフラスコ形土壌（FG 48 土壌）の埋積土から試料を採取し、花粉分析概査を行い、花粉化石の有無を調べ、可能な限り当時の古植生について検討することとした。さらに、後述する種子同定・材同定の結果から当時の古植生に関する資料を得ることとした。

(2) 縄文時代中期住居址内出土種子および捨て場出土種子の同定

縄文時代中期後半の住居址および捨て場、遺物包含層中から炭化種子が検出されている。出土した炭化種子は、当時食用として利用されていたと推測される。

住居址内から出土した炭化種子は、住居址床面直上と埋積土中からそれぞれ検出されている。住居址埋積土中から検出された炭化種子は、住居廃絶後に周囲から混入してきたものと考えられる。

今回は、住居址・捨て場および遺物包含層中から検出された炭化種子について同定を行い、

種類を明らかにするとともに、縄文時代中期後半の古植生に関する資料を得ることとした。

(3) 縄文時代中期末住居址内出土炭化材および柱穴内出土炭化材の同定

縄文時代中期の住居址内から炭化材が検出された。これらの住居址は焼失住居址と考えられており、出土した炭化材は建築用材と推測されている。また、住居址内の炉址内埋積土からも炭化材が検出されているが、この炭化材は炉の燃料材と推測されている。

また、本遺跡では、縄文時代中期とされるピット群が検出されている。これらのピットは、土層断面観察から柱材が存在していたと考えられている。本遺跡では、配石遺構など祭祀遺構が数基確認されているが、今回の調査より検出されたピット群が祭祀的性格を意味するものなのか詳細は不明である。ピット内からは炭化材片が多数検出されており、これらの炭化材は柱材と推測されている。ただし、埋積土中からは焼土など焼失した痕跡を示すものは確認されなかった。

今回は、住居址内から検出された炭化材およびピット群から検出された炭化材について材同定を行い、建築用材および燃料材の樹種を明らかにする。また、本分析調査では、当時の古植生に関する情報も得る。

2. 縄文時代中期後半（大木 8 a～10 式期）の古植生推定

(1) 試料

試料は、フラスコ形土壌（FG 48 土壌）の埋積土から合計 8 点（試料番号 1～8）を採取した（図 1）。採取した試料は、一般に「黒ボク土」と呼ばれている風成の火山灰土である。このような好気的環境下で堆積した土壌は、花粉化石の保存状態が悪いため、今回は花粉化石の有無を調べる概査を行い、可能な限り古植生に関する資料を得ることとした。

分析調査の対象とした試料は、試料番号 2～4 の 3 点である。

(2) 分析方法

試料約 10 g について、水酸化カリウム処理による泥化と腐植酸の溶解、0.25 mm の篩を通し、大型植物遺体や碎屑物の除去、重液分離（臭化亜鉛：比重 2.2）による有機物の濃集、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトシリス処理（無水酢酸：水酢酸＝9：1）によるセルロースの分解の順に行う。

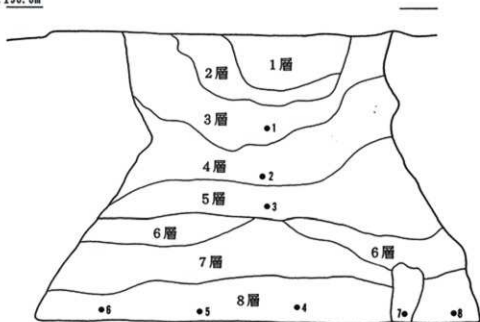
処理後の残渣の一部についてグリセリンで封入して、プレパラートを作製し、花粉化石の保存状態について観察した。

(3) 結果および今後の課題

今回分析調査の対象とした試料 3 点（試料番号 2～4）からは、花粉化石は検出されなかった。一般花粉化石は、好気的環境下では分解することが知られている。これらの試料は、先述のように風成の火山灰土であることから、好気的環境下において分解・消失してしまったと思われる。

したがって、花粉分析により縄文時代中期の遺跡周辺地域の古植生について検討することは困難であった。しかし、後述する種子や炭化材の同定結果から周辺の植生について推定することが可能である。本遺跡から検出される種子や炭化材は、その用途・性格を考えれば、比較的遺跡周辺の植生を反映していると考えられる。同定されている種類は、モモを除いていずれも温帯～冷温帯に分布する落葉広葉樹である。したがって、当時の本遺跡周辺の後背山地などでは、落葉広葉樹が分布していたと推測される。今後は花粉化石などの保存が比較的良好な低地堆積物を対象として再検討することが望まれる。

T. P. 193. 5m



S=20/1

●：試料採取位置（数字は試料番号を示す）

（花粉分析として試料番号2・3・4を選択した）

層相

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1層：黒褐色土 | 6層：黒色土・黒褐色土との混土 |
| 2層：黒褐色土 | 7層：黒褐色土と黒色土との混土 |
| 3層：黒褐色土と暗褐色との混土 | 8層：黒色土で壁際の黄褐色土 |
| 4層：黒褐色土と褐色土との混土 | (褐色土と淡黄褐色土がブロック状に含まれている) |
| 5層：褐色土・黄褐色土・黒褐色土・淡黄褐色土との混土 | |

図1 フラスコ形土壌（FG 48土壌）断面図および試料採取位置

（層相は、添付資料に基づいた）

3. 縄文時代住居跡内出土種子および盛土内出土種子の同定

(1) 試料

試料は、縄文時代中期の住居址・捨て場および遺物包含層中から検出された炭化種子 15 点である (表 1)。

(2) 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、その形態的特徴から種類を同定する。

(3) 結果

結果を表 1 に示す。検出された種類は、クリ、モモ、オニグルミの 3 種類である。以下に形態的特徴を記す。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

核の破片が得られた。ほとんどは細片であり大きいものでも約 2 cm 程度。核は硬く、表面にはしわ状構造が存在し、裏面には子葉が入っていたくぼみがあり、複雑に入り組んでいる。

・クリ (*Castanea crenata* Siebold et Zuccarini) ブナ科クリ属

子葉が得られた。大きさは約 1.5 cm 程度。表面は粗いしわがみられる。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核が得られた。側面観は円形に近い卵形～楕円形、上面観は楕円形～両凸レンズ形。大きさは 2 cm 前後で、小型で丸みを帯び球形に近い。一方の側面に目立つ縫合線がみられ、表面にモモ特有の隆起の構造が存在するが、炭化が著しく不明瞭である。

(4) 考察

今回検出された種類は、いずれも古くから食用とされてきたものであり、当時オニグルミやクリが食用として利用されていたものと考えられる。これらは周辺の森林から採取されていたと思われるが、とくにクリは縄文時代から半栽培されていたことを指摘する報告もなされている (辻, 1989; 千野, 1983)。今回の調査では、後述する材同定でもクリが検出されており、千野 (1983) の指摘したような半栽培の可能性もあ

表 1 種子同定結果

試料名	種類
GSN-90 GH68-01住 2層	オニグルミ; 5
GSN-90 GH68-01住 2層	クリ; 1
GSN-90 GH68-01住 4層	同定不能 (クリ?); 3
GSN-90 FJ46配石 P№1	同定不能; 3
GSN-90 FC52 2層	同定不能; 6
GSN-91 HB120住 №1 2層	オニグルミ; 20
GSN-91 HB120住 №3 2層	オニグルミ; 6
GSN-91 HB120住 南側ベルト3層	オニグルミ; 2、同定不能; 2
GSN-91 GC100住 1層 №1	オニグルミ; 5
GSN-91 盛土	オニグルミ; 132
GSN-92 FJ46 №1	同定不能 (モモ?); 8
GSN-92 FJ46 №2	同定不能 (モモ?); 5
GSN-92 FJ46 №3	モモ; 2、同定不能 (モモ?); 2
GSN-92 FBS2 2回目 6.5 №1	モモ; 5
GSN-92 FBS2 2回目 炭化物 №1	クリ; 1

る。しかし、今回の調査で断言することはできず、今後さらに資料の蓄積を行うとともに考古学的所見に基づく検討も必要であろう。また、モモは古い時代に渡来した栽培植物で、国内で最古とされるモモの出土例は長崎県伊木力遺跡の縄文時代前期のもと考えられている(粉川、1988)。しかし、その渡来時期については明確ではない。本遺跡では8世紀～9世紀の古墳群も確認されており、今回検出されたモモは古墳時代の包含層から混入した可能性もある。したがって、今回の結果から縄文時代中期後半のモモの栽培を断定することはできない。今後モモの種子について、放射性炭素(^{14}C)年代測定を行い、年代に関する情報を得る必要がある。

4. 縄文時代中期後末住居址内出土炭化材および柱穴内出土炭化材の同定

(1) 試料

試料は、縄文時代中期の住居址や pit 等から検出された、建築材や燃料材と考えられる炭化材 37 点である。試料には、当社にて便宜上 No.1～No.37 試料番号を付した(表 2)。本報文中では、試料名は全てこの試料番号で表示する。また、No.25、26 と No.27、28 は、それぞれ同一の試料名が付されていたため、試料名の後にハイフン(-)で 1、2 の番号を付して表記した。

(2) 方法

試料を乾燥させたのち、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の 3 断面を複製、走査型電子顕微鏡(無蒸着・反射電子検出型)で観察・同定する。

(3) 結果

同定結果を表 2 に示す。No.25、31 の試料中には 2 種類の炭化材が認められたため、それぞれ試料番号に a、b を付して表記した。各種類の主な解剖学的特徴や現生種の一般的性質等を以下に記す。なお、学名・和名等については、主として「原色日本植物図鑑 大木編 I・II」(北村・村田、1971、1979)に従い、一般的性質については、「木の辞典 第 1 巻～第 17 巻」(平井、1979～1982)も参考にした。

・アサダ (*Ostrya japonica* Sarg.) カバノキ科

試料名: No.34

散孔材で、管孔は単独または放射方向に 2～4 個が複合、横断面で楕円形管壁は薄い。道管は単穿孔を有し、内側にらせん肥厚が認められる。壁孔は交叉状に配列する。放射組織は(同性～)異性 III 型、1～4 細胞幅、1～30 (50) 細胞高。柔組織は短接線状。年輪界はやや不明瞭。以上の特徴からアサダに同定した。

アサダは北海道(中南部)・本州・四国・九州に分布する落葉高木である。材は重硬で、割裂性は小さく、加工は困難である。器具・家具・機械・建築材などに用いられ、強度を必要とする用途に適している。またサクラの模倣材として市場に出されることもある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus* sp.) ブ

ナ科

試料名：№32、35

環孔材で孔圈部は1~2列、孔圏外で急激に管径を減じた後、漸減しながら火炎状に配列する。大道管は管壁厚く、横断面では円形~楕円形、小道管の管壁は中庸~薄く、横断面では多角形、ともに単独。単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものとの複合放射組織とがある。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。以上の特徴からコナラ属コナラ亜属コナラ節の一種に同定した。

コナラ節は、コナラ亜属(落葉ナラ類)の中で、果実(いわゆるドングリ)が1年目に熟するグループで、モンゴリナラ(*Quercus mongolica* Fischer ex Turcz.)とその変種ミズナラ(*Q. mongolica* Fischer ex Turcz. var. *grosseserrata* (Bl.) Rehder et Wilson)、コナラ(*Q. serrata* Murray)、ナラガシワ(*Q. aliena* Blume)、カシワ(*Q. dentata* Thunberg)といくつかの変・品種を含む。モンゴリナラは北海道・本州(丹波地方以北)に、ミズナラ・カシワは北海道・本州・四国・九州に、ナラガシワは本州(岩手・秋田県以南)・四国・九州に分布する。コナラは樹高20mになる高木で、古くから薪炭材として利用され、植栽されることも多かった。材は重硬で、加工は困難、器具、機械、樽材などの用途が知られ、薪炭材としてはクスギ(*Q. acutissima* Carruthers)に次ぐ優良材である。枝葉を緑肥としたり、虫えいを染料とすることもある。

・クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科

試料名：№1-18、20-23、25 a、26-28、31 b、35、37

環孔材で孔圈部は1~4列、孔圏外で急激に管径を減じた後、漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では円形~楕円形、小道管は単独および2~3個が斜(放射)方向に複合、横断面では角張った楕円形~多角形、ともに管壁は薄い。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。以上の特徴からクリに同定した。

クリは北海道南西部・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、加工はやや困難であるが耐久性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、楕木や海苔祖染などの用途が知られている。樹皮からはタンニンが採られ、果実は食用となる。

・ニレ属の一種(*Ulmus* sp.) ニレ科

試料名：29、30

環孔材で孔圈部は1~3列、孔圏外で急激に管径を減じた後に漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。大道管は中庸、横断面では円形~楕円形、単独、小道管の管壁厚は中庸~薄

く、横断面では多角形で複合管孔をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1~6細胞幅、1~40細胞高。柔組織はターミナル状および周囲状。年輪界は明瞭。以上の特徴からニレ属の一種に同定した。

ニレ属にはアキニレ (*Ulmus parvifolia* jacquin)、ハルニレ (*U. davidiana* Planchonver. japomoca (Rehder) Nakai)、オヒョウ (*U. laciniata* (Trautv.) Mayr) の3種がある。アキニレは本州(長野・静岡県以西)・四国・九州に、ハルニレ・オヒョウは北海道・本州・四国・九州に生育するが、ハルニレは北海道・本州北部に多く、オヒョウは北海道に多いが他の地域では少ない。ハルニレの材は中程度~やや重硬で、割裂性は小さく、加工はやや困難、保存性は低い。器具・家具・建築材などに用いられるほか、樹皮は布・縄・紙の原料となった。

・カエデ属の一種 (*Acer* sp.) カエデ科

試料名: 31 a

散孔材で管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および2~3個が複合、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列~交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1~5細胞幅、1~30細胞高で時に100細胞高を越える。柔組織はターミナル状、周囲状または随伴散在状、接線状。年輪界はやや不明瞭。以上の特徴からカエデ属の一種に同定した。

カエデ属には、イタヤカエデ (*Acer mono* Maxim. subsp. *marmoratum* (Nicholson) Kitamura) やイロハモミジ (*A. palmatum* Thunb.) など約25種が自生し、また多くの品種があり植栽されることも多い。属としては琉球を除くほぼ全土に分布する落葉高木~低木である。一般に材はやや重硬・強靱で、加工はやや困難、保存性は中程度である。器具、家具、建築。装飾・施作・薪炭材などに用いられる。

・ケンボナシ属の一種 (*Hovenia* sp.) クロウメモドキ科

試料名: No33

環孔材で孔圏部は1~3列、孔圏外で急激に管径を減じた後に漸減する。大道管の管壁厚は中庸、横断面では楕円形、単独、小道管の管壁は厚く、横断面では円形~楕円形、単独および放射方向に2~3個が複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性III~II型、1~5細胞幅、1~50細胞高。柔組織は周囲状。年輪界はやや明瞭。以上の特徴からケンボナシ属の一種に同定した。

ケンボナシ属には、ケンボナシ (*Hovenia tomentella* (Makino) Makino) とケンボナシ (*H. dulcis* Thunb.) の2種がある。ともに落葉高木で、ケンボナシは本州・四国にケンボナシは北海道(奥尻島)・本州・四国・九州に自生する。材の重さ・硬さは中程度で、加工は容易、材質は良好である。このため建築装飾材・家具材として賞用され、器具・楽器。施作・薪

炭材などにも用いられる。

・トネリコ属近似種 (cf. *Fraxinus* sp.) モクセイ科

試料名: No24

環孔材で孔部は2~3列、孔間外で急激に管径を減じた後に漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形~楕円形、単独または2個が複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は小型で密に交互状に配列する。放射組織は同性(~異性III型)、1~3(5)細胞幅、1~40細胞高であるが、20細胞高前後のものが多い。柔組織は周囲状。年輪界は明瞭。以上の特徴からトネリコ属が最も近いと考えられるが、確実な同定には至らず近似種とした。

トネリコ属には、シオジ(*Fraxinus spaethiana* Lingelsh.)、トネリコ(*F. japonica* Blume.)、アオダモ(*F. serrata* (Nakai) Murata) など約8種が自生する。このうちヤマトアオダモ(*F. longispis* Sieb. et Zucc.)・マルバアオダモ(*F. siebodiana* Blume.)・アオダモは北海道・本州・四国・九州に、ヤチダモ(*F. mandshurica* Rupr. var. *japonica* Maxim.)は北海道・本州(中部地方以北)に、トネリコは本州(中部地方以北)に、シオジは本州(関東地方以西)・四国・九州に分布する。いずれも落葉高木である。材の性質は種によって異なるが、一般には中庸~やや重硬で、韌性があり、加工は容易で、建築・器具・家具・施作・薪炭材などの用途が知られる。

(4) 考察

建築材・燃料材とされる炭化材は、その多くがクリであった。クリの材は、前述のように強度・耐朽性ともに高いため、柱材や垂木等の部材として適当な樹種といえる。東北地方では、青森県を中心に縄文時代中期~晩期の遺構出土材の同定が数多く行われている(例えば、嶋倉、1981、1984 a等)。御所野遺跡に比較的近い場所でも八戸市菰窪遺跡(嶋倉、1983 a)、か鶯窪遺跡(嶋倉、1983 b)、鴨平(2)遺跡(嶋倉、1982)等で材同定が行われている。これらの結果では、いずれもクリがは多く検出されており、縄文時代にクリが有用材として認められ使用されたことが推定される。また、68号住居址以外の住居址では、ニレ属やカエデ属のようにクリ以外の建築材も認められる。これらの試料の出土状況や形状が不明であるため、これらが全て建築材であるか否かの判断は困難である。しかし、同定された樹種は、いずれも青森県等で行われた発掘調査でも出土例があり、御所野遺跡でも建築材として使用された可能性がある。特に垂木のような部位であればクリ以外の材でもその機能は充分果たせたと考えられる。したがって、今回の試料が実際に建築材だとすれば、主柱のような部位ではなく、垂木のような部位に使用されたものと考えられる。また、その選択基準は、用いられる材の大きさ等を考えると遠方から搬入したものではなく、周辺に生育していた樹木の中から使用する部位に必要な強度・大きさ(径・長さ)・形状等の条件を満たしているものであったと考えられる。

ところで、千野（1983）は、縄文時代にクリが多く出土することについて、若木を食料源とし、老木は建築材や燃料材に使用したとするクリの半栽培等を推定している。今回の調査では、炭化種子にクリが同定されており、本遺跡でもクリが建築材や燃料材以外に食料としての役割を持っていたことが推定できる。前述のように建築材は比較的遺跡周辺で入手していた可能性がある。

また、最近では関東地方を中心とした材同定の結果から縄文時代と弥生時代以降では用材に変化が見られ、弥生時代以降はクリの使用が減少することも指摘されている（千野、1991）。東北地方で、青森県の大石遺跡（1）（嶋倉、1984）、岩手県の湯舟沢遺跡（松田、1987）等で弥生時代の材同定が行われているが、用材選択を検討するには資料数が少ない。縄文時代も含めて今後さらに資料を蓄積していく必要があろう。

表2 炭化材同定結果

番号	検出遺構・試料名	用途	樹種名
1	GSN-90 GH 68 住 炉の内土	燃料材？	クリ
2	GSN-90 GH 68 住 壇状施設内ビット	燃料材？	クリ
3	GSN-90 GH 68 住 No8	建築材	クリ
4	GSN-90 GH 68 住 No9	建築材	クリ
5	GSN-90 GH 68 住 No10	建築材	クリ
6	GSN-90 GH 68 住 No11	建築材	クリ
7	GSN-90 GH 68 住 No12	建築材	クリ
8	GSN-90 GH 68 住 No15	建築材	クリ
9	GSN-90 GH 68 住 No16	建築材	クリ近似種
10	GSN-90 GH 68 住 No17	建築材	クリ
11	GSN-90 GH 68 住 No23	建築材	クリ
12	GSN-90 GH 68 住 No24	建築材	クリ
13	GSN-90 GH 68 住 No25	建築材	クリ
14	GSN-90 GH 68 住 No26	建築材	クリ
15	GSN-90 GH 68 住 No29	建築材	クリ
16	GSN-90 GH 68 住 No30	建築材	クリ
17	GSN-90 GH 68 住 No32	建築材	クリ
18	GSN-90 GH 68 住 No33	建築材	クリ
19	GSN-90 GA 70 トレンチNo1	燃料材？	広葉樹（環孔材）
20	GSN-91 HB 120 住 北側・炉周辺落込み	燃料材？	クリ
21	GSN-91 HB 120 住 No1	建築材	クリ近似種
22	GSN-91 HB 120 住 No1 3層	建築材	クリ
23	GSN-91 HB 120 住 No2 4層	建築材	クリ
24	GSN-91 HB 120 住 No5	建築材	トネリコ属近似種
25 a	GSN-91 HB 120 住 4層-1	建築材	クリ
25 b	GSN-91 HB 120 住 4層-1	建築材	広葉樹（散孔材）
26	GSN-91 HB 120 住 4層-2	建築材	クリ
27	GSN-91 HD 114 住-1	建築材	クリ
28	GSN-91 HD 114 住-2	建築材	クリ

番号	検出遺構・試料名	用途	樹種名
29	GSN-91 HD 114 住 №1・2(a)層	建築材	ニレ属の一種
30	GSN-91 HD 114 住 №2・2(a)層	建築材	ニレ属の一種
31 a	GSN-91 GB 44 壁穴 №1	建築材	カエデ属の一種
31 b	GSN-91 GB 44 壁穴 №1	建築材	クリ
32	GSN-91 GB 44 住 №24 層	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
33	GSN-91 GB 44 トレンチ GA 44 1 ②層検出面下	燃料材?	ケンボナシ属の一種
34	GSN-91 GB 44 トレンチ GB 44 1 層検出面下	燃料材?	アサダ
35	GSN-92 FB 52 トレンチ FC 52 №1	燃料材?	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
36	GSN-92 FB 52 トレンチ FC 52 pit №1	燃料材?	クリ近似種
37	GSN-92 FG 50 トレンチ pit №16	燃料材?	クリ

5. まとめ

プラスチック土壌 (FG 48 土壌) から採取した試料の花粉化石の保存状態が悪く、花粉分析で縄文時代中期の周辺地域の古樹生について検討することは困難であった。しかし、種子同定および材同定結果によりクリが検出され、周辺地域に生育していたと推定された。また、種子同定によりオニグルミが検出され、当時食用として利用されていたと考えられる。モモについては、縄文時代の遺物包含層中から検出される例が全国的に少ないため、当時モモの栽培に関する検討は充分に行われていない。モモが検出された住居地の上位では、8世紀～9世紀に築造された古墳群が確認されており、古墳が築造された時期に混入した可能性もある。したがって、縄文時代中期の本遺跡においてモモが食用として利用されていたものか否か詳細な検討は難しい。

住居地の建築材にはクリ材が多かった。食用以外にも有用なクリは、縄文時代に半栽培として行われていたことが千野 (1983) によって指摘されている。今回の調査でも種子および材が同定されているので、本遺跡の栽培に関する検討を行うべきだが、今後さらに資料を蓄積した上で詳細に検討する必要がある。また、関東地方を中心とした住居址内出土の材同定結果では、縄文時代と弥生時代以降とで用材に変化が認められ、弥生時代以降にはクリの使用が減少することが指摘されている。東北地方では弥生時代の住居地の建築材に関する資料が少ないために、そのような変化が見られるのか比較検討はできないが、縄文時代についてみれば、おもにクリ材が用いられたと推測する。

引用文献

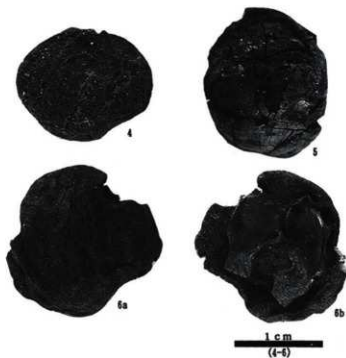
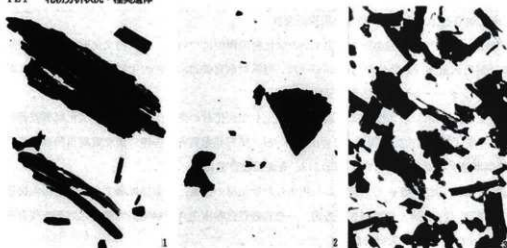
平井信二 (1979-1982) 木の辞典 第1巻～第17巻、かなえ書房

一戸町教育委員会 (1990) 一戸町文化財調査報告書第26集「御所野遺跡 -平成2年度御所野遺跡発掘調査概報-」、p.1-3

北村四郎・村田 源 (1971, 1979) 原色日本植物図鑑 本文編 I・II、453 p、545 p、保育社。
粉川昭平 (1988) 穀物以外の植物食。金関 恕・佐原 眞編「弥生文化の研究 2 生業」、p.112-115、雄山閣

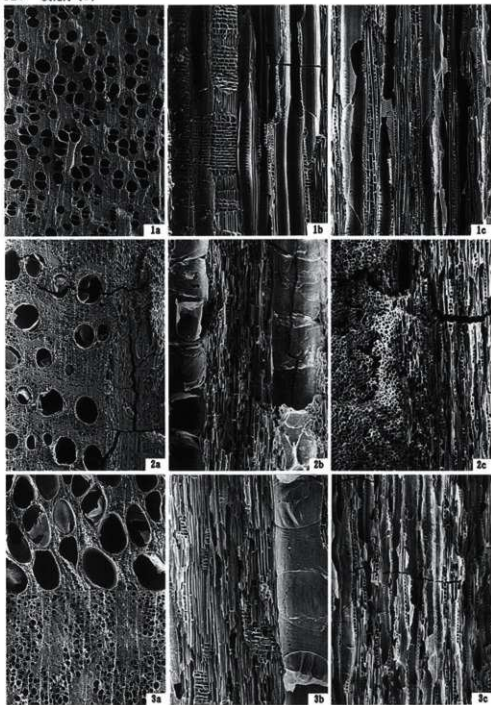
- 丸山俊明・松山 力 (1989) 三戸-八戸地域。生出慶司・中川久夫・蟹沢 聰編「日本の地質 2 東北地方」、p.140-148、共立出版株式会社
- 松田隆嗣 (1987) 湯舟沢遺跡より出土した炭化材の樹種について、滝沢村文化財調査報告書第 2 集「湯舟沢遺跡 (第 2 分冊)」、p.867-872、滝沢村教育委員会・磐岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター・トーマン住宅開発株式会社
- 嶋倉巳三朗 (1981) 右エ門次郎窪遺跡から出土した炭化材の樹種、青森県埋蔵文化財調査報告書第 69 集「右エ門次郎窪遺跡・三合山遺跡・石ノ窪石発掘調査報告書 東北縦貫自動車道八戸線関係埋蔵文化財調査報告書 I」、p.213、青森県教育委員会
- 嶋倉巳三朗 (1982) 鴨平 (2) 遺跡から出土した炭化材の樹種、青森県埋蔵文化財調査報告書第 73 集「鴨平 (2) 遺跡 発掘調査報告書 -東北縦貫自動車道八戸線関係埋蔵文化財調査報告書 IV-」、p.235、青森県教育委員会
- 嶋倉巳三朗 (1983 a) 葦窪遺跡出土炭化材の樹種調査報告、青森県埋蔵文化財調査報告書第 84 集「葦窪遺跡 -東北縦貫自動車道八戸線関係埋蔵文化財調査報告書 VII-」、p.392-393、青森県教育委員会
- 嶋倉巳三朗 (1983 b) 鶴窪遺跡の炭化材、青森県埋蔵文化財調査報告書第 76 集「鶴窪遺跡 発掘調査報告書」、p.106、青森県教育委員会
- 嶋倉巳三朗 (1984 a) 尻高 (4) 遺跡出土の炭化材について、青森県埋蔵文化財調査報告書第 89 集「尻高 (2)・(3)・(4) 遺跡発掘調査報告書」、p.235、青森県教育委員会
- 嶋倉巳三朗 (1984 b) 大石平遺跡 (1) 出土の炭化材、青森県埋蔵文化財調査報告書第 90 集「大石平遺跡 -むつ小川原開発事業関係埋蔵文化財調査報告書-」、p.495、青森県教育委員会
- 千野裕道 (1983) 縄文時代のクリと集落周辺植生、東京都埋蔵文化財センター研究論集 II、p.27-42
- 千野裕道 (1991) 縄文時代に二次林はあったか -遺跡出土の植物性遺物からの検討-、東京都埋蔵文化財センター研究論集 X、p.215-149
- 辻誠一郎 (1989) 植生と気候、永井昌文・那須孝悌・金関 怒・佐原 眞編「弥生文化の研究 1 弥生人とその環境」、P.160-173、雄山閣

PL1 花粉分析状況・種実遺体



- | | |
|-----------------------------------|--------------------------|
| 1. 状況写真 (試料番号: 2) | 2. 状況写真 (試料番号: 3) |
| 3. 状況写真 (試料番号: 4) | |
| 4. クリ (GSN-92 FB52 2 回目 炭化物 No.1) | 5. モモ (GSN-92 FJ46 No.3) |
| 6. オニグルミ (GSN-91 GC100住 1 層 No.1) | |

PL2 炭化材(1)



1. アサダ (No. 34)

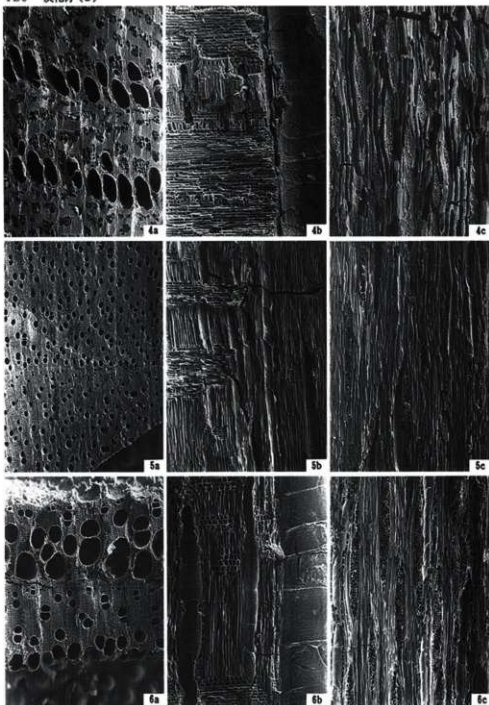
2. コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種 (No. 32)

a: 木口, b: 柁目, c: 板目

3. タリ (No. 11)

200 μm: a
200 μm: b, c

PL3 炭化材(2)



4. ニレ属の一種 (No. 30)
 5. カエデ属の一種 (No. 31a)
 6. ケンボナシ属の一種 (No. 33)
 a: 木口, b: 柀目, c: 板目

200 μ m : a
 200 μ m : b, c

PL4 炭化材(9)



7. トネリコ属近似種 (No. 24)
a: 木口, b: 柾目, c: 板目

200 μm : a
200 μm : b, c

2. 動物遺体について

西本豊弘

御所野遺跡の1989年度・1990年度・1991年度・1992年度の4年間にわたる発掘調査で採集された動物骨は約1800グラムである。それらはすべて火を受けた焼骨であり、白色化しているものがほとんどである。また、大部分は長さ1センチメートル以下の小片であり、粉状のものも見られた。そのため、骨の出土量を重さで示すこととして、採集単位ごとに表にまとめた。小さな破片が多いため、種の同定はあまり出来なかったが、シカ・イノシシ・イヌ・クジラ類・鳥類が含まれていることは明らかである。破片の状況から見て、シカとイノシシがその大部分と思われる。

出土状況については、GA 44 トレンチやGB 44 住居址付近で獣骨の出土量が多い。また、GF 76 区の2層下掘込みピットから出土した獣骨は、出土量が480グラムと多いだけでなく、イノシシの側頭骨2片をはじめとして、イノシシ頭骨片がかなり含まれていることが特徴であった。この部分では、シカの第2頸椎や中手骨も出土しており、シカも含まれることは確実である。

この遺跡出土の焼けた獣骨の性格については、食料とされた時に偶然火を受けた可能性も考えられるが、出土量が多いことや配石遺構に伴うこと、また食料とはされないであろう鹿角も火を受けた状態で出土することから、それらの骨がすべて偶然にも焼けたものとは考えられない。獣骨や角（角付きのシカの頭と考えるべきであろう）が意図的に焼かれた後、何らかの目的で散布されたと思われる。このような焼骨と配石との組み合わせは、縄文時代後期以降、北海道・東北・関東・中部地方の各地で見られる現象であり、御所野遺跡の例もその伝統の1例と言うことができる。

骨器について

焼骨の中に骨の加工品が3点含まれていた。そのうち1点は、FJ 46 トレンチ GA 46 区より出土した針の中間部破片で、長さ13.0ミリメートル、太さ3.0～4.1ミリメートルである。他の2点は、1号址周溝から出土したヘラの破片である。いずれもシカの中手骨でつくられたものである。残存部の大きさは、長さ31.7ミリメートル・幅16.5ミリメートルのものと、長さ17.5ミリメートル・幅12.2ミリメートルである。おそらく同一のヘラの破片であるが接合しない。

表1 出土獣骨一覧表

No	地区	出土遺構	出土地点	層位	Noなど	重量()	備 考
1	C	20号址	周溝	2層		2.1	
2	C	20号址	周溝	2層		1.7	
3	C	20号址	周溝			8.9	
4	C	20号址	周溝			0.1	
5	D	GA 44 トレンチ	GB 44 住	1層		6.4	
6	E	GA 70 トレンチ	GA 70		No.1	6.8	シカ?距骨片 1
7	E	GA 70 トレンチ	GA 70		No.2	1.0	
8	E	GA 70 トレンチ	GA 70		No.3	0.1	
9	E	GA 70 トレンチ	GA 70		No.4	0.1	
10	E	GA トレンチ	GA 70		No.5	0.2	
11	E	GA 70 トレンチ	GA 70		No.6	0.4	
12	E	GA 70 トレンチ	GA 70		No.7	0.6	
13	E	GA 70 トレンチ	GA 70		No.8	1.6	
14	E	GA 70 トレンチ	GA 70		No.9	1.4	
15	E	GA 70 トレンチ	GA 70		No.10	0.4	
16	E	GA 70 トレンチ	GA 70		No.11	4.3	
17	E	GA 70 トレンチ	GA 70		No.12	2.2	
18	E	GA 70 トレンチ	GA 70		No.13	6.9	シカまたはイノシシ肋骨片 1
19	E	GA 70 トレンチ	GA 70			17.2	
20	E	GA 44 トレンチ	GA 42	II		14.9	
21	E	GA 70 トレンチ	GA 54	II		2.6	
22	E	GA 70 トレンチ	GA 68-03 住	3層		1.8	
23	E	GA 70 トレンチ	GA 68-03 住			4.6	
24	E	GA 70 トレンチ	GA 68-05 住	3層		1.3	
25	D		GB 52	II層		1.7	
26	E	GA 70 トレンチ	GB 72			2.7	
27	D		GC 44			1.5	
28	D		GC 52	1層		4.6	
29	D		GD 50			42.8	
30	E		GF 76	2層	掘り込み 一括	480.0	イノシシ側頭骨 L.R 1 シカ第2頸椎 1 中手骨片 1 シカまたはイノシシ上腕骨 1
31	E		GF 76	II層		14.6	

32	E		GF 76		No 1	55.7	シカ?頭蓋骨片1、シカ下顎骨片1
33		出土地点不明	(盛土?)			690.4	
34	D	FH 44 トレンチ	FH 44	II層	No.1	1.9	
35	D	FH 44 トレンチ	FH 44	3層	No.1	0.3	
36	D	FH 44 トレンチ	FH 44		No.2	1.1	
37	D	FH 44 トレンチ	FI 46			0.2	
38	E	FH 44 トレンチ	FI 48			0.6	
39	E	GA 70 トレンチ	FI 62	III層		6.2	鹿角片1
40	E	GA 70 トレンチ	FI 68	III層		2.9	
41	E	GA 70 トレンチ	FI 70	II層		0.6	
42	E	GA 70 トレンチ	FI 70	3層		3.8	イノシシ末節骨1
43	D		FJ 46	II層		1.3	
44	D		FJ 48	II層		6.3	
45	E	GA 70 トレンチ	FJ 64	III層		0.5	
46	E	GA 70 トレンチ	FJ 66-01住	3層		2.3	
47	E	GA 70 トレンチ	FJ 68	II層		0.5	
48	E	GH 70 トレンチ	FJ 68	3層		0.7	
49	E	GH 70 トレンチ	FJ 68			2.8	
50	D		FJ 40	II層		7.6	
51	E	GH 70 トレンチ	FJ 70	土器中	骨No.2	0.5	
52	D	GA 44 トレンチ	GA 42	1層		0.2	
53	D	GA 44 トレンチ	GA 44	1層	検出面下	0.1	
54	D	GA 44 トレンチ	GA 44	焼土 No.2	2層	0.1	
55	D	GA 44 トレンチ	GA 44	1層		53.2	中手骨または中足骨片1
56	D	GA 44 トレンチ	GA 44	2層		1.0	
57	D	GA 44 トレンチ	GA 44	2層	No.1	0.1	
58	D	GA 44 トレンチ	GA 44	2層		127.0	イヌ?中手骨または中足骨遠位部骨1 シカとイノシシ中手骨または中手足遠位部片各1
59	D	GA 44 トレンチ	GA 44	2層		5.5	
60	D	GA 44 トレンチ	GB 44	1層		25.0	シカまたはイノシシ末節骨片1
61	D	GA 44 トレンチ	GB 44	2層		1.8	鹿歯片1
62	D	GA 44 トレンチ	GB 44	2層		1.8	

63	D	GA 44 トレンチ	GC 44	2層		8.0	
64	D	GA 44 トレンチ	GB 44 住	1層		56.0	シカ末肋骨1 イノシシ臼歯片1
65	D	GA 44 トレンチ	GB 44 住	1層	骨No 1	6.5	イノシシ上顎第3後臼歯左側(若獣)
66	D	GA 44 トレンチ	GB 44 住	2層	骨No 7	10.0	イノシシ下顎第3後臼歯片1
67	D	GA 44 トレンチ	GB 44 住	炉1	2層	0.3	
68	D	GA 44 トレンチ	GB 44 住	2層		4.2	
69	D	GA 44 トレンチ	GB 44 住	P-1		0.3	
70	D	GA 44 トレンチ	GB 44 住	炉	骨No 1	0.2	
71	D	GA 44 トレンチ	GB 44 住	1層	検出面下	1.6	
72	D	GA 44 トレンチ	GB 44 住	P 3	1層	0.3	
73	D	GA 44 トレンチ	GB 44 住	1層	骨No 2	0.1	
74	D	GA 44 トレンチ	GB 44 住		骨No 3 下	0.5	
75	D	GA 44 トレンチ	GB 44 住		骨No 4	8.3	トリ破片2
76	D	GA 44 トレンチ	GB 44 住		骨No 5	3.7	
77	D	GA 44 トレンチ	GB 44 住		骨No 6	1.1	
78	D	GA 44 トレンチ	GB 44 住			56.0	イノシシ下顎第3後臼歯右側(成獣)
79	E	40号土壌		3層		10.0	
80	B		EG 46	III層		0.2	
81	B		EH 48	III層		12.0	
82	B		EF 48	III層	骨No 3	0.4	
83	B		EI 50			1.1	
84	D		FJ 48	II層		5.6	鹿角片1
85		出土地点不明				0.9	
86	D	1号古墳	主体部			13.0	
87	D	1号古墳	周溝			250	骨製ヘラ2 シカ中手骨片1 イノシシ中肋骨1
88	D	2号古墳	主体部			0.6	
89	D	2号古墳	周溝			44.0	シカ末肋骨1
90	D	3号古墳	周溝	1層		37.0	シカ中手骨または中足骨遠位部片1
91	D	4号古墳	周溝			45.0	
92	D	5号古墳	周溝	2層		12.0	
93	D	9号古墳	周溝			38.5	

94	C	11号古墳	周溝	2層		0.2	
95	C	11号古墳	周溝	3層		2.3	
96	C	21号古墳	周溝			2.3	
97	E	40号土壌	周溝			8.0	鹿角片 1
98	E	47号土壌	周溝	1層		0.2	
99	E	47号土壌	周溝	3層		5.0	
00	D	9号基古墳	周溝		№1～7	0.1	
01	D		FF 40	1層		6.0	
02 03	D	FJ 46 トレンチ	FJ 44	1層	P-5	19.0	イノシシ肩甲骨左側(成獣)1 シカ中手骨片 1 トリ?破片 1
04	D	FJ 46 トレンチ	FJ 44		P-6	18.0	クジラ片 8 (加工品?)
05	D	FJ 46 トレンチ	FJ 44	1層		21.0	
06		出土地点不明				8.0	シカ?末肋骨 1
07	D		FH 40			4.9	
08	D	GB 44 トレンチ	GB 44		№6	3.8	
09		出土地点不明 (盛土?)				39.4	イノシシ末肋骨 1 中手骨または中足骨片 1

各調査区毎の集計表

単位 g

調査区	遺跡全体	A	B	C	D	E	F
出土量	2,417.2	0	13.7	12.8	994.9 729.8	92.5 550.3 23.2	0
		0	13.7	12.8	1,724.7	666.0	0

註1 出土遺構のうち○号を付しているのは古代の遺構であるが、いずれも縄文時代の遺構と重複しており、中には縄文時代の遺物も混入している。従って獣骨も出土地点等を吟味した後一覧表に掲載しており、縄文時代に含まれることは確実である。層の記載で、I は遺跡の基本層序、1 は各遺構毎の層を表す。なお P は土器№の略号である。

註2 集計表のうち、D 区の下段の数字は、出土地点のラベルが抜けている№33 と№106 を含めた合計数であるが、この2点とも盛土に分布していたものを一括したために出土地点が不明になったもので D 区に含めて集計した。E の上段は大型住居跡が重複する GA 70 トレンチ内、中段は中央部東側の小規模な配石遺構の周辺、下段は中央部の配石遺構の西側から出土したものである。



写真図版 骨角器・獣骨

1. 針 2・3. ヘラ 4～8. イノシシ (4. 下顎右第3後臼歯、5. 上顎左第3後臼歯 6. 肩甲骨 7. 左側頭骨 8. 右側頭骨) 9・10. シカ (9. 軸椎 10. 末節骨) 11～13. クジラ

3. 炭化食物の残留脂肪酸分析

動植物を構成している主要な生体成分にタンパク質、核酸、糖質（炭水化物）および脂質（脂肪・油脂）がある。これらの生体成分は環境の変化に対して不安定で、圧力、水分などの物理的作用を受けて崩壊してゆくだけでなく、土の中に住んでいる微生物による生物的作用によっても分解してゆく。これまで生体成分を構成している有機質が完全な状態で遺存するのは、地下水位の高い低地遺跡、泥炭遺跡、貝塚などごく限られた場所にすぎないと考えられてきた。

最近、ドイツ新石器時代後期にバター脂肪が存在していたこと⁽¹⁾、古代遺跡から出土した約2千年前のトウモロコシ種子⁽²⁾、約5千年前のハーゼルナッツ種子⁽³⁾に残存する脂肪の脂肪酸は安定した状態に保持されていることがわかった。このように脂肪は微量ながら比較的安定した状態で千年・万年という長い年月を経過しても変化しないで遺存することが判明した⁽⁴⁾。

脂質は有機溶媒に溶けて、水に溶けない成分を指している。脂質はさらに構造的な違いによって誘導脂質、単純脂質および複合脂質に大別される。これらの脂質を構成している主要なクラス(種)が脂肪酸であり、その種類、含量ともに脂質中では最も多い。脂肪酸には炭素の鎖がまっすぐに延びた飽和型と鎖の途中に二重結合をもつ不飽和型がある。動物は炭素数の多い飽和型の脂肪酸、植物は不飽和型の脂肪酸を多く持つというように、動植物の種ごとに固有の脂肪酸を持っている。ステロールについても、動物性のはコレステロール、植物性のはシトステロール、微生物はエルゴステロールというように動植物に固有の特徴がある。従って出土物の脂質の種類およびそれらを構成している脂肪酸組成と現生動植物のそれとを比較することによって、目に見える形では遺存しない原始古代の動植物を判定することが可能である。

このような出土遺物・遺構に残存する脂肪を分析する方法を「残存脂肪酸分析法」という。この「残存脂肪酸分析法」を用いて、御所野遺跡から出土した炭化物の性格を解明しようとした。

1. 炭化物試料

御所野遺跡は縄文時代中期後半のものとして推定されている。この遺跡中のFJ 66 III層、FI 64 III層と他の地点からパン状炭化物が出土した。これらの試料出土地点周辺は大型住居跡が重複しており、試料は大型住居跡に伴うものと考えられている。5点の試料のうち、試料No 2を除く他の4試料は直径1 cm くらいの小片の集まりで、それらの小片の中から1片を選んで分析に供した。試料No 2は1個体のため、全体を1試料として用いた。

2. 残存脂肪の抽出

炭化物試料0.43~9.11 gに3倍量のクロロホルム-メタノール(2:1)混液を加え、超音波浴槽中で30分間処理し残存脂肪を抽出した。処理液を濾過後、残渣に再度クロロホルム-メタノール混液を加え、再び30分間超音波処理をする。この操作をさらに2回繰り返して残存脂肪を抽出した。得られた全抽出溶媒に1%塩化バリウムを全抽出溶媒の4分の1容量加え、クロ

ロホルム層と水層に分配し、下層のクロロホルム層を濃縮して残存脂肪を分離した。

上記の処理を施した場合の残存脂肪抽出率は、秋田県上ノ山II遺跡の炭化物試料で0.0143%₍₉₎、山形県押出遺跡の炭化物試料で0.7577%₍₁₀₎であった。今回の試料は脂肪抽出時に試料No 2を除きすべて溶媒中に溶解してしまった。御所野遺跡に近接した馬場平遺跡から出土したパン状炭化物₍₇₎も溶媒で完全に溶解している。今までに分析したクッキー状炭化物は溶媒による抽出操作の段階で今回のNo 2と同様に溶解せず、抽出前の形状を完全に保持している。しかし未加熱の試料では、有機溶媒に完全に溶解する。今回の試料は試料No 2を除き有機溶媒で完全に溶解し、その表面も粉っぽく、石の様に固くもないことから未加熱の試料と判定された。試料No 2は形状を留めたことから、加熱済み試料と想定される。各々の試料の採取地点と溶媒で溶解しなかった試料No 2の残存脂肪抽出率を表1に示す。抽出率は0.0066%であった。

残存脂肪をケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した結果、試料No 2の脂肪は単純脂質から構成され、遊離脂肪酸が最も多く、次いでグリセロールと脂肪酸の結合したトリアシルグリセロール(トリグリセリド)、ステロールエステル、ステロールの順に多く、微量の長鎖炭化水素も存在していた。しかし、その他の溶解試料はタール状の成分がケイ酸薄層全体に広がり、完全に脂肪は分離しなかった。そこで溶解試料については、ヘキサノール-エチルエーテル-酢酸(80:30:1)で何回か多重展開して、タール成分を除いてから脂肪成分を分離した。

3. 残存脂肪の脂肪酸組成

分離した残存脂肪に5%メタノール性塩酸を加え、125°C封管中で2時間分解し、メタノール分解によって生成した脂肪酸メチルエステルをクロロホルムで分解し、ヘキサノール-エチルエーテル-酢酸(80:30:1)またはヘキサノール-エーテル(85:15)を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで精製後、ガスクロマトグラフィーで分析した₍₁₀₎。

残存脂肪の脂肪酸組成を図1に示す。試料No 2の脂肪酸は加熱変性を受けていると考えられる。一般に脂肪酸は加熱300°C以上では大きく変性する。特にパルミチン酸とオレイン酸は加熱変性前後で著しい影響を受け、オレイン酸はパルミチン酸へと移行する。そこで標準試料を用いて求めた熱変性の係数で割って、実測値ではない試料No 2の加熱前の脂肪酸組成を算出した。図1のグラフ中で試料No 2は加熱変性前後の両方の値が示してある。考察は実測値を用いて行った。残存脂肪から10種類の脂肪酸を検出した。これらパルミチン酸(C 16:0)、ステアリン酸(C 18:0)、オレイン酸(C 18:1)、リノール酸(C 18:2)、アラキジン酸(C 20:0)、エイコサモノエン酸(C 20:1)、ベヘン酸(C 22:0)、エルシン酸(C 22:1)、リグノセリン酸(C 24:0)の9種の脂肪酸をガスクロマトグラフィー-質量分析により同定した。

試料中の脂肪酸組成を見てみると、試料No 2を除きその殆どが炭素数18までの中級脂肪酸で占められていた。試料No 1、No 3、No 4、No 5では主要な脂肪酸はパルミチン酸とオレイン酸

ではほぼ同程度の約33~42%分布していた。一般に考古遺物にはパルミチン酸、パルミトレイン酸が多く含まれている。これは長い年月の間にオレイン酸、リノール酸といった不飽和脂肪酸の一部が分解し、パルミトレイン酸を経てパルミチン酸が生成するため、主として植物遺体の土壌化に伴う腐植物から来していると推定される。またオレイン酸の分布割合の高いものとしては、動物性脂肪と植物性脂肪の両方が考えられ、植物性脂肪では特に根、茎、種子に多く分布する。試料No 2では主要な脂肪酸はパルミチン酸で約56%分布していた。他の脂肪酸はすべて15%以下の分布量であった。パルミチン酸が他の4試料よりも多いのは、試料が加熱変性を受けて、オレイン酸がパルミチン酸に変わった可能性がある。試料No 1、No 3、No 4、No 5の脂肪酸組成パターンは前回の馬場平遺跡の試料のそれと類似しており、脂肪酸の殆どが炭素数18までの中級脂肪酸で占められるパターンのものであった。

一方高等動物、特に臓器、脳、神経組織、血液、胎盤に特徴的にみられる炭素数20以上のアラキジン酸、ペヘン酸、リグノセリン酸などの高級脂肪酸は、それら3つの合計で、試料No 1で約4%、試料No 2で17%、試料No 3~No 5では検出されないか1%以下の分布量であった。通常の遺跡出土土壌中での高級脂肪酸分布量はアラキジン酸、ペヘン酸、リグノセリン酸3つの合計で4~10%くらいで、高等動物の臓器や血液等の特殊な部分が残存する場合にはそれら3つの合計は10%以上となる。

これらのことから試料No 1、No 3、No 4、No 5は同じ性質を持つ試料で、試料No 2だけは前の4試料とは性質を異にしていることがわかった。また試料No 2には他の試料とは違って高等動物の臓器類の脂肪酸も残存していることがわかった。

4. 残存脂肪のステロール組成

残存脂肪のステロールをヘキサン-エチルエーテル-酢酸(80:30:1)を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで分離・精製後、ピリジン-無水酢酸(1:1)を素室気流下で反応させてアセテート誘導体にしてからガスクロマトグラフィーにより分析した。残存脂肪の主なステロール組成を図2に示す。残存脂肪から1~14種類ステロールを検出した。このうちコレステロール、エルゴステロール、カンベステロール、スチグマステロール、シトステロールなど7種類のステロールをガスクロマトグラフィー-質量分析により同定した。

試料中のステロール組成をみると、動物由来のコレステロールは約26~100%と大変多く分布していた。試料No 1のコレステロール分布量は約26%と、他と比べると少ないが、他の4試料中でのコレステロール分布量は約50%以上の高いものであった。通常一般的な植物腐植土中にはコレステロールは4~8%含まれている。植物由来のシトステロールは試料No 1で約4%分布していた他は検出されなかった。クリ、クルミ等の堅果植物由来のカンベステロール、スチグマステロール、微生物由来のエルゴステロールは試料No 1でわずかず検出されたが、他

の4試料中では全く検出されなかった。

一般に動物遺体の存在を示唆するコレステロールとシトステロールの分布比の指標値は土壌で0.6以上⁽⁹⁾、土器・石器・石製品で0.8~23.5をとる^(10,11)。試料中のコレステロールとシトステロールの分布比を表2に示す。表からわかるように、試料No1はシトステロールが分布していたために分布比が6.87であったが、他の4試料中ではシトステロールが検出されず、コレステロールが無限値を示した。試料No1の分布比は試料中に動物性脂肪が明瞭に残存することを示している。

これらのことから、試料すべてには動物性脂肪が多量に含まれていることがわかった。

5. 脂肪酸組成の数理解析

残存脂肪の脂肪酸組成をパターン化し、重回帰分析により各試料間の相関係数を求め、この相関係数を基礎にしてクラスター分析を行って各試料間の類似度を調べた。同時に上ノ山II遺跡、押出遺跡、馬場平遺跡の炭化物試料との類似度も調べた。また試料中に残存する脂肪の持主を特定するために、脂肪酸組成の類似した動植物種もクラスター分析にかけた。予めデータベースの脂肪酸組成とクラスター分析を行い、その中から類似度の高い試料を再びクラスター分析によりパターン間距離にして表したのが図3である。図からわかるように、御所野遺跡の試料No1、No3、No4、No5は対照試料であるマガモ、キジと共に相関行列距離0.05以内でA群を形成した。押出遺跡の試料の一部とモズ、ウズラの卵はB群を形成し、A群とは相関行列距離0.15以内でかなり類似していた。ヒトの手の油は単独でC群を形成した。御所野遺跡の試料No2は押出遺跡の試料の一部、イノシシと共に相関行列距離0.05以内でD群を形成した。馬場平遺跡、上ノ山II遺跡の試料、押出遺跡の試料の一部はニホンジカと共に相関行列距離0.1以内でE群を形成した。D群とE群は相関行列距離約0.1以内の所にあり、類似しているといえる。他の対照試料はF~H群を形成した。これらはA~E群とは相関行列距離で0.25以上離れており、あまり類似していなかった。これらのことから御所野遺跡の試料No1、No3、No4、No5はマガモ、キジ、モズ、ウズラの卵等の野鳥の油と類似しており、試料No2はイノシシ、ニホンジカ等の動物の油と類似していることがわかった。類似している油から推しても、試料No2は他の4試料とは性質を異にしていることを示している。

クラスター分析の成績からこれらの試料には動物の脂肪の混在が推測された。そこでクラスター分析から導き出された動物種がどれくらいの割合で混ざっているかを求めた。図3で求めた動植物種の脂肪酸組成に基づいて、ラグランジェの未定係数法を用いて誤差の二乗和が最も小さくなるような動物種の組み合わせを数理計算し、御所野遺跡の試料中の動物種の分布割合を求めた⁽¹²⁾。その結果を表3-1~3-5に示す。表3-1の試料No1を例にとれば、炭化物試料に混在している動物が、キジ43.5%、マガモ16.0%、ウズラの卵9.5%、ニホンジカ9.1

％、イノシシ3.3％、モズ0.3％、ヒトの手の油が18.4％分布している時、試料中の残存脂肪分析値が計算上の分析値に最も誤差なく近似することを示している。人の手の油が約18％ほど含まれているのは、試料がヒトの手で触れられていたことを示している。この結果から試料No 1、No 3、No 4、No 5の中では分布割合の高いものとして、キジ、マガモ、ウズラの卵が挙げられ、試料中にはキジ、マガモ、ウズラの卵等の野鳥やその卵の油が混在していることがわかる。試料No 2ではイノシシ、マガモ、キジが挙げられ、この試料にはイノシシ等の動物やマガモ、キジ等の野鳥の油が混在していることがわかった。ラグランジェの未定係数法の算出の際に、微量存在すると想像されるグリ、クルミ等の木の実は主体とした植物体を組み合わせなかったのは、ステロール分析の結果で堅果植物由来のカンベステロール、スチグマステロールが全く検出されなかったためである。

これらのことから、御所野遺跡の試料No 1、No 3、No 4、No 5に残存する脂肪酸は、キジ、マガモ、ウズラの卵等の野鳥やその卵の脂肪酸と類似しており、試料No 2に残存するそれはイノシシ等の動物やマガモ、キジ等の野鳥の脂肪酸と類似していることがわかった。

6. 脂肪酸組成による種特異性相関

残存脂肪の脂肪酸組成から種を特定するために、中級脂肪酸(炭素数16のバルミチン酸から炭素数18のステアリン酸、オレイン酸、リノール酸まで)と高級脂肪酸(炭素数20のアラキジン酸以上)との比をX軸に、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸との比をY軸にとり種特異性相関を求めた。この比例配分により第1象限の原点から離れた位置に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器等に由来する脂肪、第1象限から第2象限の原点から離れた位置にヒト胎盤、第2象限の原点から離れた位置に高等動物の体脂肪、骨油に由来する脂肪がそれぞれ分布する。第2象限から第3象限にかけての原点付近に植物と微生物、原点から離れた位置に植物腐植、第3象限から第4象限に移る原点から離れた位置に海産動物が分布する。

試料の残存脂肪から求めた相関図を図4に示す。図からわかるように、試料はすべて第2象限内に分布した。この位置は試料中に高等動物の体脂肪や骨油に由来する脂肪が残存していることを示唆している。試料No 2は第2象限内でもY軸上でかなり上部に位置し、単独でD群を形成した。これは試料中に飽和脂肪酸が多いため、動物性脂肪が多いことを示している。

7. 総括

御所野遺跡から出土した炭化物試料の性格を判定するために、試料中の残存脂肪分析を行った。残存する脂肪酸 $\frac{C_{16-18}}{C_{20}}$ の結果、試料No 1、No 3、No 4、No 5は同じ性質を持つ試料で、脂肪酸組成だけではこれらの試料中に残存する脂肪酸が動物性のものか、植物性のものかは判定できなかった。試料No 2は他の4試料とは性質を異にしており、高等動物の臓器、血液、神経組織等に由来する脂肪酸が残存していることがわかった。

残存する脂肪酸組成の分布に基づく数理解析の結果、試料No 1、No 3、No 4、No 5に残存する脂肪酸は、キジ、マガモ、ウズラの卵等の野鳥やその卵の脂肪酸と類似しており、試料No 2に残存する脂肪酸はイノシシ等の動物やマガモ、キジ等の野鳥の脂肪酸と類似していることがわかった。

残存するステロール分析の結果、5 試料すべてに動物性コレステロールが多量に含まれていることがわかった。

溶媒による脂肪抽出の際に試料No 2を除き、他の4 試料はすべて溶媒中に溶け出したことから、試料No 1、No 3、No 4、No 5は各種材料を混合後、加熱前の状態で遺存されたものであると推定された。試料No 2は溶媒中で形状をしっかりと留めていることから、加熱後の状態で遺存されたものであると思われる。

参考文献

- (1) R. C. A. Rottländer and H. Schlichtherle: 「Food identification of samples from archaeological sites」 [Archaeo. Physika.], 10 卷, 1979, pp260.
- (2) D. A. Priestley, W. C. Galinat and A. C. Leopold: 「Preservation of polyunsaturated fatty acid in ancient Anasazi maize seed」, [Nature], 292 卷, 1981, pp146.
- (3) R. C. A. Rottländer and H. Schlichtherle: 「Analyse frühgeschichtlicher Gefäß-inhalte」, [Naturwissenschaften], 70 卷, pp33.
- (4) 中野益男: 「残存脂肪分析の現状」, 『歴史公論』, 第 10 卷 (6), 1984, pp124.
- (5) 中野益男, 福島道広, 中野寛子, 長田正宏: 「上ノ山Ⅱ遺跡出土の炭化物に残存する脂肪の分析」, [未発表], 秋田県埋蔵文化財センター.
- (6) 中野益男, 福島道広, 中野寛子, 中岡利泰, 根岸 孝: 「残存脂肪分析法による原始古代の生活環境—とくに東北地方の縄文時代前期遺跡から出土したクッキー状炭化物の栄養化学的同定(第7報)」, 『日本農芸化学会東北支部北海道支部合同秋期大会講演要旨』, 1987, pp15.
- (7) 中野寛子, 明瀬雅子, 長田正宏, 中野益男: 「馬場平遺跡から出土した炭化物に残存する脂肪の分析」, [未発表], 岩手県一戸町教育委員会.
- (8) M. Nakano and W. Fischer: 「The Glycolipids of *Lactobacillus casei* DSM 20021」, [Hoppe-Seyler's Z. Physiol. Chem.], 358 卷, 1977, pp1439.
- (9) 中野益男, 伊賀 啓, 根岸 孝, 安本教博, 畑 宏明, 矢吹俊男, 佐原 真, 田中 琢: 「古代遺跡に残存する脂質の分析」, 『脂質生化学研究』, 第 26 卷, 1984, pp40.
- (10) 中野益男: 「真脇遺跡出土土器に残存する動物油脂」, 『真脇遺跡—農村基盤総合設備事業能都東地区真脇工区に係わる発掘調査報告書』, 能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団, 1986, pp401.
- (11) 中野益男, 根岸 孝, 長田正宏, 福島道広, 中野寛子: 「ヘロカルウス遺跡の石器製品に残存する脂肪の分析」, 『ヘロカルウス遺跡』, 北海道文化財研究所調査報告書, 第 3 集, 1987, pp191.
- (12) 大地羊三: 「電子計算機の手法とその応用」, 『土木工学大成』, 第 4 巻, 東京, 森北出版, 1970.

表1 炭化物試料の残存脂肪抽出量

試料No	採取地点	湿重量(g)	全脂肪(mg)	抽出率(%)
1	GSN-90 FJ 66	0.65	完全溶解	完全溶解
2	GSN-90 FI 64	9.11	0.6	0.0066
3	GSN-91 HA 100	1.71	完全溶解	完全溶解
4	GSN-91 GG 134(大)	1.16	完全溶解	完全溶解
5	GSN-91 GG 134(小)	0.43	完全溶解	完全溶解

表2 試料に分布するコレステロールとシトステロールの割合

試料No	コレステロール(%)	シトステロール(%)	コレステロール/ シトステロール
1	26.18	3.81	6.87
2	57.05	-	-
3	60.73	-	-
4	100.00	-	-
5	49.37	-	-

表3-1 炭化物試料に残存する脂肪の脂肪酸組成から算出した動物脂肪の分布割合

脂肪酸	№1	マガモ	キジ	モズ	ウズラ卵	イノシシ	ニホンジカ	ヒト手油	計算値
C 16:0	38.8	43.4	30.8	34.3	42.6	61.1	44.4	32.3	38.865
C 16:1	-	3.9	6.0	3.7	3.8	-	7.0	22.3	0.193
C 18:0	14.6	11.5	11.2	14.2	12.2	13.2	24.6	7.0	14.681
C 18:1	33.0	32.1	38.1	19.0	23.0	5.6	13.5	24.4	32.989
C 18:2	9.4	2.3	10.3	13.7	16.2	-	4.5	4.6	9.471
C 18:3	-	-	-	-	0.3	-	-	-	0.042
C 20:0	1.5	1.9	1.4	5.0	-	1.5	2.4	1.3	1.479
C 20:1	-	1.3	0.1	0.4	0.2	1.5	0.3	2.4	0.138
C 20:2	-	tr.	0.1	-	0.1	-	0.2	-	0.095
C 20:4	-	0.1	-	4.1	-	-	tr.	-	0.058
C 20:5	-	-	-	1.1	-	-	tr.	-	0.012
C 22:0	1.9	0.5	0.3	-	1.5	7.5	0.9	0.6	0.952
C 22:1	-	0.4	0.1	0.1	-	-	0.3	1.7	0.292
C 22:2	-	0.3	0.3	0.1	0.1	9.6	0.3	0.6	0.678
C 22:5	-	-	-	4.0	-	-	0.1	-	0.039
C 24:0	0.9	0.7	0.3	0.3	tr.	-	1.2	1.4	0.130
C 24:1	-	1.5	0.3	0.1	0.1	-	0.3*	-	0.619
分布割合(%)		16.0	43.5	0.3	9.5	3.3	9.1	18.4	

表3-2 炭化物試料に残存する脂肪の脂肪酸組成から算出した動物脂肪の分布割合

脂肪酸	№2	マガモ	キジ	モズ	ウズラ卵	イノシシ	ニホンジカ	ヒト手油	計算値
C 16:0	56.3	43.4	30.8	34.3	42.6	61.1	44.4	32.3	57.377
C 16:1	-	3.9	6.0	3.7	3.8	-	7.0	22.3	0.983
C 18:0	15.1	11.5	11.2	14.2	12.2	13.2	24.6	7.0	15.726
C 18:1	8.9	32.1	38.1	19.0	23.0	5.6	13.5	24.4	9.417
C 18:2	1.3	2.3	10.3	13.7	16.2	-	4.5	4.6	2.149

C 18:3	-	-	-	-	0.3	-	-	-	0.062
C 20:0	2.2	1.9	1.4	5.0	-	1.5	2.4	1.3	1.873
C 20:1	0.9	1.3	0.1	0.4	0.2	1.5	0.3	2.4	1.348
C 20:2	-	tr.	0.1	-	0.1	-	0.2	-	0.040
C 20:4	-	0.1	-	4.1	-	-	tr.	-	0.378
C 20:5	-	-	-	1.1	-	-	tr.	-	0.094
C 22:0	11.6	0.5	0.3	-	1.5	7.5	0.9	0.6	4.439
C 22:1	0.3	0.4	0.1	0.1	-	-	0.3	1.7	0.110
C 22:2	-	0.3	0.3	0.1	0.1	9.6	0.3	0.6	5.064
C 22:5	-	-	-	4.0	-	-	0.1	-	0.330
C 24:0	3.5	0.7	0.3	0.3	tr.	-	1.2	1.4	0.394
C 24:1	-	1.5	0.3	0.1	0.1	-	0.3	-	0.586
分布割合(%)		22.5	21.6	4.1	11.7	27.4	10.8	1.9	

表 3-3 炭化物試料に残存する脂肪の脂肪酸組成から算出した動物脂肪の分布割合

脂肪酸	No 3	マガモ	キジ	モズ	ウズラ卵	イノシシ	ニホンジカ	ヒト手油	計算値
C 16:0	38.1	43.4	30.8	34.3	42.6	61.1	44.4	32.3	37.922
C 16:1	-	3.9	6.0	3.7	3.8	-	7.0	22.3	0.093
C 18:0	13.3	11.5	11.2	14.2	12.2	13.2	24.6	7.0	13.148
C 18:1	41.3	32.1	38.1	19.0	23.0	5.6	13.5	24.4	41.086
C 18:2	6.5	2.3	10.3	13.7	16.2	-	4.5	4.6	6.684
C 18:3	-	-	-	-	0.3	-	-	-	0.006
C 20:0	-	1.9	1.4	5.0	-	1.5	2.4	1.3	0.974
C 20:1	-	1.3	0.1	0.4	0.2	1.5	0.3	2.4	0.002
C 20:2	-	tr.	0.1	-	0.1	-	0.2	-	0.095
C 20:4	-	0.1	-	4.1	-	-	tr.	-	0.771
C 20:5	-	-	-	1.1	-	-	tr.	-	0.224
C 22:0	0.8	0.5	0.3	-	1.5	7.5	0.9	0.6	0.494
C 22:1	-	0.4	0.1	0.1	-	-	0.3	1.7	0.264
C 22:2	-	0.3	0.3	0.1	0.1	9.6	0.3	0.6	0.241
C 22:5	-	-	-	4.0	-	-	0.1	-	0.798
C 24:0	-	0.7	0.3	0.3	tr.	-	1.2	1.4	0.206
C 24:1	-	1.5	0.3	0.1	0.1	-	0.3	-	1.072
分布割合(%)		27.4	42.1	9.8	1.1	0.1	3.6	15.9	

表 3-4 炭化物試料に残存する脂肪の脂肪酸組成から算出した動物脂肪の分布割合

脂肪酸	No 4	マガモ	キジ	モズ	ウズラ卵	イノシシ	ニホンジカ	ヒト手油	計算値
C 16:0	42.1	43.4	30.8	34.3	42.6	61.1	44.4	32.3	41.816
C 16:1	-	3.9	6.0	3.7	3.8	-	7.0	22.3	0.233
C 18:0	13.6	11.5	11.2	14.2	12.2	13.2	24.6	7.0	13.395
C 18:1	37.9	32.1	38.1	19.0	23.0	5.6	13.5	24.4	37.669
C 18:2	6.4	2.3	10.3	13.7	16.2	-	4.5	4.6	6.415
C 18:3	-	-	-	-	0.3	-	-	-	0.064
C 20:0	-	1.9	1.4	5.0	-	1.5	2.4	1.3	0.807
C 20:1	-	1.3	0.1	0.4	0.2	1.5	0.3	2.4	0.276
C 20:2	-	tr.	0.1	-	0.1	-	0.2	-	0.088

C 20:4	—	0.1	—	4.1	—	—	tr.	—	0.762
C 20:5	—	—	—	1.1	—	—	tr.	—	0.228
C 22:0	—	0.5	0.3	—	1.5	7.5	0.9	0.6	0.434
C 22:1	—	0.4	0.1	0.1	—	—	0.3	1.7	0.183
C 22:2	—	0.3	0.3	0.1	0.1	9.6	0.3	0.6	0.269
C 22:5	—	—	—	4.0	—	—	0.1	—	0.815
C 24:0	—	0.7	0.3	0.3	tr.	—	1.2	1.4	0.299
C 24:1	—	1.5	0.3	0.1	0.1	—	0.3	—	1.291
分布割合(%)		37.0	21.6	9.8	10.8	2.6	4.1	14.2	

表 3-5 炭化物試料に残存する脂肪の脂肪酸組成から算出した動物脂肪の分布割合

脂肪酸	No 5	マガモ	キジ	モズ	ウズラ卵	イノシシ	ニホンジカ	ヒト手油	計算値
C 16:0	38.9	43.4	30.8	34.3	42.6	61.1	44.4	32.3	38.737
C 16:1	—	3.9	6.0	3.7	3.8	—	7.0	22.3	0.122
C 18:0	12.7	11.5	11.2	14.2	12.2	13.2	24.6	7.0	12.501
C 18:1	39.4	32.1	38.1	19.0	23.0	5.6	13.5	24.4	39.164
C 18:2	7.9	2.3	10.3	13.7	16.2	—	4.5	4.6	8.026
C 18:3	—	—	—	—	0.3	—	—	—	0.048
C 20:0	—	1.9	1.4	5.0	—	1.5	2.4	1.3	1.071
C 20:1	—	1.3	0.1	0.4	0.2	1.5	0.3	2.4	0.103
C 20:2	—	tr.	0.1	—	0.1	—	0.2	—	0.076
C 20:4	0.8	0.1	—	4.1	—	—	tr.	—	0.381
C 20:5	—	—	—	1.1	—	—	tr.	—	0.123
C 22:0	0.1	0.5	0.3	—	1.5	7.5	0.9	0.6	0.361
C 22:1	—	0.4	0.1	0.1	—	—	0.3	1.7	0.234
C 22:2	—	0.3	0.3	0.1	0.1	9.6	0.3	0.6	0.146
C 22:5	—	—	—	4.0	—	—	0.1	—	0.437
C 24:0	0.2	0.7	0.3	0.3	tr.	—	1.2	1.4	0.174
C 24:1	—	1.5	0.3	0.1	0.1	—	0.3	—	1.093
分布割合(%)		32.8	34.1	5.8	9.0	2.1	0.3	15.8	

表 4 炭化物試料に残存する脂肪の分布割合 (%)

試料No	マガモ	キジ	モズ	ウズラ卵	イノシシ	ニホンジカ	ヒト手の油
1	16.0	43.5	0.3	9.5	3.3	9.1	18.4
2	22.5	21.6	4.1	11.7	27.4	10.8	1.9
3	27.4	42.1	9.8	1.1	0.1	3.6	15.9
4	37.0	21.6	9.8	10.8	2.6	4.1	14.2
5	32.8	34.1	5.8	9.0	2.1	0.3	15.8

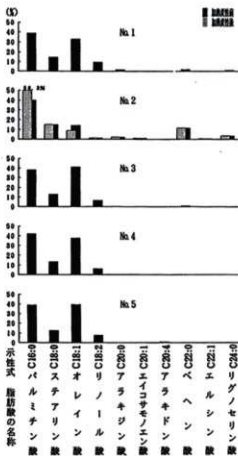


図1 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成

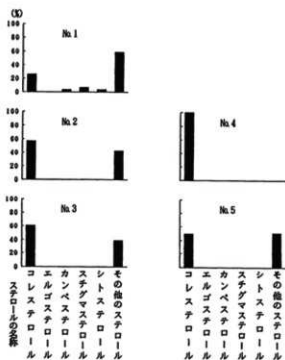


図2 試料中に残存する脂肪のステロール組成

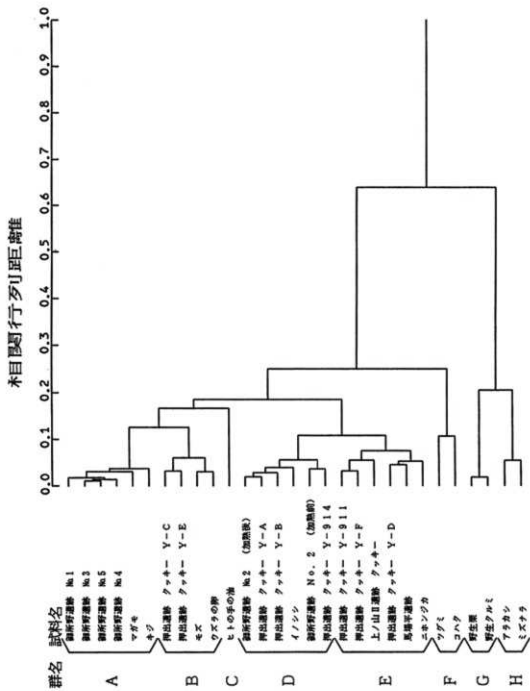


図3 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図

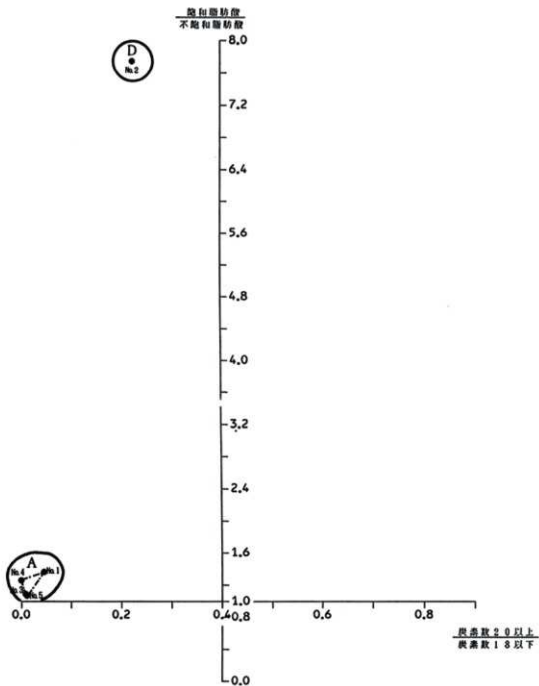


図4 試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特异性相関

VI. むすび

御所野遺跡は縄文時代中期後半（大木8 a～10 式期）の配石遺構群を中心とする大集落跡である。東西方向に長い58,000 m²の台地のほぼ全域、すなわち東側、中央部、西側の3ヶ所に遺構が分布している。このうち配石遺構群は中央部の北側東西80 m、南北50 mの平坦面にあり、その下に墓墳を伴う事から墓城を中心とした集落の配置が明らかになった。各地区の遺構は、竪穴住居跡、土壇、埋設土器等であるが、竪穴住居跡は全域で400棟近い数を確認しており、最終的には確実に500棟を越すであろう。

以上の集落は、I期からV期まで時期区分したが、墓城を中心とした集落配置はIII期以降に形成された可能性が高い。墓城は大規模に削平されており、その削平土を南側の東西60～80 m南北30 mの範囲に盛土しており、縄文時代中期の大規模な造成工事が明らかになった。

墓城は配石遺構群と一部調査した墓墳や掘立柱建物跡の分布から、大きく東西に二分される可能性が高く、東側が径20×40 mの楕円形か隅丸方形、西側が径30 mの円形の配置となり、しかも個々の配石と墓墳の分布からそれぞれが更に区分でき、しかも墓墳群外側の掘立柱建物跡も対応している事から、墓城全体が強い規制により構築されている可能性が高い。

墓城南側の盛土からは遺物が多量に出土している。土器や石器の外、獣骨片、土製品、特殊土器などが多く、しかも獣骨が意識的にかなり強い火を受け集中的に廃棄されている事から、盛土周辺は祭祀に関わる特殊な場ではなかったかと推定した。

竪穴住居跡の構成は、各時期によって変化している可能性もあるが、10 m、5～6 m、2～3 m前後の規模のものにおよそ3区分でき、東側、中央部、西側とも同じような分布状況となっており地区毎の差はないようである。ところが中央部東側には、10 mを遥かに越す大型住居跡が5～6棟密集しそれぞれが重複している。この大型住居跡群については、配石遺構群に近接する事から祭祀に伴う特殊な建物とも考えられるが、今回の調査では具体的に明らかにする事ができなかった。中からは遺物が多量に出土している。

ところで遺跡の位置する岩手県北地方は、前期中葉以降、北部の円筒土器文化圏と南部の大木文化土器圏との接触地帯であった。中期後半から大木式土器の影響が強まり、東北北部のほぼ全域に大木式土器の地方化された土器が分布する事は早くから指摘されているが、III群土器の出土状況はそれを如実に裏付けている。しかも大木式土器そのものが多量に出土する、この時期当地方に南から強烈なインパクトがあった事を示している。以上の土器の変化がIII期での集落配置の変化にまで影響を及ぼしたのであろう。

出土石器の中では、狩猟用具である石鏃が圧倒的に多く、加工具・漁撈具が少ない。また磨石類の中には、赤色などの顔料が付着したり、加熱を受けひび割れたもののがかなり含まれており、やや片寄った組成と特殊な細工をしたものが含まれているのも注意される。このよう

な遺物の状況は墓域を取り込んだ集落のひとつの特徴なのかもしれない。

馬淵川上流域の縄文時代中期後半と後期の遺跡は、御所野遺跡や周辺の遺跡の分布により1ヶ所に集中した大集落が分散した時期として捉える事ができる。御所野遺跡のような墓域を中心とした集落は、やがて後期になり集落が分散し、集落と墓域の機能分化がはじまった可能性が強く、御所野遺跡の最終段階であるV期にその萌芽をみる事ができる。その意味から中期後半の集落内に取り込まれた御所野遺跡のような配石遺構群は後期以降の配石遺構群とは質的に異なっているものと考えている。以上が御所野台地に展開された縄文時代中期の集落の概要である。

4年間の御所野遺跡の発掘調査では、平成元年度には古代の遺構を調査しているし、縄文時代の遺構は平成2年度からの2年間の範囲確認調査と1年間の内容確認調査だけの限られた部分しか調査できなかった。当然遺跡の内容を詳述でき得るような資料も少なかったが、当初の目的とした遺跡の範囲と概要はなんとかまとめる事ができた。非力な調査担当者にも拘かわらず、遺跡を保存し、しかも報告書の刊行まで漕ぎつける事ができたのは、文化庁の河原、岡村両先生をはじめ指導委員会の先生方、さらに現地までおいでいただいた多くの研究者の御指導によるものである。当初開発に伴う事前調査として出発した調査も、紆余曲折があり、漸く保存する事に決定したが、町長をはじめ町の上層部により早目に遺跡の保存を決断していただいたし、開発担当課からも種々協力して載いた。そして何より住民が地域の遺産を保存するため積極的に動いてくれた事が大きい。以上の事を抜きにして遺跡全体の保存という難事は達成できなかったであろう。

開発を前提に調査した遺跡が当初計画を全面的に変更して保存したという事は県内でも今までほとんど例がなかった。しかも御所野遺跡のような大規模な遺跡全体を保存するというような事は皆無であった。その意味から御所野遺跡の事例は今後の岩手県の文化財行政の中で一つのモデルとなり得るものであろう。

遺跡の保存という仕事は我々にとって全くはじめての事であり、この4年間は毎日が手探りの状態であった。したがって前述の方々の他、県内の各地で同じように日々苦勞している埋蔵文化財担当者などからもそのつど助言をいただいた。

また御所野遺跡の調査体制は必ずしも充分ではなかったので、2名の調査員をはじめ、野外調査や室内調査の作業員、更に事務員の皆さんにはかなりの負担をかけたし、御所野農工団地の地権者の皆さんには種々御迷惑をおかけしてきた。

以上今まで御所野遺跡の発掘調査に関わった全ての方々にお礼を申し上げ結びたい。

一戸町文化財調査報告書第 32 集

御所野遺跡 I

縄文時代中期の大集落跡

平成 5 年 2 月 15 日印刷

平成 5 年 2 月 20 日発行

発行 一戸町教育委員会

岩手県二戸郡一戸町高善寺字大川鉢 24 の 9

☎ (0195) 33-2111

印刷 山口北州印刷株式会社

